



昭和十八年十二月二十五日刊

# 國際月報

自昭和十八年十一月一日  
至昭和十八年十一月末日

第二十六號

情報局編輯

319
323

内閣文庫  
八九五の四号  
和書  
冊



319  
323

國際月報 第三十六號 目次

大東亞共同宣言

—(1)—

日本國代表東條內閣總理大臣の挨拶及所見	二
中華民國代表汪行政院院長の一般所見	八
タイ國代表ワンワイタヤコーン内閣總理大臣代理の一般所見	一六
滿洲國代表張國務總理大臣の一般所見	二一
フィリピン國代表ラウレル大統領の一般所見	二九
ビルマ國代表バー・モウ内閣總理大臣の一般所見	三六
滿洲國代表張國務總理大臣の此の種會議開催方希望に關する發言	四七
ビルマ國代表バー・モウ内閣總理大臣の自由印度假政府支援に關する發言	四七
自由印度假政府ボース首班の發言	五一
日本國代表東條內閣總理大臣のアンダマン諸島及ニコバル諸島歸屬に關する發言	五八

日本國代表東條內閣總理大臣の閉會の挨拶……………五九

中華民國代表汪行政院院長の謝辭……………六一

大東亞結束國民大會に於ける東條內閣總理大臣演說……………六三

大東亞會議に於ける東條外務大臣講演(要旨)——於大阪商工經濟會主催懇談會——……………六五

大東亞新聞大會午餐會に於ける東條內閣總理大臣挨拶……………七〇

大東亞新聞大會に於ける天羽情報局長總裁挨拶……………七二

米國の對日挑戰二周年に際しての井口外務省調査官兼情報局情報官談——於外人記者團會見——……………七八

滿洲國農地造成計畫に對する本邦側の協力援助に關する情報局發表……………八〇

日獨間醫事協力緊密化に關する情報局發表……………八一

日獨間醫事協力緊密化に關する外務省當局談……………八一

聯合艦隊司令長官に對し賜はりたる勅語に關する大本營發表……………八二

ニューギニア島方面及び緬支國境方面に於ける戰況並に戰果に關する大本營發表……………八二

帝國海軍航空部隊のモノ島上陸點附近敵艦船攻撃戰果に關する大本營發表……………八四

ブーゲンビル島沖海戰戰果に關する大本營發表……………八四

ブーゲンビル島沖航空戰戰果に關する大本營發表……………八七

洞庭湖西方第六戰區重慶軍に對する進攻作戰に關する大本營發表(一)……………八八

ニューギニア島方面戰果に關する大本營發表……………八八

第二次ブーゲンビル島沖航空戰戰果に關する大本營發表……………八九

第二次ブーゲンビル島沖航空戰戰果追加に關する大本營發表……………九〇

第三次ブーゲンビル島沖航空戰戰果に關する大本營發表……………九一

ニューギニア島方面並に緬甸方面に於ける敵機襲撃戰果に關する大本營發表……………九二

第四次ブーゲンビル島沖航空戰戰果に關する大本營發表……………九三

第五次ブーゲンビル島沖航空戰戰果に關する大本營發表……………九四

トロキナ沖海面に於ける敵輸送船團襲撃戰果に關する大本營發表……………九四

洞庭湖西方第六戰區重慶軍に對する進攻作戰に關する大本營發表(二)……………九五

マキン島及びトラワ島に對する敵部隊上陸に關する大本營發表……………九六

ギルバート諸島方面戰況並に戰果に關する大本營發表……………九七

ギルバート諸島沖航空戰に關する大本營發表……………九八

マキン島環礁内敵輸送船團攻撃戰果に關する大本營發表……………九九



國際時報

大東亞諸國家諸民族の總集集成る……………一〇〇  
主要交戦國に於ける徴兵徵用年齡低下狀況……………一〇七

米英新造貨物船性能一覽表……………一二四

十一月中の世界戰況概観……………一二六  
十一月中の世界政治日誌……………一四二

各國動向

【米 國】  
——軍 事——  
ノックス海軍長官太平洋敗戦を隱蔽……………一五二  
——空母四十隻の建造誇示……………一五二

バード海軍次官補海軍の増強を豪語……………一五二  
「獨潜水艦新戰術を採用」……………一五三  
——對潜水艦戰米英共同聲明發表……………一五三  
西部沿岸の燈火管制解除……………一五三

アラスカ防衛司令部獨立……………一五三  
第十五空軍司令部新設……………一五三  
アフリカ軍司令部の管轄區域……………一五三  
——リベリア米軍もロイス司令官の指揮下……………一五四  
ソマーヴィル軍需部隊司令官歸國……………一五四  
陸海軍人事異動……………一五四  
擬裝用類料前線に輸送……………一五五

駐加大使にアサートン任命さる……………一五八  
スタインハート駐土大使歸任……………一五八  
伊洛間委員會代表にマーフィー任命さる……………一五八  
駐ソ軍事機關設置……………一五八  
反樞軸救済復興會議開催……………一五九  
墨勞働者對米供給協定締結……………一五九  
ハイチのゴム開發計畫取極成立……………一六〇  
フランス國民解放委員會に抗議提出……………一六〇  
——レバノンの獨立支持意圖表明……………一六〇  
ルーズヴェルト武器貸與報告提出……………一六一  
對ソ武器貸與狀況……………一六四  
海外經濟局食糧武器貸與狀況發表……………一六五  
——海外經濟局官制竝に陣容……………一六五  
大統領食糧特別教書内容……………一六六  
下院議事委員會助成金禁止法案可決……………一六九

外 交

ルーズヴェルト大統領……………一五五  
スターリン、チャーチルと會談……………一五五  
ハル國務長官歸國……………一五五  
——三國外相會談經過を議會に報告……………一五六  
ネルソン戰時生産局長官歸國……………一五七  
モーゲンソー財務長官歸國……………一五七  
駐葡公使にノーウェツプ任命さる……………一五七

一 般



協定違反により瑞船抑留……………一九六  
 情報部長、ノックスの敗戦糊塗を衝く……………一九六  
 ブーゲンビル島沖航空戦に関する論調……………一九七  
 防共協定締結七周年に関する論調……………一九八

【イタリア】

ファシスト黨大會開催……………一九九  
 ムツソリーニ統帥告諭……………二〇一  
 閣議決定諸事項……………二〇二  
 國家保安隊組織……………二〇三  
 ファシスト戦闘部隊編成……………二〇三  
 法相逝去……………二〇三  
 バドリオ傀儡政権改造……………二〇四  
 バドリオ政権改造の経緯発表……………二〇四  
 叛軍首脳部更迭……………二〇五

【ソ聯邦】

スターリン首相米英首脳部と會談……………二〇五  
 スターリン議長前線統後に感謝……………二〇五  
 —第二十六回革命記念演説—……………二〇六  
 スターリン元帥被勳……………二〇七  
 キエフ回復発表……………二〇七  
 ジトミール撤収発表……………二〇七  
 ゴメリー回復発表……………二〇七  
 コロステン撤収発表……………二〇七  
 ソ波國境問題に關し駐墨大使言明……………二〇七  
 ヴイシンスキー代表着任……………二〇八  
 歐洲諸問委員會代表にグーセフ大使任命……………二〇八  
 外交官更迭……………二〇八  
 共産黨員著増……………二〇八  
 —情報局長長論說発表—……………二〇八

パシ配給量切下げ……………二〇九

【フランス】

ベタン元帥放送取止め……………二〇九  
 アンリー駐日大使逝去……………二〇九  
 ラガルデル労働長官辭職……………二〇九

フランス國民解放委員會諸開會議開催……………二〇九  
 フランス國民解放委員會改造……………二〇九

—ジロー及びジロー派一齊に退陣—……………二一一  
 ド・ゴール容共政策採用……………二一一  
 レバノン問題で英國の強壓に屈從……………二一一  
 —エルー辨務官の召還發表—……………二一一

【滿洲國】

皇帝陛下増産諸計畫御聽取……………二二二

「大東亞建設達成に挺身せん」

—張國務總理歸國談—……………二二三  
 國軍に待命役制度實施……………二二三  
 軍隊内務令制定……………二二四  
 農産物集荷好調……………二二四

【中華民國】

「大東亞會議は劃期的國際會議」  
 —汪行政院院長歸國談—……………二二五  
 孫文遺志實現奉告祭……………二二六  
 「中國を米英の犠牲に供するなかれ」  
 —鮑文越上將重慶に放送—……………二二八  
 陳孝強中將重慶の崩壊を説述……………二二八  
 人事異動……………二二八  
 (重慶政權)  
 蔣介石カイロ會議に参加……………二二〇

遣英使節團員決定……………二二〇  
 中古のゴム製湯クンボ一千元……………二二〇  
 —物價戦前の百七十五倍に暴騰—……………二二〇  
 重慶駐在の外人記者生活狀況……………二二二

【タイ】

「大東亞宣言は各民族希望の淵源」……………二二二  
 —ワンフイタヤコロン殿下歸國談—……………二二二  
 明年度歳出總額三億四千萬バーツ……………二二三  
 國防相にクリアンサツク中將起用……………二二三  
 人事異動……………二二三

【フィリピン】

「全アジア五惠の旗幟下に緊密協力」……………二二四  
 —ラウレル大統領歸國談—……………二二四

第一回通常國會開催

—ラウレル大統領施政演說要旨—……………二二七  
 主要議案内容……………二二九  
 中央銀行創設……………二三〇  
 人事異動……………二三〇

【ビルマ】

「東亞諸民族の協心戮力實現」……………二三一  
 —バー・モウ國家代表歸國談—……………二三一  
 農業國策要綱發表……………二三三  
 交通灌溉國策要綱發表……………二三三  
 金融國策要綱發表……………二三三  
 醫師並に技師を軍務に徵用……………二三四

【インド】

自由印度假政府ボース首班訪華……………二三四

「我等の背後には東亞全國家あり」……………二三五  
 —ボース首班歸國談—……………二三五  
 ウエーヴェル總督、各州首相と會見……………二三七  
 ジンナー回教徒總裁に再選さる……………二三七  
 石炭割當制實施……………二三七  
 食糧危機依然深刻……………二三七  
 疫病襲來の危機迫る……………二三八  
 —政廳當局拱手傍觀—……………二三八

【濠洲】

新總督にグロスター公任命さる……………二三九  
 開戦以來の兵力損害發表……………二三九  
 爆撃機四百架完成……………二三九  
 戦車製作中止……………二四〇  
 炭坑罷業彈壓……………二四〇  
 石炭節約令……………二四〇

食糧窮乏化……………二四〇  
 駐ソ公使にマロン任命さる……………二四一

【南阿聯邦】

スマツツ首相「新世界の構想」を語る……………二四一

【カナダ】

ロールストン國防相訪英……………二四七  
 炭坑罷業……………二四七

【アルゼンチン】

ヒルベルト外相對外政策闡明……………二四八  
 第一回對米金塊輸入八億五千萬ペソ……………二四九  
 對パラグアイ通商協定締結……………二四九  
 政府共産黨を彈壓……………二四九  
 米週刊誌タイム販賣禁止……………二五〇

【チリ】

フェルナンデス外相歸國……………二五〇  
憲法修正案可決……………二五〇  
濫働労働者罷業……………二五〇

【ブラジル】

ヴァルガス大統領革命記念日演説……………二五一  
肉類輸出禁止令公布……………二五一  
對米雲母水晶供給協定延長……………二五二  
米伯衛生保險計畫延長協定締結……………二五二  
有色人種排斥法案提出……………二五二

【ウルグアイ】

新蔵相にアルヴァレス・シナ就任……………二五二

【ボリウイア】

對巴拉グアイ通商協定成立……………二五二

【コロンビア】

大統領代理にエチヤンディア就任……………二五三  
對獨宣戰布告……………二五三

【ヴェネズエラ】

新内閣成立……………二五四

【メキシコ】

米國から驅潜艇三隻購入……………二五四

【スペイン】

對比儀禮電報事件公報發表……………二五四  
對英貿易協定締結……………二五五

【ポルトガル】

サラザール首相對英關係闡明……………二五六  
パチエコ交通相死亡……………二五七  
駐英大使バルメラ公着任……………二五七

【スエーデン】

佛國解放委員會に外交代表派遣……………二五七

【フィンランド】

總選挙延期……………二五七

【アイル】

綠色戦線ダリー追悼記念會開催

——自由インド假政府維持を決議——……………二五八

【ヴァチカン】

国籍不明の飛行機爆弾投下……………二五八

法王聖母祝日を期し祈禱要請……………二五八

【ルーマニア】

パンクツチ國防相クリミア戦線視察……………二五九

【ブルガリア】

故王の遺業踏襲を一齊に強調

——議會攝政宣言答文案討議——……………二五九

ブーゲンビル島沖戦果に關する各紙論調……………二六〇

キリル攝政等トラキア地方視察……………二六〇

【ハンガリー】

カライ首相外交政策闡明……………二六〇

ギツチ外相ドイツとの共同運命強調……………二六一

【アルバニア】



新内閣成立……………二六一

【エジプト】

フアルーク一世シリア訪問……………二六二

ワフド黨大會……………二六二

五ヶ年計畫發表……………二六二

【イラン】

アーメデイ陸相急死……………二六三

【トルコ】

メネメンジヨグル外相英外相と會見……………二六三

メネメンジヨグル外相獨大使と會談……………二六三

人民共和黨重要秘密會議開催

——政府の不參戰政策を承認——……………二六三

バイドウル駐ソ大使信任狀捧呈……………二六四

アリカン駐獨大使大統領に報告……………二六四

【シリア】

憲法改正討議……………二六四

【レバノン】

議會完全獨立を決議

——佛官憲大統領首相等を逮捕——……………二六五

クーリー大統領等復職

——佛國側の屈服で事件一應解決——……………二六六

大東亞共同宣言

抑、世界各國、ガ各其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂ヲ借ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ他國家他民族ヲ抑壓シ特ニ大東亞ニ對シテハ飽クナキ侵略擄取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞ウシ遂ニハ大東亞ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントセリ大東亞戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全ウシ左ノ綱領ニ基キ大東亞ヲ建設シ以テ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス

- 一、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ道義ニ基ク共存共榮ノ秩序ヲ建設ス
- 一、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ擧ゲ大東亞ノ親和ヲ確立ス
- 一、大東亞各國ハ相互ニ其ノ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ伸暢シ大東亞ノ文化ヲ昂揚ス
- 一、大東亞各國ハ互恵ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ大東亞ノ繁榮ヲ増進ス
- 一、大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤ウシ人種的差別ヲ撤廢シ普ク文化ヲ交流シ進ンデ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ貢獻ス

### 日本國代表東條內閣總理大臣の挨拶及所見

昭和十八年十一月五日

本代表より、主催國と致しましての御挨拶を申述べ、併せて帝國政府の所見を開陳致したいと存するのであります。

大東亞戰爭完遂と大東亞新秩序建設の方針に關しまして隔意なき協議を遂ぐる爲、今般大東亞會議開催方を提議致しましたる處、幸ひ關係各國の衷心よりの御賛同を得まして、茲に大東亞各國代表として各閣下の御參集を見ましたことは、主催國と致しまして最も欣幸とし、又深く感謝の意を表する所であります。尙御來朝中の自由印度假政府首班閣下の御陪席を得ましたことは、是亦洵に欣幸と存する所であります。

惟ふに英帝國は、過去數世紀に互り侵略と征服とに依つて、全地球上に廣大なる領土を獲得し、而して其の優越的地位を飽く迄も維持せんとして、世界各地に於て他國をして相互に對立抗爭せしめて來たのであります。他方米國は、歐洲の動亂常なき情勢に乗じて、米大陸に覇權を確立するに止まらず、概ね米西戰爭を契機と致しまして、太平洋及び亞細亞に爪牙を伸ばすに至り、遂に第一次世界大戰争を轉機と致しまして、英帝國と共に世界制覇の野望を逞しうし來つたのであります。而して今次の世界戰爭勃發後に於きましては、米國は更に飛躍して、北アフリカ、西アフリカ、大西洋、濠洲、近東、進んで印度方面に對しましても、逐次其の魔手を伸ばし、英帝國の地位に取つて代らんと居るのであります。

米英の平素唱道致しまする國際正義の確立と世界平和の保障とは、畢竟歐洲に於きまします諸國家の分裂抗爭の助長と、亞細亞に於ける植民地的搾取の永續化とに依る、利己的秩序の維持に外ならないのであります。而して亞細亞に於ける米英の遣り方を見ますに、彼等は政治的に侵略し、經濟的に搾取し、更に教育文化の美名に匿れて民族性を喪失せしめ、相互に相衝突せしめて、其の非望の達成を圖つたのであります。斯くて亞細亞の諸國家諸民族は、常に其の存立を脅威せられ、其の安定を擾亂せられ、民生は其の本然の發展を抑壓せられて今日に至つたのであります。彼等の呼號する門戸開放、機會均等主義も、東亞を植民地視する根本觀念に發したるものでありまして、實は彼等が東亞侵略の非望を遂げんが爲の便宜手段に過ぎないのであります。彼等は自國の領土内に於ては、東亞の諸民族に對して常に門戸を閉鎖し、機會を不均等ならしめ、交易を阻碍しつゝ、只管彼等のみの利己的繁榮を追及したのであります。洵に米英兩國の懐く世界制覇の野望こそは、人類の災厄、世界の禍根と謂ふべきであります。

顧みれば東亞の諸國家諸民族の間に於て、解放の義舉の起つたことは、一再に止まらなかつたのであります。或は米英の暴戻飽くなき武力的彈壓に依り、或は彼等の異民族統御の常套手段である所の惡辣極まる離間策に依り、多くは失敗に歸したのであります。此の間に在りて日本の興隆は米英に取りましては最も好ましからざるものとなつたのであります。茲に於きましてか、彼等は、一方に於て事毎に日本抑壓の態度に出づると共に、他方に於きましては日本と東亞に於ける爾他の諸國家諸民族との離間を策することを以て、彼等の東亞侵略の要諦とするに至つたのであります。蓋し東亞の隸屬化を維持する爲には、東亞に於て何れかの國が強國として勃興致しますること、又東亞の諸國家諸民族の團結することも、彼等に取り、其の最も不利とする所であるからであります。而して斯くの如き米

英の東亞屬化の野望は、特に最近數年間に於て愈々露骨となつて參つたのであります。即ち將政權を使喚して、日華兩國の國交を阻碍し、其の極、遂に不幸なる支那事變の勃發に至らしめ、之が解決に對しても有らゆる手段を弄して其の妨礙を策したのであります。而して今次歐洲戰爭勃發後に於きましては、戰爭の必要に藉口して平和的通商を妨礙し、更に進んで其の本質に於て戰爭と異ならざる所の經濟斷交の手段に趨へ、他而東亞の周邊に於て武備を増強し、以て我に屈從を強ひんと試み、東亞の安定は根柢より重大なる脅威を受くるに至つたのであります。斯くの如き米英の態度に拘らず、帝國は、只管禍亂の東亞の天地に波及することを避けんと欲しまして、隱忍自重、最後迄平和的交渉に依つて時局の收拾を圖つて參つたのであります。然るに米英は、何等反省互讓の態度に出でず、却て益々脅喝と壓迫とを強化して、帝國の存立を危殆に瀕せしめたのであります。帝國は遂に自存自衛の爲、斷然起つて東亞に對する挑戰に應ずるの已むなきに至り、茲に一切の障礙を破砕して、東亞永遠の平和確立の爲、國運を賭して征戰に邁進することとなつたのであります。

大東亞戰爭開始せられますや、帝國陸海軍は、善謀勇戰、開戦後半歳ならずして克く東亞の全地域より米英の侵略勢力を驅逐掃蕩致したのであります。大東亞各國は、或は宣戰を布告して共に戦ひ、或は緊密に戰爭完遂に協力しつゝありまして、今や大東亞諸民族の自覺と熱情とは澎湃として大東亞の天地に漲り、内に於きましては各國相信じ相和し、外に對しましては米英の反攻を撃推して、自存自衛を全うし、以て大東亞永遠の安定を確立する爲、勇躍邁進しつゝあるのであります。

惟ふに、今次の戰爭は大東亞の全民族に取りましては實に其の興廢の岐るゝ一大決戦であります。此の戦に勝ち抜く

ことに依りまして、始めて大東亞の諸民族は、永遠に其の存立を大東亞の天地に確保して、共榮の榮を偕に致しますることが出来るのであります。洵に大東亞戰爭の完遂こそ大東亞新秩序建設の確立を意味するものであります。素より米英は、其の恃みとする物質的戰力を擧げて大東亞に反攻を繰返すことは當然であります。大東亞の諸國家は、其の全力を盡して之を徹底的に破砕し、更に彼等に痛撃を加へ、以て戰爭を完遂して、大東亞永遠の安定を確保しなければならぬのであります。此の秋に當りまして、帝國は緒戦に獲得せる戰略的優位に立つて、雄渾なる作戦を續行して居るのであります。而して國內に於きましては此の雄渾なる作戦に呼應致しまして、愈々國內態勢を整備し、特に最近之が決戦化を圖り、眞に一億一心、必勝の確信の下に強靱なる闘志を以て、飽く迄も此の大戰爭完遂に邁進致して居るのであります。

茲に各位に依つて代表せられます所の大東亞諸國も亦帝國と策應し、其の全力を擧げて宿敵米英の反抗を撃推し、以て大東亞永遠の安定を圖らんとする決意の鞏固なるものあることを私は確信するものであります。

次に大東亞の建設に關する帝國政府の基本的見解を申述べたいと存じます。抑、世界各國が各、其の所得、相倚り相扶けて、萬邦共榮の榮を偕に致しまするは、世界平和確立の根本要義であると信するのであります。而して特に關係深き諸國が互に相扶けて各自の國礎に培ひ、共存共榮の紐帶を結成すると共に、他の地域の諸國家との間に協和借榮の關係を設定致しますることは、世界平和確立の最も有效にして且實際的方途であると申さねばならぬと存するのであります。

大東亞の各國が、有らゆる點に於て離れ難き緊密なる關係を有しますることは、否定し得ざる事實でありまして、



斯かる關係に立つて、大東亞の各國が協同して大東亞の安定を確保し、共存共榮の秩序を建設致しますことは、各國共同の使命であると確信するのであります。

大東亞に於ける共存共榮の秩序は、大東亞固有の道義的精神に基くべきものでありまして、此の點に於て、自己の繁榮の爲には不正、欺瞞、搾取をも敢て辭せざる米英本位の舊秩序とは、根本的に異なるものであります。

大東亞各國は互に其の自主獨立を尊重しつゝ、全體として親和の關係を確立すべきものであります。相手方を單に手段として利用する所には、親和の關係を見出すことは出来ないのであります。親和の關係は、相手方の自主獨立を尊重し、他の繁榮に依つて自らも繁榮し、自他共に其の本來の面目を發揮する所にのみ生じ得るものと信ずるのであります。

由來大東亞には優秀なる文化が存して居るのであります。殊に大東亞の精神文化は、最も崇高、幽玄なるものであります。今後愈々之を長養醇化して廣く世界に及ぼすことは、物質文明の行詰りを打開し、人類全般の福祉に寄與すること尠からざるものと信ずるのであります。斯かる文化を有しまする各國は、相互に其の光輝ある傳統を尊重致しますると共に、各民族の創造性を伸暢し、以て大東亞の文化を益々昂揚せねばならぬと考ふるのであります。

更に大東亞の各國は、民生の向上、國力の充實を圖る爲、互恵の下に緊密なる經濟提携を行ひ、協同して大東亞の繁榮を増進すべきものと信ずるのであります。大東亞は米英多年の搾取の對象となつて來たのであります。今後、經濟的にも自主獨立、相倚り相扶けて其の繁榮を期さなければならぬと思ふのであります。

斯くの如くにして建設せられるべき大東亞の新秩序は、排他的のものではなく、廣く世界各國との間に、政治的に

も、經濟的にも、將又文化的にも積極的に協力の關係に立ち、以て世界の進運に貢獻すべきものであります。口に自由平等を唱へつゝ、他國家、他民族に對し抑壓と差別とを以て臨み、他に門戸開放を強ひつゝ、自らは龐大なる土地と資源とを壟斷し、他の生存を脅威して顧みず、世界全般の進運を阻礙して來ました米英從來の遺り方とは全く趣を異にして居るのであります。

道義に基く大東亞の新建設は、現に戰塵の眞只中に在つて著々として實現を見つゝあるものであります。然るに米英側の印度に對します遺り口は果して如何でありますか。今や英國の彈壓は、日に月に其の度を加へ、又最近に於ては米國の野望も加はり、彼等と印度民衆との軋轢乖離は愈々激化し、印度四億の民衆は言語に絶する苦惱を續けて居るのであります。特に最近之に依つて招來せられたる空前の飢饉は、米英自らも之を認むる所であります。

斯くて印度に於きましては志ある者は悉く牢獄に投ぜられ、無辜の民衆は總て飢ゑに泣いて居るのであります。是正に世界の悲劇であり、人類共同の痛恨事であり、義憤に燃ゆる我々大東亞民族の斷じて放置し得ざる所であります。時なる哉、スバス・チャンドラ・ボース氏の驟起するあり、之に呼應して内外の印度人士は起ち上り、茲に印度假政府の樹立を見、印度獨立の基礎は現に成つたのであります。帝國は曩に印度獨立の爲、有らゆる協力と支援とを致すべきことを中外に闡明致したのであります。大東亞の諸國家も亦齊しく印度獨立完成の爲、心からなる協力を寄せらるゝことを私は確信致すものであります。米英が所謂大西洋憲章に依つて標榜せる所と、現に印度に對して實際に執りつゝある事實とを、彼等は如何なる論理に依つてか之を調和せんとするも、それは不可能の事であると存ずるのであります。併しながら吾人は今更彼等の矛盾を見て驚くものではないのであります。全世界の人々は今日迄米英

の表面に掲ぐる美しき看板と、其の肚裏に包蔵するものとの矛盾を、餘りに多く見せつけられ、欺瞞と偽装と迷彩こそ彼等米英の本性であることを已に熟知致して居るのであります。假令敵側の爲す所が如何なるものであるにせよ、帝國は大東亞各國と相携へて天地の公道を歩み、大東亞を米英の桎梏より解放し、大東亞各國と協同して大東亞の復興、興隆を圖らんことを期するのみであります。今や大東亞諸國家諸民族の結集は成り、萬邦共榮の理想に向つて大東亞新建設の巨歩は堂々發足致したのであります。

驕つて歐洲の情勢を見まするに、盟邦獨逸は愈々國民的結束を鞏固にし、必勝の信念を以て米英擊滅と歐洲建設とに邁進しつゝありまして、洵に力強き限りであります。

大東亞戦争は實に破邪顯正の聖戦でありまして、大義名分柄乎として我に在り、正義の向ふ所敵無く、究極の勝利の我に歸すべきことは我等の信じて疑はざる所であります。

茲に大東亞諸國が、衷心より大東亞戦争に協力せられつゝあることに對しまして、深甚なる謝意を表しますると共に、今後益々苛烈の度を加へんとする戦局に對處し、帝國は大東亞諸國と共に歐洲盟邦との提携を愈々固め、必勝の確信の下、不拔の剛志を以て、如何なる困難も之を克服し、我等の共同使命とする此の大東亞戦争を完遂し、大東亞建設を完成致しまして、眞の世界平和の確立に貢献せんことを固く期する次第であります。

### 中華民國代表汪行政院院長の一般的所見(繙譯)

昭和十八年十一月五日

世界史上偉大なる意義を有する大東亞會議が、本日盟邦日本の首都に於て舉行せらるゝことになりまして、只今東條總理大臣閣下の演説を拜聴し、大いに感奮致した次第であります。

米英の東亞侵略は、百年以前に既に開始せられたのであります。今や斯かる極めて重大なる時期に於きまして、日本の軍事力及び政治、經濟、文化、各方面の力に頼りてこそ、始めて克く米英の侵略野心を抑制し、東亞を保全し、米英をして割據せしめざる事が出来るのであります。最近更に大東亞戦争勃發し、米英の東亞に於ける侵略勢力は破碎せられ、東太平洋及び南洋一帯に於ける米英の陸海軍根據地は、漸次日本陸海軍の擊破、占領する所となつたのであります。日本は更に一步を進め、東方道義精神に基き東亞諸國家諸民族の共存共榮を圖り、其の獨立自主を援助し、其の愛國的希望を達成せしめ、之をして各、其の部署に就かしめ、各、其の最大の努力を盡さしめ、大東亞戦争完遂並に大東亞建設の完成の責任を分擔せしむることとなつたのであります。私は斯かる日本の崇高にして偉大なる抱負及び其の光輝ある實績に對し、茲に謹んで最大の敬意を表するものであります。

同時に夙に友好關係にある滿、タイ兩國並に新興ビルマ、フィリピン兩國及び自由印度假政府が、各々鞏固なる決心と撻まざる努力とに依り、大東亞戦争及び大東亞建設の責任を分擔して居らるることに對し、謹んで最大の敬意を表するものであります。

中華民國が東亞の一翼として、今回私が此の機會に於きまして、大東亞戦争完遂と大東亞建設の方針に關する國民政府の決心と努力とに付きまして申述ぶることを得ますのは、洵に欣快の至りと存ずる次第であります。

中華民國の國父孫先生一生の抱負は、即ち中國及び東亞をして米英侵略勢力の桎梏を破碎し、其の獨立自主を完成

せしむるに在つたのであります。斯かる抱負に基き、逝去の日に至る迄滿四十年の間、畢生奮闘を続けられたのであります。其の逝去の三ヶ月前、會て日本の神戸に於きまして一回に亙り演説をせられました。第一回は民國十三年十一月二十八日でありまして、其の説く所は即ち大亞細亞主義であります。其の中に於て「我々亞細亞は世界最古の文化の發祥地であるに拘らず最近百年以來米英の侵略を蒙り、漸次衰微するに至り、殆んど一として完全なる獨立國家の存在を見ざるに至つたのであるが、其の衰微が極點に達したとき、突如其の轉換期が到來したのである。是即ち日本の維新であつて、此の日本の維新こそ、日本が亞細亞に於て先進國たる原因となつたのであり、同時に是が亞細亞復興の出發點となつたのである。亞細亞各國は當然先進國日本と共に同心協力、東方の王道的文化に基き、西方の霸道的文化に打勝ち、米英の侵略勢力を完全に驅逐し、亞細亞各國の團結に依り亞細亞各國の獨立自主を完成せしめなければならぬのである。斯くの如くにして始めて克く亞細亞全體を衰微より復興に導くことが出来るのである」と謂はれたのであります。

第二回目は同年同月同日の演説でありまして、それには「日本は當然中國を援助し不平等條約を廢棄すべきである」と述べられ、又其の中に「日支兩國は兄弟と同様であり、日本は嘗て不平等條約の束縛を受けたる爲發奮興起し、始めて其の束縛を打破し、東方の先進國並に世界の強國となつた。中國は現在、同様に不平等條約廢棄を獲得せんとしてあるものであり、日本の十分なる援助を切望するものである。中國の解放は即ち東亞の解放である」と説明せられたのであります。

以上二回に亙る演説は國父孫先生の一生を通じ最後の演説となつたのでありまして、其の後國父孫先生は間もな

く病廢に冒され、翌年三月十二日北京に於て逝去せられたのであります。逝去の時に當り遺囑を同志に遺され、同志は克く此の遺志に従ひ繼續奮闘し、以て其の貫徹を期せよと申されたのであります。最も不幸とする所は、國父孫先生逝去後其の遺志未だ實現すること能はず、日支の關係は好轉を見ざりしのみならず、却て日増しに惡化し、遂に民國二十六年七月事變の發生を見るに至つたことであります。正に國父孫先生逝去後十二年目に當つて居ります。

此の時、日支の關係が決裂したる爲、米英は好機到れりとなし、挑發離間を圖り、日支事變の擴大延長を冀つたのであります。我等同志は、國父の遺志未だ實現せざるを見、日支關係の日に惡化するを見て、痛心其の極に達し、絶望の深淵に陥らんとしたのであります。幸ひ日本政府は事變を最短期間に打切るべき方針を宣布せられ、其の中に於て、日本の目的とする所は中國の滅亡に非ずして中國の興隆を冀ひ、日本は中國が東亞建設の責任を分擔すべきことを期待し、又日本が中國を援助すべきことを決心し、其の獨立自主の願望を達成せしむることに在ることを闡明せられました。我々同志は、日本が斯かる眞意を宣布せられたることを聞き、日支關係の好轉並に國父の遺志を完成せしむる希望の存することを承知したのでありまして、之に依り先づ重慶政權に對し抗戰拋棄、和平回復を勸告せしめしが、聞き容れられざりし爲に、已む得ず重慶を脱出して、和平運動の爲に奔走することに決したのであります。總て國民政府は南京に遷都し、正々堂堂日支提携、東亞復興に最大の努力を致すことになつたのであります。

只今申上げました通り、米英は日支事變に對し、常に挑發離間に努め、其の擴大延長を冀つたのであります。國民政府遷都以後は、斯かる手段は更に強化せられ、米英は重慶に對し、抗戰の強化、和平の阻止等に關し有らゆる手段を講じたのであります。其の後大東亞戰爭勃發するに至り、米英は其の東亞に於ける勢力が挫折消失せるに鑑み、

益々重慶を利用して日本を牽制するの方途を強化せることは、既に世人の俱に知る事實でありますが、我々は敢て米英の斯かる計畫が間もなく失敗に歸すべきことを斷定する次第であります。何故ならば重慶側の將士及び民衆は悉く國父孫先生の遺教に歸依して居るのであります。本年一月九日以来、日本は中國に對し早くも租界を還付し、治外法權を撤廢し、殊に最近に至り日華同盟條約を以て日華基本條約に代へ、同時に各種附屬文書を一切廢棄されたのであります。國父孫先生が提唱せられました大亞細亞主義は既に光明を發見したのであります。國父孫先生が日本に對し切望致しました所の、中國を扶け不平等條約を廢棄するといふことも、既に實現せられたのであります。假令米英が如何に誘惑し如何に阻止すると雖も、重慶側の覺醒を阻止することは出来なくなつたのであります。假令一時的に之を束縛し得たとするも、重慶は他日必ずや、米英に依存することは東亞に反逆することとなり、同時に國父孫先生に反逆することとなるべきを自覺し、將士及び民衆も亦悉く驕然覺醒する日の到來することは必定なるべきことを茲に斷言し得る次第であります。

國民政府は、斯かる最も重要な時期に於て、只管既定の方針に基き更に努力を重ね、一面重慶將士及び民衆の覺醒歸來を促進し、統一を完成すると共に、一面政治力の及び得る地方に於て一箇の模範地區を樹立せんとするものであります。其の工作は次の三つの點に重點を置くものであります。即ち第一には思想の肅正、第二には治安の保障、第三には生産の増加であります。所謂思想の肅正とは、米英の個人主義、功利主義的思想を徹底的に一掃し、之に代ふるに東方道義精神を以てし、東亞人の自覺心を以て東亞人の本然の姿を回復し、一心一徳、東亞人の共存共榮の爲に奮闘するに在るのであります。次に所謂治安の保障とは、即ち中國の處する所は、大東亞戦争の後方に於て須く

治安を確保し、始めて盟邦前線將士をして後顧の憂なからしめ、之に依り更に一步を進めて軍隊を前線に輸送し、些かなりとも盟邦將士の勞苦を分たんとするに在るのであります。第三に所謂生産の増加とは、一切の經濟計畫及び財政計畫に重點を持たしめ、總力決戦の力量を増加せしむるに在るのであります。唯生産増加と謂ひましても、事實此處には消費節約、廢物利用の意味をも其の中に包含して居るのであります。

以上三項は國民政府が大東亞戦争に協力せんとする工作の重點でありまして、同時に國民政府が體得致しましたる戦争即ち建設の意味は、戦争中に在つて同甘共苦、同生共死の決心に基き、東亞同胞と東亞同志とを結成し、外は即ち共同の敵米英を制禦し、其の侵略勢力を破砕し、其の侵略企圖を消滅せしめ、内は即ち刻苦勉勵、勇往邁進の精神を以て、東亞同胞と共に同心協力、東亞の建設を擔當せんとするに在るのであります。

大東亞戦争に付いて申すならば、我々の冀求する所は勝利でありまして、大東亞建設に付いて申せば、我々の冀求する所は共榮であります。具體的に申しますならば、東亞各國は各、其の國を自愛し、互に其の隣國を愛し、共に東亞を愛すべきであります。中國に付いて言へば我々のモットーとする所は中華の復興、東亞の保衛に在りまして、之は中國が獨立自主を獲得したるときに始めて東亞保衛の責任を分擔する能力を生じ、同時に東亞の保衛を獲得して始めて中國の自主獨立が保障されるのであります。それ故、我々は努力し、以て自己の國家を自主獨立の國家たらしめ、又自國を東亞の強力なる分子となすことを要するのであります。東亞各國は各、其の本然の特質を有するが故に、其の獨立自主を確保し、又互に其の獨立自主を尊重することを要するのであります。東亞各國家は、又其の共同の目的を有するが故に、同心協力、共同の目的に向つて、共存共榮を求むることを要する次第であります。先進國た

る日本は、既に其の光輝ある獨立自主を世界に發揚されましたが、最近は尙東亞各國をして悉く其の獨立自主を獲得せしめ、援助を惜しまず、一致團結せしめ、共同目的に向つて共に努力を致すやうせられんことを望まじき次第であります。私は政治上の獨立自主を獲得せる後、若し外交上に於ける方針が一致し、軍事上に於ける對敵關係が一致するに於ては、共同の目的に到達し得ることは必然であるかと考へる次第であります。

一方、文化面に於ては、先進國たる日本が、確かに自己の文化を基礎とし、東方文化を昂揚し、世界文化を吸収するといふ三大要點を成就されましたことに對し、我々は深く敬服致して居る次第であります。私は斯く新興國家が奮闘努力、共に前進することを深く信ずる次第であります。我が中國は殊に其の全力を盡し、文化の復興を圖るべきであると考へる次第でありまして、文化の融合創造は、各民族を親密にし、團結せしむる要素であると考へます。例を擧げて申しますと、印度と中國との兩民族間に於ては、嘗て佛敎の導入に依り其の思想の交流を圖り、東方文化史上に一異彩を放つたのであります。

又經濟上に於ては、東亞各國家は互恵の基調に基き、長短相補ひ、有無相通じ、種々雙方を利便せしむる方法を考へるべきであります。之に付き例を申上げれば、中國の棉花は幾多隣邦の需要する所であり、南洋各地のゴム、錫等も相當隣邦に供給し得るものでありまして、我々が唯互助といふ見地に立つならば、必ず一切解決し得るのであります。米英が過去に於て執り來りました搾取政策、壟斷政策を根柢より消滅し、新たに一つの人道に合致した新天地を創造すべきであります。

以上述べました所を實現することを得るならば、東亞各國家各民族の福利は無限に増進せられ、嘗に東亞共榮の確

實なる保障を獲得し得るに止まらず、世界平和亦茲に於て其の基礎を奠定するに至ること疑ひないのであります。此等の光明は實は我が前途に横たはつて居り、只管に我が東亞各國家各民族が共に手を携へて其處に到達せんことを待望して居るのであります。

最後に付け加へたきことは、中國人にしてタイ、ビルマ、フィリピン各國竝に日本占領下に在る舊英國及び和蘭の各種民地域内に在るもの總數七、八百萬人を下らず、此等在留民はそれ／＼所在國政府の優遇を受け、所在國人民と肩を並べて活動し、而も交通開拓、資源開發に對し、渺からざる心血と熱汗とを注ぎ、其の心血及び熱汗の一滴々々が、所在國人民との結合に注がれて居り、東亞人の自覺に大なる推進力となつて居ることでありまして、中國人民は、素より缺點もありませんが、同時に又其の長所もあり、和平、信實、勤勞、質朴にして、所在國人民と其の苦樂を偕にし、休戚を同じうして居る結果、互に其の長所を採り上げ、缺點を補つて、既に分離すべからざる友好協力關係を形成して居るのであります。私は此の關係が、今次の大東亞戰爭を経て、更に鍛鍊され團結するに至るべきことを深く信ずると共に、又此の關係が大東亞共榮に對し貢獻する所あるを信ずる次第であります。

民國二十九年十一月三十日を回顧するに、日滿華三國共同宣言は既に東亞大陸に軸心を樹立し、今日大東亞會議に於ては更にタイ、ビルマ、フィリピン三國の参加を得、印度亦陪席せられまして、共榮圈の範圍は更に擴大せられたのであります。

以上私の所見を開陳致しましたが、茲に更に至誠を以て、會議參加諸國の國運興隆と、人民の福祉とを祝福する次第であります。





タイ國代表ワンワイタヤコーン内閣總理大臣代理の  
一般的所見(繙譯)

昭和十八年十一月五日

タイ國政府は日本國政府の發せられましたる今回の大東亞會議に對する參加招請を欣然受諾致しました。それは、  
タイ國政府は、本會議が大東亞戰爭を所期の如く完遂せしむると共に、恒久にして繁榮已むことなき大東亞共榮圈を  
確立する上に於て最も有效なる結果を招來すべきことを確信するからであります。尙タイ國內閣總理大臣ビー・ピブ  
ン・ソックラム元帥閣下は、現在の健康状態が東京への長途の旅行を許さずして、自ら本會議に列席出来なかつたこ  
とを頗る遺憾として居り、従つて元帥は私に命ずるに其の代理として本會議に參列することを以てした次第でありま  
す。

大東亞戰爭遂行と大東亞共榮圈の建設に關するタイ國政府の所見は既定の方針、特に日タイ關係の基本方針に準據  
せる現在の方針を以て極めて妥當なるものと爲すに在ります。當面の問題としては、現存の友好關係、協力並に十分  
なる了解を一層増進致しまして、物的的の力を結集一體化し、以て戰爭遂行と大東亞共榮圈建設とを成功を以て完  
成に導くべきものと考へる次第であります。

私の所見は大東亞興隆の歴史に依つて裏書されるものと考へます。即ち亞細亞大陸は人類發達の源でありまして、  
太古より非常に高度な發展を遂げて來たのであります。而して斯くの如き發達は人類の心に輝き、人類をして平和と

幸福とを求めしめる清き光でありまして、正義の基礎の上に樹立せられたる友好と好意とより成るものであります。  
是こそ國教として佛教を信奉するタイ國民に固有なる發展の原理であります。而して此の發展の原理は、同時に一般  
亞細亞國民に依つて傳統的に保持される文化の原則でもあり、換言致しますれば、亞細亞の原則に従ふ發展こそ眞の  
文化なのであります。此の事實は『光は東方より』、法律は西方より』と云ふ諺があることに依つても明白であるが如  
く、歐洲人に依つても認められて居ることでもあります。

歐洲の發達は之と異なつた形を採つて居ります。即ち物質的進歩の促進、言ひ換へると、國家と經濟力との發展を  
目的とする文明の形式を採つて居ります。之が爲に近代世界史の上に於て、歐洲諸國家は歐洲から外へ發展したので  
あります。特に一世紀前より英國と米國とは大東亞地域に進出し來り、或は植民地とし、或は原料獲得の獨占的地域  
とし、或は自己の製品の市場として領土を獲得したのであります。従つて大東亞諸民族は、或は獨立と立權とを失  
ひ、或は治外法權と不平等條約とに依つて其の獨立及び主權に種々の制限を受け而も國際法上の互惠的取扱を得る所  
がなかつたのであります。斯くして亞細亞は、政治的に結合せる大陸としての性質を喪失して、單なる地理的名稱に  
墮したのであります。

斯かる事態より生じたる苦惱は、廣く大東亞諸國民の感情と記憶とに永く留つて居るのであります。大日本帝國  
は先見の明を以て、現代世界の進展は、其の手段に於て西洋文明に據らなければならぬと同時に、又東洋的文化原  
則に信倚する必要があることを洞察せられたる結果、其の發展の形式を現代式に調整し、治外法權を撤廢させ、急速  
に一大強國の地位に躍進せられたのであります。タイ國も亦之と同一の道を歩み來つて居る次第でありまして、幾年



かの歳月を費し、不斷の努力を以て治外法權を撤去し、首尾良く獨立と主權とを再び獲得したのであります。併しながら亞細亞には、其の獨立を回復し、其の主權を再建せんが爲に、尙闘ふを要する姉妹國が幾つかあるのであります。此等の國は、假令完全獨立及び主權獲得の目的を達しなくても、尙經濟的に申しますれば自國民の公正なる要求に副つて發展を遂げる自由を持たぬ實情に在るのであります。

洵に大東亞は豐穰の沃土であり、自給自足の原則に基き、此の地域を共榮發展せしむるに足る自然資源竝に産業立地條件を有して居るのであります。其の結果、日本帝國は八紘一宇の理想に達ひ共榮國を樹立し、正義、公正及び平和の基礎の上に立し一家の如き結束を齎さんとする政策を採り、之が遂行に當つては、タイ佛印紛争の際の例に見るが如く平和的手段を用ひて居るのであります。即ちタイ國は領土喪失に基く忿意を除去せる友好關係を兩國間に打ち樹つる爲、喪失領土の一部の返還を佛國に要求したのであります。幸にも日本政府は之が調停に同意せられ、遂に正義に立脚せる協定に達するを得たのであります。斯かる日本の好意は、タイ國民の夢寐にも忘れ得ざる所でありませぬ。

併しながら日本の斯かる平和的手段に依る國策遂行は、米英が加へ來つた種々の障礙に依り成功を見ず、玆に大東亞戰爭勃發の已むなきに立至つたのであります。日本皇軍の輝かしき大戦果は、牢乎たる土臺の上に大東亞共榮國を樹立し得べしとの希望を生み、全亞細亞民衆の胸を歡喜に滿ち溢れさせて居るのであります。

タイ國は過去數百年間日本と密接なる友好關係に在り、此の關係は益々緊密の度を加へ來つたのであります。タイ國は日本の崇高なる目的を十分に了解し、内閣總理大臣閣下指導の下に、直ちに日本の同盟國として協力して來ま

したことは、大東亞共榮國の樹立と之を妨げる所の不埒なる勢力の一掃とを主要目的として日タイ兩國が締結したる兩國間の同盟條約に依つても明白であります。該同盟條約の根本方針は、(一)獨立及び主權の相互尊重を基礎とする同盟關係の設定、玆に(二)兩國の有する有らゆる政治的、經濟的及び軍事的手段に依る相互援助であります。

軍事的にはタイ國軍隊は日本軍と協力致しまして、克く勇銳頑強に闘ひ、所期の成功を収めたのであります。更に窮極の勝利を獲る迄戰爭遂行の爲に種々の犠牲を拂ふ用意があるのであります。經濟的にはタイ國は既に日本と十分に協力致して居りまして、此の點に於てタイ國が日本に援助を求めるとすれば、それは戰爭完遂のため其の經濟力を維持する上に於て必要とするものに限られて居るのであります。尙タイ國は自國の文化を宣揚して、戰爭遂行の爲克く國民をして一徳一心精神的に團結せしめ、同時に日本と文化協定を締結し、兩國國民の精神的紐帶を強化せしめたのであります。精神は亞細亞文明本來の特色であります。而して戰爭で終局の勝利を収める最も重大なる要素の一つは此の精神力なのであります。

政治的には日タイ兩國の友好關係は最も密接なる状態に在りまして、相互に能く諒解を遂げて居ります。日本國政府は宏量、克くタイ國の失地回復と民族力結集の國民的要望に同情されたのであります。斯くて日本政府はマライ四州及びシヤンニ州のタイ領編入を承認する條約を締結されたのであります。是實に日本はタイ國の獨立及び主權を尊重するのみならず、タイ國の一致團結と國力の増進とを圖られたことを證明するものであります。タイ國官民は日本國官民に對して深甚なる感謝の意を表する次第であります。

日本は、タイ國に對して示した好意と同様な好意を、大東亞に於ける各國に對して、それらの事情に應じて示し

て来たのであります。一例を申上げれば、日本は中華民國が完全なる主權を回復するのを援助し、滿洲國、ビルマ國にフイリピン國の獨立を支援し、更に獨立獲得を目的とする自由印度政府樹立を援助致されたのであります。タイ國は此等の成果を欣快として衷心より支持する次第であります。何となればタイ國は長い間此等の諸國と友好善隣關係を有し、文化的紐帶を持続して来たからであります。

今や大東亞は最早なる地理的名稱でなく、確乎たる基礎の上に立つ共榮圈を意味することとなつた以上、大東亞各國民の大事業は、戰爭遂行上相互に協力し、以て絶對的成功を收め、各國民が其の有する總力を擧げて全體に共通の利益たる共榮圈の恆久的確立の爲に、寄與することでありませう。

大東亞に恆久的繁榮を齎す根本方針は、相互の獨立と主權とを尊重し、互惠の基礎の上に立つて相互の經濟關係を増進し、正義に基き相互に協力援助し、以て物質的・道義的及び精神的力を含む各國の國力を最高度に増進し、各國及び大東亞全域の平和、幸福及び繁榮を確保するに在るのであります。

斯くの如くに致しまして、大東亞諸國は各々其の自國の文化の線に沿つて發展を遂ぐると同時に、本共榮圈の福祉及び發展の昂揚といふ共同目的を追求することとなりませう。大東亞諸國と兩餘の世界各國との關係に付いて申しますならば、一般友好關係に於ても、將又通商又は文化關係に於きましても、以上の原則、特に獨立及び主權尊重の原則並に互惠の原則に依ることが肝要であり、斯くしてこそ世界平和は確乎不拔となるのであります。

科學知識及び近代文明組織の手法を利用し、亞細亞文化を進歩の一要素たらしむることに先鞭をつけたのは大日本帝國であり、斯くして大東亞共榮圈は據頭して參つたのであります。依て私は本國政府の名に於て、日本政府に對し

茲に深甚の満足と謝意とを表する次第であります。

最後にタイ國內閣總理大臣ビー・ピン・ソングラム元帥閣下の名に於て、此の歴史的會議が成功裡に議事を了し、以て大東亞の安固と繁榮とを更に増進せんことを祈願致しまして、私の所見を結びたいと思ひます。

### 滿洲國代表張國務總理大臣の一般的所見(翻譯)

昭和十八年十一月五日

本日茲に私は滿洲帝國代表の資格を以て、大東亞諸國の政府首腦各位と親しく相見え、苛烈なる決戦のさ中にも大なる希望を持つて、隔意なき意見を交換するを得たることは、私の衷心より欣快とする所であります。私は此の歴史的會合を主催せられたる大日本帝國政府に厚く感謝すると共に、東條總理大臣閣下を初め、此の最も重大なる時局に當り國民の輿望を擔つて日夜國務に盡瘁せられつゝある參會の各國政府首腦各位に對し、深き敬意を表する次第であります。更に又大東亞を繞り數千里に亘る長大なる戦線に在つて、今此の瞬時に於ても、敵米英との激闘が續けられつつあることを思ひ、私は大東亞戦後の一國としての我が國を代表し、大日本帝國を初め參戰各國及び其の將士の善謀勇戦に對し、虔みて感謝の誠を捧ぐるものであります。

大東亞戰爭開戦以來、日本皇軍は戦史に比類なき赫々たる大戦果を擧げ、以て多年に亘り東亞を侵蝕し其の犠牲に於て自らの繁榮を維持し來りたる米英勢力を、隨處に撃破驅逐し去り、戰爭勃發後二年を出でずして、今や曩に實現

を見たるビルマ國、フィリピン國の獨立を初めとし、東亞民族は逐次其の本然の姿に還り、各々其の所を得て洋々たる將來を望み、數百年來彼の貧乏飽くなき米英帝國主義の爲失はれたる生氣を取戻しつゝあるのであります。悲惨なりし過去に訣別し、汚辱せられたる榮譽を回復すべく、米英支配權力の僞囁と抑壓とも拘らず、東亞各國に脈々として底流しつゝあつた解放への念願は、大日本帝國の終始一貫せる道義的政策と旺盛なる實行力とに依り、大東亞の名に於て茲に一舉に實現せられんとしつゝあるのであります。我等は此の千載一遇の好機に際會して、限りなき悦びの中にも、東亞解放の爲身命を擲ち、鮮血を流したる各國幾多の先覺烈士を想起し、肅然襟を正さざるを得ないのであります。

私は更に此の機會に、十年前我が滿洲國が最初の眞の東亞的なる自覺を有する新興國家として建國せられたることを回顧し、深き感慨なきを得ないものであります。私も亦抑へ難き熱情を以て建國に參畫したのであります。當時滿洲に於て最も缺けて居つたものは道義に基く政治でありました。従つて民衆は何等理想ある目標に指導せられ組織せらるゝことなく、國土は荒廢し、軍閥の封建政治に依る無秩序なる苛斂誅求が行はれ、何等の自由性創造性もなき典型的なる虐げられたる東亞の様相を呈して居つたのであります。而して當時の滿洲の支配者として人民に飽くなき搾取を加へつゝあつた張學良軍閥が、米英の東亞攪亂政策に乗ぜられて露骨なる反日態度に出でたのに對し、日本が敢然起つて張軍閥を打倒した結果、茲に眞に國民を向上し、國土を發展せしむべき自主的なる道義國家の樹立に、三千萬民衆の總意が翕然として集つたのは當然の成り行きでありました。而して我等の意圖する所は、有らゆる國際情勢が干渉し來り、相互に紛糾して常に東亞の安定に脅威を與へて居つた滿洲を、一轉して眞に古き東方道義に立脚

し、新しき東亞に目醒めたる強く正しき國家として、東亞全體の安定力たらしめんとするに在つたのであります。我等の信ずる所に依れば、東亞が光輝ある道義に立還つて、本然の姿に於て世界の文運に貢獻すべきことは、恰も歐洲諸民族が歐洲諸民族として生き、米洲各國が米洲各國として自存すべきが如く、大義の明かに示す所であり、さうして東亞が東亞たるの自覺を保持する限り、それは何もものも遮り得ざる歴史の必然と考へられたのであります。然るに東亞の東亞的自覺を好まざる米英は、其の傀儡機關たる國際聯盟を動かし、又當時南京に在つた蔣介石政權を使喚し、有らゆる妨害を加へ來つたのであります。而も我が國の永久に感銘に堪へないことは、日本が多大の國力を費して血を以て張學良軍閥を驅逐したるに拘らず、何等の領土的野心を示さず、公明なる道義的態度を以て、我が獨立と自主發展とを援助したことでありました。加之、日本は、我が獨立を擁護すると共に、東亞新秩序建設を高調して國際聯盟を脱退し、斷乎たる態度を中外に闡明したのであります。斯く考へるならば、滿洲建國こそは、今日大東亞全境に實現せられつゝある大東亞共榮國建設の最初の強力なる一步を踏み固めたるものであると謂ふことが出来るのであります。

斯くの如くにして建國せられたる滿洲國が此の十年間、如何なる政策の下に如何なる成果を擧げたかに付いては、特に全世界の注目を集めて居る所でありましたが、私は此の機會を藉りて、二三の基本問題に觸れて御説明したいと思います。

第一に民族の協和であります。我が滿洲國に於ては、日滿蒙其の他多數の民族が共存して居るのであります。從來一般に異民族間に見られたるが如き支配、被支配、搾取、被搾取の關係ではなく、相互に其の特長を發揮しつゝ國

家目的の達成に協力して行くものであります。此の點米英等帝國主義の民族支配とは根本的に相違するのであります。萬邦をして各々其の所得しめ、兆民をして各々其の堵に安んぜしめんとする日本帝國の精神と相照應するものとして、大にしては大東亞各國の共存共榮の方式を示唆するものと思ひます。

第二には、北邊の鎮護といふことでもあります。即ち大東亞共榮圈の建設には、獨り我が國の國防を全うするといふに止まらず、我が國自體が大東亞北邊の防壁として、之が遂行に些かの不安なからしむることが絶対に必要なのであります。我が國は夙に之を最も重大なる使命の一つとして、大日本帝國と共同防衛の盟約を結び、鐵壁の態勢を執りつゝあり、此の點些かも不安なきことを明言致すと共に、今後も各位の御期待に十分應へたいと所期して居る次第であります。

第三には、國民生活の安定と強く正しい國民の鍊成であります。即ち政府は建國後直ちに、從來紛亂を極め收拾最も困難とせられて居つた貨幣制度を、極めて急速に統一した結果、物價は安定し、延いては今日の如き國民生活の安定を確保するに成功したのであります。又之と併行して行はれたのは治安の確立でありまして、建國當時三十萬の匪賊が國內に横行したのに比べ、現在は全く影を潜むるに至つたのであります。加ふるに客年國兵制度確立せられ、近代兵器の裝備を有する精強なる國軍を創設し、完備せる警察制度と相俟ち、國內の隅々迄國民を安居樂業せしめて居るのであります。

一方政府は、勤勞奉公制度、文教振興方策等有らゆる手段を通じ、國民の鍊成に力を注ぎ、國家觀念を培養し、勤勞尊重の風潮を促し、心身兩面に互り強壯にして新しき東亞の民たるに恥かしからぬ青少年の育成を圖り、今や其の

數は飛躍的増大を見て居る次第であります。此の第二國民の出現は、現下の戰爭完遂への協力の上に於ては勿論、將來の國運發展の上に期して待つべきものと存せらるゝのであります。

最後に重要なものは、産業の開發であります。政府は建國第五年度より産業開發五ヶ年計畫の實行に着手し、有らゆる困難なる客觀的條件を克服して、一昨年度を以て成功裡に之を終了し、更に昨年度より第二次五ヶ年計畫の實行に入つたのであります。戦時下特に要請せられる鐵、石炭、非鐵金屬等の重工業資源の急速開發、輕金屬、化學工業の促進等は、電力の飛躍的増産設備の整備と相俟つて、著々躍進を遂げ、各部門に於て既に世界的強國の水準に達しつゝあるのであります。又農産物方面に於きましても、本來の農本國たるの特色を發揮し、目下計畫的増産に邁進しつゝあり、東亞の有力なる食糧基地たるの實を擧げて居る次第であります。

以上の如き建設の成果に付いて二、三の數字を拾ふならば、國家財政は、建國當初歳入歳出合計二億七千餘萬圓であつたものが、十年後の今日に於ては實に其の十六倍餘たる四十四億五千餘萬圓に膨脹し、又鐵道の延長は六千キロが一萬二千キロ、初等學校児童數五十萬人は二百五十萬人に垂んとして居るのであります。又増産の方面では、石炭が四倍に、鐵鐵が五倍に、それ／＼飛躍的な發展を遂げて居るのであります。尙此の外に、國民の保健衛生施設の改善等枚擧に遑ないのであります。其の顯著なる一例を擧げれば、米英が東亞侵略の手段に用ひながら、今に至つて人道の名に於て惡聲を放つ所の彼の阿片吸引の弊の如きも、建國當時阿片常用者は百三十萬であつたものが、今日では極めて僅少を殘すのみとなり、最近の將來に於ては完全に跡を絶つべきことが期待せらるゝのであります。

私は平素政府の責任者として努力の尙足らざる所なきやを反省し、慚愧を感じて居る次第であります。今此の國

運の隆昌を眼のあたりに見て痛感することは、大日本帝國の終始變らざる仗義であります。抑々日滿關係は、建國の由来よりして當然且必然に一徳一心關係にあり、畏くも皇室帝室に於かせられましては、御交誼彌々益々敦睦を加へ、率先垂範し給ひつゝあるのであります。而して青史に比なき我が十年の開發も、一に日本の絶大な仗義に依る援助に負ふ所多く、我が國としても如何程報ゆるも報い足らぬ氣持で、現に大東亞戰爭後方任務完遂に當つて居る次第であります。

次に大東亞建設の方途に付いて些か所懐を述べたいと思ひます。曩にも述べたるが如く、我が滿洲國は東亞解放、新秩序樹立を目途として建國せられたるものであり、有らゆる部面と機會とに於て大東亞共榮國必成に寄與せんことを念願して居るものであります。

而して我が國の共榮國各國との關係は、大日本帝國とは夙に一徳一心、不可分關係にあることは先程申述べた通りであります。

又曩に新生中國の指導者汪主席閣下領導の下に南京國民政府が樹立せられ、其の基礎を固むるや、日華兩國と共に日滿華間の永久の共同善隣關係を規定する三國共同宣言を發表し、又タイ國とも親密なる國交關係を結び、更に支那事變が大東亞戰爭に發展してより後も、ビルマ國、フィリピン國獨立に際しては直ちに之を承認し、將來益々親交を加へんことを期して居る次第でありますが、私は東亞に獨立國六を數へ、更に又最近自由印度假政府の樹立を加へ、史上無比の殷盛を現出したる今日こそ、全東亞各國は東亞一體、運命共同の信念に徹することが大東亞共榮國建設の根本問題であると信するものであります。而して東亞の興隆方に期すべき秋に當り、英米の惡逆無道なる彈壓下

に呻吟する印度國內四億の民衆に、絶大なる同情の意を表すると共に、今尙迷夢醒めざる東亞の孤兒重慶政權が東亞恢弘の大義に立還るべく反省せんことを切に祈念する次第であります。

而して今後の東亞各國は、東亞の天地に過去の汚辱の水滸に再び還らざるやう、一切の米英等の帝國主義的罪惡の痕跡を拂拭し去り、有らゆる植民地的性格を脱却し、其の本来の姿に於て、凡そ世界の人道を尊重し、正義を愛する國家と提携協調しつゝ、全世界の正しき發展創造に參せんとする雄渾なる意門を持つべきであります。私は其の意味に於て、我等と共通の目標に向ひ、歐洲に勇戦奮闘しつゝある獨逸を初め樞軸諸國の勝利に依り、歐洲新秩序の成立の一日も早からんことを祈り、且世界の到る處に我等と同調する新秩序の出現を待望せざるを得ないのであります。更に將來の東亞諸國家間の關係は、今次世界戰爭に於ても反樞軸諸國間に露骨に見らるゝが如き、利害に基き離合集散する從來の國際關係とは根本的に相容れない、東洋道德の傳統的特色たる家族血縁の情誼に基調を置き、眞に東亞一家の觀念の下に、相互に永久の道義的國交を誓約すべきものと信するのであります。従つて各國は各々其の傳統と特質とする所に生き、且之を相互に尊重すべきは謂ふ迄もないのであります。又一方政治、經濟、文化等有らゆる領域に互つて長短相補ひ、有無相通じ、以て東亞全體の生成發展に寄與すべきであります。國境の觀念の如きも、曾ての相互に對立する所の非東洋的なる國家の國境に非ず、相互に協力し、より大なる創造に參せんとする、國家間の國境であるといふ如く考へ、從來の國境觀念に縛られ、各國間の流通融合を阻止し來つた障壁は、一刻も速かに撤去すべきであらうと思ふのであります。

又我等の招來せんとする東亞共榮國の建設は、光輝ある古き東亞の復興を意味すると同時に、より多く新しき東亞

の創造を意味するのであります。故に東亞各國はそれ／＼新時代に即應する意識と力量とを具備しなければならぬのであります。私が曩に我が滿洲國の會で滿洲に見られざりし全く新しき巨大なる物心兩面に互る建設に付いて言及致しましたのも特に斯かる本意に出でたるものであります。尙此の際私は本年一月第八十一議會の施政方針演説に於て東條首相閣下が『滿洲國の今日の發展先實は取りも直さず大東亞全境の明日を示すものである』と叫ばれたことを、共感と感激とを以て相起せざるを得ないのであります。

驪つて戦局を大觀すれば、敵米英は緒戦に於ける東亞からの全面的敗退の後を承け、今や全東亞民族が澎湃として覺醒し、著々として大東亞建設の巨歩を進めつゝあるに焦慮し、彼等も亦有らん限りの力を揮つて我等に挑戦し來り、戦争は愈々悽愴苛烈の度を加へ來つて居るのであります。實に此の戦争こそは、彼等が過去に於て幾度か東亞に對して繰返し來つた侵略戦争の最後のものであります。且最も大規模なるものであります。茲に於て我等は今こそ我等の熱烈なる念願たる大東亞共榮の達成の爲、天が我等に與へたる唯一の機會であり、而も全東亞民族の興亡を永遠に決定すべき秋であることを、深刻に認識しなければならぬのであります。従つて我等今日の要務は、大東亞各國の物心兩面に互る一切を擧げて之を戦力化し、東亞の總力を打つて一丸として敵米英を撃推せんとするの一語に盡きるのであります。

而して我等十億の民族が、其の傳統たる優越せる精神力を以て、世界に冠絶する大東亞の資源を總動員し、戦ひつゝ建設し、建設しつゝ戦ひ、飽く迄進ましき建設戦を推進して行くに於ては、必ずや光榮ある最後の勝利が我等に歸すべきは、何人も疑はざる所でありませう。

我が滿洲國官民は、大東亞戦争勃發と共に宣示せられたる大日本帝國と死生存亡、斷じて分携せずとの帝旨を奉體し、國人を擧げ、國力を盡し、大東亞戦争遂行に協力し、北邊鎮護の重責に任じ來つたのであります。私は茲に我等は愈々此の決意を固くすると共に、益々大東亞各國と相呼應し、相結束し、必勝必成の信念を以て、大東亞建設の聖業に力を竭さんことを誓ふものであります。

### フィリピン國代表ラウレル大統領の一般的所見(翻譯)

昭和十八年十一月五日

議長閣下、閣下並に各位、僭越乍らフィリピン共和國の代表と致しまして私は此の劃期的にして光輝ある會議に際し茲に一言所見を申述べんとするものであります。私は先づ大東亞共榮圈各國民の指導者より成る此の大會議を主催せられたる偉大なる大日本帝國及び其の偉大なる指導者たる内閣總理大臣東條英機閣下に對しまして、深甚なる敬意と感謝とを申述べるとありまして、此の會合に於て大東亞諸民族共通の安寧と福祉との諸問題が討議せられ、又大東亞諸國家の指導者各閣下に於かれましては親しく相交はることに依りて互に相識り、依て以て亞細亞民族のみならず全人類の榮光の爲に大東亞共榮圈の建設及び之が恒久化に拍車を掛けらるゝ次第であります。

次いで私は中華民國代表閣下、タイ國代表閣下、滿洲國代表閣下、ビルマ國代表閣下及び若し許さるゝならば世界史上の一新紀元、即ち印度民衆の自由の爲の亞細亞人の鬪争を代表せらるゝ自由印度假政府主席スバス・チャンドラ、

ボース閣下に對し、御挨拶申上げる次第であります。

洵に人類の文明史を回顧するとき、私は斯かる大東亞諸民族の會議は夙に開催せらるべきであつたと感ずるのであります。我々は從來全くの他人として生存せしめられて來たのであります。大日本帝國の多大の御努力に依りまして、有史以來始めて我々が一堂に會しました此の事實に私は心からの感銘を感ずる次第でありまして、斯くて我々は今後再び既往の如く離散することなく、壓迫、搾取及び壓制に飽く迄も抗争し、十億の亞細亞民衆は少數西洋強國の支配及び搾取の犠牲とは再びならぬことを世界に向つて宣言し得る次第であります。之に關聯致しまして、私は東亞諸民族が從來斯く一堂に會し其の結束を固め共通の諸問題を検討し得なかつた理由と史料せらるゝ所の三點に付いて申述べたいと存じます。

第一は西洋列強、殊に英米の政策は常に、恐らく大日本帝國を除く、大東亞の各抑壓國民の政治的支配及び經濟的搾取に在つたのであります。此の搾取、支配の政策に依り亞細亞民族は弱體化せられ、其の活力を吸収せられ、従つて又其の積極性を萎微せしめられたのであり、更に英米の斯かる政策の故に夙に我等が相會し大東亞の共通諸問題を討議することが出来なかつたのであります。

第二の理由は、米英は以上の政策に従ひ、又其の結果として、所謂分割統治主義に基き常に大東亞諸民族の分割を圖り、以て大東亞諸民族の士氣、活氣及び生活力を弱めんとしたことは是であります。米英は大東亞諸民族の中に宗教的、階級的差異を創り出し、政治的相剋を促進することに依り之を分割したのであります。彼等は尠くとも我がフィリピン國民を分割致しました。又私は彼等が中華民國國民を分割し、更に其の法制及び主權下に在る他の諸地域の國

民を分割し、斯くの如く分割衰退せしめられたる大東亞諸民族をして其の力を結集し、東洋の名譽と尊嚴とを護つて奮起する力を喪はしめたものであることを確信するものであります。

第三に挙げます理由は、生れたばかりの小國であるフィリピン共和國の體驗に基きものであります。米英は次の如き口實を構へて我等に對日憎惡を鼓吹したのであります。即ち日本は征服慾に燃えた貪慾にして帝國主義的なる國家であり、權威、聲望の擴大を望む國家であつて、我々が日本と折衝するに於ては搾取壓迫は免れざる所なりと稱したのであります。日本は其の物心兩面の偉大なる力と國民の團結とを有するが故に、之を屈服せしめ得ざる東洋に於ける唯一の國家なることを悟りましたる西洋諸國は、外交的謀略を以て對日憎惡感及び對日猜疑感の醸成に努め、我等をして日本は我等の朋友同胞に非ずして仇敵なりと信ぜしめたのであります。以上申述べましたる所が即ち大東亞各國民が其の安寧、權威及び名譽に關する共通諸問題を討議する爲團結し得なかつた理由であると私は考へるのであります。

参加各國代表が始めて議長閣下の御招待に與りましたる際、私は深き感動に打たれたのであります。閣下の茶會を催されました室に入りますや否や、私は感涙類を傳ふると共に鼓舞せられ且靈感を受けたのであります。私は其の時、十億の東洋人、十億の亞細亞人よ、何故に御身等の多くは米英に、殊更に米英兩國に斯くも壓迫支配されたのであらうか」と叫んだのであります。従つて私が小たるフィリピン共和國を代表してはるゞ本會議に出席致しまして、大日本帝國の偉大なる指導者の招請に應じ參會せられたる閣下各位に親しく御挨拶申上げることの出來ますことは洵に私の最も誇りとし且満足する所なのであります。





私は議長閣下の中されましたことを最も注意深く熱心に傾聴致したのでありますが、閣下の御許しを得まして其の一節を引用したいと思ふのであります。それは日本を指導者として東洋民族、大東亞民族の行爲を指導支配し、戦争の完遂及び共榮圈原則確立の日迄我等を前進せしむべき根本的指導原理を表示して居ると考へらるゝものであります。即ち閣下は「大東亞各國は互に其の自主獨立を尊重しつゝ、全體として親和の關係を確立すべきものであります。相手方を單に手段として利用する所には、親和の關係を見出すことは出来ないものであります。親和の關係は、相手方の自主獨立を尊重し、他の繁榮に依つて自らも繁榮し、自他共に其の本來の面目を發揮する所にのみ生じ得るものと信ずるのであります」と申述べられたのであります。

換言すれば、大東亞共榮圈は之を形成する或る一國の利益の爲に建設せらるゝものではないのであります。閣下の御言葉を藉りれば、大東亞共榮圈の確立は各構成國家の自主獨立を認め、之を尊重することに始まるのであります。斯く政治的獨立及び領土主權を承認することに依つて、各國は各々獨自の制度に應じて發展を遂げ、而も發展の結果生ずる或る國の繁榮を或る特定國が獨占することなく、全體の繁榮は各個の繁榮を意味するも各個の繁榮は必ずしも全體の繁榮ならざるの理に基き、一國の福祉と繁榮とを他國に及ぼすことを以て其の目的とするものであります。

換言すれば、共存、協力及び共榮こそは大日本帝國に依り唱道せられ大東亞共榮圈の他の諸民族諸國民の歸依する神聖なる理念の根柢を爲す三要道であります。大東亞諸民族諸國民をして其の自然の生存權を享受せしめんが爲に、大日本帝國は此の聖戰に生命財産のみならず其の存立其のものをさへも賭して居るのであります。日本は單に自國民のみならず、大東亞全民族の爲に戦ひつゝあるものであります。日本は獨り自己のみが生ずる東亞の同胞が滅び苦しむ

ことを幸福とするものでないことは私の十分承知して居る所であります。日本は勿論生存することを望むでありませう。併し同時に日本は其の同胞たる東洋諸民族も共に生存することを冀ふのであります。日本も、中華民國も、タイ國、滿洲國、ビルマ國、印度、フィリピン國も何れも生存し、斯くして我等は中華民國或は其の他の一國乃至一構成國の繁榮を達成せんが爲努力を拂ふのでなく、全體の繁榮を圖り、更に國家の存在に必要な手段を獲得せんが爲に努力し、進んで再び西洋諸國の支配を受くることなく、世界に於て正當なる地位を占め、國民は各自の法律及び制度の下に幸福に生活し、緊密堅固に結果して、亞細亞及び亞細亞人の爲のみならず全世界の幸福と福祉とに寄與するが如き共榮圈確立の爲に協力せんとするものであります。

總理大臣閣下の優れたる御演説中、私自身のみならず恐らくは此の席に招かれたる各位の爲にも、歸國後國民に本會議の成果を報告し之を啓發する爲に、茲に引用することを御許し願ひたいと存する一節があります。それは東洋的文化、即ち必要性極めて大なる東洋民族の精神化に關するものでありまして、私は私自身の國の爲に必要なが故に特に之を引用せんとするものであります。即ち閣下は「由來大東亞には優秀なる文化が存して居るのであります。殊に大東亞の精神文化は最も崇高、幽玄なるものであります。今後愈々之を長養醇化して廣く世界に及ぼすことは、物質文明の行詰りを打開し、人類全般の福祉に寄與すること尠からざるものありと信ずるものであります」と謂はれて居り、斯かる文化を有する各國は相互に其の光輝ある傳統を尊重すると共に、各民族の創造性と天性とを伸張し、以て大東亞の文化を益々昂揚しなければならぬことを我等に教へられたのであります。斯かる精神化、優秀なる東洋的文化の精粹は我々が認識保存して次代へ傳承すべきものであるばかりでなく、閣下の述べられましたるが如く、根本

觀念として全東洋人の胸中深く刻み込まれるべきものでありまして、殊に弱小にして不幸にも多年に亘り唯物的西洋諸強國の支配と影響との下に苦惱し、西班牙の治下に三百餘年、米國の治下に四十年呻吟したる我が國の如き國民の諸記すべき所であります。而して是即ち各國民、特に我が國民の精神化を必要とする所以であります。洵に我等各國の指導者たるものは各々其の教育制度を全面的に改革し、以て國民をして東洋人として感受し、思惟し且行動せしむるの要があるのでありまして、恐らく此のことは日本が大東亞各國民の精神化を囿らるゝ上に於て最良の支援となるべきであります。

軍事的方面に關しましては此の席に於て私の贅言を俟つ迄もありません。日本軍が今次戦争に於て窮極の勝利を獲るに非ずんば我等は其の自由を享受し得ず、ビルマ國もフィリピン國も漸くにして與へられたる自由を樂しむことは出来ないのでありますから、自明の理であります。我々は以上の事實を深く認識し、種々の困難を忍びつつ、大日本帝國が勝利の目的を達成する日迄堪へ進む決意を固めて居るのであります。中華民國の戦、タイ國の戦、吾自由と自主との爲の大東亞全民族の戦も一に懸つて日本の勝利に在るのであります。其の確立も、大東亞諸民族の崇高なる念願の達成も、其の勝利に懸つて居るのであります。日本の勝利なくして其の國なく、我が國乃至東亞に於ける如何なる國の自由もないのであります。東洋人の聲威は興隆することなく、西洋諸強國は再び往昔の如く我々を支配し、疲弊死に至らしめんとするものであります。

此の機會に私は議長閣下に對する私及び我が國民の支援を誓約するものであります。又各代表閣下に對しましては我が國の同情と協力とを誓ふものであります。我が國は未だ誕生早々にして弱小ではありますが、尙くとも一千八

百萬のフィリピン國民は激動と同情とを寄せんことを望むものであり、我が國民は既往に於て物質主義に支配せられましたが、事態の推移に應じ眞の東洋的性格の自覺に目醒め、神の與へ賜ふ使命を果す責務を有して居るのであります。

閣下、私は唯一つの目的を胸中に藏して本會議に列し得ましたことを誇りとするものであります。其の目的とは世界の此の地域に於ける有らゆる民衆の覺醒に些か資する所あらんとすることであり、同時に又最近にフィリピン人に與へられましたる獨立の聲譽、私をして本會議に參列して大東亞諸國民の優れたる代表各位に面接することとを可能ならしめたる此の獨立の聲譽に對し、然に更めて我が國民の喜悅と感謝の意を表明せんとするものであります。

閣下各位、今日我々が單に物心兩面のみならず現戰爭定遂に必要な有らゆる點に於て團結して居るが如く、今次戦争が大日本帝國の勝利に終りたる曉に於ては、現に互に垂簾し擄取に委ねられ居る五億の東洋人が居住する國、即ち中華民國が、現在の如く血を流すことなく幸福に結合せる中國となり、日本との協力で依り世界の此の部分に東洋人の安居樂業の地たらしむる爲の決定的要素となるであらうことを私は切に希望するものであります。今や我は、我々の天命盡き彼の世に旅立つ日が参りませうとも、喜んで此の世を去ることが出来るのであります。何故ならば我々は我々の子孫が再び西洋諸國の擄取支配を受けぬことを十分承知して居るからであります。又私は、今やボース氏の有力にして熱誠なる指導下に在る印度も、再び英國の手に依り宗教的政治的に分割支配せらるゝことなく、三億五千萬の印度民衆が再び英國其他如何なる國の影響、壓制、抑壓にも觸れせらるゝが如きことを望む



ものであります。更に、ビルマ國、滿洲國、タイ國、中華民國並に他の大東亞諸國と利害を異にする所なきジャバ、ボルネオ及びスマトラの諸民族と協力し、且日本に結びつき、總てが結集し鞏固なる組織體として一致團結するに於ては、如何なる國と雖も、十億東洋人が西洋の抑壓的干渉を受くることなく自己の運命を開拓せんとする自由にして無碍なる權利と機會とを獲得せんとすることを制止し又は遅延せしむることは不可能であるとの信念を表明したいのであります。

東洋は人類文明の搖籃であり、西洋に對し其の宗教と文化とを與へたのであります。西洋は自己の文明の發祥地の人民を搾取する爲に其の同じ文明を利用したのであります。無量の叡智を有し給ふ神は、日本を見捨て或は大東亞の諸國家を見捨て給ふことなかるべく、必ずや天降り來つて我等と共に涙し、我等の勇氣を嘉し給ひ、我等をして我等自身を解放するのみならず、我等の子々孫を自由、幸福且繁榮ならしむることを可能ならしめ給ふであります。

以上を以ちまして私の發言を終ることに致しますが、御清聽を煩はしましたことに對し厚く感謝する次第であります。

### ビルマ國代表バー・モウ内閣總理大臣の一般的

#### 所見(翻譯)

昭和十八年十一月五日

議長閣下並に各代表閣下、茲に專見を開陳するに當りまして、私は些かためらひを感じるものであります。蓋し本

會議の如き場合に於ては、我々一同の胸中には唯一つの考へのみがあることは寧ろ當然でありまして、言ひ現はす言葉は色々でありませうが、我々には同一の心、同一の意思、同一の目的から生れ出る唯一の考へがあるのみであります。従つて私の所見中には既に各代表に依り開陳せられたる思想なり、感情なり、事實なりが屢々繰返されるであらうことも是亦當然のことであります。併し、それでも私は其のやうに繰返し申述べることに意義ありと考へるものであります。それは蓋しビルマ國も亦同一の考へを有することを明かにしなければならぬからであります。

或る意味に於て私は既に各代表が述べられたのと同じ言葉を語り、同じ所見を御傳へせんが爲に本國より參つたとも申し得るのであります。それは結局我々一同が同じ所見を有して居るからであります。此の席に起つて周圍を眺めますとき、私の胸に浮んで参りますのは過去に於て政治情勢の然らしむる所に依り西洋に於て出席を餘儀なくせられたる諸會議の想出であります。なるほど此等の會議に於きましても多數の人々が相集ひ、互に鄭重に取扱ひ、談笑を交し、各種の事柄、就中天候其の他に付いて論議致しました。併しながら私は常に他處者が他處者の中に在る感じを免れることが出来ず、恰も古代羅馬に於ける希臘人奴隸の如き感を懐くのが常であつたのであります。

本日此の會議に於ける空氣は全く別箇のものであります。此の會議から生れ出る感情は之を如何やうに言ひ現はしても誇張し過ぎることはあり得ないのであります。多年「ビルマ」に於て私は亞細亞の夢を見續けて参りました。私の亞細亞人としての血は常に他の亞細亞人に呼び掛けて來たのであります。晝となく、夜となく、私は自分の夢の中で亞細亞が其の子供に呼び掛ける聲を聞くのを常としましたが、今日此の席に於て私は、始めて夢に非ざる亞細亞の呼聲を現實に聞いた次第であります。我々亞細亞人は此の呼聲、我々の母の聲に應へて茲に相集うて來たのであります。

私は此の議場に於て述べられました各代表閣下の所見に對し滿腔の感動を以て耳を傾けたのであります。此等の所見は總て記憶に留むべきものであり、感動に満ちたものでありまして、稍誇大に言ふことを許されるならば、私は其の中に子供を呼び集める亞細亞の聲を聞くやうな気がしたのであります。何がどうであらうとも、各代表が何を述べられようとも、又如何なる地方色が加へられようとも、其の底に流れるものは唯一つの「聲」でありまして、有らゆる所見を通じて、そこには企畫と目的と精神の統一があり、之をしも私は我等の亞細亞の血の呼聲と稱するのであります。今や我々は心を以て考ふる時期ではなく、將に血を以て考ふべき時であり、私のはるく、ビルマより日本へ参りましたのも此の血を以て考へる考への致す所なのであります。

既に述べられたる幾つかの記憶すべき演説中にあつても、最も牢記すべきは議長閣下の御所見であります。議長閣下は常の如く闊の演説を行はれましたが、本日のそれは闊の演説以上のものでありまして、實に生躍する演説であります。閣下は恰も眞の武士が其の武器を選ぶが如く一語々々を選定せられ、其の言葉を流線化し、一つの究極目的の爲に配置せられたのでありまして、此の聲に付き私は代表各位と共に議長閣下に對し深甚なる謝意を表明するものであります。

世界の動きの速なること洵に急瀉の如きものがありまして、大東亞戦争前に於ては今日の如き會合は到底考へ及ばなかつた所と思はれます。當時に於きましては、亞細亞人が今日の如く一堂に會することは出来なかつたのであります。それが今や我々は此處に斯く相集つて居るのであります。私の心眼には新世界の創造せられ行くさまがまさまざと映じて居ります。私は議長閣下の御演説の中に、新しい世界、亞細亞人の爲の亞細亞的世界の機構が現實に形成

されつゝあるのを見る次第であります。僅々數年前に於きまして、亞細亞人は互に分割疏隔せられ、相互に識らず、又之を識らうとすることもなく、恰もそれ／＼別箇の世界に住めるが如き感があつたのであります。當時に於ては郷土としての亞細亞は存在せず、亞細亞は「一」に非ずして「多」であり、而も亞細亞を分割せる敵と數を同じうし、亞細亞の大部分は此等敵國の何れかに影の如くに追隨して居つたのであります。

過去に於て、我々にとつては實に待遠しい期間であつた過去に於ては、今日我々が一堂に會して居りますやうに、亞細亞の各國民が會合することは到底考へられなかつたのであります。如何でせう、其の不可能が實現したのであります。それも我々の中の最も大膽なる夢想家でさへも夢想し得なかつた形で現實化されたのであります。

今日大東亞會議は東亞の首都に開催されて居ります。斯くして新しい世界、新しい秩序、新しい國籍が生れたのであります。有史以來始めて東亞の國民は、東亞は一にして分離すべからずといふ眞理に基く、自由にして平等なる同胞として、會合して居るのであります。

併し、本日の東亞國民の會合は無から生じたものではありません。手品師の使ふ空の帽子から突然飛び出して來たものではありません。東亞に於て一つの世界を渡し他の世界を創造した、長い間の種々の事件の結果として生れたものであります。既に述べました通り、此等の事件は非常に大きく又其の影響する所は頗る廣いのであります。日本に依る亞細亞指導權の把握、無敵日本軍の電撃的作戦に依る東亞の席捲及び反亞細亞勢力の撃攘、歴史に例なき日本を中心とする全東亞國民の共同の敵に對する結果、更に亞細亞進展の一轉機を劃するビルマ國及びフィリピン國の獨立



等々が即ち之に該當するものであります。實に未だ曾て之より偉大にして重要な事件が東洋に起つたことはないであります。

私の所見を之以上進めます前に、他の代表が既に述べられた考へではありませんが、私よりも一言述べたいと思ひます。蓋しビルマ國も亦此の考へを述べる光榮を持つべきであるからであります。

私が既に申述べました東洋を全然變貌致しました種々の事件は、日本なくしては到底起り得なかつたものであります。我々多くの者が長い間彷徨ひ、救ひを求めて與へられなかつた荒野から我々を救ひ出してくれたのは東洋の指導國家日本であります。全東亞は日本に負ふ所實に多大であり、私は全東亞が欣然として日本に對して大に報ゆる所のあることに付きましては完全なる確信を有するものであります。

私は敢て申します。本日の場合には洵に意義深き行事であります。議長閣下の述べられました如く、我々正義、平等、互恵に基き、他を生かしむることに依り、我も亦生くといふ大原則の下に新しい世界を創設しつつあるのであります。有らゆる見地から見まして、東亞はそれ自體一箇の世界を成して居るものであります。即ち物質的には自給自足、否寧ろ溢ふるばかりに豊であり、戰略的には不敗にして如何なる敵をも撃推出來、精神的には完成せられたる「一」であり、自ら別天地を形成して居ります。然るに我々亞細亞人は幾世紀もの長い間、以上の事實を忘却して居つたが爲に、多大の損失を蒙つたのであります。即ち其の結果亞細亞人は遂に亞細亞を喪失するに至つたのであります。今や、日本の御陰を以て我々は以上の事實に氣が付き、之に依つて行動を開始した次第でありますから、亞細亞人は必ずや亞細亞を回復するに相違なく、此の簡單なる眞理の中に亞細亞の全運命が横たはつて居るのであります。

私は此の教訓を非常に高價なる代價を拂つて體得した國から參つた者として所見を述べて居るのであります。多數の國家國民も此の教訓を得る爲に苦い目に遇つて來ました。ビルマに付いて申しますれば、我々は慈悲も正義心もない敵に對して代價を拂つたのみならず、今尙有らゆる形式に於て、死と破壊との代價を拂つて居る次第であります。僅に一千六百萬人のビルマ人が獨力で國家として生れ出づる爲に闘争したときは、常に失敗に終りました。何代にも互つて我々の愛國者は奮起し、民衆を率ゐ、打倒英國に邁進したのであります。我々が亞細亞の一部に過ぎないこと、一千六百萬の人間が爲し得ないことも十億の亞細亞人が團結するならば容易に成就し得ること、此等の基礎的事實を認識するに至らなかつたが爲に、我々の敵に對する有らゆる反抗は假借する所なく蹂躪されたのであります。斯くて今より二十年前に起つた全國的叛亂の際には、ビルマの村々は焼き拂はれ、婦女子は虐殺され、志士は或は投獄され、或は絞殺され、又は追放されたのであります。併しながら、此の叛亂は敗北に終つたとは謂へ、此の火焰、亞細亞の火焰はビルマ人全部の心中に燃え續けたのであります。反英運動は次から次へと繰返され、此のやうにして闘争は續けられたのであります。而して遂に、今日漸くにして遂に、我々の力は一千六百萬のビルマ人の力のみでなくして、十億の東亞人の力である日が到來したのであります。即ち東亞が強力である限り、ビルマは強力であり不敗である日が到來したのであります。

以上私は東亞を全體として所見を申述べて參りましたが、實は東亞は今尙全體として纏まるに至つては居らないのであります。我々は東亞國が尙不完全であり、此處彼處に間隙のあることを認めざるを得ないのであります。それは特に印度を意味して斯く申上げるのであります。何人と雖も印度を除外して東洋を考へることは出來ず、此の點に付

きましては別に理由を申述べる必要はないと思ひます。是迄私は屢々自由なる印度なくして自由なるビルマなしと申して参りましたが、今日私は一步を進めまして、自由なる印度なくして自由なる亞細亞なしと率直に斷言致すものであります。

印度は亞細亞に於ける反亞細亞侵略の武器庫であり、寶庫であり、是場であります。故に侵略者を印度から、此の無盡蔵の寶物を有し、資源を有し、人力物力を有する印度から、放逐しなければならぬのであります。我々は此等の印度の資源を敵の手から奪ひ取らねばならぬのであります。是即ち私が印度の獨立は亞細亞の獨立に缺くべからざる要素であり、印度の闘争は實に亞細亞の闘争であり、我々の闘争であり、我々の闘争であると斷定する私の所見に閣下各位が御同感であることを確信する所以であります。

私は、必ずや、スパス・チャンドラ・ボース氏が、私の所言が些かの誇張もない文字通りのものであり、而も絶對的の信念を以て申述べて居ることを御認めになるものと信じて疑ひません。

扱て、次に大東亞戦争及び東亞的秩序に付いて申述べたいと存じます。實は此の點に付きましては、代表各位が既に述べられたる所に對し私より附加し得ることは殆んどないのであります。極めて概念的に申上げて見たいと思ひます。我々にとつて今次の戦争は絶對絶命のものであります。東亞は此の戦争を勝ち抜き生き永らふるか、然らずんば戦ひ敗れ滅亡するの外なく、他に選ぶべき途はないのであります。實に東亞と東亞民族とに取つては生存其のもの爲の戦であり、將來千年に亘る東亞の獨立、平和並に繁榮の爲の戦であります。現實を勇敢に直視して見たら如何なる状態でありませうか。ビルマは現に恐るべき事實上に直而して居ります。故に

私も率直に申述べて居るのであります。同時に私は茲に代表せらるる全東亞各國に代つて居るものと信ずるものであります。若し東亞が一體となり、強力となり、自給自足の境地に到達するに於ては何事も成らざるはなく、十億の東亞民族が結束して起つときは、如何なる戦、如何なる平和をも克ち得るのであります。

東亞の新秩序並に經濟に關しては、既に申述べました通り、私は議長閣下の明瞭にして論議の餘地なき御聲明に對し深甚なる謝意を表すものであります。議長閣下は其の獨自の勇邁と決斷とを以て、其の根本原則は正義、互恵並に獨立及び主權の相互尊重なるべきことを宣言せられました。右は洵に明瞭確乎たる御言葉であり、東亞憲章、即ち東亞の新秩序の存する限り存続する憲章として、永遠に遺るであります。又、此等の諸原則に基礎を置く東亞の新秩序は、嚴の如く、永久に揺ぐことなく存続するであります。此の東亞の新世界は、其の安定の爲必要とする物質的條件は既に之を具備して居ります。義に申述べました通り、自然は我等の新世界に對し物質的資源を惜しみなく恵んでくれて居ります。従つて、物質的には我等の世界を敵に對し安定せる鞏固なるものと爲す上に於て、何の缺くる所もないのであります。併しながら、右を以て十分なりとは絶對に言ひ得ないのであります。此の物質的結果に、加ふるに、理解と寛容とに基き、個々全體の爲にして全體は個々の爲なり、との根本意識を基礎とする精神的結果がなければならぬのであります。即ち、個々の國家主義と並んでもつと廣い意味に於ける國家主義が必要であり、個々の領域的天地と並んで單一の東亞的天地を必要とするのであります。是は單なる感情乃至言葉ではなく、我々は絶對に之を完遂しなければならず、然らずんば我々は雄圖の半にして滅亡するの外はないのであります。

以上は現に我々の直而する問題に對する一般の見解であります。代表各位が強調せられたるが如く、我々各國民



は各々独自の道を歩み、各独自の軌道を行進し、各自に自強の途を講ずるの要があり、先づ自國に於て各々善良なる國民たるの資格を備へ、延いては善良なる亞細亞人、善良なる隣人とならねばならないのであります。今日迄に私が屢々述べて居ります通り、ビルマ國の東亞に貢獻する最善の途は強力なるビルマ國を建設することであり、ビルマ國の力は即ち東亞の力なのであります。此のことは亦中華民國、タイ國、滿洲國及びフイリピン國並に最後に齊しく印度に付いても同様であります。而して東亞の力は此等各國、即ち自由に於て平等なる彼等自身の世界に於て躍動し、活動し、且協力する此等各國の個々の力の結集せられたるものでなければならぬのであります。

以上申述べました東亞の原則を現實に起りつゝある事態に適用して見たいと存じます。私の祖國ビルマ國に付いて述べますれば、御承知の通りビルマは實に大東亞戦争の第一線であり、といふことが如何なる困苦、如何なる恐怖を意味し、如何に多數の人命及び家庭が喪はれ、今日生けるものが明日は既に此の世に在らざる状態を意味するものであることは、各位の能く御承知の通りであります。既に申述べました通り、ビルマ國が此等の慘禍に直面して居るのは、自國の爲のみではなく全東亞の爲であり、共同戦線の一部を防御することに依り東亞の他の地域の防御に當つて居るのであります。私はビルマ國が最後迄第一線を守り通すであらうことを確信するものであります。同時に私は他の大東亞各國が現にビルマに行はれつゝある激戦は彼等自身の戦であり、此の戦は一體一家の原則の下に戦はれなければならず、且大東亞の總力を以て戦ひ抜かれなければならないものであることを銘記せられんことを望むものであります。我々は全大東亞防衛の爲、如何なる國、如何なる戦線に於ても運用し得る如く、全戦力及び全資源を結集しなければならぬのであります。換言すれば東亞が一體なるが如く、其の努力、經濟及び企畫も一體で

なければならず、而も物質的にも精神的にも一體であることを要するのであります。萬一自己の爲に孤立主義を採るものあらば、それは最大の裏切り行爲と申すべく、我々を滅亡に導くものに外ならないのであります。何よりも先づ彼等孤立主義者自身が破滅に陥ることでありませう。繰返し申述べますれば、ビルマは今後も東亞の第一線たるべく、我々は亞細亞人として、亞細亞の爲に、此の戦争を戦ひ抜く決心を有して居ります。と同時に他の東亞各國も之に倣はんことを當然期待するものであります。

私がビルマの戦況に付き多くを語り過ぎたとせば、各位の御寛恕を請ふ次第であります。私が自國の領域内に於て現實に總力戦に従事して居る國民の代表として出て來たものであることを御諒解願ひたいのであります。ビルマ國民が現に第一線の状態の下に生活して居り、其の家庭も、生命も、財産も、其の他人生に價値ありと考へられる總てのものが、日々敵の攻撃に曝されて居ることも御諒解願へることと存じます。是即ち私が、忌憚なく申せば胸中に彈丸飛び交ふ火線の心情を懷いて此處に参つた所以であります。ビルマ國民が常に一大闘士であつたことは、史上に明かなる所でありまして、現在のビルマ國民も其の祖先の名を辱めぬものなることは私の確言し得る所であります。今より二年前、我がビルマの青年は武器なくして戦ひました。武器を獲る爲には先づ敵を斃さねばならなかつたのであります。彼等は敢然として之を遺り遂げたのであります。今日ビルマ國に於ける士氣は頗る旺盛でありまして、何物と雖も之を破ることは不可能であります。何故ならば總てのビルマ人は、己の貴しとする總てのものの爲に戦ひつつあることを知悉して居るからであります。

私は東亞の一體たるべきこと、此の戦争を東亞人として併に戦ひ、東亞人として併に世界を建設すべきことに付い

ては既に十分に述べ盡しました。我々は此の事業の正しき端緒を本會議に於て開いたのであります。併しながら、我々は單に此の事業を續けて行くのみならず、本日成功裡に開始せられたる此の事業を、大東亞戦争の全作戦地域に及ぼし且將來の平和の爲に展開して行かなければならないのであります。換言すれば、東亞共同の運命を綜合計畫化して導いて行くべき、恒久的なる東亞中央組織體の存在を必要とするのでありまして、之に依り始めて我々の結果は現實化し、効果的となり、平時にも戦時にも有力なる武器となるのであります。此の組織體が自由にして平等なる大東亞各國を代表するものであることは言を俟たざる所であります。故に途は自ら明かであり、我々は今其の緒を掴んだばかりであります。是から目的に向つて我々の前進を開始される次第であります。一度亞細亞民族が結集し、統一と指導とを得るときは、常に如何なる世界の涯迄も前進し得るものであることは歴史の示す所であります。過去に於て、東洋は一再ならず其の敵に對し進軍し、之を滅したのであります。唯、亞細亞人が亞細亞を忘却したときに限り敵に敗れたのであります。併しながら、今や偉大なる大日本帝國の御蔭に依り、我々は再び亞細亞人たるの自覺を取戻し、亞細亞の血を再發見したのであります。此の亞細亞の血こそは、亞細亞を我々の手に回復せしむるものであります。今こそ我々は示されたる途の最後迄進軍を續けようではありませんか。十億の東亞民族として新しい世界、我々東亞民族が始めて永遠の自由と繁榮とを獲得し、永住の地を見出すことの出来る新しい世界に向つて進軍しようではありませんか。

滿洲國代表張國務總理大臣の此の種會議開催方希望に

關する發言(繙譯)

昭和十八年十一月六日

滿洲國代表と致しまして、議長閣下竝に各代表閣下の御許しを得まして茲に一言述べさせていただきます。滿洲國代表と致しまして一言述べたいと思つて居りましたことがありました。只今發言の機會を與へられまことを深く感謝致します。私の申述べたいことといふのは、今次の大東亞會議は、大東亞建設に對し多大の貢獻を致し、極めて有意義且有益であつたことは、各國代表の齊しく御認識せられたる所と確信致します。就きましては、此の機會に於て、私は此の種の會議が將來に於ても隨時今次の如き形式を以て開催せらるゝことを希望するものであることを申述べて置きたいと存じます。

ビルマ國代表バー・モウ内閣總理大臣の

自由印度假政府支援に關する發言(繙譯)

昭和十八年十一月六日

議長閣下竝に各代表閣下、今や大東亞會議の主たる議事が終結致しましたるに付きましては、私は我々を影の如く追跡し來つた我々と不可分の問題に付きまして、各位の注意を喚起致したいと存じます。それは即ち印度問題であり





ますが、本席上には自由印度政府首班閣下も陪席して居られますので、本問題に關する私の如何なる發言も閣下の御陪席に依り十分裏書されるものと思料する次第であります。

私は昨日申述べました私の所見の中に於きまして、印度の自由なくして亞細亞の自由なしと斷言致しました。従つて、本日は此の所言を論理的に展開する義務があると考へるのであります。議長閣下並に各代表閣下、ビルマ國代表である私は、印度問題を論ずるに特に相應しき地位に在るものであると考へます。我が友ボース氏も亦發言の機會を與へられるやに承つて居りますが、然りとせば同氏も亦本問題に付き所見を述べられることと存じます。斯くて今私が申上げようとするのは、印度指導者であるボース氏の發言に對する前置とも申すべきものであります。

ビルマは印度問題を語るに付いては特殊の地位に立つて居るのであります。一世代に互り歴史の波の間にビルマと印度とは共に苦難の途を歩いて來たのであります。有らゆる部面に於て結びつけられたる我々は、共同の敵に對し共同の戦を続け來つたのみならず、目的と行動と目標とを常に一にせざるを得なかつたのであります。私はビルマの政治的觀念と政治的手段乃至技術の大部分は、印度から教へられたものであると申して憚りません。ビルマは過去に於て宗教上の觀念を印度から受け容れたのであります。私は自國民の指導者としてビルマは現在に於て政治理念の大部分を印度から受け容れて居ることを認めるものであります。

ビルマと印度とは久しきに互り、手を携へて相共に闘はざるを得なかつたのであります。斯く申します私の言葉の眞の意味を理解せらるゝ向は妙からうかと存じます。此の闘争たるや世界に於て最も強力且無慈悲にして、最も掠奪的なる敵に向ふに廻した戦でありまして、實にそれは人と銃との戦であつたのであります。而して常に銃が勝

利を占めたことは勿論であります。我々が幾度蹴起ししても、銃は常に我々を蹂躪したのであります。私は此の絶對的に優勢なる敵との戦の中に於て、現實主義者たるべきことを學んだのであります。即ち理念に付いて、正邪に付いて、其の他有らゆることに付いて我々が何を言はうとも、最後の決を下すものは、常に力であるといふことを學んだのであります。

我が國民が重なる失敗にも懲りず、幾度か起ち上つたことを誇りとするものであります。併し幾度蹴起しても、常に武力を以て抑壓されたのであります。私は嘗て英國に於て或る英國人に向ひ、一千六百萬の武器なき人民を抑壓することは容易であるが、若し私に武器を與へ、私に十萬の武裝せる兵力を與ふるならば英國全體をも倒し得るであらうと申したのであります。不幸にして銃は常に敵の手に在り、我々は徒手空拳であつたのであります。

印度とビルマとの英國に對する共同抗争の實體は、一言にして申せば斯くの如きものであつたのであります。此の抗争と間斷なき革命の烽火の中から、偉大なる人物が、私心なき人物が、而して指導者達が現はれたのであります。彼等は其の生命、其の地位を初め、其の有する總てを母國の爲に捧げたのであります。其の偉大にして世界に存在を認められた指導者の中の一人が、此處に陪席して居られますスバス・チャンドラ・ボース氏に外ならないのであります。

ボース氏に關する數々の物語は、我々の夙に傳へ知つて居る所であります。即ちボース氏こそは印度、割き破かれ、割き分けられつゝも尙且解體することなく存続する、偉大なる悲劇の國印度の復活と革命との精神を象徴せらるる人物であります。而して今やボース氏が我々と共に在つて其の抗争を続けんと準備せられ居り、而も今や印度民衆のみならず、東亞十億の民族を背後に控へて起たとせられつつあることは、洵に喜ばしきことと謂はざるを得な

いのであります。私は茲に自由なる印度なくして自由なる亞細亞は存在し得ないことを重ねて強調したいと思ひます。私は文字通りのことを申述べて居るのであります。願れば過去百年間、英國は印度の力と、印度の資源とを以て西はアデンより東は新嘉坡、香港に至つて、其の植民政策を遂行して來たのであります。英國が其の掠奪に依る帝國を建設し得たのも、外敵の脅威に遇ふや常に之を防禦し得たのも、全く印度の人力と資源との御蔭に依るものに外ならないのであります。

私はビルマの經驗に基いて申述べて居る次第であります。英國は其の傳統的政策に遵ひ、印度の兵隊を以てビルマと戦ひ、以てビルマを滅したのであります。即ち彼等の常套手段たる、我々東亞民族の戰鬥力を以て戰爭を遂行する例に倣ひ、印度人を用ひてビルマと戦ひ、ビルマを滅したのであります。此の度の世界大戰に於きましても、英國は恐らくソウイェト人、佛蘭西人、亞米利加人及び印度人の最後の一人迄動員して戦ふであらうが、英國自身は其の人力と資源との浪費を最少限に止めるといふ其の傳統的政策を守ることであらうが、英國は此の政策を忠實に踏襲し、印度の力を用ひてビルマに來り、ビルマを見、而してビルマを征服したのであります。既に申述べました通り英國は何處に於ても同様のことを行つて來たのであります。それは印度が亞細亞の要塞であり、英帝國は印度を中心として亞細亞を右に左に放射線的に形成せられたものであるからであります。實に印度こそは英國帝國主義を可能ならしめ且英國植民政策の道具であつたのであります。

以上に依り各位は貪慾なる英帝國を倒し、反亞細亞的なる帝國主義を倒さんと欲せば、亞細亞に於ける其の要塞である印度より英國を驅逐しなければならぬと申す私の言葉を了解せらるゝことであらう。洵に印度に對する英國

の支配を打破らざる限り英帝國の解體は望み得ないのであります。

私はこれ以上言葉を費さうとは思ひません。本席は論議すべき場所ではないのであります。印度の偉大なる指導者ボース氏は印度問題に付いて例に依り明快に而も力強く述べられることであらう。私の申しました所は豫め御断り致しました通り其の前置に過ぎず、唯私は茲に我々は印度の獨立に對し、又自由印度假政府首班として印度の獨立を自指し、他日印度獨立軍と共にデリーに入城し印度を解放せんと準備せられつゝあるスバス・チャンドラ・ボース閣下に對し、完全なる支援を與ふるものなることを嚴肅に宣言せんことを本會議に提議するものであります。

### 自由印度假政府ボース首班の發言(翻譯)

昭和十八年十一月六日

議長閣下、閣下並に各位、此の歴史的會議に陪席者として出席することを許されましたことは、私及び私の同僚の光榮且恩恵とする所でありまして、茲に其の御厚意に對し自由印度假政府を代表しまして深甚なる感謝の意を表する次第であります。殊に閣下各位が其の御所見中に表明せられました深き御同情竝に我々の將來に對し協力援助を確約せられましたことに對しまして、私は衷心より感謝を捧ぐるものであります。更に又ビルマ國代表閣下御提議の下に、全會一致を以て採擇せられました決議に對しましても滿腔の謝意を表するものであります。議長閣下、此の決議は此の殿堂の壁を越えて遙か我が同胞幾億に希望と激動と感激とを齎すと同時に、心坎しき所ある總ての者の胸中深く恐怖を與ふるものなることは、私の信じて疑はざる所であります。

我々自由印度假政府並に其の指導下に在る總ての者は將に米英帝國主義に對し最後の決戦を開始せんとして居るものでありまして、我々の背後には常に無敵日本の強き力のみならず東亞の解放せられたる各國民の總意と決意ありとの自覺の下に、今や我々は不俱戴天の仇敵擊滅に進軍せんとして居る次第であります。

議長閣下、私が昨日及び本日此處に在つて此の大會議の議事を傾聴致して居ります際、私の眼前には、パノラマの如く世界の歴史が去來したのであります。私は過去百餘年間に開催せられたる數多の國際會議を回想したのであります。即ち、ナポレオン帝國没落後一八一五年に開催せられたる維納會議、クリミア戰爭後一八五六年に開催せられたる巴里會議、バルカンに於ける露土戰爭後一八七八年に開催せられたる柏林會議、前世界大戰の終決を告げたる一九一九年のヴェルサイユ講和會議、太平洋及び極東に於ける英米の支配を確保せんが爲一九二二年に開催せられたる華府會議及び獨逸國民の手足を巧みに永久に拘束すべく一九二五年に開催せられたるロカルノ會議に想を馳せ、更に又、嘗て私が印度の自由の爲の叫びに耳を傾くる者を求めて久しく其の堂内を彷徨したることのある彼の國際聯盟の會議を想起したのであります。

而して更に此の歴史的會議の議事を聴きつゝ、私は此の會議と嘗て世界史上に現はれたる類似の諸會議との間に、如何に懸隔あるかに想を致したのであります。

議長閣下、本會議は戰勝者間の戦利品分割の會議ではないのであります。それは弱小國家を犠牲に供せんとする陰謀、謀略の會議でもなく、又弱小なる隣國を嚙み殺せんとする會議でもないものであります。此の會議こそは解放せられたる諸國民の會議であり、即ち正義、主權、國際關係に於ける互恵主義及び相互援助等の尊嚴なる原則に基いて世

界の此の地域に新秩序を創建せんとする會議なのであります。私は斯かる會議が此の日出づる國に開催されたのは偶然の事ではないと考へるものであります。蓋し世界が光明と指導とを東洋に求めたることは之を以て嚆矢とはしないからであります。世界新秩序建設は、既往に於て且他の地域に於て、一再ならず試みられ來つたのであります。然るに失敗に終つたのであります。それは全く新秩序創建の指導的立場に立つべき者に利己慾、貪婪及び猜疑心があつたが爲であります。故に茲に世界が再び光明を東亞に仰がなければならぬことに立至つたのは洵に當然の理であり歴史

的必然なのであります。議長閣下、自由にして繁榮に充ちたる新東亞の建設に當り、日本國政府並に國民が指導的役割を努むべきことは歴史上定められたる所であることを私は信ずるものであります。日本國政府並に國民の斯かる使命は夙に一九〇五年に亞細亞の一國が西洋の侵略に抗して奮起したる時に青史に鏤刻せられたのであります。

今日迄に屢、申したることあります通り、當時我が國より遙か彼方に於て生起しつゝあつた種々の事件に對し、幼少であつた私及び幾億の我が老幼印度同胞が如何に歡喜と熱情とを注いだかは今尙私の記憶に新たなるものがあります。是は印度人、印度兒童のみならず世界に散在する全亞細亞人の經驗した所であると信ずる次第であります。爾來亞細亞民族は結集せる亞細亞、自由なる亞細亞を夢見たのであり、我々印度民衆も亦一九〇五年以來之を憧憬し來つたのであります。其後、特に前世界大戰以後、斯かる夢想なり思想なりは汎亞細亞聯盟の形に於て具體化したのであります。

其の後二十餘年に互り印度民衆が不斷に汎亞細亞聯盟を思慕憧憬し來つたことは何人に取つても驚くに當らない所



と考へられるのでありまして、是は全く既往の傳統及び文化に合致するものであります。

閣下各位の既に御承知の如く元來印度思想に文化は普遍主義を以て其の特色とするものでありまして、遠き昔にあつては印度は佛教及び之を中心とする有らゆる文化を通じ全亞細亞に光被し、次いで回教勢力が印度に達したるときに於ても、普遍主義的傾向は依然存続する一方回教を通じて西亞細亞と新たに紐帶を結んだのであります。

併しながら、悲しむべきことには中世紀に入つて、印度は譯まれる普遍主義を發展せしめ、其の結果歐洲列國の印度侵入を招來し、遂には容易に印度征服を成し遂げしめることを茲に告白しなければならぬのであります。併し我々は斯かる悲哀、苦惱及び屈辱を通じて、今や眞の國際主義と譯まれるそれとを判別することを知得したのでありまして、今こそ我々は國家主義を無視せず、却て深く之に根ざしたる國際主義が眞の國際主義なることを識つたのであります。

我々は又歐洲其の他の地域に於て再三行はれたる國際新秩序建設の試みを多大の興味を以て研究し、斯かる試み及び其の終局の失敗から多く學ぶ所があつたのであります。従つて我々は斯かる企圖に付いては遙かに賢明となつて居るのでありまして、今や諸國家間の國際的結集の創建は私の所謂地域の聯盟、例へば大東亞共榮圏の如きものの建設より始めるときに於てのみ可能なりと確信するものであります。

議長閣下、私は茲に、大東亞共榮圏の建設は單に東亞民族のみならず、謂ふを得べくんば全亞細亞民族に全人類に取つて重大關心事たることを指摘致したのであります。

私はアフガニスタンよりチュニス、アルジェリア及びモロッコに跨がる地域を親しく識るものであり殊に右地域に

住む被抑壓國民と個人的接觸を有するものであります。實は印度は久しきに亙り東亞と西亞とを結ぶ橋梁であつたのであります。従つて西亞、即ちアフガニスタンよりアルジェリア及びモロッコに至る地域の諸國民が東亞の諸事案を深甚なる關心を以て注視して居ることは私の確信し得る所であります。殊に私は多年英國の帝國主義の専制、支配、抑壓の下に呻吟し來れる西亞及び阿弗利加の民族に付き謂はんとするものであります。尠くとも此等諸民族の將來の解放は日本及び其の與國が今次戰爭に勝利及び成功を克ち得るや否やに懸る所大なりと謂ひ得るのであります。印度より英米帝國主義を拂拭するに非ずんば、抑壓せられたる回教國民が英國の桎梏を脱し、喪はれたる自由を克復することは至難でありまして、恐らくは不可能とも謂ひ得るのであります。大東亞共榮圏の確立は汎亞細亞聯盟への道を拓くものでありまして、更に亞細亞人の爲の亞細亞、換言すれば全亞細亞共榮圏の確立が究極に於て世界聯盟への途、即ち諺府に於て見られたるが如き強奪者の聯盟に非ずして、眞の國家共同體への途を拓くものであることは私の微塵も疑はざる所であります。

議長閣下、併しながら總て斯かる新世界、新亞細亞、自由にして繁榮なる新大東亞の理想の達成は一に懸つて我々が現戰爭に勝利を占め得るや否やに在るといふことは忘れ得ない所でありまして、印度の關する限り我等の運命は今大戰爭に於ける日本及び其の與國の運命と不可分關係に在るのであります。萬一我が與國が没落することあらば、印度は尠くも尠くも百年間は自由を得る望みはないのであります。併しながら今次戰爭に當りては神龍我に在るのであります。而して斯かる國際的危機を生涯賭けて待望し來たれる我々印度民衆は此の好機を徹底的に利用し、最後のなる祖國解放を達成せんと決意して居るものなることを、茲に私は議長閣下並に閣下各位に確言する次第であります。印

度に取りましては英帝國主義に對する徹底的抗爭以外に途はないのであります。假令他國は英國との妥協を考慮し得ると致しましても尠くとも印度民衆に取つては斯かることは全く問題にならないのでありまして、即ち對英妥協は奴隸化との妥協を意味するものであり我々は斯かる奴隸化との妥協は決して之を行はざる決意を有するものであります。

故に我々は今後如何なることが起らうとも、又其の閉が如何に長期且困難を極めようとも、更に又開争に伴ふ苦惱及び犠牲が如何なるものなるにもせよ、我等の究極の勝利を確信し、茨刺の途を最後迄戦ひ抜く決意に燃ゆるものなることを、閣下各位に對し確約致したいのであります。併し私は我々の前途に横たはる事業の重大さを輕視するものでもなければ、敵の戦力を過小評價するものでもありません。私は五歳の幼時より英國人を熟知して居るものであります。彼等を斯く熟知し、印度に於ける敵の力と弱點とを識るが故に、私は我々が究極に於て勝利者たることを確信する次第であります。

併しながら我々は自由獲得の爲には當然其の代價を支拂はなければならぬのであります。印度に取りまして此の問題は閣下各位に對するとは全く趣を異にするのであります。閣下各位は總て敵が加へ來るべき攻撃を排除し、現に保有せらるゝものを確保し、各位自身の自由を保持せらるれば足るのであります。印度民衆は更に戦ひ、己が自由を戦ひ取らなければならぬのであります。故に茲に繰返し申述べれば我々は決して我々の前途に横たはる事業の重大さを輕視するものではないのであります。洵に、私が此の席上に在つて新東亞、新亞細亞、新世界を想像致して居ります間にも、胸中には總て我々が印度の國境或は平原に於て戦ふべき數々の戦國の場景が彷彿致すのであります。

す。

彼の強力にして假借なき敵との戦に赴くものの中、又我が印度國民軍將士の中の幾何が來るべき戦に生き残り得るやを豫想することは出來ないのであります。我等個々の生死、戦に勝ち残り印度の自由を目標し得るや否やは我々の意とする所ではないのでありまして、我々の重大關心事は印度が自由を獲得し、印度より英米帝國主義を驅除し、現に東亞全球に低迷する脅威を永久に交除すること、其のことに在るのであります。

議長閣下、私は多くの人々が英國及び其の與國の實力に關し誇張せられたる觀念を有して居ることを承知して居ります。先刻申述べました通り我々は英國人を熟知して居ります。我々は彼等の長所短所を熟知して居りますが故に、前途に横たはる困難深刻なるべき開争をも樂觀的氣持を以て待ち設けて居る次第であります。日本の如き無敵の友に支援せられ、閣下各位の寛大なる支援の御言葉を得たる以上、我々は我々の解放の日近きことを確信して戰場に赴かんとするものであります。

閣下各位、正義、主權、互恵及び相互援助の至高原則に基く新秩序創建の事業を始めらるゝことに依り各位は人類の考へ得る最も崇高なる事業を遂行せられつゝあるのでありまして、茲に私は各位の崇高なる御努力が成功の榮冠を克ち得、岡倉覺三及び孫逸仙の理想が實現に移されんことを祈ると共に、更に、本日午後此の歴史的會議に於て滿場一致を以て採擇せられたる大東亞共同宣言が東亞各國民の憲章であり、更には全世界の被抑壓國民の憲章たらんことを祈る次第であります。本大東亞共同宣言が本年以後自由の新憲章として世界史上に遺らんことを祈念して已まない次第であります。



議長閣下、閣下並に帝國政府が我々に對する誠心誠意を最も雄辯に證據立てられたる崇高なる態度に對し、茲に私は衷心より敬祝の意を表せんとするものであります。日本はビルマ國及びフィリピン國に對し獨立を許與し、人類全人口の約五分の一を代表する自由印度假政府を承認し、更に中華民國との間には最も榮譽ある條約を締結せられたのであります。而も尙最も重視すべきは、日本は有力にして假借なき敵國と生死の戦を行ひつゝある一方に於て、著々として再建の事業に邁進せられつゝあることであります。私は日本の新自由亞細亞創建の使命が十二分に完遂せられんことを祈る次第であります。終りに臨み、私の希望するが如く閣下並に閣下の優れたる同僚各位が此の使命を達成せられたる曉に於ては、各位は實に新日本の建設者、新東亞、更に新亞細亞の建設者としてのみならず、實に新世界の創造建設者として、永く其の名を青史に止めらるゝであらうことを私は確信するものであります。

日本國代表東條內閣總理大臣のアンダマン諸島及  
ニコバル諸島歸屬に關する發言

昭和十八年十一月六日

只今印度のことに付きました、ビルマ國代表閣下並に自由印度假政府首班閣下から御發言がありました。之に關聯致しまして此の際帝國代表と致しまして發言致したいと存じます。

印度四億の民衆の宿望であります印度の自由、獨立及び繁榮の獲得の爲に、自由印度假政府の下に愛國の印度人は起ち上り、其の印度を思ひ、亞細亞を思ふ熱情の切々たるものがありますことは、只今自由印度假政府首班閣下の

御演説に於きましても、之を明かにせられた所でありまして、印度の爲、將又大東亞の爲洵に力強き限りであります。

帝國は印度を采英の桎梏より解放し、其の宿望達成の爲に、有らゆる支援を送るの熱意を有し得ることは、累次の聲明に依つて明かなる所であります。自由印度假政府の基礎愈々確立し、同政府の下に驟起せる同志の初志貫徹の氣魄烈々として、結束頓に鞏固を加ふるの現狀に鑑みまして、茲に印度獨立の第一階梯として、帝國政府と致しまして、目下帝國軍に於て占領中の印度領でありますアンダマン諸島及びニコバル諸島を、近く自由印度假政府に歸屬せしむるの用意ある旨を本席上に於て闡明致す次第であります。

『萬邦をして各々其の所を得しめ兆民をして悉く其の堵に安んぜしむる』帝國肇國の大理想は、著々として具現せられて參つて居るのであります。此の機會に、帝國は愈々印度獨立の爲に全幅の協力を致す決意を更に鞏固に致します。と共に、印度の人々の一層の奮起を切望して已まないものであります。而して大東亞の各國は、帝國と共に其の志を同じうして印度獨立の爲に最善の力を致し、之が支援を送られつゝありますことは、昨日及び本日、本會議の席上に於きまして各國代表閣下より烈々たる御意見として之を承つたのであります。私は洵に力強く存じて居る次第であります。

而して私は此の上とも更に印度獨立の爲に強力なる御支援を賜はらんことを確信し、且切望致す次第であります。

日本國代表東條內閣總理大臣の閉會の挨拶



昭和十八年十一月六日

茲に議長及び帝國代表と致しまして閉會の御挨拶を申述べたいと思ひます。本會議に列席を賜りました各國代表閣下に於かれましては、本會議兩日に亙りまして、終始最も眞剣に、而も極めて友好的なる雰囲気の中に、議題の審議を遂げられまして、其の間それ／＼本國政府の高邁なる見解を率直に、力強く闡明せられたのであります。斯くの如きは東亞の歴史に、否人類の歴史に、始めて見る盛観でありまして、全世界の視聽が擧げて此の會議に集注せられましたこと亦當然と存する次第であります。是本會議の成果の第一點であります。

次に斯くの如き隨意なき意見交換の結果、關係各國の大東亞戰爭完遂の決意並に大東亞の建設、延いては世界平和の確立に對しまする理想と熱意とは、其の根本に於て完全に一致するものであることを、此の機會に相互に確認することを得まして、各國は益々相信じ、相和し、相倚り、相扶けて其の共同の理想及び共通の使命達成に向つて邁進することと期待せられるのであります。是本會議の成果の第二點であります。

第三に、而して特に重要な成果は、申すまでもなく、斯くの如き各國政府の完全なる見解の一致が齎しました所の大東亞共同宣言の採擇を見るに至つたことであります。本宣言こそは、大東亞各國の戰爭觀及び平和建設の理念、全世界に向つて簡潔強力に宣布する大憲章でありまして、世界の歴史の新たなる一章は茲に書き下されたのであります。

大東亞各國及び各國民と致しましては、更めて茲に明確なる共通の目標が得られましたことを欣び、愈々提携以て

目標の達成に奮勵するに至るべく、志向を同じうする全世界の諸國家諸民族は、大東亞各國の諸國家戰爭及び建設を通ずる努力に對し、尊敬と同情とを表し、大東亞建設の理念に對する理解を深めることとなるものと信じますし、敵の戰爭目的は本宣言の發出に依りまして、愈々晦冥となるは必定であります。

大東亞會議は、斯くの如くにして所期の目的を十二分に果しまして閉會を告げんとするのであります。此の成功に對しまして御同慶に堪へぬものがありますが、是偏へに本會議に列席せられたる關係國代表各閣下の御精勵の賜物でありますと共に、關係各國民の本會議に對しまする熱意の結晶でありまして、御推舉に依り議長席に著席致しました不肖と致しまして、茲に深甚なる敬意と、又深厚なる謝意とを申述べたいと存するのであります。

尙又主催國日本を代表致しまして一言申添へたいと存じます。時局柄特に國務極めて御多端であらせられる所の各閣下を御招き申上げましたるにも拘りませず、議場の設備萬端意に任せず、甚だ恐縮に存じて居る次第であります。不行届の點は何卒御海容の程を御願ひ致したいと存じます。

### 中華民國代表汪行政院長の謝辭(翻譯)

昭和十八年十一月六日

議長閣下並に各代表閣下、私は中華民國代表と致しまして、皆様の御許しを得て一言述べさせて戴きたいと思ひます。

本大東亞會議が、連日に亙り、東條總理大臣閣下の御指導と各國代表閣下並に各位の御協力とに依り、茲に滞りな

く終了し、絶大なる成果を挙げ得ましたことに對しまして、洵に慶賀に堪へない次第であります。

大東亞共同宣言は既に世界に公表せられました。此の宣言の特色とする所は東亞の道義精神を昭に明示し、歐米の功利主義的見解を一掃したことに在るのであります。之を詳細に申述べますれば、米英の飽くなき略奪と搾取とを傳統とする政策を根底より一掃し、新たに共存共榮に基く東亞の新天地を開拓し、東亞諸國をして各々其の獨立自主を確保し、相互に其の獨立自主を尊重せしめ、文化的には各々其の固有の特質を發揮せしむると共に緊密なる協力の下に融合と創造とに努めしむるに在り、又經濟的には互恵を以て基調と爲し、長短相補ひ、有無相通ずることを實行するに在るのであります。斯くして大東亞諸國は必ずや愈々、其の團結を固め、國民幸福を一層増進せしめ得ると共に、世界平和も亦必ずや是より發足するものと信ずる次第であります。即ち東亞の道義精神は、一視同仁にして毫も人種的偏見なく、世界の平和は、之に依り其の基礎と方途とを見出し得るのであります。米英の如き人種的偏見を懷くものには全く夢想だにし得ざる所なのであります。

私は微力ながら中華民國の代表として、此の振古未曾有の盛大なる會議に列するの光榮に浴し、感激措く能はざるものがあります。此の上は唯々國民を領導して先進國日本に倣ひ、且既に友好關係にあるタイ國、滿洲國並に新興のビルマ國、フィリピン國及び自由印度假政府と同心協力、大東亞共同宣言を履行し、以て大東亞共存共榮の建設を實現せしめんとするのみであります。又私は中國尙未だ統一を見ず、且中國にして一日早く統一せらるれば即ち一日早く全國の心力、物力を結集し得、以て大東亞の責任を分擔し得ることに思を致し、只管全能を盡して誘導に努めんとするものであります。

茲に謹んで誠意を披瀝し、東條議長閣下の御指導並に各代表閣下各位の御協力を感謝し、併せて大東亞戦争の必勝並に大東亞建設の成功を祝福するものであります。

### 大東亞結集國民大會に於ける東條内閣總理大臣演説

昭和十八年十一月七日

大戦争の眞只中なるにも拘らず、茲に、本日、中華民國、タイ國、滿洲國、フィリピン國、ビルマ國及自由印度假政府を夫々、代表せらるる各閣下方を御迎へして、大東亞結集國民大會を開催せらるるに至りましたことは、實に昭和の御代に於ける一大盛儀でありまして、諸君と共に洵に慶祝に堪へない次第であります。

大東亞各國代表は帝都に相集まり、大東亞會議を開催して、大東亞戦争の完遂と、大東亞新秩序建設の方針に關し、隔意なき協議を遂げ、完全なる意見の一致を見、愈々、協心戮力、以て重大なる共同使命を達成するの決意を新にし、昨日、大東亞共同宣言を中外に聲明致した次第であります。即ち、道義に基く共存共榮の秩序建設、互に自由獨立を尊重する大東亞の親和確立、各民族の創造性を伸暢する大東亞文化の昂揚、互恵の下緊密に提携する經濟發展、人種的差別を撤廢せる世界進運への貢獻、以上の五大綱領に基き、大東亞各國は、相提携して大東亞戦争を完遂し、新しき大東亞を建設し、以て世界平和の確立に寄與せんとの決意を、愈々、固く致し且之を昭に、世界に宣言したのであります。

既に御承知の如く、大東亞戦争勃發後に於きまして、大東亞の様相は全く一變致したのであります。皇軍一度進撃





するや、到る處に善謀勇戦、開戦後半疲ならずして、米英多年の東亞侵略勢力は忽ちにして驅逐掃蕩せられたのであります。而も、敵の總反抗を撃推しつつ、大東亞の新建設は着々として其の巨歩を進めて居るのであります。此の間日滿の兩國は、一徳一心、親睦愈々致きを加へ、日華兩國は、既往の一切の経緯より脱却しまして、東亞本然の姿に復歸する同盟國として、新に密接なる關係を結成するに至り、又、日タイの同盟關係は、更に新たな一步を進められたのであります。而も一方、英國多年の壓制より解放せられたるビルマ國は獨立し、又、米國の欺瞞と搾取より解放せられたるフィリピン共和國も、燦々として新生したのであります。更に又、米英の暴戾飽くなき抑壓より離脱して、四億民衆の宿望たる獨立と自由と繁榮とを獲得せんが爲、スバス・チャンドラ・ボース氏の率ゆる自由印度假政府の下に、憂國の印度人は盡く奮起したのであります。

斯くして大東亞戰爭勃發以來未だ二年ならずして、新大東亞の基礎は已に確立し、茲に、大東亞の各國代表が聲援の下に相會して、劃期的なる一大會議を開催し、輝かしき成果を収めまして、而も、本日茲に、本大會を見るに至つたのであります。洵に世界の盛儀、世紀の偉觀と稱すべきであると存するのであります。

今や大東亞に於きましては、内に在つては、各國相信じ相和し相扶け、外に對しては、全力を盡して米英の反攻を撃推して居るのであります。宿敵米英が、其の物質力恃んで所謂總反攻を繰り返すことは、固より吾の豫期せる所であります。然し乍ら、正義の向ふ所には敵はないのであります。大東亞戰爭は、正に、破邪顯正の聖戰であり、大義名分は炳乎として、我等大東亞諸國家の上に在るのであります。従つて究極の勝利の我等に歸すべきは、言を俟たない所であります。而も、我等は、緒戦の大戦果に依り、必勝の戰略的優位を獲得して居るのであります。更に又、

帝國に於きましては雄渾果敢なる作戦に呼應致しまして、國內態勢を擧げて決戦化し、以て急速に、戦力の劃期的増強に奮進して居るのであります。而して之に加ふるに、大東亞諸國は、愈々密接に帝國と策應し、其の協同せる全力を擧げて宿敵米英の反攻を撃推し、以て、大東亞永遠の安定を圖らんとするの決意、更に牢固たるものがあるのであります。我々が必勝の確信を益々倍加する所以は、實に、茲に在るのであります。

飄つて獨逸を始め、歐洲に於ける盟邦諸國は、益々國內の鞏固なる結束の下に、敢然として、米英撃滅の新たなる作戦に出でて居るのであります。

斯くして我々は必勝の信念の下、更に強靱なる闘志を以て、飽く迄も戦ひ抜かんとして居るのであります。本大會を通じ我々の此の烈々たる必勝の確信と不拔の闘志とを表明し得ますことは、諸君と共に私の洵に本懐とする所であり、

茲に、大東亞各國の代表を御迎へして行ひましたる此の意義ある本大會を慶祝すると共に、大東亞結集の決意と必勝の確信とを更めて披瀝致しまして、私の挨拶を終り度いと存じます。

### 大東亞會議並に大東亞共同宣言に關する重光外務大臣

#### 講演(要旨)

—於大阪商工程濟會主催懇談會—

昭和十八年十一月十五日

顧みますれば多年に互る敵英米のアジア支配に依り豊穰なるアジアの沃土は苛酷なる侵略に汚損せられ、勤勉なるアジアの民族は苛烈なる搾取に呻吟するを餘儀なくせられたのであります。

然るに 御稜威の下、皇軍が破竹の進撃を致し、疾風枯葉を捲く勢を以て敵軍を東亞より驅逐するに及びまして、大東亞戦争の進展は期せずしてアジアの覺醒を促し、アジア諸民族の胸裡には東亞再興の念願が烈々たる炬火となつて燃え立つに至つたのであります。アジアは既に長夜の眠より醒めました。曉鐘の徒に遅々たるを久しく嘆じてゐた吾人の耳朶には今やアジア颯起の進軍譜が強く且快く鳴り響きつつあります。全東亞は茲に奮起し、アジアを解放し、アジアを保衛し、アジアを建設せんとする不退轉の決意は凝つてアジア奪回の此の一戦にアジアの總力を結集せしむるに至りました。

英米積年の破格を一舉に破砕せんとして立つたアジアは、同心協力、以てアジアの歴史より過去の汚辱を拂拭し、更生の新しい一章を開かんと欲するものであります。

アジアは正にアジアに復歸しつつあるのであります。最早、英米の植民地ではないのであります。然るに英米は今猶過去の夢を追ひアジアを再び征服し、制禦し、抑壓せんと欲するのであります。現在東亞の周邊に於て皇軍が敵英米と日夜激闘を續けて居るのは何故でありますか。英米はアジアを其の植民地として永く隸屬せしめ、侵略搾取を擅にせんが爲めに、アジアをアジア人の手より奪取せんが爲めに、アジアを永遠に天涯の孤兒たらしめんが爲めに、アジアを撃滅せんが爲に、懸軍萬里瘴癘の蠻地に遠征軍を派遣して居るのであります。アジアはアジア人の郷土であります。アジア人がその郷土を死守するに何の不思議がありませんか。アジアにして

此の一戦を失ふが如きことあらば、吾人は永遠に吾人の郷土を奪はれ、郷土なき民族の境遇に轉落するのであります。故に今次戦争は英米の植民地獲得戦争に對するアジアの獨立戦争とも稱すべきものであります。米國の如きは嘗て七、八年餘に互つて惡戰苦闘を續けた結果、英國の羈絆より脱し、獨立の榮譽を贏ち得たのであります。米國がアジアを侵略するのは實に自らの歴史的生命を否認するものに他ならぬのであります。

最後の勝利は常に正義の上にあるのであります。即ち歴史を繕いて興亡の跡を尋ねれば、此の鐵則の永久に不變なることを知るのであります。

勝利の榮光我にある理由は茲に存するのであります。

然らば獨立を戦ひ取りつつあるアジアは如何にして建設せらるべきでありますか。建設の前提は安定であります。依て先づ英米の支配より東亞を解放し東亞が再び征服せられて、植民地の地位に轉落するが如きことなき様是を保衛し、東亞の安定を確立せねばなりません。次に建設は平等互惠の原則に基くべきであります。過般の大東亞會議に於て公表せられた大東亞共同宣言は自主獨立と平等互惠を基調とする東亞建設の五大綱領を世界に明示したものであります。謂はば大東亞憲章とも稱すべきものであります。此の故に東亞の人心は翕然として蒐まり、此の故に東亞諸國代表は欣然會議に馳せ参じ、此の故に共同宣言は全會一致満場の感激裡に採擇せられたのであります。

大東亞會議は史上稀に見る盛観でありまして、共同宣言を支持せる各國代表の熱辯は實に言々火を吐く概があつたのであります。其の發言は何れも肺肝を衝いて迸り出てたものであります。アジアの血の高鳴りであり、又アジアの聲の叫びであります。

茲にアジアは一心一體に團結し、日本なくしてアジアなく、アジアなくして日本なき事實は全アジアの強固なる信念となつたのであります。

勝利の榮光我にある理由は、茲にも存するのであります。

大東亞建設綱領の第五は萬邦と交誼を篤くし、人種的差別を撤廢し普く文化を交流し、進んで資源を開放し、以て世界の進運に貢獻することを期する旨を明にして居ります。これ實に東亞建設の大業に挺身しつつ同時に世界平和と人類進歩に貢獻せんことを期する吾人の抱負を天下に訴へたものでありまして、吾人の抱懐する世界的經綸を端的に表した次第であります。吾人は世界を通じて物心兩面の扉を廣く開放し、資源、交易、交通、文化、宗教、人種等あらゆる分野に於て有ゆる問題に付て世界と共に自由無差別の大道を歩み萬邦協和の理想の實現せられんことを期待するものであります。蓋し大道は無門であります。『元來東西なし、何所に南北あらん』といふのが吾人の年來堅持せる開放主義の思想であります。敵側に於きましては頻りに戦後經營等に付て宣傳的意見の發表をして居りますが、その多くは羊頭を掲げ狗肉を賣るものなることは、彼等の既往に於ける言行の矛盾を知るものに取つては説明を要せぬ所であると信じます。大東亞會議參列代表者が最も歡迎したのは此の第五項でありまして、之を以てしても、之等東亞的指導者の視野は東亞の一角に限局せられず廣く世界を包攝することを知るのであります。茲に至つて吾人の共同戰爭遂行に對する熱意は愈々昂揚せられたのであります。

勝利の榮光我にある理由は、茲にも亦存するのであります。

而も各國代表が心からなる共感共鳴を惜しまなかつたのは、斯の如き高邁なる理念を闡明せる共同宣言が帝國の建

國の理想に立脚する事實だつたのであります。之等代表は何れも眞の日本の姿に接した想ひを以て深き感銘を以て、之を迎へたのでありまして、列國代表にしてその心情を私に内話したのも少くなかつたのであります。大業を明にして人心を正す、是れ固より我が國是であります。發して萬葉の櫻となる我が國體の精華であります。而して是こそ萬世不易の世界の公道を歩む所以であります。古き東亞を復興し新しき東亞を創造する方圖であります。吾人にして百折不撓の信念を以て東亞の同志と相携へ勇往邁進致しまするならば、敵米英と雖も遂には眞理の前に屈伏致すべきこと火を賭るよりも明かなる次第であります。

勝利の榮光我にある理由は茲にも亦存するのであります。

苦樂を共にし休戚を等しくする東亞の十億の民衆は同生共死の信念に徹し、東亞建設の責務を分擔し、心血と熱汗とを以て、此の平和的使命を達成する爲め、夫々の立場に於て敢闘しつつあるのであります。大東亞共同宣言は即ち此の十億民衆の滴々たる鮮血を以て綴らるる新世界の指標たる金字塔であります。

偶々菊薫る好季に相會した東亞會議は菊を以て別稱せられたのであります。菊は千秋に郁々たる名花、昔の歌人香川景樹は「上に匂はん花なかりけり」と詠じて居りますが、又寒に堪ふるは唯東籬の菊ありと申す通り、此の名花は實に有終の美を象徴するものであります。大東亞會議の共同宣言が我が完勝に依つて有終の美を擧ぐべきこと必至なることに想到すれば、菊こそ眞に本會議の前途を下するに相應しい花と申すべきであります。

時恰もよし、無敵皇軍は南海に新たなる大戦果を擧げ、東亞十億の意氣は天を衝くものがあります。大東亞建設は此の赫々たる戦果と相俟つて着々と進歩を示すべきこと亦言を俟たぬ所であると信じます。

### 大東亞新聞大會午餐會に於ける東條内閣總理大臣挨拶

昭和十八年十一月十八日

此の度大東亞新聞大會の開催せらるるに當りまして、大東亞の各地域より、代表各位の御参集を見、本日は此の席に各位を御招待致し大東亞建設の爲邁進せんとする各位の烈々たる熱意と力強き氣魄に觸るることを得ましたことは私の洵に喜びとする所であります。

大東亞の各地より御出になりました各位には、長途の旅行にも拘りませず、又氣候の激變にも拘りませず、至極、御壯健に御見受けせられますことは、何よりのことと御喜び申し上げる次第であります。是から先、内地の各方面を御視察することになつて居ることと承知致して居りますが、どうか、益々御元氣にて、十分御視察せられ、尙、色々と御所望のことは、御遠慮なく、關係の向に御申越下され、以て御來朝の目的を、遺憾なく、達成せられる様切望する次第であります。

已に各位の御承知の如く大東亞戦争は、大東亞を米英の飽くなき野望より解放して、大東亞の爲の大東亞を建設し、而して世界の平和に寄與せんとする曠古の聖戦であります。米英が東亞を彼等の植民地たらしめんとする非望を破砕し、眞に道義に立脚し、萬邦共榮の樂を偕にする大東亞を確立せんとするに在るのであります。

開戦以來既に二ヶ年、現に南太平洋方面に於ては苛烈なる戦闘を行ひつつ、御稜威の下大戦果を擧げて居ります大戦争の眞只中にも拘はらず、此の大事業は、着々として具現せられ、大東亞の諸國家、諸民族は、他人行儀を抜き

にして、眞に兄弟相俱に楽しむ共同の理想に向つて歩、一步、力強き歩みを進めて居るのであります。

曩には帝都に於て大東亞會議が開催せられ、大東亞共同宣言を中外に聲明し、以て我等共同の崇高なる目標と、之が達成の牢固たる決意とを明かに致したのであります。之に引續き、今回更に大東亞新聞大會を開催せられ、大東亞戦争完遂、大東亞建設完成の決意を宣示し之が具現に向つて愈々、活潑なる活動を展開することを得ましたことは、洵に御同慶に堪へない次第であります。

惟ふに緒戦に於て惨敗致しました敵米英が武力戦に於て將た又宣傳謀略戦に於てあらゆる手段を盡して爲しつゝある必死の反抗は決して忽かせにすることは出来ない所のものであります。然し乍ら我々は飽く迄も堂々と必勝の確信を以て勝ち抜かんとするものであります。而して敵の武力反抗に對しては斷乎之を撃碎し好機を捕捉して、之に徹底的痛撃を加ふると共に、他面大東亞十億民族の結集を強化し進んで公明なる我々の戦争目的を中外に宣布徹底せしめて思想戦に於ても亦必勝せんとして居るのであります。之れ即ち、究極の勝利を獲得し、大東亞共同の目標に到達する要訣なのであります。今後各位の奮闘努力に俟つ所多大なるものある所以は、實に茲に存するのであります。此の秋に方り、各位が如何に處せらるべきやに付きましては、茲に、更めて贅言を要しない所でありまして、要は大東亞共同宣言に於て闡明せられたる、大東亞戦争完遂、道義に基く大東亞建設の根本義を大東亞諸民族に十分徹底滲透せしめ、全大東亞民族が之を腹の底から理解し共鳴して、共同の理想達成に向ひ、一人残らず燃え上る熱意を以て邁進する如く導き更に進んで之を廣く世界の人々に迄、普及納得せしむると云ふことに盡きると思ふのであります。私は各位が、必ずや此の大使命の達成に挺身せられんことを期待し且之を確信するものであります。茲に更めて、

今次の大会の御成功を祈ると共に、各位の御健康と今後の御奮闘とを祈りまして、簡單乍ら私の挨拶を終ります。

### 大東亞新聞大會に於ける天羽情報局總裁挨拶

昭和十八年十一月十七日

今回大東亞地域の新聞代表者の方々が多数参集せられ、茲に大東亞新聞大會が開催せられましたことは誠に慶賀に堪へぬところであります。東亞における新聞大會は皇紀二千六百年に當りその第一回を東京にて開き、翌年廣東にて第二回を舉行し、昨年滿洲建國十周年に當り第三回を新京にて開催したのでありますが、これは何れも日滿華三國代表のみの會合であり全東亞の代表を網羅し得なかつたので常に残念に思ふて居たのであります。

然るに今回日滿華はもとより遠く泰、フィリピン、ビルマ、香港、ボルネオ、マライ、ジャワ、セレベス、セラムスマトラより多数代表の御参集を得て、茲に曠古の大會が開かることは先日開催せられました大東亞會議と共に、大東亞興隆の象徴として洵に同慶に堪へない次第であります。又この機會に於て皆様に所懐の一端を述べ得ます事は私の最も欣快とするところであります。

我々は今大東亞を米英の侵略より防衛して大東亞の平和を確保し、大東亞を米英の桎梏より解放して本然の姿に還し、以て大東亞の復興興隆を圖らんが爲に戰つてゐるのでありますが、各位に於かれましても新聞に依る報道言論を以て、大東亞戰爭の完遂、大東亞の建設に日夜を煩たず懸命の御奮闘を續けて居られますことは私共の衷心より敬意を表するところであります。

惟ふに過去數百年の永きに互る英、米の東亞侵略に於て彼等の最も有力な武器となつてゐたものは實に謀略宣傳でありました。

即ち彼等は中世に於ける歐洲の暗黒時代に、光を東方に求めて活躍を東方に見出し、最初は海路を利用して、我々に交易を申出で、東亞文物の輸入を乞ひ、次いで秘かに豊庫東亞の搾取と、樂土東亞の蹂躪を謀み、表面は彼等の持ち前の巧言と令色とを以て東亞人を欺き、裏面にはあらゆる謀略と欺瞞とにより僅かの武力を以て、印度に、セイロンに、マライに、ビルマに、インドネシアに、フィリピンに、そして百年前には支那へと一歩一歩魔手を延ばし、僅僅二三百年にして、完全に東亞を侵略し、蹂躪し去つたのであります。

彼等はかくして壟斷した地域に對しては巧みに各種の謀略を以て東亞の各民族を互に分裂せしめ、反目せしめ、彼等の常套手段たる所謂「分割し支配する」政策に成功したのであります。而してこの手段の中で彼等が最も有効に利用したのは報道宣傳であつたのであります。即ち彼等はその獨占せる海底電線と、その上に延びる通信網とを以て、逸早く完全に東亞の報道通信権を獨占しました結果、東亞各國の事態はすべて英米の手を通じて他の國に、そして又世界に傳へられ、又東亞人の知る外國の報道、東亞の新聞に掲載される他國の記事はその總てが英國人或は米國人の色眼鏡を通じ來たものであります。特に東亞人は東亞に於ても相互に通信し報道を交換することも許されなかつたのであります。實に彼等は政治的に東亞を侵略し經濟的に東亞を搾取したるのみならず東亞を彼等の報道の植民地と化し去つたのであります。

しかも彼等はこの通信制覇を悪用し、只々自國の利益を本位としてあらゆる術策を弄し欺瞞を逞うしたのであります。



して、苟も自國に不利な報道は如何に東亞の真相を傳へ、東亞人の眞意を反映するものでありましてもこれを抑壓するか、又はこれを歪曲し、反對に自己の東亞に對する飽くなき貪婪と搾取と壓制の事實はこれを隠蔽し偽裝する爲に、巧みに粉飾と捏造に満ちたる謀略宣傳を爲したのであります。一例を擧ぐれば表面は機會均等、門戸開放、自由平等などの好辭を用ゐる實に其裏にかくれて、巧みに他民族を壓迫して來たのであります。

たゞ偶々近年無線通信の發達に依り、英米の通信制覇の一角は崩れましたが、尙彼等は所謂世界通信聯盟をつつて依然として東亞の通信權を獨占し、つい近年迄は東亞の新聞は彼等の供給する報道を取捨し又はこれを削除する事すらも許されず、かくして私共は同じ東亞に生存し乍ら互に東亞を見る目を蔽はれ、又彼等の謀略宣傳によつて互に驚くべき誤解を植えつけられ互に孤立せしめられたのであります。之は遠き昔の話ではなく實にこの數年前のことです。而して大東亞戰爭勃發直前に於きましては彼等は東亞を防衛せんとする日本を武力を用ひずして屈伏せしめんとし、一面經濟封鎖の手を以てすると同時に他面謀略宣傳を以て一大攻勢に出て、所謂A B C D包圍陣の名を用ひあらゆる威嚇と脅迫を加へ、又東京、上海、マニラ、シンガポール、バンコック、に公然と大規模な宣傳機關を設け必死の宣傳攻勢を展開した事は各位の御記憶に新たなところであります。

然るに日本帝國が一度決然起つて東亞の侵略者英米に對し戦ひを宣し帝國の陸海軍は精戰に於て忽ち彼等を撃滅しまするや、血を同じうする東亞民族は彼等多年の謀略宣傳にも拘らず、歡呼の聲を擧げて日本帝國に熱烈なる協力を爲し、敵國をして戦慄せしめたのであります。この我が戰爭の正しき目的と大東亞諸民族の美しき協力とその上に立つ大東亞の建設は、敵のあらゆる謀略宣傳を破棄する最も雄辯且つ強力なる事實でありまして、この事實を基礎とす

る我々の正しき報道、正しき言論は武力戰に於けると同様その巧妙を誇つて來た敵側宣傳を精戰に於て完全に壓倒したのであります。

かくて今や我々東亞人は彼等米英積年の勢力を通信報道の上に於ても完全に東亞より驅逐し、東亞の事實は東亞人の手に依つて報道せられ、東亞人の主張は直接東亞人に依つて、東亞に、そして世界に傳へられ、又外國の情報も東亞人の目を以て見たもの、又東亞人の手に依つて蒐められたものが新聞に掲載され、東亞の各民族に傳へられることとなり、茲に始めて完全な東亞人の手になる東亞の新聞を持つことが出來たのであります。而してその機構も、陣容も日に月に完備しつたことは洵に同慶に堪へないところであります。しかも我々の報道言論は彼等が常に虚構と欺瞞と謀略に終始するに反し、飽迄も正確と率直と、正義に立脚するものでありまして、この我々の正しき報道と言論こそ新しき秩序を生む原動力であることを信じて疑はないものであります。

敵は今や精戰の慘敗と共に、大東亞建設の進捗と大東亞諸民族の團結に大なる恐怖と脅威とを感じ、當初の長期戦必戦の宣傳を放擲して短期決戦を目指し必死の反抗に出て居りますが、報道宣傳に於ても捏造と暴言とが益々露骨となり焦慮の氣分は掩はむとして掩ひ得ないものがあります。彼等は常にその敗戦の事實を極力國民の前に糊塗し又不快なる事實を隠蔽し、例へば眞珠灣の敗戦の如き一年間もその真相を發表し得なかつたのであります。又近くはブーゲンヴィル島沖の惨敗も曖昧にせむとし大東亞會議についても何かと誤魔化さんと苦慮して居るのであります。元來彼等は戰爭の目的も明かでない又其同盟諸國も所謂同床異夢、何等共通の理想も共同の目的もないので或は戦後經營を論じ、或は平和維持論を爲して國民を幻惑し我陣營を擾亂せんとして居りますが、これ等小刀細

工も偉大なる大東亞の現實の前には一種の夢物語に過ぎないのでありまして却つて反對に彼等の陣營に存する不斷の相剋と摩擦乃至彼等の國內に於ける動搖と苦境はこれを極力隠蔽せんとするに拘らず、我々に手にとる如く傳はつて來るのであります。

これに對し我が大東亞に於きましては日滿、日泰の提携は愈々緊密となりつつありますと共に、日華間に新たな同盟條約が締結され、又ビルマ及フィリピン之光榮ある獨立を見、更にインドネシヤの政治參與、進んで自由印度假政府の樹立を見るに至つたのであり、しかも本月五日より大東亞會議が開催され、雄渾な大東亞宣言の宣布を見たのであります。即ち大東亞各國は相提携して米英の侵略を防衛し米英の桎梏より解放し以て大東亞の建設を完成し世界平和の確立に寄與せんことを誓ひ大東亞建設綱領五原則を明定し之を中外に宣布したのであります。綱領の第一は共存共榮の原則であります。大東亞に建設せらるべき新しき秩序は道義を基調とし、大東亞各國は權利義務の關係のみに律せらるるに非ずして之を超越し之より高き徳義と愛情とによつて結ばれるのであります。互に愛し合ひ、恵み合ひ、勵まし合ひ、その苦難とその幸福とを共にしつづつ力を合せて大東亞の安定を確保し相互に永遠の繁榮を圖らんとするのであります。綱領第二は獨立親和の原則であります。大東亞各國は兄弟としての交りなすものでありまして、相互の自由獨立を尊重し不當に之を侵すことなく互に助け合ひ睦み合つて茲に大東亞の親和を實現せんとするのであります。綱領第三は文化昂揚の原則であります。古代においては大東亞の文化は世界を光被したのであります。西歐物質文明東漸の爲その光を蔽はれ米英の侵略により大東亞民族の創造性は抑へられ大東亞は文化的にも米英の侵略下にあつたのであります。しかるに今や我々は各國の傳統を尊重しその固有の文化を愈々發揚すると共に我々の持つべき

れたる創造的性格を伸暢し以て大東亞固有の文化の復興と創造とその發展とを圖らんとするのであります。綱領第四は經濟繁榮の原則であります。大東亞には無限の資源を包蔵して居るのであります。この資源は今迄米英人の獨占に委ねられて居つたのであります。今や我々は之を大東亞民族の手に取戻し之が開發を圖り互に有無相通じ各國經濟の發展を圖り以て大東亞の繁榮を増進せんとするのであります。綱領第五は世界進運貢獻の原則であります。我々は東亞打つて一丸となると共に廣く世界萬邦との交誼を篤うし人種的差別や偏見を取去り、文化の交流を爲し我々の資源は廣く世界に開放し我々と協力するものあらば喜むで之を容れ世界各國によきものを與へ又世界各國のよきものは之を取入れ以て世界人類の進歩發展と福祉の増進に貢獻せんとするのであります。

この大東亞宣言こそは大東亞諸民族共同の理想を明示したものであります。これは敵米英の常にする架空の言辭にあらずして大東亞の現實に立脚するものであり、然も英米本位の侵略的排他的利己主義的なるものに對し、道義に基く大東亞建設の綱領であり、廣く世界全人類に示すべき至高の目標であり有史以來の大文字であると信ずるのであります。

而して志を同じうし、使命を同じうする大東亞民族にとりましてはこの大宣言の宣布は改めて明確にされた共同の目標に向つて邁進する決意を一層固めしめるものであり、又、この大宣言の徹底は大東亞戰爭の完遂と大東亞建設の完成を齎らすものと思ふのであります。

茲に於て今大東亞の新聞が結果して、この綱領に示されたる大東亞建設の理想を力強く中外に宣揚すると共に各地域にあつて人心を導き以てこの理想の實現を圖ることこそ、大東亞の新聞人に課せられた最も光榮ある使命であり、



この使命の遂行こそは東亞建設の爲のみならず延いて世界全人類の進運に貢献する所以であると信するのであります。

茲に重ねて各位の御奮闘に敬意を表しますと共に、今後の御活躍を祈つて私の挨拶を終りたいと存じます。

### 米國の對日挑戰二周年に際しての井口外務省調査官兼情報局情報官談

—於外人記者團會見—

昭和十八年十一月二十六日

帝國がその自存自衛上、萬止むを得ずして行つた米英にたいする宣戰は、一昨年十二月八日をもつて布告されたのであるが、實はアメリカによる公然たる對日挑戰狀はそれより十數日以前、恰も二年前の本日、ハル國務長官から吾が野村、來栖兩大使に手交されたのであつた。吾々は國民と共にこの嚴然たる事實を今日改めて確認銘記し度いと思ふ。

昭和十四年七月における日米通商航海條約の一方的廢棄通告以來、アメリカのとり來つた對日政策は、その優勢なる經濟資源をたのんで不法なる經濟封鎖への一途であつた。それは先づ、日本の對支政策にたいする威嚇に始まり、重慶政權にたいする援助となり、而も日本がその威迫に屈せぬと見るや、逐次石油をはじめ、鐵、屑鐵、非鐵金屬、機械等一聯の重要物資の對日供給を禁壓するに至り、遂に昭和十六年七月の對日資産凍結令に及んで、從來の國際關

係に替つて前例を見ざる暴舉に出でたのである。元來、平時における經濟封鎖なるものは、強國の專横を壇にせんとする敵性行爲であり、従つて充分なる戰爭原因と見做し得るものであるが、資産凍結令を頂點とするアメリカの對日經濟封鎖政策に至つては、それ自身、既に經濟手段をもつてする戰爭行爲と謂ひ得るのである。アメリカが、先づ武力によらず、經濟手段を用ひたのは、單にその軍備の完成すべき時機と、自己に有利なる手段とを睨み合せた政略上の歸結に過ぎないのであつて、その根本の動機をなす對日戰意に至つては今日疑ふ餘地はないのである。

然しながら、當時の帝國政府はかかるアメリカの不法行爲にもかかはらず、太平洋をして文字通り、平和と安定の領域たらしめることにより一つには自己の保全を維持し、二つには戰爭の世界的擴大を防止せんと欲したのであつた。開戦前半歳に餘る日米外交交渉なるものは、畢竟帝國のかかる善意と良心に出發する國際的努力を示すものにならぬ。而も日本側の一切の希望と努力とは、合衆國政府の徹底せる好戰的意志によつて水泡に歸せざるを得なかつた。即ち、一昨年の本日、日米第四次公式會談に於てアメリカ政府の提出した對案なるものはハル四原則と呼ばれるアメリカ側主張の敷衍、多邊的不可侵條約の締結日本軍隊の中國並に佛印よりの全面撤去、南京政府の否認、三國同盟の實質的放棄等を内容とするものであり、吾々が自己の祖國をもつてアメリカの支配下に服することを承認せざる限り到底妥協の餘地なきものであり、それは對等なる國際關係に於ける公然たる最後通牒を意味するものであつた。アメリカの匕首は實にこの時をもつて、吾々の胸間に擬せられたのであつた。アメリカ政府當局は、その軍事的敗北を國民の前に釋明するためと、世界に向つて自己の好戰政策を糊塗するために頻に眞珠灣に於ける日本軍の襲撃を歪曲して喧傳し來つたのであるが而も眞實の挑戰者がアメリカ政府自身であつた事實はかのロバーツ委員會がその





報告書に於て認めざるを得なかつたではないか。

現代の戦争がその本質に於て、國家總體戦たらしめることを得ないことは何よりも世界の現實がこれを立證する。従つて戦争の形態は決して、武力の面に限定されるものでなく、國家に對する脅威は屢々、經濟の面に於て痛切なものがあり、殊に開戦前の帝國の如く、その必需資源と資材において、充分ならざりし國家にあつては、經濟手段による壓迫は國家生命の根柢に致命傷を與へざるを得ないのである。即ちそれは戦争誘發の要因なるよりも、そのこと自體が既に戦争行爲と看做し得るものなのである。吾々が今日、開戦の原因を省察するに當つて、特に重視しなければならぬのはこの點であつて、世界の恒久的平和なるものは、經濟資源の一國若くは敵國による獨占と支配が存在し、それを他國にたいする干渉と壓迫の手段とする限り、決して實現せらるるものではない。戦前の米、英兩國政府の採つた政策はその意味において戦争製造の典型を示すものである。吾々がこの戦争において最後の勝利者たることを確信する所以は、一に吾々がこの試練と犠牲を通して、かゝる戦争を必至ならしめる如き不合理なる状態を根本的に匡正し、相互に侵略と獨占を許さざる共存共榮の國際新秩序を先づ東亞に實現し、以て眞の世界の平和と進運に貢獻せんことを期するが故である。

### 滿洲國農地造成計畫に對する本邦側の協力援助に關する 情報局發表

5884

昭和十八年十一月二十二日

5885

滿洲國に於ては現情勢下に於ける食糧基地としての使命の愈々加重せられたるに鑑み進んで緊急農地造成計畫案を提議せられたのであるが帝國政府に於ては欣然之を受入れ本日閣議に於て滿洲國農地造成計畫に對する本邦の協力援助に關する件決定を見たのである、即ち之に依り本計畫實施に要する資材、資金、技術等は本邦側より全面的に協力援助することになり以て眞に日滿一體決戦下喫緊の要件たる食糧自給態勢確立強化の爲相共に邁進することとなつた次第である。

### 日獨醫事協力緊密化に關する情報局發表

昭和十八年十一月二十四日

豫て帝國外務省と在京獨逸大使館との間に日獨間の醫事分野に於ける協力を一層緊密ならしむる方式に關し昭和十三年調印の日獨文化協定の規定に基き協議中なりし處今般兩國官憲間に於て同協定の主旨に違ひ完全なる意見の一致を見るに至れり。

### 日獨間醫事協力緊密化に關する外務省當局談

昭和十八年十一月二十五日

昭和十三年十一月二十五日調印の日獨文化協定は茲に其の五周年を迎ふるに至れり、此の間に於て本協定は兩國の政治的、經濟的及軍事的協力と並び文化を通じて兩國國民の相互的理解を増進し兩國協力關係の緊密化に多大の貢獻

を爲したり、即ち各般の分野を通じての兩國文化の交流は益々深きを加へ曩には交換放送に付兩國放送協會間に協定の成立を見、本年に入りては日獨圖書の翻譯に付兩國當該官憲間に意見の一致するあり茲に本協定締結五周年を迎ふるに當りては更に日獨醫事の分野に於ける相互の協力に關し一步を進め兩國文化提携の愈々鞏固なるを見る  
今や大東亞文化興隆の盛運に際會するに當り成果多き日獨文化協定締結の五周年を迎ふることを欣快とするものなり

### 聯合艦隊司令長官に對し賜はりたる勅語に關する 大本營發表

昭和十八年十一月十一日

大元帥陛下には本日海軍募集局長を召させられ聯合艦隊司令長官に對し左の勅語を賜りたり

勅語

聯合艦隊航空部隊ハ今次「ソロモン」海域ニ於テ勇戰奮闘大ニ敵艦隊ヲ撃破セリ

朕深ク之ヲ嘉ス

惟フニ同方面ノ戦局ハ益々多端ヲ加フ汝等愈奮勵努力以テ朕カ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

### ニューギニア島方面及び緬支國境方面に於ける戦況竝に 戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月二日

一、ニューギニア島に於けるその後の戦況次の如し

(イ) フインシハーヘン附近の我部隊は果敢なる攻撃に依り敵に甚大なる損害を與へたる後、更に態勢を整へ爾後の攻撃を準備中なり、十月十六日以降同二十九日迄に判明せる主要なる戦果次の如し

敵に與へたる損害

遺棄死體 二、六四八

鹵獲品

火砲六門、銃器約六五〇挺、各種彈藥約一四萬發

撃破せるもの

火砲十門、彈藥集積所二箇所、糧秣集積所三箇所

我方の損害

戦死 四二二名

(ロ) マダン南方地區の我部隊は逐次増強中の敵に對し果敢なる攻撃を續行中にして九月下旬以降現在迄に敵に與へたる損害一千名を下らず

二、緬支國境方面の作戦は順調に進捗し該方面の我部隊は怒江以西の重慶軍の退路を完全に遮斷し敵を隨所に捕捉撃滅するとともに次期作戦を準備中にして十月上旬以降同二十七日迄に收めたる主要なる戦果次の如し

遺棄死體 一、〇二〇

俘虜 一一〇

鹵獲彈藥 約一三萬發

### 帝國海軍航空部隊のモノ島上陸點附近敵艦船攻撃戰果に關する大本營發表

昭和十八年十一月五日

既報モノ島上陸點附近の敵艦船に對する攻撃に於て帝國海軍航空部隊の擧げたる戰果に左記を追加す

イ、敵に與へたる損害

- (一) 轟 沈 巡洋艦 一隻(自爆機體の體當りに依る)
- 大型輸送船 一隻
- (二) 擊 沈 小型輸送船 一隻
- 大型巡洋艦 一隻
- (三) 擊 破 小型輸送船 一隻
- 小型輸送船 一隻

ロ、我方の損害

未歸還 三機

### ブーゲンビル島沖海戰戰果に關する大本營發表

昭和十八年十一月五日

一、モノ島上陸以來敵の動靜を監視中の處、十月三十一日有力なる敵輸送船團數群に分れ、ニューチョーア島南方海面を北上中なるを發見し所在帝國海軍航空部隊並に海上部隊は直に出撃之を邀撃して左の戰果を得たり

(二) 海軍航空部隊は十月三十一日夜より十一月二日朝に掛けモノ島東方海面及ブーゲンビル島西方海面に於て一部上空直衛を配せる敵輸送船團を攻撃せり

(イ) 敵に與へたる損害

- 轟 沈 大型輸送船 二隻
- 擊 沈 巡洋艦 一隻
- 驅逐艦 一隻
- 上陸用舟艇 四〇隻以上
- 擊 墜 一〇機
- 擊 破 大型巡洋艦 一隻
- 巡洋艦(若くは驅逐艦) 一隻
- 大型輸送船 二隻
- 小型舟艇 多數

(ロ) 我方の損害

自爆、未歸還

合計一五機

(二) 海上部隊は十一月一日夜ブーゲンビル島、ガゼン灣外に於て有力なる敵巡洋艦、駆逐艦部隊と交戦せり

(イ) 敵に與へたる損害

轟 沈

大型巡洋艦 一隻

擊 沈

大型驅逐艦 二隻

擊 破

大型巡洋艦 二隻

擊 破

巡洋艦(若くは大型驅逐艦) 一隻

擊 破

大型巡洋艦 一乃至二隻

驅逐艦 二隻

驅逐艦 二隻

其他

驅逐艦 一隻同志討にて炎上せるを認む

(ロ) 我方の損害

驅逐艦 一隻 沈没

巡洋艦 一隻 小破

(註) 本海戦をブーゲンビル島沖海戦と呼稱す

二、敵の一部は十一月一日早朝ブーゲンビル島トロキナ岬附近、同二日朝ハモン南側地區に上陸せり、同地陸軍部隊は之を邀撃激戦中なり

海軍航空部隊並に海上部隊は地上部隊と協力し敵上陸部隊の殲滅、後續部隊の阻止撃攘に努めつつあり  
三、敵は右上陸と相俟ち有力なる航空部隊を以てニューブリテン島及ブーゲンビル島の我が基地に對し攻撃を企圖せ  
るも、海軍航空部隊、海上部隊並に地上部隊は之を邀撃し

(一) ラバウルに於ては十一月二日敵約二百數十機來襲せるも、海軍航空部隊、海上部隊及地上部隊は其の大部二  
百一機(内不確實二七機)を撃墜せり

海軍航空部隊による撃墜

一二七機(内不確實二六機)

海上部隊による撃墜

五一機(内不確實一機)

地上部隊による撃墜

二三機

本戦團に於て我方自爆、未歸還、

合計 一五機なり

(二) ブカに於ては十一月二日敵約一三五機來襲せるも地上部隊は其の三十九機撃墜せり

### ブーゲンビル島沖航空戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月六日



帝國海軍航空部隊は十一月五日夕刻ブーゲンビル島南方海面に於て敵機動部隊を發見し之を攻撃して左の戦果を得たり

轟	沈	大型航空母艦	一隻
擊	沈	中型航空母艦	一隻
		大型巡洋艦	二隻

巡洋艦(若くは大型驅逐艦) 二隻

我方の損害

未歸還 三機

(註) 本航空戦をブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

### 洞庭湖西方第六戦區重慶軍に對する進攻作戦に關する

#### 大本營發表(一)

昭和十八年十一月六日

中支那方面の我部隊は洞庭湖西方第六戦區の重慶軍に對し十一月二日進攻作戦を開始し隨所に敵陣地を突破進撃中なり

#### ニューギニア島方面戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月八日

一、ニューギニア島方面の我陸軍航空部隊は十一月六、七の兩日マザブ、マラワサ等の飛行場を攻撃し敵機約五十機を爆碎又は炎上せしむると共に空中戦に依り十八機(内不確實二機)を撃墜せり、我方の損害自爆及未歸還七機なり

二、ニューギニア島フィンシハーヘン附近の我部隊は十月三十日以降十一月三日迄に數次に互る敵の出撃を撃碎し之に四百名以上の損害を與へたり

#### 第二次ブーゲンビル島沖航空戦戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月九日

帝國海軍航空部隊は十一月八日朝以來ブーゲンビル島南方海面に於て敵輸送船團竝に護衛艦隊を猛攻中にして只今の處判明せる戦果左の如し、

戰	沈	艦	三隻
巡	洋	艦	二隻 (轟沈)
驅	逐	艦	三隻
輸	送	船	四隻

撃破  
 戦艦 一隻 (炎上大破)  
 大型巡洋艦 三隻以上 (大破)  
 巡洋艦(若くは大型駆逐艦) 三隻 (炎上大破)  
 大型輸送船 一隻 (炎上大破)  
 撃墜 一二機以上

我方の損害

自爆未帰還

合計一五機

(註) 本航空戦を第二次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す。

第二次ブーゲンビル島沖航空戦戦果追加に關する  
 大本營發表表

昭和十八年十一月十日

第二次ブーゲンビル島沖航空戦の戦果に左記を追加す  
 撃沈 戦艦 一隻 (既報撃破戦艦一隻(炎上大破)とありしもの)  
 撃破 大型巡洋艦 三隻 (大破)

撃墜 巡洋艦(若くは大型駆逐艦) 一隻  
 三機  
 我方の損害に自爆未帰還五機を加ふ

第三次ブーゲンビル島沖航空戦戦果に關する大本營發表表

昭和十八年十一月十三日

一、帝國海軍航空部隊は十一日晝夜間に互り悪天候を冒しブーゲンビル島南方海面に於て敵機動部隊を捕捉攻撃し左の戦果を得たり

撃沈 巡洋艦(若くは大型駆逐艦) 一隻 (轟沈)  
 撃破 戦艦 一隻 (中破)  
 大型航空母艦 二隻 (小破)  
 大型巡洋艦 一隻 (大破炎上)  
 巡洋艦(若くは大型駆逐艦) 三隻 (大破炎上)  
 駆逐艦 一隻 (大破炎上)

撃 墜

二機

我方の損害 自爆未歸還

合計三〇機

(註) 本航空戦を第三次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

二、帝國海軍航空部隊は海上部隊は十一日ラバウルに來襲せる敵約二百機を遂撃し其の七十一機を撃墜せり  
本戦闘に於て我方損害驅逐艦一隻沈没、巡洋艦一隻小破、未歸還一〇機なり

ニューギニア島方面並に緬甸方面に於ける敵機邀撃戦果に

關する大本營發表

昭和十八年十一月十四日

一、ニューギニア島方面我陸軍航空部隊は十一月六日より同九日に至る間六回に互りラム河及マーカム河流域のマザ  
ブ、テンビ等の敵飛行場を攻撃すると共に地上部隊と協力敵機を遂撃し次の戦果を收めたり(十一月八日發表の戦果  
を含む)

撃 墜

五九機(内不確實一七機)

地上撃破及炎上

一一〇機以上

我方の損害 自爆及未歸還

一五機

二、緬甸方面我陸軍航空部隊は十一月九日及同十一日東部印度のインパール、パレル及シルチア敵飛行場を攻撃し次の

戦果を收めたり

地上撃破及炎上

三三機以上

燃料集積所炎上

三箇所

我方損害無し

第四次ブーゲンビル島沖航空戦戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月十四日

帝國海軍航空部隊は十一月十三日未明ブーゲンビル島南方海面に於て敵機動部隊を捕捉攻撃し左の戦果を得たり

撃 沈

大型巡洋艦

一隻(轟沈)

巡洋艦

一隻(轟沈)

驅逐艦

一隻

撃 破

戰艦

一隻(大破)

中型航空母艦

一隻(大破)

我方の損害

未歸還二機

(註) 本航空戦を第四次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

### 第五次ブーゲンビル島沖航空戦戦果に関する大本營發表

昭和十八年十一月十七日

帝國海軍航空部隊は十一月十七日未明ブーゲンビル島南方海面に於て敵機動部隊を捕捉攻撃し左の戦果を得たり

轟 沈

大型航空母艦 一隻

撃 沈

中型航空母艦 二隻

巡洋艦 三隻

大型軍艦(艦種未詳) 一隻

未歸還五機

(註) 本航空戦を第五次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

トロキナ沖海面に於ける敵輸送船團強襲戦果に関する

### 大本營發表

昭和十八年十一月十八日

帝國海軍航空部隊は十一月十七日早朝トロキナ沖海面に於て上空哨戒中の敵機約三十機の抵抗を排除しつつ敵輸送船團を強襲し歸途約百機の敵機と交戦せり、本戦團に於て

一、敵に與へたる損害

撃 沈

輸送船(中型及び小型) 三隻

撃 破

輸送船(小型) 一隻

驅逐艦 一隻(炎上)

撃 墜

右の他揚陸點附近一ヶ所炎上(大火災)

二、我方の損害

自爆未歸還

合計十機

洞庭湖西方第六戦區重慶軍に對する進攻作戰に関する

### 大本營發表(二)





昭和十八年十一月十九日  
十一月二日開始せられたる洞庭湖西方の重慶軍第六戦區に對する進攻作戦はその後順調に進捗中にして十一月十七日迄に判明せる主要なる戦果次の如し

敵に與へたる損害	
遺棄死體	五、六七八
俘虜	一、九五二
鹵獲火砲	二二門
同 銃擧器	一、〇三三挺
我方の損害	
戦死	二二一名

### マキン島及びタラワ島に對する敵部隊上陸に關する 大本營發表

昭和十八年十一月二十二日

航空母艦並に戦艦を含む敵の有力なる部隊は、十九日朝來艦載機及艦砲を以てマキン島及タラワ島を反覆砲撃し、其の一部兵力は二十一日朝兩島に上陸し、目下激戦中なり

### ギルバート諸島方面戦況並に戦果に關する大本營發表

昭和十八年十一月二十三日

ギルバート諸島方面今尙激戦中にして特にタラワ島に於ては上陸點附近を中心とし激闘行はれつつあり十九日以降海軍航空部隊並に地上部隊に依り得たる戦果左の如し

一、海軍航空部隊によるもの	
撃沈	一隻(轟沈)
撃破	一隻(轟沈)
驅逐艦	一隻(轟沈)
大型航空母艦	二隻(大破、内一隻は沈没の算大なり)
中型航空母艦	一隻(大破沈没の算大なり)
戦艦(若くは巡洋艦)	一隻(大破炎上)
輸送船	一隻(大破炎上)
撃墜	三十六機(内不確實三機)
二、地上部隊によるもの	



撃 墜

八十九機(内不確實二十二機)

我方の損害

自爆未歸還

合計 十五機

### ギルバート諸島沖航空戦に関する大本營發表

昭和十八年十一月二十九日

ギルバート諸島方面其の後の戦況左の如し

一、帝國潜水艦は二十五日未明マキン島西方海面に於て敵航空母艦一隻を攻撃し之を大破(沈没概ね確實)せしめたり

二、帝國海軍航空部隊は二十六日夕刻ギルバート諸島西方海面に於て敵機動部隊を攻撃し航空母艦一隻を撃沈(内一隻轟沈)せり

我方の損害 未歸還一機なり

(註)本航空戦を第二次ギルバート諸島沖航空戦と呼稱す

三、帝國海軍航空部隊は二十七日夕刻ギルバート諸島西方海面に於て更に來襲し來れる敵機動部隊を攻撃し左の戦果を得たり

撃 沈

航空母艦

二隻(内大型航空母艦一隻轟沈)

巡 洋 艦 二隻

撃 破

巡洋艦(若くは戦艦) 一隻(大破炎上)

我方の損害 未歸還五機なり

(註) 本航空戦を第三次ギルバート諸島沖航空戦と呼稱す

四、タラワ島及マキン島の戦況に就ては同島守備部隊との連絡絶え状況詳かならざるもタラワ島に於ては尙激戦續行中のももの如く海軍航空部隊は同島敵陣地を連続爆撃中なり

(附記) 既報二十二日のギルバート諸島西方海面に於ける航空戦を第一次ギルバート諸島沖航空戦と呼稱す

### マキン島環礁内敵輸送船團攻撃戦果に関する大本營發表

昭和十八年十一月三十日

帝國海軍航空部隊は十一月二十八日夕刻マキン島環礁内に在泊中の敵輸送船團を攻撃し左の戦果を得たり

撃 沈

大型巡洋艦

一隻(轟沈)

撃 破

大型巡洋艦

一隻(大破炎上)

輸 送 船

一隻(大破炎上)

我方損害なし

大東亞諸國家諸民族の總結集成

大東亞戰爭勃發以來二年に滿たずして、世界歴史は大轉換を具現した。即ち、ビルマ、フィリピンは獨立を獲得し、タイは失地を恢復し、中華民國は自主獨立の素志を達成し、そして、日、滿、華、タイ、フィリピン、ビルマの六獨立國は、十一月五日及び六日の兩日、東京に相會し、自由インド假政府代表者の陪席裡に、大東亞民族久遠の聖典ともいふべき雄渾な大東亞共同宣言を世界に宣布した。

しかも、この大東亞共同宣言を貫く根本理念は、八紘爲宇の我が聲國の大精神に淵源するものに外ならず、「道義に基く共存共榮の秩序」を大東亞の天地に建設し、

進んでは、「萬邦共榮の樂」を偕にすべき世界新秩序を確立せんとする公明正大な我が理想は、いまこゝに大東亞十億民衆の代表者の共鳴賛同を得て、大東亞諸國家共同の憲章として廣く世界に宣明されたのである。かくして、大東亞十億の民衆は、共同の理想、共同の運命の下に固く相結ばれたのであるが、大東亞諸民族の解放自衛を全うするためには、米英を擊滅し、その桎梏を打破することが必須の前提條件たらざるを得ない。これ即ち大東亞共同宣言の前文において、大東亞六獨立國が大東亞戰爭完遂の誓約を新にした所以と解される。しかも、大東亞共同宣言は、更に進んで、「世界平

和確立の根本要義」を明かにし、以て世界の進運に貢獻すべき新しい國際政治の經綸を中外に宣揚した點において、世界史上永遠に記録されるべき一大文字たるを失はず、惹いては、この雄渾な宣言を採擇した大東亞會議こそは、大東亞諸民族空前の一大盛儀であつたといひ得るのである。

今次大東亞會議が開催されるに至つた経緯は、共同の敵米英擊滅の決戦遂行と大東亞新秩序建設の進捗と共に伴つて、各國間に盛り上つた發意に基くものであるが、各國側の要望が漸次澎湃として昂まり、具體化の機運が急速に醸成されるとともに、帝國は、十月中旬大東亞會議帝國側準備委員會を構成し、青木大東亞大臣を委員長に、星野内閣書記官長、松本外務次官、山本大東亞次官を副委員長に任命、更に山本大東亞次官を長とする事務局を置いて、會計、總務、營繕、議場、接伴の各部を設

け、萬端の準備に當つたのである。次いで、大東亞會議に關する全般的事務處理のため、會議陪席者中から各國一名乃至二名を以て大東亞會議事務局が、設置されることとなり、その構成は左の如く大東亞會議事務局より發表された。

大東亞會議事務局構成(大東亞會議事務局發表表)

- 日本國
  - 大東亞省總務局長 竹内新 平閣下
  - 外務省政務局長 上村伸 一閣下
- 中華民國
  - 國民政府行政院秘書長 周 隆 庶閣下
  - 國民政府行政院副秘書長 薛 達 元閣下
- タイ國
  - 外務省東方政務局長 ヴィースト・アング ユーク閣下

外務省一等書記官

ウオンサスワット・テワクン殿下

滿洲國

外交部政務司長

大江 晃閣下

外交部理事官

鄭 賡 鼓氏

フィリピン國

秘書

ホセ・ペ・ラウレル氏

ビルマ國

外務次官

ウー・シュエ・ボウ閣下

この事務局は、國際的構成により共同責任を以て會議關係事務を處理するもので、國際會議においては從來とも必ずその構成をみたものであるが、大東亞においては最初のことであつた。

他方、大東亞會議各國代表及び陪席者の氏名は、左の如く情報局から發表された。

大東亞會議開催に関する情報局發表

大東亞各國は、既に善隣外交、互助協力の強固なる基

礎に立ちて共同の目的達成に邁進しつつある處、更に之

等各國代表者間に於て、大東亞戰爭完遂と大東亞建設の

方針に關し隔意なき協議を遂ぐる爲、今般大東亞各國、

即ち帝國、中華民國、タイ國、滿洲國、フィリピン國及

びビルマ國の代表者相會し、東京において大東亞會議を

開催することとなり、尙同會議には偶々滯京中の自由

印度假政府の代表者も陪席する豫定なり、各國代表及び

列席者並に陪席者氏名左の如し

日本國代表

内閣總理大臣

東條 英 機閣下

海軍大臣

嶋田 繁 太郎閣下

大東亞大臣

青木 一 男閣下

外務大臣

重 光 葵閣下

内閣書記官長

星 野 直 樹閣下

情報局總裁

天 羽 英 二閣下

外務次官

松 本 俊 一閣下

外務次官

シツト・シツトサヤムカシ閣下

外務省東方政務局長

ウイスノット・アング

外務省一等書記官

ウオンサスワット・テワクン殿下

陸軍少佐

アーツ・チャラーン

滿洲國代表

國務總理大臣

張 景 惠閣下

外交部大臣

李 紹 庚閣下

特命全權大使

王 允 卿閣下

外交部政務司長

大 江 晃閣下

總務廳秘書官

松 本 益 雄閣下

總務廳秘書官

高 丕 璵氏

外交部理事官

鄭 賡 鼓氏

フィリピン國代表

大統領

ホセ・ペ・ラウレル閣下

外務大臣

クラロ・エメ・レクト閣下

大東亞次官

山本 熊 一閣下

外務省政務局長

上村 伸 一閣下

陸軍省軍務局長

佐藤 賢 了閣下

海軍省軍務局長

岡 敬 純閣下

大東亞省總務局長

竹 内 新 平閣下

中華民國代表

國民政府行政院院長

汪 精 衛閣下

國民政府行政院副院長

周 佛 海閣下

國民政府外交部部長

稽 民 誼閣下

國民政府軍事委員會委員

陳 昌 祖閣下

國民政府行政院秘書長

周 隆 庠閣下

國民政府行政院副秘書長

薛 逢 元閣下

タイ國代表

内閣總理大臣代理

ワンワイタヤコン殿下

無任所大臣、外務代理大臣兼内閣書記官長、陸軍少將

チャイ・プラテイバセーン閣下



國會議員  
 大統領秘書  
 ビルマ國代表

内閣總理大臣  
 協力大臣  
 特命全權大使  
 外務次官  
 内閣總理大臣秘書  
 内閣總理大臣  
 秘書陸軍中佐

自由印度假政府首班  
 最高司令部參謀長  
 兼無任所閣僚中佐  
 無任所閣僚兼書記官長  
 最高司令部附中佐

尙、タイ國代表ワンワイチャコン殿下は同國ビー・ビフ

ン・ソククラム内閣總理大臣現在の健康状態が、東京への  
 長途旅行を許さないもので、その代理として参列したもの  
 であり、右大東亞各國諸代表並びに陪席者がいづれも大  
 東亞建設を身を以て指導してゐる當代指折りの大立物で  
 あることはいふまでもないであらう。

そして、右各國代表は、十一月一日、中華民國代表、  
 滿洲國代表、二日、フィリピン國代表、三日、タイ國代  
 表、ビルマ國代表と相次いで大東亞各國より羽田空港  
 に飛來し、夫々東京に於ける家庭的宿舎に入つた。そし  
 て、陪席者ポース首班はこれに先立つて十月三十一日す  
 でに入京してゐた。

明治節の十一月三日、大會出席各國首腦者の初顔合せ  
 「御茶の會」が首相官邸に於て行はれた。

天皇陛下には大東亞會議出席の五箇國代表を宮中に召さ  
 せられ、謁見仰付けられ、更に午餐の御宴を御催し遊ば

された。

大東亞會議は十一月五日午前十時開始された。

會議の構成は大東亞共榮圈各國の公式代表並びに列席  
 者及び陪席者のみに限定され、各國代表より大東亞戦争  
 完遂、大東亞共榮圈建設並に大東亞結果態勢確立に關し  
 相共に隔意なき意見を開陳することとなつた。

そして、會議劈頭、タイ國代表の發議により、帝國代  
 表東條首相が滿場一致の推薦を以て議長席に就き、開會  
 を宣し、直ちに議事に入り、イロハ順により先づ帝國代  
 表東條首相立つて主權國としての挨拶を述べ、併せて帝  
 國政府の所見を開陳した。

次いで中華民國代表、タイ國代表が起ち、午後には更  
 に滿洲國代表、フィリピン國代表、ビルマ國代表等が  
 夫々一般的所見を開陳し、午後四時五十分終了した。  
 この會議の様子は洵に和氣藹々としたもので、米英の

魔手の一掃された後の大東亞共榮圈の一大家族の如き  
 合ふりを如實に示した觀があつたが、他面、各代表がそ  
 の意見を吐露するや、その眞摯な内容、熱烈な語調は  
 屢々滿堂をして肅然襟を正さしめたのであつた。

この各國代表の開陳した一般的所見その他の主要發言  
 は本號巻頭に一括掲載してあるので、詳細は夫々その記  
 事について見られることを希望する。しかし、いまこ  
 にその要旨を抄記すれば、先づ日本國代表東條内閣總理  
 大臣は主權國としての挨拶をのべたのち、帝國政府の所  
 見を開陳、近來米英が次第に逞しく來つた世界制覇の野  
 望を指摘し、この野望こそ人類の禍根であると斷じ、そ  
 して、米英の東亞制壓の陰謀、對日壓迫の極まる處、大  
 東亞戦争は勃發の止むなきに至つたことを指示し、大東  
 亞戦争は大東亞全民族にとつてその興廢の岐れる一大決  
 戦であるとともに、大東亞戦争の完遂こそ諸民族共存共  
 榮の新秩序を建設確立する所以であることを述べ、進ん

で大東亞の建設に關する帝國政府の基本的見解を述べ、インド獨立達成に全面的協力を致すべき決意を聲明し、盟邦ドイツの歐洲新秩序建設に搖ぎなき信頼の意を表したのち、大東亞諸國と協力して大東亞共榮圈を建設せんとする帝國の大精神を宣揚した。

次いで中華民國代表汪行政院院長は、その一般的所見において、帝國の崇高な抱負と光輝ある實績に對する理解と敬意とを表明し、更に國民政府は斯かる最も重要な時期に於て、第一思想の肅正、第二治安の保障、第三生産の増加の工作を以て更に努力を重ね、一面重慶の歸來を促進し、統一を完成すると共に、一面政治力の及び得る地方に於て模範地區を樹立せんとするものであることをのべ、以て同甘共苦、同生共死の決心に基き、東亞同胞と東亞同志とを結成し、共同の敵米英を制禦し、東亞の建設を擔當せんとする決意を吐露し、進んで中國の大東亞戰爭、大東亞建設に於て冀求するものすべて、

東亞各國は各々其の國を愛し、互に其の隣國を愛し、共に東亞を愛すべきであり、中國の求むるところは、中華の復興、東亞の保衛に在り、中國は自主獨立を獲得して始めて東亞保衛の責任を分擔する能力を生じ、同時に東亞の保衛を獲得して始めて中國の自主獨立が保障されるのであることをのべ、先進國日本は東亞各國をして夫々の獨立自主を達成せしめ、共同目的に團結せしむるの理想に邁進せらるべきであると望み、此の建設が實現されるならば東亞各國家各民族の福利は無限に増進せられ、當に東亞共榮の樂土成るのみならず、世界平和亦茲に於て其の基礎を奠定するものであり、此の光明のために東亞を擧げて大東亞戰爭を完遂するものであることを宣明した。

又、タイ國代表ワンワイタヤコーン内閣總理大臣代理は、大東亞戰爭遂行と大東亞共榮圈の建設に關するタイ國政府の所見は、既定の方針特に日タイ關係の基本方針

を更に推進し、いよく物的心的の力を結集一體化し、以て大東亞建設戰を完成に導くに在る旨を披瀝し、過去數百年來の友好關係に根源する日タイの密接なる關係は、日本の崇高な目的の了解のもと、大東亞戰爭勃發と共に直ちに大東亞共榮圈の樹立と之を妨げる勢力の一掃とを目的とする日タイ同盟條約の締結をみたことを指摘し、大東亞に恆久的繁榮を齎す根本方針は、相互の獨立と主權とを尊重し、互惠の經濟關係を増進し、正義に基き相互に協力援助するに在ることを闡明し、更に大東亞諸國と爾餘の世界各國との關係も亦正に此の原則によるべく、かくしてこそ世界平和は確乎不拔となるものであるとの抱負を高唱、最後に大東亞共榮圈の先進指導國としての日本政府に對し深甚な謝意を表した。

そして、滿洲國代表張國務總理大臣は、十年前滿洲國が最初の眞に東亞的な自覺を有する新興國家として建國されたることを回顧し、東亞の自覺を好まない米英が國

際聯盟を傀儡とし蔣政權を使賊してあらゆる妨害を加へたにもかかはらず、日本は滿洲國に對し公明なる道義的態度を持し、滿洲國獨立擁護、東亞新秩序建設のため國際聯盟を脱退、斷乎たる態度を中外に示したことをのべ、滿洲建國こそは今日大東亞全域に實現されようとしてゐる大東亞共榮圈建設の最初の一步であることを指摘し、次にかくの如くにして建國された滿洲國十年間の政策と其の成果を説明かへりみて、大日本帝國の終始變らざる仗義に感謝し、滿洲國は深甚な報恩反始の念を以て大東亞戰爭後方任務に當つて居るとの衷情に吐露し、進んで大東亞建設の方途に付いて所懐を述べて、東亞に獨立國六を數へ、更に最近自由印度假政府の樹立を加へ、未曾有の殷盛を現出した今日こそ、全東亞各國は東亞一體、運命共同の信念に徹することが大東亞共榮圈建設の根本問題であることを強調、東亞諸國家の關係は反樞軸諸國間に於けるが如き利害に基き雜合集散なるものでは



なく、東洋道徳の家族血縁の情誼に基調を置き、各國夫々の特質に生きつつ相補け相和し、以て東亞全體の生成發展に寄與すべきものであることを闡明し、最後に此の戰爭こそは米英の侵略戰爭の最後のものであり大東亞共榮圈完成の爲の天の與へた唯一の機會であり、しかも全東亞民族の興亡を永遠に決定すべきものであることを認識し、大東亞各國の總力を打つて一丸とし敵米英を撃潰せんとする決意を宣明、そして十億の民族が傳統的に優越した其の精神力を以て世界に冠絶した大東亞の資源を總動員し、建設戰を推進し行くところ、必ずや最後の勝利は我等に歸するとの信念を披瀝し、益々大東亞各國と相結束し大東亞建設の聖業に力を竭さんことを誓つた。

フィリピン國代表ラウレル大統領は、其の一般の所見に於て、先づ大東亞共榮圈各國の指導者より成る此の大會議を主催した帝國に對し感謝の意を述べ、有史以來始めて大東亞民族が一堂に會した此の事實に感銘、次い

で、大東亞會議劈頭、帝國代表がその所見に於て宣明した共存共榮の原則をひいて、之を強調し、此の共存共榮こそ大日本帝國に依り唱導され、大東亞共榮圈諸民族諸國家の歸依する神聖な理念の根本であることを指示し、進んで日本及び共榮圈諸國家に對し協力を誓約し、誕生早々ではあるが、千八百萬のフィリピン國民は今や眞の東洋的性格に目醒め、大東亞諸國家に支援と同情とを寄せ、神の與へ賜ふ使命を果さんとしてゐると聲明した。

そして、ビルマ國代表バー・モウ内閣總理大臣は、先づ本會議に於ては當然我々一同の胸中には唯一つの考へがあるのみであり、従つて同一の考へが繰り返されるのであるが、その繰り返されることに意義があるのであつて、自分も又同一の考へを有すると明かにするものである、即ち同一の所見を有するが故に、各代表の述べたのと同じ言葉を語らんがために本國より參つたものであると冒頭し、今日の大東亞會議は無から生じたものではなく、

日本を中心とする大東亞全民衆の結集、ビルマ國、フィリピン國の獨立等の結果として生れたものであることをのべ、是の如きは日本なくしては起り得なかつたものであり、アジアの多くの者を長い間の彷徨と苦悶とから救ひ出したのは指導國家日本であり、全東亞は日本に負ふ所多大であることを感謝し、全東亞が欣然として日本に報いることを表明し、しかも、東亞は實は未だ全體として纏まるに至つてゐないことその理由は即ちインドであることを指摘し、自由なインドなくして自由なビルマはあり得ないのみならず、今日では自由なインドなくして自由なアジアもないと斷言、進んで大東亞戰爭及び東亞新秩序に就て述べ、大東亞戰爭は絶體絶命のものであり、東亞は此の戰爭を勝ち抜いて生き長らへるか、然らずんば戰に敗れて滅亡するかの外なく、東亞千年の運命を決めるものであることを強調、しかも東亞一體結束して起つ時は克く勝利を獲得し得ることをのべ、東亞の新

秩序は帝國代表の宣言した正義互恵並に獨立及び主權の相互尊重を根本原則とするものであり、そして東亞はその必要とする物質的條件を既に具備してをり、東亞の力は東亞各國の個々の力の結集されたものでなければならぬとのべて、ビルマに及び、ビルマは大東亞戰爭の第一線であることを指摘、これがためビルマは苛烈な慘禍に直面してゐるのであるが、夫は自國の爲のみではなく、全東亞の爲であり、ビルマは最後迄此の第一線を守り通すことを確言し、我々は大東亞防衛の爲如何なる戦線に於ても運用し得る如く全戦力及び全資源を結集しなければならぬと強調、萬一自己の爲に孤立主義を採るものがあればそれは最大の裏切行爲であり、何よりも先づその國自身を破滅に陥れるものであることを切言、最後に重ねて東洋は唯アジア人がアジアを忘却したときのみ敗れたのであつて、今や日本の指導啓示により我々はアジア人たるの自覺を取り戻したのであり、一度アジ

アが結果し、統一と指導とを得た時には常に敵するものなかつた過去の歴史に鑑み必勝の信念を堅持する所以を明らかにし、今こそ我々は示された道の最後迄進撃し、東亞十億民族の新しい世界を建設せんとするものであるとの決意を宣揚した。

此等諸代表の開陳した一般的所見は、いづれも夫々の國家の立場と所見とを表明披露したものであつて、夫々の言葉の中に、我々はいづれも齊しく大東亞會議の開催をよろこび、大東亞建設に對する衷心よりの抱負を吐露し、大東亞戰爭完遂に對する決意を誓ふ各國家の聲を聞いたのである。

そして、我々はまた、此等所見を通じて、大東亞諸民族が各自の本然本質に覺醒し、大東亞一體の眞實を認識し、日本を中心として相寄り相扶け、以て大東亞總集、敵米英擊滅に邁進せんとする大東亞一體の眞の姿を見たとである。

次いで翌十一月六日、大東亞會議は第一日に進んだが、午前十時の開會劈頭、帝國代表東條首相より重大議案を提出、之に對し各國代表交々起つて意見を開陳した。

午前十一時五十分一旦休憩、午後零時四十五分再會、議長帝國代表東條首相は直ちに議案の採決に入る旨を宣し、大東亞共同宣言案を朗讀、起立による賛成を求むるや、各代表は一齊に總員起立した。議長東條首相は直ちに同議案が満場一致採擇されたことを宣し、茲に大東亞共同宣言は成立した。時に十一月六日午後零時五十分である。

これと同時に、大東亞會議事務局は左の如く大東亞共同宣言の全文を發表した。

「昭和十八年十一月五日及六日の兩日東京に於て大東亞會議を開催せり、同會議に出席の各國代表者左の通り日本國

内閣總理大臣 東條英機閣下

中華民國

國民政府行政院院長 汪兆銘閣下

タイ國

内閣總理大臣ビー・ピン・ソングラム元帥閣下

の名代として ワンワイタヤコーン殿下

滿洲國

國務總理大臣 張景惠閣下

フィリピン共和國

大統領 ホセ・ベ・ラウレル閣下

ビルマ國

内閣總理大臣 パー・モウ閣下

同會議においては、大東亞戰爭完遂と大東亞建設の方針とに關し各國代表は隔意なき協議を遂げたる處、全會一致を以て左の共同宣言を採擇せり

大東亞共同宣言

抑々世界各國が各其の所得相倚り相扶けて萬邦共榮の榮を借にするは世界平和確立の根本要義なり

然るに米英は自國の繁榮の爲には他國家他民族を抑壓し特に大東亞に對しては飽くなき侵略擄取を行ひ大東亞隸屬化の野望を逞うし遂には大東亞の安定を根柢より覆さんとせり大東亞戰爭の原因茲に存す

大東亞各國は相提携して大東亞戰爭を完遂し大東亞を米英の桎梏より解放して其の自存自衛を全うし左の要綱に基き大東亞を建設し以て世界平和の確立に寄與せんことを期す

- 一、大東亞各國は協同して大東亞の安定を確保し道義に基く共存共榮の秩序を建設す
- 一、大東亞各國は相互に自主獨立を尊重し互助救陸の實を擧げ大東亞の親和を確立す
- 一、大東亞各國は相互に其の傳統を尊重し各民族の創造性を伸暢し大東亞の文化を昂揚す



一、大東亞各國は互恵の下緊密に提携し其の經濟發展を圖り大東亞の繁榮を増進す

一、大東亞各國は萬邦との交誼を篤うし人種的差別を撤廢し普く文化を交流し進んで資源を開放し以て世界の進運に貢獻す



他方、會議は尙續行され、滿洲國代表より此の種會議開催方希望に關する發言あり、更にビルマ國代表より自由インド假政府支援に關する發言あり、インドの獨立に對し、又自由インド假政府首班として印度解放を準備しつゝあるボース氏に對し、完全な支援を與へるものであることを嚴肅に宣言せんことを提唱した。

次いで、自由インド假政府ボース首班の發言あり、此の大東亞會議に陪席者として出席することを許されたることに深甚なる感激の意を表し、茲に自由インド假政府並に其の指導下のインド民衆は將に米英帝國主義に對し

最後の決戦を開始せんとしてをり、日本の力のみならず東亞の解放された各國民の總意と決意とを背後にし今や敵撃滅に進軍せんとしてゐることを述べた。又、此の會議の議事を傾聴して、過去百餘年間に開催された數多の國際會議を回想し、ウイン會議、パリ會議、ベルリン會議、ヴェルサイユ會議、ワシントン會議、ロカルノ會議とインドの自由の叫びに耳を傾ける者を求めて彷徨したことを想起して、その間に如何に懸隔あるかに想を致し、本會議は戰利品を分割し弱小國家を犠牲に供せんとする陰謀の會議でなく解放された諸國民の會議であり、正義平等互恵の原則に基き世界の此の地域に新秩序を創建せんとする會議であることを指摘し、東亞と同じく英國の抑壓の下に呻吟して來た西亞、延いては亞弗利加の諸國民諸民族が大東亞の建設に大いなる關心を以て注視してゐることを確言し、此等諸地域の解放は一に大東亞戰爭の勝利に懸つてをり、インドより米英帝國主義を拂拭しなければ西亞の自由は

回復されざることを指摘し、大東亞共榮圈の確立は汎アジア聯盟への道を拓くものであり、進んで全アジア共榮圈の確立が究極に於て世界聯盟、即ち國際聯盟と異なる眞の國家共同體への道を拓くものであることを指示した。

次いで、總て斯かる新世界乃至大東亞の理想が達成されるか否かは一に現戰爭の勝利に懸かるものであり、インドの運命は今次戰爭に於ける日本及其の與國の運命と不可分の關係にあり、萬一日本側の不利に歸することあらばインドは自由を得る望みはないが、斯かる國際的危機を待望して來たインドは此の好機を逸せず、最後の祖國解放を達成せんと決意してゐることを確言し、インドにおいては妥協の道はなく、徹底的抗爭あるのみであることを吐露し、尙、多くのものは英國及び其の與國の實力に關し誇張された觀念を有してゐるのであるが、我々は彼等の力と長所短所を熟知してをるが故に克く究極の勝利者たることを確信し、更に日本と大東亞諸國の

大いなる支援のあるに於ては解放の日の近きことを確信して戰場に赴かんとするものであるとの信念を披瀝した。更にまた正義、主權、互惠及び相互援助の至高原則に基き新秩序創建を始めることにより大東亞諸國は人類の考へ得る最も崇高な事業を遂行しつゝあるものであることを指摘し、大東亞新秩序建設の成功を祈り、更に大東亞共同宣言が東亞各國民の憲章であり更には全世界被抑壓國民の憲章たらんことを祈念し、帝國政府の大東亞に對する誠心誠意を事實を以て明證した崇高な態度に敬服の意を表し、敵米英と激烈な戦ひを行ひつゝ、着々建設の大業に邁進しつゝあることを讚美し日本の新アジア創建の使命が完遂せられんことを祈ると述べた。

此のボース首班の沈痛熱烈な説述には各代表感銘深く聞き入つたが、パーモウビルマ代表の如きは卓子を叩いて滿腔の共鳴を表明した。ボース首班の發言了つて拍手の未だ鳴りやまないとき、突如帝國代表東條首相は起つ

て發言し、只今インドのことに付きビルマ國代表並に自由インド假政府首班より發言があつたので、之に關連し此の際帝國代表として發言せんとするものであると述べ、インド四億の民衆の宿望たるインドの自由獨立繁榮の獲得の爲に自由インド假政府の下に愛國のインド人は起ち上り、唯今首班の演説に於ても其の切なる熱情と決意を明らかにせられ、インドのため大東亞の爲力強い限りであるところを、帝國がインドを米英の桎梏より解放しその宿望を達成せしめる爲、あらゆる支援を送る熱意を有することは累次聲明し來つたのであるが、自由インド假政府の基礎愈々確立し同政府の下に驟起した同志の結集頓に鞏固な現狀に鑑み、茲にインド獨立の第一階梯として帝國政府は皇軍占領中のアングマン諸島及びニコバル諸島を近く自由インド假政府に歸屬せしめる用意のある旨を本席上に於て闡明すると聲明、更に此の機會に帝國は愈々インド獨立の爲に全幅の協力を致す決意を鞏固にする旨

を披瀝し、大東亞各國が帝國と志を同くしインド獨立の爲に支援を送られつゝあることを本會議に於て諸代表より承つて欣快とするが、此の上ともインド獨立の爲に強力な支援を寄せられることを要望すると結んだ。

茲に大東亞會議はその議事を終了し、日本國代表東條内閣總理大臣は、議長及び帝國代表として、閉會の挨拶をのべ、大東亞會議の成果を擧げて、

一、大東亞各國代表が最も眞剣且極めて友好的に議題の審議を遂げ、其の間夫々各國政府の高邁な見解を率直に力強く闡明したこと、そして斯の如きは東亞の歴史否人類の歴史に始めて見る盛觀であつて、全世界の視聽が擧げて此の會議に集注されたこと

二、斯の如き隔意なき意見交換の結果、關係各國の大東亞戰爭完遂の決意並に大東亞の建設、延いては世界平和の確立に對する理想と熱意とは其の根本に於て完全に一致するものであることを相互に確認することを得

て、各國は益々、相信し相和し相倚り相扶けて、其の共同の理想及び共通の使命達成に向つて邁進することと期待されること

三、特に重大なる成果として、斯の如き各國政府の完全な見解の一致が齎した所の大東亞共同宣言の採擇を見るに至つたこと

の三點を指摘し、進んで大東亞共同宣言こそは大東亞各國の戰爭觀及び平和建設の理念を全世界に向つて簡潔強力に宣布する大憲章であつて、世界の歴史の新たな一章は茲に書き下されたことを指示し、更に大東亞各國及び各國民が更めて茲に明確な共通の目標を得たことを欣喜、敵の戰爭目的は本宣言の發出に依り愈々晦冥となることと必定であり、大東亞會議が斯くの如く所期の目的を十二分に果して閉會するに至つたことを同慶にたへざるものとし、關係國代表の精勵並に關係各國民の熱意に深甚な敬意と深厚な謝意とを表した。

次いで中華民國代表より謝辭あり、大東亞會議が連日に亘り日本代表の指導と各代表の協力に依り茲に滯りなく絶大なる成果を擧げ得たことに對し慶賀の意を表し、大東亞共同宣言の特色とする所は、東亞の道義精神を昭示し、歐米の功利主義的見解を一掃したことに存する旨を指摘し、斯くして大東亞諸國は愈々其の團結を固め國利民福を益々増進すると共に、世界平和も亦之により其の基礎と方途を見出すものであることを宣揚、最後に日本代表の指導及び各代表の協力に感謝し、大東亞戰爭必勝並に大東亞建設の成功を祝福した。

かくして、大東亞會議はこゝに閉會された。時に昭和十八年十一月六日午後三時十六分である。

天皇陛下に於かせられては同日午後三時三十分大東亞會議に列席した各國代表を新宿御苑に召させられ、高松宮殿下御臨席の下に御慰勞の思召を以て御茶を賜ひ、各代表は同四時半御苑を退出した。



尙、同夜は會議出席者の勞を痛ふ晚餐會が首相官邸において催され、各國代表は舊知の如く入り交つて歡談した。

◇

明くれば、十一月七日、大東亞會議の後を承けて、大東亞國民結集大會が午前十時より日比谷原頭に開催されたが、この大會に参列した人員は、都下各團體、翼賛壯年團員二萬五千を筆頭に、大日本産業報國會、商業報國聯盟、農業報國聯盟、海運報國會、大日本青少年團、大日本勞務報國會、大日本婦人會はじめ各町内會長、隣組長、國民學校教職員、宗教、教化關係各團體それに一般參會者も加へて總數十萬をこえ、演壇に向つて正面中央には團服、戦闘帽のカーキ一色、兩翼に日鷲、女子青年團の黒い制服が居並び、殊に右翼には中華民國、滿洲國、ビルマ、タイ、フィリピン各國の留學生をはじめ華僑協會等在留民が異彩を放ち、一般參列者は場内後方一帶に溢れ、植込みにまで盛り上つてゐた。

公會堂の褐色の大壁間を背景にした演壇が幔幕の裾をひくところ、左右兩翼には各界來賓席があり、一段高く海軍々樂隊、さらに一段高く東條首相はじめ主催者側阿部翼政會總裁、大達都長官はじめ各閣僚、並に晴れの六箇國代表の席が設けられてある。閉會三十分前から海軍軍樂隊の演奏で大會氣分の刻々高潮するなかに、十時十分開會、嚴かな宮城遙拜、國歌の奉唱があつて、後藤大政翼賛會副總裁の詔書奉讀ののち、戦没將兵、前線皇軍將兵に對する感謝と武運長久の祈念が捧げられた。折しも高らかに湧き上る行進曲とともに、正面演壇には東條首相を先登として、何れも胸間に菊花を飾つた中華民國汪精衛行政院院長はじめ、タイ國ワンワイタイヤコン殿下、張滿洲國國務總理、ラウレル、フィリピン大統領、バー・モウ、ビルマ國總理をして最後にポース自由印度假政府首班が、それ／＼隨員をしたがへて颯爽と登場、十萬熱狂の拍手、怒濤の如き歡聲が捲き起つた。

代表の入場着席終つて、主催者代表阿部翼政會總裁の挨拶があり、水野翼賛會興亞總本部統理を座長に推して、先づ丸山翼賛會事務總長から皇軍感謝決議を語り、滿場の拍手で可決、ただちに東條兼攝陸相、嶋田海相に手交した。これに對し嶋田海相が陸海軍を代表して謝辭を述べ、ついで東條首相起つて帝國不動の大信念を述べた。そして、横川翼政代議士會副會長から語つた大東亞戰爭完遂決議が拍手裡に可決されるや、いよ／＼大東亞各國代表の挨拶に移り、第一陣は汪中國代表、ついでタイ國ワンワイ殿下、張滿洲國、ラウレル、フィリピン、バー・モウ、ビルマ、ポース印度假政府各代表の順で、舌端交々

火を吐き、何れ劣らず滿場の拍手歡呼を浴びた。

終つてスターマー獨大使の挨拶、海ゆかばの齊唱、大達都長官による聖壽萬歳奉唱、永井翼賛會總務の盟邦友邦萬歳三唱があつて、「愛國行進曲」の齊唱裡に各國代表は退場し、ここに大東亞結集國民大會は感激のうちに閉會した。ときに午後零時五十五分であつた。

この間、日本の津々浦々では、ラジオを通じて一億國民がこの大會の雄叫びに相和し、大東亞十億の民衆も亦隨所に米英撃滅、大東亞建設の感激を凝集し、ここに大東亞諸民族總贖起の決意を記念する意義深い世紀の盛典はとどこほりなく終了したのである。

### 主要交戰國に於ける徵兵徵用年齢低下狀況

#### (一) 米 國

米國における現行兵役法の基礎は、大東亞戰爭勃發に先立つ一年數箇月前、即ち一九四〇年(昭和十五年)九月

十六日、大統領ルーズヴェルトが署名を了した選擇徵兵法 Selective Training and Service Act. により確立された。そして當初同法は滿二十一歳乃至三十六歳の男子市



民(一千六百五十萬以上と推算される)を登録の上、之に逐次一年間の軍事訓練を與へることを目的とするものであつたが、其の後の改正に依り、滿十八歳乃至六十五歳未滿の米國男子は大統領の指定する日時に於て登録する義務を負ふこととなつた。

右徴兵法の改正中、徴兵年齢を滿十八歳迄低下した件は、一九四二年(昭和十七年)十月十二日、ルーズヴェルト大統領が「爐邊談話」に於て初めて其の意圖を公表したものである。

即ち、ルーズヴェルト大統領は、大東亞戰爭勃發後一年とたたない一九四二年(昭和十七年)十月十二日即ちコロンブス・デー(アメリカ發見記念日)に當り「爐邊談話」の形式で以て放送を行ひ、左の如く徴兵年齢低下の意圖を公表した。

「國民總ては、米國市民としての特權を有してゐる限り、徴兵義務の一端を負つてゐるのであるが、出征

部隊の全員は充分な訓練を経た逞しい若者でなければならぬ。平均年齢二十三歳乃至二十四歳の師團は平均年齢三十三歳乃至三十四歳の師團より遙に優良な戦闘單位である。故に余は現在の選擇徴兵訓練法の最低年齢を二十歳より十八歳に引下げる必要があると思ふ。」

右に關し、ギャラツプ輿論研究所が、同十月中旬、ニュージャージー州全域に亙り、十七歳より十九歳迄の少年の輿論を調査した結果によると、徴兵年齢低下に反對したものは僅に一分にすぎず、賛成回答は八割一分に達し、壓倒的多数を示したと傳へられる。

しかも、徴兵年齢低下案(Teen Age Draft Law)が議會に提出されるや、下院は十月十七日之を可決したが、上院は、ルーズヴェルト大統領が十月二十四日書翰を以て同案の無修正通過を督促したのにも拘らず、同二十六日、大統領及び軍部當局の反對を押切つて、

「十八歳並に十九歳の壯丁に對しては、海外派遣に先立ち、一年以上の訓練を米國內に於て施すべきである。」

との修正案を三十九票對三十一票を以て可決し、下院に回附した。

ここにおいて、本問題は、兩院協議會に附議されるに至つたが、十一月十日、兩院協議會は遂に右修正條項を削除するに決定、同十二日、上下兩院共に右協議會案を承認可決した結果、ルーズヴェルト大統領は、同十三日、本法案の署名を了した。

かくして、ルーズヴェルト大統領は、十一月十八日、十八歳より十九歳迄の適齡者に對し、要領左の如き登録布告を發した。

(イ) 一九四二年七月一日以降滿十八才に達せる男子市民は同年十二月十一日より三十一日迄の間に兵籍登録を完了すべし。

(ロ) 一九四三年一月以降に於て滿十八才に達する男子

市民は、夫々其の誕生日に於て登録をなすべし。

尙、右徴兵年齢低下に伴ふ登録により、米國に於ける登録人口總數は一九四二年十二月末現在四千三百萬人に達したと傳へられる。

しかも、學生に對する特典は、「ハイスクール」學生に限り、學年の後半(第二學期)にある場合には願に依り該學年の終了迄徴兵を延期されるだけなので、「カレッジ」學生の大部分、「ハイスクール」學生の一部は、自由に兵役に徵集し得ることとなつた。

一方、勞働力動員に關しては、戰時的資源委員會長官ポール・マクナットが陸海軍、農業、軍需工業その他緊急産業等各部門において一九四三年(昭和十八年)度末までに必要な人力を六千二百五十萬と推算發表してゐたが、右に關聯して議會に上程された「オースチン・ワーズ」案(男子十八歳一六十五歳、女子十八歳一五十歳

の強制登録及び徴用案)に對しては反對多く、現在迄の處強制登録及び徴用制度は實施されてゐない。

但し、去る五月十七日附ライフ誌所載記事によれば、米國內十八州において「滿十六歳以上十八歳未滿の少年を軍需工業に使用し得」との立法があり、他の七州においても同様の立法審議中の由であり、又、米國戰時情報局が本年十二月初旬に發表した報告書「開戦後二ヶ年のアメリカ」によれば、米國現在の勞働人口は、兵役に服する者も含めて六千三百六十萬人に達してゐるといはれる。

(11) 英 國

英國政府は、歐州大戰勃發の危機が切迫した一九三九年八月二十四日、議會の協賛を経て、緊急國防法 *Emergency Powers (Defence) Act, 1939* を制定、公共の安寧秩序、國土の防衛、戰爭の遂行等の必要に關する廣汎な権限を掌握した。

但し、同法の下に於ては、強制徴兵、義務勞働乃至一般市民の軍法會議に依る裁判等は規定することを得ず(第一條第五項)と爲されてゐたが、同法制定後、旬日たらずして歐州大戰が勃發するや、國民皆兵法が即日成立し、滿十八歳以上の男子に對する強制徴兵の権限が政府に與へられた。即ち、英國議會は、一九三九年(昭和十四年)九月三日、チエンバレン首相の對獨宣戰演説に引續き、滿場一致を以て國民皆兵法 *National Service (Armed Forces) Act* を可決、政府は即日法律第八號を以て之を公布し、滿十八歳乃至四十一歳未滿の男子に徴兵の義務を課した。

然るに一九四〇年(昭和十五年)五月十日、ドイツ軍が白蘭兩國に進撃するに及んで、豫てからその戰爭運営の不徹底を批難されてゐたチエンバレン内閣は、同十日夕刻遂に倒壊し、同十二日、チャーチルを首相とし、保守黨、自由黨及び勞働黨の代表より成る舉國一致内閣が

就任式を舉行したが、次いでベルギー、オランダ、北佛方面における英軍の慘敗不可避と見られるに至つた結果、同二十二日、チャーチル内閣は、前記緊急國防法の效力を擴張する法律 *Act to extend the Powers which may be exercised by His Majesty under the Emergency Powers (Defence) Act, 1939* を制定した。本法を一九四〇年第一次國家總動員法と稱し、「全國民に對し、其の個人の勞力及び財産を國家の用に供すべきこと」を要求し得る權限即ち兵役以外國民徴用をも爲し得る權限を政府に賦與したのである。

ところが、フランスの降服によりドイツ軍の英本土上陸作戦危惧されるに至つて、政府は、同年八月一日、「一九三九年國家總動員法の効力の範圍に關する疑義を除く法律」 *Act to remove doubts as to the extent of the Powers which May be exercised by His Majesty under the Emergency Powers (Defence) Act, 1939* を制定、「特別

裁判所」の設置を規定した。

本法を一九四〇年第二次國家總動員法と稱し、以上國民皆兵法並に數次の國家總動員法により英國戰時體制の大綱は確立されたのである。

他方、現實の徴兵は、前記國民皆兵法に基き、各年齢層毎に實施され、一九四〇年(昭和十五年)十一月迄に其の動員數は四百五十五萬に達したが、次いで一九四一年(昭和十六年)一月二十九日附を以て滿十八歳六ヶ月乃至四十歳に至る全年齡層に對する徴兵令が布告され、同年十二月には兵役義務年限を滿十八歳以上五十一歳迄に擴張し、本年一月迄には滿四十六歳迄の登録を完了した模様である。

尙、學生に對しては、當初徴兵最低年齢を二十歳となしてゐたが、其の後十九歳、十八歳半と逐次低下し、一九四二年(昭和十七年)末以降滿十八歳に達したものは直に徴募し得ることとなつた。但し滿十九歳に達しなければ

は海外に派遣し得ず、又、左の除外例が設けられている。

(イ) 理工科學生中一九二五年生れの學生に對しては修業迄猶豫を認める。

(ロ) 醫科及び齒科學生(但し學修狀況の良好な者)は兵役を免除する。

さて、勞務徵用の實施に關しては、英國政府は、一九三九年九月五日の國民登録法 National Registration Act, 並に一九四〇年八月七日發布の産業登録令 Industrial Registration Order を以て滿二十一歳乃至六十五歳の熟練勞働者に登録の義務を課し、一九四一年(昭和十六年)十二月には登録範圍を滿十八歳より五十一歳迄の男子及び滿十八歳より四十歳迄の女子に擴大し、同時に滿二十一歳乃至滿三十一歳の女子の登録に強制徵用を斷行した。

其の後、一九四二年七月には、女子四十五歳迄の年齢層に登録の適用を擴張したが、更に本年七月二十九日、イーデン外相は下院において男女勞働力動員年齢の下限

を滿十六歳に引下げると共に、女子の動員年齢上限を五十歳に引上げる旨公表した。

(三) ソ 聯 邦

一九三九年九月一日附兵役法によれば、男子兵役徵集年齢は左の通りである。

徵集年度(一月一日より十二月三十一日)において滿十九歳に達する者及び中等學校卒業者で滿十八歳に達する者は現役に徵集する。そして右兵役の終期は滿五十歳である。

尙、醫師及び特殊技能を有する女子で陸海軍に登録された年齢十九歳乃至五十歳の女子は第二豫備役に編入する旨の規定がある。

其後兵役法關係については全然公表がないので、現行法規は不明であるが、最近は一九二六年生れ(滿十七歳)及一八八八年生れ(滿五十五歳)の者も兵役に服してゐると傳へられる。

他方勞働法による徵用年齢限界は左の通りである。

男子 滿十六歳より五十九歳まで

女子 滿十六歳より五十四歳まで

但し最近では食糧増産のため農村勞働力には十四歳の少年も徵用し、又補助勞働には十二歳の者も使用してゐるとの噂もある。

尙、一九三九年九月一日附兵役法中兵役徵集に關する部分左の通り。

第十四條 徵集年度(一月一日より十二月三十一日)に至

ルニ於テ滿十九歳ニ達スル者並中等學校及同相當學

校ノ卒業者ニシテ滿十八歳ニ達スル者ハ現役ニ徵集ス

第三十二條 第一及第二豫備役ハ各年齢ニヨリ左ノ三種

ニ區分ス

第一種 滿三十五歳迄

第二種 滿四十五歳迄

第三種 滿五十歳迄

第三十一條附則

本法第十三條ノ規定ニヨリ登録セラレタル年齢滿十九歳乃至五十歳ノ女子ハ第二豫備役に編入ス

第十三條 國防及海軍人民委員ハ醫師、獸醫及特殊技能

ノ教養アル女子ヲ陸軍及海軍ニ登録シ且服役セシメ又

教育召集ヲ爲ス權限ヲ有ス

戰時ニ於テ前項ノ資格ヲ有スル女子ハ陸海軍ニ於テ特

殊及補助ノ勤務ニ服セシムルタメ召集スルコトヲ得

尙、一九三九年一月十七日の國勢調査によれば、ソ聯

邦總人口一億七千四百六十六萬餘人中男子人口は八千一百六

十六萬五千人(女子人口よりも七百萬少い)であり、調査

當時滿十五歳乃至四十九歳(即ち一九四三年末現在滿十

九歳乃至五十三歳)の年齢層は男女合計九千六百萬であつ

たが、獨ソ開戦後の人口喪失殊に被占領地域の人口喪失

を差引けば、この數字は相當減少するものとみられる。

(四) ド イ ツ

ドイツにおいては、一九三五年三月十六日附兵役法により満十八歳より四十五歳までの男子を徴集し得ることとなつてゐるが、爾來右兵役法の改正については、發表されてゐない。しかし、實際においては、昨年頃より満十七歳の者に對しても兵役訓練を實施してゐる模様である。

一方、ドイツにおける勞務動員關係法規の主要なものは左の通りである。

- (イ) 一九三九年(昭和十四年)九月十五日の緊急勞務令 第一次施行令 1. Durchführung Verordnung Zur No. dienstverordnung により、満十六歳以上七十九歳迄の徵用が規定された。
- (ロ) 一九三九年(昭和十四年)九月二十二日の學生生徒

配置令 Verordnung über den Einsatz der älteren Schulkinder により満十六歳以上の男女學生生徒の農繁期(主として五月より十月に至る期間)動員措置が規定された。

(ハ) 一九四三年一月二十七日の戦時勞務申告令公布により満十六歳乃至六十五歳のドイツ人男子及び満十七歳乃至四十五歳のドイツ人女子は所轄勞務局に申告する義務を課せられた。

(ニ) 一九四三年一月二十九日附、同三十日附命令を以て、戦時下國民生活上絕對必要ではない商業(娛樂場、酒場、寶石其他奢侈品販賣店等の全部、及び家具、煙草其他小賣商店の一部)の經營は閉鎖する旨同二月五日公表された。

米英新造船貨物船性能一覽表

要 項	米 國	英 國	標 準 型
長 サ	四四一呎	八六二四	九九〇〇
幅 サ	五七呎	一九八六〇	二一、〇〇〇
深 サ	三三呎	五七、七三〇	
重量 噸	一〇、八〇〇	五、七、八〇立方呎	二人床室十二
機 關	「トリアル・エキスパ ンション・レシプロ」 水管式「ボイラー」	「ギアドタービン」 「ギアドタービン」	「ギアドタービン」 「ギアドタービン」
燃 料	油	ボイラー	「ギアドタービン」 「ギアドタービン」
推 進 機	一	二	「ギアドタービン」 「ギアドタービン」
馬 力	一、五〇〇	六、〇〇〇	一、六八〇噸外ニ 「ギアドタービン」 「ギアドタービン」
速 力	一一節	一六節	一、七三七噸
備 考	一、現在の造船は「リパ テイ」型が最も多数である。十月 七日附「リパテイ」紙に依れば最近船 計畫(一九四二年秋三三六隻と發表さ れた)は「リパテイ」型最初の建造 強即ち約三百二十隻に据付けるべき 百馬力四汽笛「リパテイ」型として、 開速力十五節とし、タービン及び タービン等を用いた。	一、政府は閉鎖後、船主の新船建造を禁 止し、政府自ら建造することとし、しか も船型、機關等は海軍省設計による數 種に限り、トリアル・エキスパンション イン・スチームエンジン及びスコッチボ イラーを備へる「リパテイ」型として 知られる低速船(一節程度)の建造に	







大型航空母艦	二隻
中型航空母艦	一隻
大型巡洋艦	十乃至十一隻
巡洋艦	一隻
巡洋艦(若くは大型驅逐艦)	八隻
驅逐艦	三隻
大型輸送船	三隻
中型輸送船	一隻
小型輸送船	一隻
計	三十二乃至三十三隻
擊破	五百十四機以上
擊沈	十六機
我が方損害	
驅逐艦	一隻沈没
巡洋艦	二隻小破
自爆未歸還	百十八機

損傷

七機

(一) ギルバート諸島沖航空戦(自十一月二十九日)に於て敵に與へた損害

航空母艦	五隻
巡洋艦	二隻
驅逐艦	一隻
擊破	一隻
航空母艦	四隻
戰艦(若くは巡洋艦)	一隻
巡洋艦(若くは戰艦)	一隻
輸送船	一隻
擊破	百二十五機(内不確實二十五機)
我が方損害	
自爆未歸還	二十一機

更に十月二十七日以來十一月二十九日に至るまでの

ブーゲンビル島並にギルバート諸島方面綜合戦果を總計すれば次の通りである。

轟撃沈	
戰艦	四隻
航空母艦	十隻
巡洋艦	十七隻
巡洋艦(若くは驅逐艦)	四隻
驅逐艦	九隻
大型軍艦(艦種未詳)	一隻
輸送船	十三隻
合計	五十八隻
擊破	
戰艦	二隻
航空母艦	七隻
戰艦(若くは巡洋艦)	一隻
巡洋艦(若くは戰艦)	一隻

巡洋艦

十二乃至十二隻

巡洋艦(若くは驅逐艦)

八隻

驅逐艦

四隻

輸送船

七隻

飛行機撃墜

七百二十一機

擊破

(内不確實二十五機) 十六機

我が方の損害

驅逐艦

二隻沈没

巡洋艦

二隻小破

飛行機

百四十九機

自爆及未歸還

七機

以上の綜合戦果を見れば一目瞭然たる如く、敵側の莫大な艦船喪失は、必然的に敵の最も嫌ふ人的喪失即ち出血の甚しいことを示し、我が海軍の見敵必殺の眞髓がこゝ



に歴然と顯示されてゐるのである。

十月二十七日以來、敵の執拗な攻撃に對する我が戦誌を一括すれば次の通りである。

一〇、二七	米軍モノ島上陸	一七	第五次ブーゲンビル島沖航空戦
一〇、三二(朝まで)	モノ島海戦	一九(二)	戦
一一、一	ブーゲンビル島沖海戦	二二	ギルバート諸島(マキン、タラワ)に敵上陸
二	ラバウル上空敵機二百數十機攻撃	二五	第一次ギルバート諸島沖航空戦
五	第一次ブーゲンビル島沖航空戦	二六	柴崎司令官以下マキン、タラワ島守備部隊玉碎
八	第二次ブーゲンビル島沖航空戦	二七	第二次ギルバート諸島沖航空戦
一一	第三次ブーゲンビル島沖航空戦	二八	第三次ギルバート諸島沖航空戦
一三	第四次ブーゲンビル島沖航空戦	二九	マキン島敵船圍猛攻
			第四次ギルバート諸島沖航空戦

ラバウル奪取を當面の最大目的とする敵は、今次ブーゲンビル島にギルバート諸島上陸作戦に併行し或は先行して、先づラバウルの我が航空基地を無力化すべく大規模な爆撃を執拗に強行してゐるが、その都度我が航空部隊、地上部隊の邀撃を受け、甚大な打撃を蒙つてゐる。殊に十一月二日にはラバウル上空に二百数十機で來襲したのに對し、我が軍は二百一機を撃墜し、正に九割の全滅的損失を與へたが、敵は其後も依然として大量攻勢を反覆して止まない點その戦意の極めて強靱な證左として重視しなければならない。いまラバウル空中戦の記録を一括すれば次の通りである。

十月二十九日	來襲機數	九〇	撃墜破獲機數	一九
十一月二日	二百數十	二〇一		
五日	一四八	八四		
七日	約八〇	一六		

右について見る如く二週間の短時日に於て七百数十機が來襲したのに對し、我が方は三百九十一機即ち半数以上を撃墜破する大戦果を挙げたのである。従つて敵はこの間に於て少くとも搭乗員千名以上を喪失したことになる。

以上の記述でも明かな如く南部及び中部太平洋方面は、十一月半始んど一刻も休みなき航空戦に終始したが、敵は、大量出血に喘ぎ乍らも、我が制空權下に空母集團を中心とする無謀放膽なる作戦を連續し、我が太平洋戦略圏の中央を遮二無二突破して、南方資源と我が本土とを遮斷しつゝ、あはよくば一舉に我が本土に肉迫せんとする野望を露骨に示してゐる。いまこそ一億國民は南溟の空に、島に、一身を投げすてて、この敵側反攻を阻止してゐる第一線將兵の心を心とし、飛行機を、船を、一機でも多



く、一隻でも速かに前線に送り、皇軍をして遺憾なくその實力を發揮せしめ、その反攻を挫折せしめ、以て敵側崩壊の第一歩たらしめなければならぬのである。

ギルバート諸島守備部隊の玉碎

昨年八月以來一年有半、ソロモン方面敵側反攻は我が精銳無比な陸海軍部隊の猛烈な反撃に遭ひ各作戦毎に莫大な損害を加へつゝ、結局數個の島嶼を奪回し、我が外廓防禦線を「少し嚙つた」のみに終つた。しかも、マツクアール一麾下の米海軍兵力は南伊方面米英兵力より優勢といはれ、ニミッツ麾下の太平洋艦隊に至つては米國海軍の主力をなしてゐるのであるから、敵は長期に互るこの作戦停帯を一舉に挽回し是非共何等かの戦果を本國に送らなければならなかつた。

かくして、十一月十九日、米國太平洋艦隊司令官ニミッツは航空母艦、戦艦その他を基幹とする強大な機動艦隊を編成し、ハワイ方面よりギルバート諸島水域に姿を現は

したのである。東大東亞戰爭勃發直後ギルバート諸島のマキン島、トラワ島の第一線守備につき中部太平洋の鐵壁の陣を張り日夜の別なく敵撃滅の猛訓練に餘念のなかつた司令官柴崎惠次少將以下三千名及び軍屬約一千五百名は、こゝに五萬の敵上陸軍並に有力な機動部隊を邀撃し、壯烈無比鬼神を哭かしむる勇戦奮闘により敵將兵をして顔色なからしめる好機を迎へたのである。

これに先立ち敵はブーゲンビル島上陸作戦を繰る數次の海空戦により航空母艦撃沈破十一隻を初めとし戦艦、巡洋艦、駆逐艦、輸送船等九十四隻、飛行機五百七十六機喪失といふ大損害を蒙り、南太平洋艦隊は潰滅に類する惨状にあつた。従つてギルバート作戦は、既定の總反攻計畫の一部をなすものであつたにしろ、無理押し之感は否み難かつた。トラワ島に於ては、十一月十九日、午前中敵機總計約九〇〇機が來襲し、島上に爆彈の雨を降り注いだが守備隊員の闘魂は火と燃え三十一機を撃墜、翌二十日には再び

同島に二百數十機が來襲し、五隻の戦艦、巡洋艦、駆逐艦が約二時間に互り艦砲射撃を行つたが、陸戦隊はこれに應戦し二十三機を撃墜した。右と同時に敵はマキン島に對し三百機で攻撃してきたが、陸戦隊はこゝでも十二機を撃墜した。かくして、十一月二十一日天明とともに敵は百數十臺の水陸兩用戦車を伴ふ數百隻の上陸用舟艇をもつて上陸を開始したのである。

敵は二日間の兩島の砲爆撃に於て二千二百噸の砲彈、七百噸の爆彈を撃ち込んだのであるが、守備隊は隱忍自重、敵上陸用の舟艇を海岸近く引寄せたのち、一齊に砲火を開きその大半を海中に葬り去り、更に淺瀬を徒渉してくる敵海兵隊を大混亂に陥れ、南溪の孤島を阿鼻叫喚の修羅場と化した。

十一月二十二日に至るや夜明けをまつて敵は多數の戦艦を上空に配し、物量を持つ上陸部隊は更に新手を繰り出して來た。これに對し我が陸戦隊は司令官以下愈

士氣旺盛、狹隘平坦な珊瑚環礁の四周に壓倒的優勢な大敵を迎へて一步も譲らなかつた。しかも、二十二日午後一時にはトラワ、マキン島との連絡は無線送信機の破壊により絶えたが、二十二日深更長くも有難き 聖旨を賜つた陸戦隊員は 聖恩に感泣しつゝ勇氣百倍して奮闘、二十三日の我が飛行機偵察の報告によつても一步も陣地を退いてゐないことが判明してゐる。しかし味方の損失増大と新手の敵上陸状況を觀取した司令官柴崎惠次少將は二十五日残る部隊の全員とともに、七生報國の誓ひも固く、祖國鎮護の華と散つたものと推斷される。かくして、トラワ、マキン兩島の守備部隊は一月十九日以來一週間、惡戦苦闘、雲霞の如き敵大軍に對し堂々激闘を挑み、遂に玉碎したが、柴崎司令官以下四千五百名の偉功こそは山崎中將以下アツツ島玉碎勇士の忠誠とともに萬世を貫く護國の龜鑑として皇國史上燦たる不滅の金字塔をなすものといふべきである。

米國海軍は、如上ブーゲンビル島並にギルバート諸島方面作戦において、世界海軍史空前の一大犠牲を喫したにも拘らず、海軍長官ノックス以下はあくまで頰かむりの欺瞞發表に終始してゐるが、しかもトララワ島における激闘並にその損失のみは遂に蔽ひ隠しきれずにゐる。

即ちギルバート諸島方面の前線視察後、十一月三十日眞珠灣に歸還した太平洋艦隊司令長官ニミッツは「ギルバート諸島沖では非常に組織化された日本軍の攻撃に遭遇した。就中トララワ島に對する攻撃は太平洋戦域で米國軍が経験した最も困難の戦闘であつた」とその苦戦の真相を吐露し、又、ギルバート作戦水陸兩用部隊司令官ターナー少將は、前線司令部に於ける記者團會見に際しギルバート作戦に於て米軍は完全に過失を犯したと次の如く言明したといはれてゐる。

「トララワ島作戦に於て米軍は驚くべき生命を喪失し

たが、その責任の一半は戦略上の過失が負ふべきであ

る。即ち上陸以前の豫備爆撃が短かつた。米海兵隊の決死的精神がなかつたならば上陸は不可能であつたらう。日本軍は過去十五ヶ月の間にトララワ島を要塞化した。米海兵隊は日本軍の機關銃座を破壊するため友軍の屍を乗り越えて前進しなければならなかつた。」

又、第二海兵師團長ジュリアン・スマイス少將は

「ギルバート諸島の上陸地點に於ける日本軍の抗戦ぶりは猛烈果敢な點で類例がない。米軍は海兵隊の死骸を乗り越えて、僅かに橋頭堡を確保したが、その戦は皆で體驗したことのない血腥い死闘であつた。」

との感想をのべたと傳へられる。

又、ニューヨーク・タイムズ紙はギルバート作戦の「貸借對照表」と題する記事中に有力指揮官たる少將と大佐の二名の戦死を認めてゐる。即ち、

「トララワ、マキン作戦の貸し方として、

トララワ島の飛行場は爆撃機及び戦闘機の使用に適し、同島は海軍艦艇、水上機の碇泊に適する。

マキン島は陸上戦闘機の基地として適當である。

アベママ島の環礁は碇泊港として利用出来、飛行場も設置の可能性がある。

しかし、借り方勘定として、左の諸點があげられる。

陸軍少將ヘンリー・マリニックス行方不明、第百六十五歩兵聯隊長ジュームス・ガーディナー大佐戦死、そしてトララワ上陸部隊所屬の二、三千名中無傷の者は僅か二三百名にすぎなかつた。」

とのべてゐる。

しかも、十一月十九日早朝、ニミッツ麾下の敵空母集團がギルバート諸島海域に來襲して以來僅か十一日、この短期間に於て我が海軍が敵空母十一隻を轟撃沈破し、他の十一隻の艦船に損失を與へた事は戦史上空前の戦果といへよう。ただ五次に亙るブーゲンビル島沖航空戦と

いひ、又ギルバート諸島沖反攻といひ盡く空母集團を中

心とする敵側機動部隊の作戦であつたのみならず、敵はいまもなほ孜孜として空母の建艦に全力を傾注してゐることは、我々の心に銘記して一瞬も忘るべからざることであらう。空母再建の状況のみに鑑みても熾烈不遜な敵の反攻は今後愈々激化するものと豫想され、些かの樂觀も許されないのである。かくして、我等銃後一億國民が皆てのアツツ、今回のギルバート玉碎部隊の英靈に應へ奉る途は、ひたすら戦力の増強就中航空戦力の躍進的擴充に邁進することのみ見出されるのである。

(二) 支那大陸戦線

十月二日以来、全華北中共黨軍の完全殲滅を期して展開された華北秋季作戦に於て、我軍は赤色太岳軍戦區全域に互り鐵槌を加へつゝあつたが、十一月三日に至り概ねその目的を達した旨山西現地軍の公表があつた。そして、その戦果としては、遺棄死體約五千八百五十、俘虜約千八百、覆



滅施設八十に達した。かくしてその戦闘餘力は南部中共地  
區にまで及ぶが、秋季作戦の目的は完全に達成されたが、  
次いで十一月中の大陸戦線に於て特筆大書されるべきもの  
としては中支に於ける重慶軍第六戦區殲滅作戦があつた。

即ち春季夏季の兩作戦に於て大打撃を蒙つた重慶軍は、  
中央直系軍を繰出して對日總反攻を呼號、ビルマ進撃の  
態勢を整へるとともに重慶直接防衛の足場を固めたが、  
ビルマに出撃せんとした重慶軍はすでに我が先制作戦に  
叩かれて潰滅し、重慶正面の第一線たる第六戦區もいま  
また皇軍の撃砕するところとなつた。十一月二日開始さ  
れた洞庭湖西方地區作戦は、我が怒濤の如き進撃により  
僅か二旬を出でずして敵の遺棄死體五千六百有餘を算し  
火炮二十二門其他多數の銃器を鹵獲、二十二日夕刻に至  
るや遂に敵の本據常德附近に迫り二十五日夕刻以來常德  
に對する攻撃は最高調に達した。支那派遣軍報道部は十  
一月三十日の發表に於て本作戦開始以來二週間にして中

央直系軍五ヶ軍約十萬の戦力を徹底的に破潰し、十一月  
二十六日敵の最重要據點にして約一個師の固守する常德  
城内に突入した旨を報じた。そして、二十九日に於ては  
常德北門及び東門より更に城内に互つて凌絶極まる戦争  
が繰り返されたといはれてゐる。

在支陸軍航空部隊は常德攻撃に於て終始地上部隊と緊  
密な協力の下に多大の戦果を收め、或は米空軍前進基地  
を急襲して敵出撃企圖を封殺した。

十一月中に於ける我が陸軍航空部隊の戦果は次の通り  
である。

- 二 日 建廠(米空軍基地) 飛行場施設爆撃
- 十 日 老河口(宜昌地方一七 飛行場施設、油  
〇軒) 倉庫爆撃
- 長陽(宜昌西南二四軒) 軍事施設爆撃、  
敵兵銃爆撃
- 磨石(長陽東方二〇軒) 軍事施設、敵兵

爆撃

二十一日 恩施(米支聯合空軍基 飛行場爆撃、敵  
地) 八機撃墜

〃 慌利、南方 第五一、五八南  
師爆撃

〃 率鎮、羊角溝(山東省) 敵部隊敵舟艇群  
爆撃

二十二日 寧鄉(長沙西方五〇軒) 二萬の敵大縱隊  
痛撃

二十三日 平江、長沙、湘潭 第九戦區要衝連  
爆

二十四日 京山(湖北省) 敵軍及軍事施設  
爆撃

二十四日 常徳敵機攻撃 撃墜四機  
二十五日  
二十九日

尙在支米空軍は十一月十六日午後、戦爆連合十數機の

編隊を以て小嶺にも香港に來襲、十六日十五時、二機汕  
頭に來襲、十九日朝ノース・アメリカンB25二機は海南島  
に來襲したが、いづれも我が空軍並に對空砲火によつて  
撃退された。

(三) 印緬戰線

ビルマ方面に對する總反攻を呼號する反樞軸軍は東南ア  
ジア方面總司令官マウントバツテンの着任以來、兵力の配備、  
兵器の集結等に營々として努力を拂つてゐる模様である。

そして、十一月二十二日より二十七日までカイロで行  
はれた米英重慶首腦部會談の各國軍事代表中にマウント  
バツテンも加はつてゐることは、重慶軍に對する軍需補  
給輸送問題のみならず、印緬戰線における米英軍と重慶  
軍との連絡協力問題が議題の一つとなつたであらうこと  
を窺はせるのに充分である。

敵側は十一月三日印度軍にオーヒンレック麾下の東部  
軍管區を設置、又同日英印軍當局は印緬國境軍司令官に

エイジメーン少將(日本軍のビルマ戡定作戦の爲重傷後退)を任命する等、所謂對日總反攻への準備とおぼしい措置を着々と進めてゐる。しかし、インド國內の情勢は、食糧不足、疫病流行等に伴ひ、依然不穩で、これが敵側後顧の憂ひとなつてゐることは否かたない。

皇軍は鐵壁の布陣により士氣愈々軒昂、わがビルマ方面陸軍航空部隊は十一月九日、戦機連合の大編隊を以て印緬國境敵前線の最大據點であり敵戦闘機の基地であるインパール飛行場を急襲、在地敵戦闘機二十數機を粉碎、爆弾庫、燃料倉庫に大爆發を起さしめ、インパール南方バレル飛行場に於ては在地戦闘機十八機に對し爆彈の雨を注いで徹底的損害を與へ、全機無事歸還するといふ赫々たる戦果をあげた。

(四) 歐洲東部戦線

夏季攻勢に於てドニエプル線に迫つた赤軍はその攻勢を更に冬期作戦に持續しようとする態勢をとり、東部戦

線における獨ソの死闘は愈々苛烈の度を加へた。

獨軍はソ軍の進攻に對し各戦線に互り阻止防衛の態勢を保持し乍ら南部イタリア戦線、西歐第二戦線等に對する兵力分散を考慮の上、逐次戦線の自主的合理的短縮を圖つてゐるが、しかも強力な豫備隊を保留し、機を見ては痛烈な反撃に出でる彈力的作戦をとつてゐる。即ち東部戦線南部地區に於てマンシュタイン元帥麾下の獨軍精銳が十一月十九日ジトミールを奪回、輝く偉功をたてた如きその適例である。

しかも、ジトミール奪取に成功した獨軍は引續きその鋭鋒をキエフ西北方コロステンに向け、十一月二十八日これを完全に占領、更にジトミール、キエフ間の要衝を盡く奪還した。獨軍當局三十日に於ける發表は次の通りである。

「十一月九日から同二十八日まで間に、キエフ、ジトミール間の戦闘に於て、赤軍は捕虜四千八百、死者二萬を出し、戦車六百三臺、砲千五百門以上、迫撃砲

二十五門、機關銃千四百十二挺、對戦車銃五百五十四挺を喪失した。」

右發表によつて見てもキエフ西方地區の兩軍の戦闘が如何に激烈憤絶を極めたかは想像に難くなく、更に局地的戦闘としては赤軍の損害が多大なことも注目し得る。

赤軍はキエフ西方地區に於てこのやうに獨軍の痛撃を蒙つたにも拘らず、依然全線に互つて執拗な攻勢をすてず、北部ネヴェリ地區、中部ゴカル地區、クリミヤ半島各線に互り獨軍に肉迫し激戦をくり返してゐる。そして最も關心を要する點は、赤軍が獨軍の猛反撃により大打撃を蒙り乍ら尙且つ各戦線に新規軍隊や新型兵器を送つてゐること、そこに赤軍が未だ人的にも物的にも相當以上の餘裕を有することが推察され、今冬の獨ソ戦線では又もや兩軍間に大作戦がくり返されるものと豫想されるに至つた。

(五) 歐洲南部戦線

イタリア南部戦線に於ては十一月初頭以來米英軍は

ローマ進撃を呼號し乍ら、到る處で獨軍の善戦により北進を阻止され戦局の進展は殆んど見られなかつた。獨軍はポー河以南に約二十箇師の兵力を集中し、又クロアチア・アルバニア沿岸島嶼には約十箇師の兵力を配備してバルカン大陸に對する萬一の場合に備へ、堅固な南部要塞を構築してゐるので、聯合軍のアドリア海渡洋作戦並に北上企圖は完全に封殺されてゐる。十一月二十九日以來イタリア東部地區のモンテゴメリー麾下英第八軍は突如行動を起してサンゴロ河地區の獨防線に對し新攻勢を開始、西部地區クラーク麾下米第五軍も亦英第八軍に呼應して攻勢態勢をとつたが、太平洋作戦の影響もあつてか、その補給は存外豊富ではない模様なので、この攻勢は未つづきせず、また獨軍の善謀は之を阻止せずにはおかないものとみられる。即ち獨軍はイタリアの岷々たる山脈を利用して、イタリア戦線全域に互り冬期新防衛線を構築し、反樞軸軍の北進阻止を企圖するとともに更に兵力を増強して戦

線の保持に努めて居り、全戦線は米英軍が大部隊を増援しない限り膠着状態のまゝ越年するものとみられてゐる。十一月に於けるイタリア戦線を通過するのには、東部戦区に於て英第八軍はツリニョ河北岸よりイストニア港を占據し、基地の擴大を計つたが、この方面における獨軍の反撃によつて苦戦を續けて居り、中央山嶽地帯に於ては、英第八軍はイゼルニアに侵入したまゝ、東北進を待機してゐる。

ローマ進撃を狙ふ米第五軍は攻撃重點を西部地區においてをり、ツオルツルノ河方面における獨軍との衝突は最も激烈を極め、米軍の損害は「サレルノ」上陸當時に比すべきものがあつたと云はれてゐる。

そして、イタリア全戦線中この西部戦線の戦況は特に重視されてをり、第一線後方地區に對する敵の爆撃も亦次第に苛酷な様相を示してゐる。

他方、バルカンに於ける米英對ソ聯の相剋は既に久しぶりものであるが、最近に至つて思想的・政治的・將又軍事

的にますます微妙な形勢になつた。從來米英、特に英國は戦局がバルカンに波及した場合の赤化を恐れ、私にバルカン赤化防止委員会を設け、ソ聯勢力のバルカン進出に對し壓迫を加へてゐた。しかもこの英ソの暗闘はユーゴスラビア國內の共産主義系チトー派と亡命政権陸相ミハイロウイツ派との深刻なる勢力争となつて表面化してゐたのであるが、ソ聯の支持するチトー派の勢力が最近壓倒的となり約二十萬以上を算する至つたのに反し、ミハイロウイツ派は僅か一萬五千乃至二萬に過ぎず、しかもソ聯バルチザンの汎スラブ主義の組織的活動によつて漸次その兵力を侵蝕されて行く状態である。

米國は既に武器貸與法に基きバルチザン及ミハイロウイツの雙方に對し各種武器を援助してゐるが、こゝに奇怪なのは最近の英國の態度で、表面的にはミハイロウイツ派を支持しつゝ、裏面に於てチトー派に對しても軍事、政治兩方面より援助し、兩者に對し英國將校を派遣し

その抱込みに腐心してゐるのである。かくして米英の供與する武器は兩派争闘の具に供せられてゐる状態にある。

そしてバルカン各地に散在する各種の黨匪はソ聯に於て訓練を受けたチトー派バルチザンを模範とし漸次これに合流して行く形勢にあり、その結果バルカンにおけるチトー派の勢力が漸次侮り難いものとなる一方、ソ聯の勢力は駸々と扶植されようとしてゐる。かくしてユーゴスラビアにおける英ソの抗争はいまやチトーを奪ひ合ふ情勢となり、米英側は輸送機を以て連絡將校をユーゴに送り、チトーの動向を嚴重に監視させてゐるがソ聯政府も亦ユーゴスラビア全般の動き竝にバルチザンの仔細な情報入手の爲軍事密使を送つてゐる模様である。従つてカイロに於けるユーゴスラビア亡命政権ビター國王の立場は極めて不利な境地におかれるに至つた。

(六) 其の他

戦争短期終了を焦慮する米英は、今春以來如何なる様

性をも顧ずまたあらゆる人道的考慮を無視して對獨空爆を激化してゐるが、十一月下旬に入るや、愈々ベルリン爆撃を本格的に開始した。即ち十一月二十二日、二十三日の兩日に互り、從來の型を全然破つた極めて大規模の七百機の編隊でベルリンを空襲し、爆弾約二千噸を投下、ベルリンは豫期以上の損害を蒙つた。この空襲は軍事施設と何等の關係なく専ら労働者及び市民の住宅區域、商店街、官廳、外國公館等を對象とする純然たるテロ爆撃であり、國內神經戦を狙ふ盲爆であつた。これに引つゞいて二十四日及二十五日夜はベルリン東部方面に爆撃を行ひ更に二十六日夜には約一時間に互つて再び強度の空襲を行つた。しかも、この二十二日より二十六日に引續く未曾有のベルリン強襲は殆んど夜間を狙つたもので被害も甚大であつたが、流石盟邦ドイツの首都ベルリン市の市民はこの痛撃に屈することなく、對米英抗戰意識を愈々昂揚して、却つて逆効果を生み出した。尙、二十七日以

來通信交通機關も逐次復活し其他破壊箇所も整理も齊々  
と行はれ一般に平穩である。  
そしてドイツ軍並に國民は今回の惡辣暴虐なベルリン  
空襲に對し斷乎たる報復を必ず近く實現することを深く  
誓つてゐる。

又、反樞軸軍は十一月十四日白晝百三十機の編隊をも  
つてブルガリア國首都ソフィヤ市を盲爆、特に労働者  
街に對し爆彈を投下した結果死傷者は百五十名に及んだ  
が、これまたブルガリア國民の對米英敵意を激化したに  
とどまつた。

地中海方面反樞軸總司令官アイゼンハウアーは、十一  
月十日「イタリア管理委員會」の設立を發表し、その代理  
委員長に米國陸軍少將ケニヨン・ジョイスを任命した。  
新委員會はバドリオ裏切政權と反樞軸軍との休戰協定に

十一月中の世界政治日誌

基き、アイゼンハウアーの指揮下に反樞軸軍占領下のイ  
タリアの戰時動員その他萬般の管理、統制事務に當るも  
ので、バドリオ政權所在地ベリに設置される。  
委員會設置に當り、アイゼンハウアー北阿反樞軸軍總  
司令官が發表した聲明要旨は左の通りである。

「新委員會の任務は休戰協定事項を實行に移し、イタ  
リア經濟を反樞軸軍の對獨戰のため完全に動員するに  
ある。イタリアに課された新役割は、今や共同の敵となつ  
たドイツと戦ふにあり、これがためにはイタリアの資  
源を如何に動員するかを明確にしなければならぬ。」  
新委員會は米、英、ソ聯、フランス國民解放委員會代  
表を以て組織され、將來ギリシヤ、ユーゴスラヴィア兩  
亡命政權もこれに参加するといはれる。

十一月一日	十一月二日	十一月三日	十一月四日
<p>(日)新設軍需、運輸通信、農商三者開議、東條首相兼大臣兼議長、東條首相特別議會開會式舉行</p> <p>(日)東京特別議會開會式舉行、顧問會議に於て施政方針説明、第一回樞密(自由インド)ボース首班、東條首相訪問</p> <p>(獨)十月中通商破壞戰果、擊沈五十二隻、三十萬噸、擊破四十五隻、二十七萬噸と發表</p>	<p>(獨)バルフォア宣言反對アラビヤ人大會各地回教徒代表多數參集</p> <p>(日)大東亞會議出席各國代表、首相官邸茶會に參集初顔合せ</p> <p>(日)大島駐獨大使、佛海岸方面視察を終へ、獨軍の防備完全と説明</p> <p>(獨)駐獨公使ホイニンゲン氏急遽歸國</p>	<p>大東亞會議出席各國代表、首相官邸茶會に參集初顔合せ</p> <p>(日)大島駐獨大使、佛海岸方面視察を終へ、獨軍の防備完全と説明</p> <p>(獨)駐獨公使ホイニンゲン氏急遽歸國</p>	<p>大東亞會議出席五ヶ國代表謁見御陪食を賜はる</p> <p>(日)大東亞會議の開催に各國代表、列席者、陪席者の氏名發表</p> <p>(泰)泰國人民會議本會議開會、明年度豫算案提出總額三億三千九百七十四萬六</p>
<p>モスクワ三國外相會談公報發表、米英ソ重慶四國共同宣言、イタリア、オーストリア及び戦争責任者處罰に關する米英ソ三國宣言公表</p> <p>(米)ルーズヴェルト、食糧政策に關する特別教書を議會に送付</p> <p>(米)東部炭田事實上總罷業狀態、ルーズヴェルト炭坑接收を命令、罷業労働者の復業を命令</p> <p>(米)財務長官ソーゲンソ、地中海方面視察旅行より華府歸任</p>	<p>(米)十月中飛行機生産高八千三百六十二機、前月對比機數七百六十四機重量九%増、燃料消費量増加と發表(戰時生産局長官ネルソン)</p> <p>(米)地方選挙施行、共和黨大勝、ウオールター・エッヂ、ジョー・ハンレー等當選</p> <p>(米)炭坑罷業急轉解決、ジョン・ルイス、燃料局長官イツキーズ間に新賃銀暫定協定成立</p> <p>(米)ハル國務長官、イーデン外相、モスクワ退去</p>	<p>(米)新比島獨立法案を上院に提起(上院議長、本年度追加豫算十一億六千七百七十五萬、弗を一億六千七百七十五萬削減可決(下院歳出委員會)</p> <p>(米)モスクワ常駐米國軍事使節團を設置</p>	<p>(土)國民議會開會、自由と獨立の大統領者に對しては抵抗を辭せざる旨を聲明</p> <p>(日)米軍ブリーゲン、上陸、ブリーゲン、ビル島沖海戦</p> <p>(日)アルゼンチン外相ヘルベルト・カステロ、中立堅持を聲明</p> <p>(日)中支軍、洞庭湖西方敵第六戰區重慶軍に對し大進攻撃開始</p> <p>(日)ラバウル來襲敵機二百一機撃墜</p> <p>(土)メネンジョグ、外相、英大使ヒューゲツセンと同道カエロ到着</p> <p>(日)アエノスアイ、州知事等地方長官十名連袂辭職</p> <p>(日)赤軍クリミヤ半島ケルチ北方に橋頭堡設置</p>



年(内)国防費一億一千三百萬(セルマ)交通運送要綱發表(セルマ)交通運送要綱發表(セルマ)交通運送要綱發表

大東亞會議第二日(本日終了) 大東亞共同宣言採擇 印度獨立問題に關し、バー・モウ、ビルマ代表、陪席ボリス主班發言、東條首相、アンダマン、ニコバル兩諸島を近く白由印度に歸屬せしむる用意ある旨を明(アルバニ)アルバニヤ首相レツエフ、ミトラウツツオ氏、新内閣組織

大東亞結集國民大會を日比谷に開催 東條首相並に大東亞各國代表總子吼(獨)ヒトラー總統、ナチス黨旗起二十周

陸軍少將ジョーン・テイソンを團長に任命 (英)外相イーデン、カイロ着 (米)ワシントン、クダラ、カイン、五五名を監禁審問

(米)國際協力決議案(コナリー案、モスクワ四ヶ國宣言第四項を挿入の上、八十五對五票を以て上院通過) (米)ソマリア、ダール、陸軍補給部司令官、重慶よりワシントン歸着 (米)ルーズヴェルト、米英重慶の戰略會議が重慶に於て行はれたる旨を聲明 (英)駐重慶大使ホルヘ・ス・シマ、下院議員イレス、ウオード、女史、歸國のため重慶出發 (米)メキシコ武器貸與増強に關する米英協定成立 (佛)佛解放委員會、モスクワ會議の決定に拘束されざる旨を聲明(五、六兩日) (ソ聯)ソ聯情報局、七月五日以降四ヶ月間の夏季作戦の經過に綜合結果發表 (ソ聯)スターリン議長、第二十六回革命記念日前夜に當り演説、過去一年の戦況及び戦果を概観、モスクワ外相會議に言及、地中海作戦は第二戰線に類すと聲明

(米)ルーズヴェルト、マーシャル、キン

(戰況)獨軍、キエフ撤收 (戰況)中支軍、南縣、安鄉占領

(西)スペイン政府、伊西通商協定成立との風説を正式に否定 (西)アルゼンチン軍首領部外相の中立義務に對する聲明を全幅的に支持する旨を聲明 (戰況)第一次ブリーゲ、ソビエト海軍、空母二隻、巡洋艦四隻、法艦四隻、巡洋艦三隻、ソビエト海軍、空母二隻、巡洋艦四隻、法艦四隻、巡洋艦三隻、ソビエト海軍、空母二隻、巡洋艦四隻、法艦四隻、巡洋艦三隻

年(内)當りミュンヘンに於て演説「對英報復に當り、獨逸軍艦、反艦艇軍北阿、陸以降一年間の船隻喪失二百六十萬噸、内大部分は軍隊輸送船と發表 (獨)張國務總理、新京歸着

(中華)汪精衛主席、大東亞會議を終へ南(京)發着、大東亞會議の意義に關し談話發表 (中華)周佛海行政院副院長、重光外相訪問

年(内)當りミュンヘンに於て演説「對英報復に當り、獨逸軍艦、反艦艇軍北阿、陸以降一年間の船隻喪失二百六十萬噸、内大部分は軍隊輸送船と發表 (獨)張國務總理、新京歸着

(英)チャーチル、マンシオンハウスに於て演説、獨逸軍艦の前途につき根據なき樂觀を戒む (米)ルーズヴェルト、チャーチル對藩水艦隊共同宣言發表、八、九、十、三ヶ月間の状況を發表 (米)ノック、スノー、ゲンビル敗戦に關し損害甚無と嘆く (英)獨逸復興協定調印、四十四ヶ國代表參加、救済復興局新設を決定 (米)比島偽政權正副大統領ケソン及びオスマニヤの任期延長決議案上院通過 (十日下院通過) (佛)シロ、委員長を辭任、ジロー派司令官の地位は存續

反艦艇救済復興會議アトランチック市に於て開催、米代表ハート、リーマ、伊、太利管理委員設置(アイゼンハウアー)を委員長に任命 (米)ハル國務長官、モスクワ會議を終へて華府歸任

(土)メネメン、ジョグ、ル外相、カイロより歸國

大東亞會議第二日(本日終了) 大東亞共同宣言採擇 印度獨立問題に關し、バー・モウ、ビルマ代表、陪席ボリス主班發言、東條首相、アンダマン、ニコバル兩諸島を近く白由印度に歸屬せしむる用意ある旨を明(アルバニ)アルバニヤ首相レツエフ、ミトラウツツオ氏、新内閣組織

大東亞結集國民大會を日比谷に開催 東條首相並に大東亞各國代表總子吼(獨)ヒトラー總統、ナチス黨旗起二十周

陸軍少將ジョーン・テイソンを團長に任命 (英)外相イーデン、カイロ着 (米)ワシントン、クダラ、カイン、五五名を監禁審問

(米)國際協力決議案(コナリー案、モスクワ四ヶ國宣言第四項を挿入の上、八十五對五票を以て上院通過) (米)ソマリア、ダール、陸軍補給部司令官、重慶よりワシントン歸着 (米)ルーズヴェルト、米英重慶の戰略會議が重慶に於て行はれたる旨を聲明 (英)駐重慶大使ホルヘ・ス・シマ、下院議員イレス、ウオード、女史、歸國のため重慶出發 (米)メキシコ武器貸與増強に關する米英協定成立 (佛)佛解放委員會、モスクワ會議の決定に拘束されざる旨を聲明(五、六兩日) (ソ聯)ソ聯情報局、七月五日以降四ヶ月間の夏季作戦の經過に綜合結果發表 (ソ聯)スターリン議長、第二十六回革命記念日前夜に當り演説、過去一年の戦況及び戦果を概観、モスクワ外相會議に言及、地中海作戦は第二戰線に類すと聲明

(米)ルーズヴェルト、マーシャル、キン

(戰況)獨軍、キエフ撤收 (戰況)中支軍、南縣、安鄉占領

(西)スペイン政府、伊西通商協定成立との風説を正式に否定 (西)アルゼンチン軍首領部外相の中立義務に對する聲明を全幅的に支持する旨を聲明 (戰況)第一次ブリーゲ、ソビエト海軍、空母二隻、巡洋艦四隻、法艦四隻、巡洋艦三隻、ソビエト海軍、空母二隻、巡洋艦四隻、法艦四隻、巡洋艦三隻

年(内)當りミュンヘンに於て演説「對英報復に當り、獨逸軍艦、反艦艇軍北阿、陸以降一年間の船隻喪失二百六十萬噸、内大部分は軍隊輸送船と發表 (獨)張國務總理、新京歸着

(中華)汪精衛主席、大東亞會議を終へ南(京)發着、大東亞會議の意義に關し談話發表 (中華)周佛海行政院副院長、重光外相訪問

年(内)當りミュンヘンに於て演説「對英報復に當り、獨逸軍艦、反艦艇軍北阿、陸以降一年間の船隻喪失二百六十萬噸、内大部分は軍隊輸送船と發表 (獨)張國務總理、新京歸着

(英)チャーチル、マンシオンハウスに於て演説、獨逸軍艦の前途につき根據なき樂觀を戒む (米)ルーズヴェルト、チャーチル對藩水艦隊共同宣言發表、八、九、十、三ヶ月間の状況を發表 (米)ノック、スノー、ゲンビル敗戦に關し損害甚無と嘆く (英)獨逸復興協定調印、四十四ヶ國代表參加、救済復興局新設を決定 (米)比島偽政權正副大統領ケソン及びオスマニヤの任期延長決議案上院通過 (十日下院通過) (佛)シロ、委員長を辭任、ジロー派司令官の地位は存續

反艦艇救済復興會議アトランチック市に於て開催、米代表ハート、リーマ、伊、太利管理委員設置(アイゼンハウアー)を委員長に任命 (米)ハル國務長官、モスクワ會議を終へて華府歸任

(土)メネメン、ジョグ、ル外相、カイロより歸國

十一日

(英)イデーデン外相、モスクワ、カイロ兩會議を終へてロンドン歸任、レバノン議院を宣言、アラビヤ語を公用語とする旨の憲法修正案可決

(中)汪主席、中央政治委員會に於て大東亞會議通過報告、全會一致大東亞宣言を承認

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

十二日

(英)明年年度食糧増産計畫發表、助成金政策繼續の必要を強調(戰時食糧局長官マルダイン・ジョーンズ)

(英)内閣一部改組、復興省新設、ウールトン食糧相を復興相に任命、ランカスター食糧相を復興相に任命

(英)カイロ兩會議に於てモスクワ、レバノン、英外務省、レバノン問題介入に關し公報發表、ベイルート駐英代表エドワード・スピアース、佛解放委員會に對し抗議提出

(ソ)聯、回復地域調査委員會、獨軍により破壊された各市の状況發表

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

(英)海軍令部長更迭、ダッドレー・パウンド大將の後任にジョン・トヴィー

十三日

(日)帝威確開計畫決定發表

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

(日)天羽情報局長、米英關係後經略論(ジャワ)ジャワ參議院議長スカルノ氏來

十四日

(比)朝、ラウレル大統領マニラ歸着

(日)第二次交換船帝亞丸積荷顯著

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

十五日

(日)地方行政協議會長會議首相官邸に開會(即日散會)

(日)重光外相、大東亞戰爭の本義と大東亞共同宣言の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

(日)井口情報官、重光外相の真意を闡明(大坂)

十六日

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過

(中)華北政務委員會組織條例、國務院高國功會議通過



十七日	<p>大東亞新聞大會開會、各地有力新聞社代表八十四名會同(十九日終了)</p> <p>(日)藤原銀次郎氏國務大臣親任、鈴木貞一、鮎川義介、五島慶太三氏内閣顧問に就任</p> <p>(泰)泰國政府、新遷都計畫發表、政府諸機關をバンコック、ベチャブーン、コラートに分設</p> <p>(自由インド)ボリス主班大東亞會議を終へ南京訪問</p> <p>(日)東條首相、新聞大會出席代表を午餐に招待</p>
十八日	<p>(米)ハル國務長官、上下兩院合同會議に於てモスクワ會議の經過報告</p> <p>(英)英政府、フアシスト黨領袖オスワルド・モズレー夫妻を釋放する方針なる旨發表</p> <p>(伊)伊パドリオ、新内閣を組織</p> <p>(重慶)遺英使節團王世杰以下出發</p> <p>(英)マウントバツテン、東南アジア軍司令官に正式就任</p>
十九日	<p>大東亞新聞協議會結成</p> <p>(日)大島大使スロバキヤ訪問、同國首相、内相、國防相等と會談</p> <p>(中華)王克敏委員長、滿洲國訪問</p> <p>(伊)國家保安隊を新に編成</p>
二十日	<p>(中華)國民政府、全國宣傳會議を招集</p>

一五年より一九二四年迄の壯丁を動員對ソ戰の決意を表明

(米)ハル國務長官、米英兩國政府は領土に對する佛解放委員會の地位を放棄し得ざる旨言明

占領

(戰況)第五次ブリーゲンビル島沖航空戦空母三隻外四隻撃沈ワイルン新通商協定成立

(戰況)獨逸軍ジトミール奪回(西)スペイン政府對ワイリピン親電問題に關し解決を公表

(戰況)米軍マキン

二十一日	<p>(於南京二十一日終了)</p> <p>(自由インド)ボリス首班、南京より(重慶)第七回海軍記念日行事開催</p> <p>(ベルマ)第一回國民記念日、一九二〇年の反英ボイコット開始を記念し全國に國旗敬禮式舉行</p> <p>(自由インド)ボリス首班南京辭去、上海に到着</p> <p>(勃)ブルガリヤ軍使節、トルコ政府の招請に應じアンカラ府</p> <p>(日)滿洲國緊急農地造成計畫援助方針を決定</p> <p>(日)内地産米第一回豫想六千二百五十五萬石と發表</p> <p>(ベルマ)金融國家策要綱發表、貯蓄債券の發行、中央銀行創設、戰時保險の開始等を開明</p> <p>(自由インド)ボリス首班、上海出發マニラ府</p>
二十二日	<p>(中華)華北政務委員會、徹底的剿共のため直轄行政區を擴張</p> <p>(泰)陸海空軍及び警察を統一強化、各軍及び警察最高幹部に陸海空三軍の階級を附與</p> <p>(自由インド)ボリス首班マニラよりサイゴン府、録音により再び重慶に懇ごとし南京より放送</p>
二十三日	<p>(米)食糧補助金禁止法案下院通過、上院に回附</p> <p>(米)上陸用舟艇補助艇建造五十三億弗豫算案を下院に上程</p> <p>(米)ルイス・スチュアート、露露將兵優遇措置實施を要望、教書を送付</p> <p>(米)アイゼンハウアー、米第七軍司令官ジョージ・バツトンの部下、殴打事件解決と發表</p> <p>(レバノン)ベイルート駐英代表エドワード・スピアース、レバノン共和國に對する全面的獨立附與を要望する旨言明</p> <p>(レバノン)大統領ビシヤラ・クローリ以下露露復讐</p>

タラワ兩島に上陸

(戰況)反糧輸空軍、ベルリン大爆撃(日)獨逸サモス島占領(日)赤軍チエルニヤゴフ軍ブルイシロク撤收

(戰況)反糧輸空軍、又もベルリン爆撃

二十七日	<p>(日)病院船アエノスアイレス丸 爆撃を受けて沈没</p> <p>(比)ファイレン議院、中央銀行設立法案、通貨単位決定及通貨発行に関する法案上程</p>	カイロ會談終了	(葡)ポルトガル首相サラザール博士、議會に於て中立堅持を聲明、對日外交關係報告
二十八日	<p>(獨)ゲッペルス宣傳相、ベルリン爆撃に對する報復を言明</p>	<p>テヘラン會談開始、ルーズヴェルト、チャーチル、スターリン會談(十二月一日終了)</p> <p>(伊)スファオルツア等ナポリに集會開催</p> <p>(米)職費豫算一千億ドルを九百二十億ドルに改訂する旨發表(豫算局長ハロルド・ド・スミス)</p> <p>(米)ハル長官、對獨和平説の流布は米英戰意阻害を招ふ、敵側宣傳なりと言明</p>	<p>(土)重慶駐領代理大使に現スベイン大使フルシニョを任命</p> <p>(戰況)常德城内に於て激戦中と發表</p>
二十九日	<p>(日)在支公館長會議開催(於南京三十日終了)</p> <p>(比)ラングロン市及附近四町區に對して鶏卵野菜主要食品十品目につき公定價格制度開始</p> <p>(獨)法王座に對する和平工作説を否定(外務當局)</p>	<p>伊諮問委員會初會議開催、米ロバード・マクドナルド、英ハロルド・マクミラン、ソ連ウイシンスキー、佛解放委員會ルネ・マシグリ出席</p> <p>反獨經濟復興會議終了、財政統制、補助給、歐洲地區、東亞地區の委員會任命</p> <p>(米)炭坑労働組合、協定成立、有煙炭應當り十七%値上げ</p> <p>(米)日本に對する毒ガス戰術の採用を主張(ニューヨーク・デリーニユース)</p>	
三十日	<p>(日)鮮米第二次豫想千八百萬石と發表</p>		

二十四日	<p>日獨軍事協力に關し兩國政府間に意見一致、具體的内容發表</p> <p>(中華)國民政府、蘇滿地區(徐州を中心とする一市十五縣)に儲備券、豫備券を百圓對十八圓の比率に移行する旨決定、豫備券一本に移行の豫定</p> <p>(中華)華北稅務委員會新設</p> <p>(比)ゲッペルス宣傳相、ベルリン爆撃に關し市民を激勵</p> <p>(獨)軍當局、報復的武器使用の已むなきに至つた旨言明</p>	<p>(米)下院、増稅案を二十一億四千萬弗に削減、上院に回附</p> <p>(米)上院陸軍委員會、パットン殿打事件に關しスチムソン氏の正式報告を要求</p> <p>(英)議會開院式舉行、國王ジョージ六世、對獨補政勢の激化を要望</p>	<p>(戰況)マキン、タラワ島の皇軍玉碎</p> <p>(十二月二十日發表)</p> <p>(戰況)敵二十機臺灣新竹に來襲、機銃掃射</p> <p>(獨)獨軍コマリ撤收</p>
二十五日	<p>(比)ファイレン第一回通常議會開會</p> <p>(比)ラウレル大統領、大東亞會議の意義に關し談話發表</p> <p>(比)カール・バール、ワットソン代表、大東亞會議の意義に關し談話發表</p> <p>(意)ビアン首相、議會に於て訪日の意思を表明</p> <p>(自由インド)ボース首班サイゴン發着</p>	<p>(米)スチムソン、タラワ島の損害甚大と發表</p> <p>(レ)ノン米國務省、佛解放委員會の措置に満足の意表明</p> <p>(英)ジョージ・カトル、レバノン國民に對し演説放送、大統領以下の復職、レバノン議會の再開を佛解放委員會として最大限の譲歩なる旨言明</p> <p>(英)南阿聯邦首相スマットン、新世界の構想に關し演説</p> <p>(米)支那移民禁止法撤廢案上院通過、大統領に回附</p> <p>反獨補政復興會議、印度飢饉問題の上程を拒否したる旨發表(インド聯盟總裁シンゲ)</p> <p>(ソ)憲法代表としてアルジュン・アタリヤ、間委員會代表としてアルジュン・アタリヤ</p> <p>(米)大學生空母四十九隻竣工と發表</p> <p>(五)四、六、七、八、九、十、十一月、十二月、ト夫々減少と發表(米教育局)</p> <p>(コロンビア)對獨官戰報告</p>	<p>(西)英西オレンヂ輸出入協定成立</p> <p>(戰況)第二次ギルバート沖航空戰、空母二隻撃沈</p>
二十六日	<p>(日)官廳職員の縮減内鮮案を通じ終了、職員總數七萬八千三百八十七名</p> <p>(自印)ボース首班アンダマン、ニコバル諸島接收の上改稱と發表</p>		

# 各國動向

## 米 國

### 【軍事】

ノックス海軍長官太平洋敗戦を隠蔽

——空母四十隻の建造誇示——

ノックス海軍長官は、ブーゲンビル島沖の航空戦の敗戦に關し飽迄白を切り、十一月十九日の記者團會見で、

「太平洋における反艦艇軍の作戦は豫定以上に進捗してゐる。米國艦隊は果敢活動を繼續したが、十一月

二日以来一度も日本水上艦隊とは遭遇してゐない」と述べ、海戦の事實を否定し、其の後も類かむりで押通す一方、十一月二十六日、海軍建艦状況に關する報告を發表したが、そのうちで、米國艦隊勢力は過去十一ヶ月間に二倍となつたと誇り、新艦艇のうちには四十隻の航空母艦が含まれてゐると豪語した。

——バード海軍次官補海軍の増強を豪語——

海軍次官補ラルフ・A・バードは、十一月十五日、海軍の増強について次の如く言明した。

「米國艦隊は過去三年間に軍艦三百八十三隻から八百隻以上に増強された。また米國造船所は一九四〇年の六月以來、戦艦から上陸用舟艇にいたる凡ゆる種類

の軍艦二千三百隻を建造した。」

——獨潜水艦新戦術を採用——

——對潜水艦戦米英共同聲明發表——

ルーズヴェルト大統領は、十一月九日、新聞記者團會見において、最近の潜水艦戦に關する米英兩國政府の共同聲明を發表した。聲明の内容は反艦艇側の對潜水艦戦が最近非常な戦果をあげてゐることを自畫自讃したものであるが、その一部で次の如く述べてゐる。

「ドイツ海軍は最近新潜水艦を動員し又新戦術を採用し始めた。たゞ現在迄の所反艦艇側はこの新戦術に對抗し得てゐる。潜水艦戦は依然熾烈に繼續されてゐる。」

他方、陸軍省は、これと相前後して、大西洋における對獨潜水艦戦につき次の如く發表した。

「陸軍航空部隊は從來大西洋におけるドイツ潜水艦驅逐作戦に協力してゐたが、今回これを全部海軍に委譲、陸軍はこの作戦から全く手を引くこととなつた。」

右は海軍の驅潜用飛行機及び兵員が充分となつた結果である。」

——西部沿岸の燈火管制解除——

軍當局は、アラスカ並に太平洋沿岸一帯の燈火管制を十一月一日を期して解除した。

——アラスカ防衛司令部獨立——

陸軍省は、十二月二日、西部防衛司令部を獨立させ、防衛司令官には少將サイモン・ポリヴァー・バックナーが留任する旨發表した。

——第十五空軍司令部新設——

アイゼンハワー地中海方面反艦艇軍總司令官は、十一月二日、中將カール・スパーツが地中海方面全米空軍司令官に任命された旨發表した。同時に第十五空軍の新設も公表されたが、スパーツ空軍司令官は第十五空軍並に第十二空軍を指揮することとなつた。

——アフリカ軍司令部の管轄區域——

——リベリア米軍もロイス司令官の指揮下——

陸軍省は、去る九月十八日、ラルフ・ロイス少將を司令官とする米アフリカ軍司令部の參謀長にギルバート・チーヴス代將を任命したが、十一月下旬入手したニューヨーク・タイムズ紙は同軍司令部の使命に關し次の如く報じてゐる。

「ロイス少將の司令部はアイゼンハワー地中海方面反極軸軍總司令官が統轄する區域を除き、全アフリカを蔽ふものであり、リベリアの米軍もロイス司令官の指揮下に入ることになつてゐる。同司令部の設置はソ聯並にインドに對する反極軸諸國の老なる補給組織を最大限に調整するにある。同司令部が行ふ中央統制によつて中部アフリカの航空路線並に地中海、スエズ經由の新海上路線による反極軸諸國の輸送は極めて増大されるであらう。」

ソマーヴィル補給部隊司令官歸國

十月下旬、反極軸重慶作戰會議に出席した補給部隊司令官陸軍中將ブレホン・ソマーヴィルは、十一月五日、ワシントンに歸還、直ちに白雲館にルーズヴェルト大統領を訪問して會談した。

陸海軍人事異動

十一月中判明した陸海軍人事異動は左の通り。

前在印米第十空軍司令官少將

クレイトン・ピツセル

任陸軍航空部隊情報部長

コロラド第二空軍司令官少將

デヴンボート・ジョンソン

補アラスカ地方第十一空軍司令官

代將 ウェストサイド・ラーソン

(前潜水艦驅逐飛行部隊司令官)

任陸軍第三空軍司令官

代將 ハリー・トムプソン

任アタク島司令官

少將 ラルフ・F・ミツチエル

任ソロモン水域航空部隊司令官

擬發用顏料前線に輸送

十一月五日附マンチエスター・ガーディアン紙によれば、陸軍省は同四日次の通り發表した。

「米國陸軍當局は地上部隊が手や顔に迷彩を施すための擬裝用顏料を大量に前線へ送り出した。この顏料には次の九色ある。薄緑、濃緑、灰色、淡黄褐色、土褐色、土黄色、漆喰色、赤色、オリヅ褐色、これらの迷彩色は夫々沙漠地帯或は西南太平洋戦域の環境に適切なるものである。」

ルーズヴェルト大統領

スターリン、チャーチルと會談

ルーズヴェルト大統領は、十一月二十一日、カイロに到着、翌二十二日より二十六日に至る五日間に亘り、英國首相チャーチル並に蔣介石と相會し、對日反攻作戰その他について協議した後、更にテヘランに赴き、二十八日から同地ソ聯大使館に於てスターリン並にチャーチル等ソ英首腦部と米英ソ三國會談を開催、「東西及び南の三方からの」歐州反攻作戰その他諸問題を協議した。兩會談に於ける米國代表の主な顔觸は左の通である。

大統領附總參謀長 ウイリアム・D・リーイ

海軍軍令部長兼聯合艦隊司令長官 アーネスト・キング

陸軍參謀總長 ジョージ・マーシャル

陸軍航空部隊司令官 ヘンリー・H・アーノルド

陸軍補給部隊司令官 ブレホン・ソマーヴィル

地中海方面反極軸軍總司令官 ドワイト・D・アイゼン

【外 交】

ハウアー

陸軍次官補 ジョン・マックグロイ  
 戦時海運局長 ルイス・ダグラス  
 大統領特別顧問 ハリー・ホプキンス  
 駐ソ大使 アブリエル・ハリマン  
 駐英大使 ジョン・ワイナント  
 駐トルコ大使 ローレンス・スタインハート  
 在東亞米空軍總司令官 ジョージ・ストラットメイ  
 ヤー  
 在東亞米軍地上部隊總司令官 ジョセフ・スチルウェ  
 ル  
 重慶駐屯米第十四航空部隊司令官 クレア・シエン  
 ノート  
 中東、近東派遣大統領特使 バトリック・ハーレー  
 大統領附海軍補佐官 ウイルソン・ブラウン

ハル國務長官歸國

——三國外相會談の経過を議會に報告——  
 ハル國務長官は、三國外相會談を終了し、十一月三日、モスクワを出發、歸國の途についたが、空路プエルト・リコに到着、同日、ワシントンに歸還した。飛行場にはルーズヴェルト大統領自身出迎へたが、ハル國務長官は到着後直ちに記者團に對し、次の通り述べた。  
 「予竝に他の米國代表團はモスクワで特別鄭重な待遇をうけた。會談は相互諒解と信頼友情の雰圍氣につつまれ、又とない幾多の機会を我々に提供したが、これによつて齎された凡ゆる可能性を十分具體化しなればならないことはいふまでもない。」  
 翌十一日、ハル國務長官は、ホワイトハウスにルーズヴェルト大統領を訪問、モスクワ會談の経緯に關し長時間に亙り要談を遂げた。  
 尙、ハル國務長官は、十一月十八日、上下兩院合同會議

に臨んで、モスクワ會談の報告演説を行つたが、同演説はラジオ中繼で全米に放送された。演説要旨左の通り。  
 「反極軸各國が現在最大の任務とするところは出来るだけ早く敵を撃破するにある。然しながら我々の前途には尙大きな困難と犠牲とが横たはつてゐるのであり、我々が拂ふ努力の大きさに應じて戦争の早期終結が招來されよう。」

モスクワ會談の目標は、戦争を早期に終熄せしめることと將來に對して準備を整へることにあつた。そしてこれは各國民の援助と協力とによつてはじめて實現されるべく、會談はかかる協力についての基礎をも樹立した。モスクワ會談では何等の秘密協定も成立せず、又秘密協定が提案されたやうなこともなかつた。」

ネルソン戦時生産局長官歸國

戦時生産局長官ドナルド・ネルソンは、ソ聯邦及び英國の訪問を終へて、十一月一日、ワシントンに歸任した。

そして同十一日、ニューヨーク市のマディソン廣場で演説を行つたが、ソ聯訪問の結果を報告し、次の如く述べた。  
 「余はスターリン議長とも會見したが、その際、彼はソ聯が米國から受けた武器貸與額二十五億弗を完全に支拂ふ旨保障した。」

モーゲンソー財務長官歸國

財務長官ヘンリー・モーゲンソーは、三週間に亙る地中海方面の戦線視察を終へ、十一月一日ワシントンに歸任した。

駐葡公使にノーウエツプ任命さる

ルーズヴェルト大統領は、十一月九日、ポルトガル駐節公使にレイモンド・ヘンリー・ノーウエツプを任命した。ノーウエツプ新公使はポルトガル在任中特に大使の地位を與へられることになつてをり、同二十三日、空路リスボンに到着した。



駐加大使にアサートン任命さる

國務省は、十一月十一日、米國、カナダ兩國政府が今回夫々の公使館を大使館に昇格するに決定した旨發表したが、同時にルーズヴェルト大統領は、新大使に前國務省歐洲局長レイ・アサートンを任命した。

スタインハート駐土大使歸任

スタインハート駐土大使は、歸米中であつたが、十一月十二日、アンカラへ歸任した。

伊路問委員會代表にマフィー任命さる

ルーズヴェルト大統領は、十一月二十二日、今回設立された反樞軸イタリア管理委員會諮問委員會の米國代表にアルジェー駐節のフランス解放委員會に對する米國代表ロバート・マフィーを任命、マフィーの後任には前、パナマ駐節米國大使エドウィン・ウィルソンを任命した。兩名とも大使の資格が與へられたが、マフィー代表は依然としてイタリア問題に關するアイゼンハワー地中

海方面反樞軸司令官の顧問の地位を續ける筈である。國務省は右と關聯して次の人事をも同日發表した。

ヘンリー・グラディ

任反樞軸イタリア監理委員會經濟並びに行政部米國代表

サミュエル・レーバー

任同委員會政治部米國代表

駐ソ軍事機關設置

ソ聯駐節大使アヴェリル・ハリマンは、十一月四日、駐ソ米國軍事機關の設置につき次の如く發表した。

「今回常駐の米國軍事使節團がモスクワに設置された。使節團は陸軍少將ジョン・デインを團長とし、陸軍參謀總長ジョージ・マーシャル及びハリマン駐ソ大使の指令の下に英國軍事使節團と連絡を保ちつゝ、軍當局との間に緊密な協力を行ふものである。陸、海軍及び軍需補給部その他ソ聯にある米國のあらゆる軍

事的代表機關は新使節團に包含されるであらう。」

反樞軸救済復興會議開催

反樞軸救済復興會議出席のため、十一月九日、ホワイトハウスに參集した反樞軸四十四箇國代表は、反樞軸救済復興局を新設、同局長官にはハルバート・リーマンが選出された。そして同會議は、翌十日からニュージャージー州アトランチック・シティに於て開催され、約三週間に亘り將來の救済復興に關する諸問題を協議、同三十一日夜、閉會したが、會議は殆んど掛聲ばかりに終り、實質的には全く何等の結論も得ずして幕を閉ぢた形となつた。會議は結局次の四委員會を任命、今後具體的な救済復興等の研究にあたらせることとなつた。

財政統制委員會

- 委員長 米國
- 副委員長 南阿

ギリシヤ亡命政権

(第一回會合を十二月二十三日ワシントンで開催の豫定)

補給委員會

- 委員長 カナダ
- 副委員長 フランス國民解放委員會

(第一回會合を十二月十日ワシントンで開催の豫定)

歐洲地區委員會

- 委員長 米國
- 副委員長 ソ聯

東亞地區委員會

- 委員長 重慶政権
- 副委員長 瀋洲

そして東亞地區委員會は多分重慶におかれることとなる模様である。

墨勞働者對米供給協定締結



政府は墨國政府との間に一九四四年度メキシコ労働者の對米供給に關する協定を締結、その内容が十一月十七日發表された。米國は本年度既に農業勞働力不足のため、約五萬のメキシコ人を西部及び西南部地方に輸入したが、新協定によれば、明年度は大體七萬五千が一月中旬から本年と略々同地域に供給される筈である。

ハイチのゴム開發計畫取極成立

國務省は、十一月八日、最近ハイチ共和國大統領エリー・レスコットのワシントン訪問中、米國、ハイチ兩國政府の間にハイチにおけるゴム栽培計畫につき取極めが成立、ゴム開發會社は右取極めに基づき一九四四年中に約九百六十萬弗をハイチに投資することとなつた旨發表した。

フランス國民解放委員會に抗議提出

レバノンの獨立支持意圖表明

ハル國務長官は、十一月十九日、記者團會見に於て、米

國がレバノン問題に關しアルジェーのフランス國民解放委員會に抗議を提出した旨次の如く言明した。

「米國政府はレバノンの完全獨立を希望し、フランス國民解放委員會に發したメッセージに於て同政權が此の線に沿つてレバノンの危機を急速に解決する様勸告した。政府はベイルートの米政府代表ジョージ・ワーズワースに對し直ちにアルジェーに赴き、フランス國民解放委員會に對し米國の見解を披瀝すべしとの命令を發した。」

他方、レバノンの紛擾は、同二十一日、大統領ビッシャラ・クーリーに關係の釋放復權をもつて一先づ解決したが、國務省は、右に關し、同二十六日次の通り見解を發表した。

「政府は、フランス國民解放委員會がレバノン國大統領に關係を釋放復權せしめ、且、十一月十一日のレバノン議會解散命令を撤回した今日の措置に對し、

滿足の意を表明する。そも、米國のシリア・レバノン地方における權益は一九四二年米、佛兩國政府間の協定に規定せられ、爾來米國政府は同地方の完全獨立達成に對し深甚な同情を寄せ來つたが、一九四一年フランス國民解放委員會の名においてレバノン獨立が宣言されるや、米國政府は直ちに同國內に外交機關を設置してこの獨立を部分的に承認したのであり、かゝる経緯から今回の新政府樹立を深く喜ぶものである。現下東部地中海の戦局が漸次深刻化しつつある際、同地方は英國の軍略基地として極めて重大な意義を有する點に鑑み、戦争努力を阻害するが如き如何なる行動も反樞軸國家の默視し得ない處であるが、今回フランス國民解放委員會が採つた行動は眞に機宜を得たものといへよう。」

ルーズヴェルト武器貸與報告提出

ルーズヴェルト大統領は、十一月十一日、議會に對して

第十一回武器貸與報告を提出した。右報告は、武器貸與協定就中右協定による原料物資の交換及び逆貸與に關する特別教書であるが、その要旨左の通り。

「米國が武器貸與取極によつて得た大きな利益は、反樞軸諸國が樞軸諸國を擊破しようとする戦ひにおいて、その資源に努力を一つに綜合し得たことである。

これによつて反樞軸各國が共同の戦ひにどの程度の軍事的貢獻をなしたか、その程度を具體的に表示することは出来ないが、唯一つ明かなことは、米國はこれら友邦の協力によつて戦局を有利に導き得たばかりでなく、米國將兵は勿論反樞軸軍將兵多數の生命を救ひ得たことである。

本年夏、英國政府は逆貸與によつて米國の陸海軍を援助する物資のうち、従來は米國軍が購入しなければならなかつた原料物資、食料その他を包含することに同意した。



右に關する具體的な細目交渉は目下兩國政府間に進行中である。この逆貸與取極によつて、米國は無償を以て例へばセイロン島、トリニダッド島、英領ギアナ、英領ホンデユラス等の天然ゴム、南ローデシアのアスベスト、及びクローム、英領西アフリカのココア、セイロン島の錫及び椰子油その他英帝國の特産物資を入手し得るであらう。

一九四三年六月三十日現在において、英帝國は逆貸與援助費として總額十一億七千萬弗を支出したといはれるが、このうち英本國は八億七千万弗、濠洲＝ニュージールランド及びインドは三億弗を支出した。本年上半年六ヶ月間における支出額を基礎とすれば、英帝國は現在逆貸與援助費として年約十二億五千萬弗の割合で支出してゐる計算である。

以上の英國の逆貸與に關する數字は極めて不完全なもので、英國はこの外にも巨大な援助を行つてゐる。

即ち米國の武器貸與が英本國の一點を中心として行はれてゐるのに對し、英國の逆貸與援助は全世界に散在する米國軍に對し各地で個別的に行はれてゐる。例へば北アフリカ、シンリ島その他の地域にある米軍は英國から相當額の援助を受けたが、これに關する報告は未だ一切入手してゐない。

英帝國の各自治領、屬領等の對米逆貸與援助を除き英本國が米國軍に與へた援助額八億七千万弗の内譯は左の通りである。

- 物資及び勞務 三億三千万弗
  - 海軍 一億六千万九百萬弗
  - 空軍基地兵舎、病院その施設 三億七千万萬弗
- 我々は米國陸軍第八航空部隊が英本國を基地とし、英國空軍と協力の下に對獨爆撃に活躍してゐる事實はよく承知してゐるが、この作戰において米國空軍が英國から逆貸與によつてどの程度の援助を受けてゐるか

は餘りよく知られてゐない。更に英本國はそれ自身巨額の食糧を輸入してゐるにも拘らず、逆貸與によつて米國軍に對し相當額の食糧を補給してゐるが、これは野菜類、小麦粉、馬鈴薯から清涼飲料水にまで及んでゐる。

濠洲政府は、一九四三年六月三十日現在迄に米國に與へた武器貸與援助は六千七十九萬二千磅と發表したが、これを弗に換算すれば一億九千九百萬弗となる。その内譯次の通り。

- 一般補給三千九百萬弗、機械器具七百萬弗、自動車輛一千四百萬弗、飛行機部分品一千六百萬弗、銃砲部分品二千四百萬弗、運輸通信設備二千百萬弗、海運七百萬弗、建築施設その他七千七百萬弗、雜二百萬弗
- そして米國が同期間に濠洲から受けた逆貸與援助額を、數量の方面から見れば、その主なものは次の通り

である。

- 肉類六千四百四十八萬封度、パン、ビスケット等四千八百一十一萬封度、馬鈴薯二千九百七十六萬二千封度、野菜及果物四千九百九十三萬一千封度、罐詰食糧二千八百三十四萬封度、緊急食糧二百二十三萬一千封度、砂糖一千百七十八萬二千封度、バター六百六十二萬八千封度、煉乳八百七十一萬一千封度、牛乳一千五百五十萬封度、生玉子二千二百萬ダース
- 去る九月二十九日、濠洲藏相は議會に對して今年度豫算を提出したが、そのうちには約三億二千三百萬弗にのぼる逆貸與が含まれてゐた。
- 一、ニュージールランドも濠洲及び英本國に劣らない程度の逆貸與援助を行つた。ニュージールランド政府の報告によれば、同國は一九四三年六月三十日まで逆貸與費として五千百萬弗を支出したといはれるが、その内譯次の通り。



食糧及勞務二千四百萬弗、兵營六百萬弗、病院三百萬弗、倉庫五百萬弗、その他建築物七百萬弗、船舶建造六百萬弗

ニュージールランドは南太平洋全域にある米國軍に對して多量の食糧を供給し、そのために罐詰肉、乾燥肉、乾燥野菜、乾酪類等の増産を圖つてゐるが、本年六月三十日に至る一ケ年間に、同國が米國軍に與へた食糧援助額内譯次の通り。

生肉四千九百六十五萬封度、罐詰及び製肉二千六百六十萬封度、馬鈴薯九百十五萬封度、その他野菜二千四百十二萬五千封度、果物一千八十二萬五千封度、バター及びチーズ一千二百五十五萬封度、その他乾酪製品一千萬封度、砂糖七百十萬封度、小麦粉その他穀類一千三百七十二萬五千封度、その他食糧品一千四百七十七萬五千封度

インド政廳が米國軍に對しただけの逆貸與援助を

行つたかについては、未だ公式の通牒はないが、米國駐屯軍からの報告によると、インドはこのために五千九百九十萬弗を費消した模様である。

對ソ武器貸與狀況

海外經濟局長官レオ・クロリーは、十一月十六日、去る九月末までのソ聯に對する武器貸與狀況を次の如く發表した。

一、對ソ武器貸與開始以來去る九月末までの貸與總額は三十二億八千七百四十七千弗でその内譯次の通り。  
武器十八億五千三百六十五萬六千弗、工業品八億八千四百三十六萬九千弗、食糧および農産物五億四千九百二萬二千弗

一、これを物資別に見れば次の通り。

飛行機六千五百機、戰車三千臺以上、自動銃十二萬五千挺、貨物自動車十四萬五千臺、戰闘自動車(ジープ)二千五百臺、野戰用電話機二十萬個、野戰用電

信線七十萬哩

一、ソ聯に供給された工業品は同國の軍需生産擴大に大いに役立つたが、その内譯次の通り

銅及び鋼製品百萬噸以上、非鐵金屬三十萬噸以上、化學製品及び爆發物三十萬噸、石油製品五十萬噸、金屬切削機械一萬七千以上

海外經濟局食糧武器貸與狀況發表表

——海外經濟局官制並に陣容——

海外經濟局は、十一月十八日、本年一月以降九月末に至る武器貸與法による食糧輸出狀況を次の如く發表した。(括弧内は前年同期比率)。

肉類總量一、七二八百萬封度、國內肉類全産額に對する比率九・六%(五・八%)  
牛乳二、九一一百萬封度、三・二%(三・四%)、ソ聯向  
バター四二二百萬封度を含む)  
乾燥卵六二二百萬封度、一〇・六%(一〇%)

食用油脂七三三三萬封度、一三・九%(一三・二%)

罐詰魚類一六三三萬封度、二二・二%(二二・五%)

罐詰果物八四四萬封度、二二・五%(一・七%)

乾燥果物二〇七百萬封度、二二・一%(一五・七%)

罐詰野菜五九百萬封度、一%(〇・八%)

乾燥豆二二八百萬封度、一〇・三%(五%)

乾燥豌豆八四四萬封度、一四・二%(六%)

玉蜀黍及び同製品二九五萬封度、〇・一%(〇・一%)

小麦及び同製品八三七百萬封度、〇・九%(〇・三%)

尙、十一月初旬現在の海外經濟局(Foreign Economic Administration)の官制は次の通りである。

一、總裁・副總裁・顧問・參與

一、總裁官房

總務、企画、組織、人事、經理、管理の六部、官

房主事

一、局・部・課

一、局・部・課

一、補給局

(1) 物資購入部

諸外国に對する物資補給斡旋、物資開發事業、米國への物資輸入(商品別各課にわかれる)

(2) 對外補給部

諸外国のための必要物資集積、戦時生産局及び戦時食糧局への物資割當申請、武器貸與計畫物資の輸出企画、一般輸出管理(商品別各課を含む)

(3) 物資集散部

物資の輸送、貯蔵、技術的指導

二、地域局

國務省と連絡の下に各地域別の經濟活動方針決定、軍事行動との調整、現地各機關との調整等に當る

(1) 占領地域部

(2) 敵性地域部

(3) 中立地域部

一、人的構成

總裁 レオ・クロウリー

副總裁 ラフリン・キユーリー

顧問 ヘンリー・レイリー

顧問 パーナード・ネレンバーク

参 與 ジョーン・ヴィンセント

總裁官房 オスカー・コックス

補給局長 ウイリアム・シユーバート

地域局長 ジェームス・マツカーミー

【一】 般

大統領食糧特別敎書内容

ルーズヴェルト大統領は、十一月一日、議會に米國の食糧事情を説明した廣汎な特別敎書を送つたが、その内容次の通り。

「米國食糧政策の第一の主要目標は、我々の需要に適

合した食糧を最も能率的な方法をもつて生産するにある。そして我々の食糧需要は、第一に軍隊の需要、第二に國內における一般民衆、第三に反轉軸諸國の必要に應ずるために輸出すべき食糧である。食糧政策第二の主要目標は、民衆向食糧が全米國民に出来るだけ公平に分配され、同時にこれが妥當な値段で配給されることを期するにある。今次大戰における食糧生産の増加割合は前大戰當時の増加割合に比し遙かに大きい。

たとへば一九三五―三九年の平均食糧生産高を百とすれば、一九三九年のそれは百六、一九四二年は百二十六、一九四三年は百三十二に達する豫想である。これに對して一九一四年の食糧生産高は八十一、一九一八年、一九一九年ともに九十であつた。即ち今次大戰勃發以來四年目の一九四二年までに米國が實現した食糧生産増加高は、前大戰同期のそれに比し二倍以上に達してゐる。一九四二年の食糧生産高は有史以來最大のもの

であつた。しかるに一九四三年の生産高は、天候條件に恵まれなかつたにも拘らず、前年のそれを突破することが豫想されてゐる。即ち穀物收穫は前年よりやや減少する豫想であるが、家畜の増加は著しく、食糧全體としては約五パーセントを増加しよう。かうした記録的増産は、労働力不足、農業機械不足、肥料不足といふ三つの大障礙を克服してなされた。先づ農業労働力不足克服のために農村以外の都市村落からの労働力の動員が行はれ、一方學生生徒の農業動員も行はれた。更に外國からの労働者輸入も實行された。たとへば本年に入つてからメキシコから四萬八千五百人、バハマから四千七百人、ジャマイカから八千八百人がそれぞれ輸入され、絶対不可欠な農業労働者に對しては召集延期の特典も與へられた。次に農業機械の不足が招來されたが、政府は戦時における農業の重要性を認め、一九四四年の農業機械用としては本年分の倍額の鐵鋼を配分した。

一方、食糧需要の増加は大體三方面からやつて來た。このうち最大の需要増加は國內民需の増加で、第二の増加は今や九百萬に達した米國軍隊の消費である。

現在米國軍隊一月の食糧消費額は、肉類三億二千八百萬封度、卵三千四百萬打、バター二千八百萬封度、馬鈴薯二億二千百萬封度に達してゐる。更に武器貸與による外國への食糧供給額も漸次増加してゐる。即ち一九四一年には、武器貸與食糧輸出額は、米國食糧生産總額の二パーセントに過ぎなかつたが、一九四二年には約六パーセントとなつた。本年はソ聯における食糧不足の激化およびその他の地區の需要増加によつて多分十パーセントに達するものと豫想される。一九四一、四二兩年に互り武器貸與食糧最大の供給を受けた國は英國であつたが、一九四二年ドイツ軍がウクライナを占領するとともにソ聯に對する食糧の供給は大いに増加されなければならなかつた。事實、ソ聯は一九四三

年上半期において米國が輸出した武器貸與食糧の三分の一を受け取つてゐる。

かくして米國軍および反極軸軍の消費する食糧は、一九四三年十月一日から始る一ケ年間に於いて、米國で生産する全食糧額の四分の一に達しよう。従つて米國內民需はこの四分の三以内で賄はなければならぬ。しかしながら米國は一方においては反極軸諸國から逆貸與として多量の食糧の供給をうけてゐる。例へば米國は遠洲およびニュージラランドのみからでも、米國が武器貸與法により全反極軸國に輸出したバターの五五パーセント、羊肉の一六パーセントに及ぶ供給を受けてゐる。戦時食糧局は一九四四年の作付面積として三億八千萬エーカーを豫定してゐるが、戦時食糧局は、余の承認を得、議會に對し商品金融會社營業年限の延長および貸付限度の擴張を要請した。これにより戦争終了後二一年間に互り食糧價格の崩壊を阻止し得よう。戦時にお

ける食糧の増産を確保するためには、農家に對して相當の利益を保障する必要あり、同時に消費者に對しては食糧價格が過度に上昇しないことを保障しなければならなかつた。この二つを同時に達成するためには政府資金の使用が必要とされたのであり、一九四四年の食糧増産計畫が擴大されるとともにこの政府資金も増額されなければならぬ。商品金融會社による一九四三年の食糧助成金額は八億弗であるが、これは僅か三日間の戦費に過ぎず、しかもこれによつて、一年間に互り食糧の増産と低廉な價格とが保障されるのである。

政府の現在までの食糧政策が決して失敗に終つたものでないことは、次の數字によつても明らかであらう。即ち一九三五年—三九年の戦前五年間における農業經營者の平均年收は四十六億六千八百萬弗、一九三九年のそれは四十四億三千萬弗と減少したが、一九四二年には九十五億弗となり、本年は更に増加して百二十四

億七千五百萬弗になるものと推定される。勿論過去に

おいて間取引の存在、配給の不正等があり、また食糧關係機關の混亂、或は能率低下等の現象が発生したことは事實であるが、今や食糧機關は統轄され、間取引その他食糧政策の缺陷は急速に是正されるであらう。政府の價格維持政策は、生産の増加および消費者に對する安當な價格維持の兩分野において相當の成功を示してゐる。現在の政策を拋棄すれば、必ず生計費の高騰を招來すべく、延いては労働者賃金の引上要求をも誘致し、かくして深刻且危険なインフレーション發生の端緒とならう。インフレーションは阿片吸飲者が次第に深みに陥つて行くのと同じやうなものであつて、余は議會にせよその他如何なる機關にせよ、インフレーションの最初の一服をとるが如き政策には飽迄も反對するであらう。

下院議事委員會助成金禁止法案可決

下院議事委員会は、十一月十七日、助成金禁止法案を可決、これを同十八日から下院本會議の討議に附することとなつた。政府の助成金就中食糧助成金支出は、今夏大統領が拒否権まで行使した結果、一九四四年一月一日まで存続を認められた（國際月報第三十二號第一〇七頁参照）が、議會再開とともに、議會側は、新に食糧助成金支出禁止法案を提出した。そしてこの禁止法案が下院の議事委員會を通過するまでには、政府と議會との間に何等かの妥協が成立するのではないかと思はれてゐたが、議事委員會は右の如く何等の修正をも施さず食糧助成金禁止法案を可決した。

これによつて食糧助成金を繞る政府對議會紛争惹起の可能性は再び生じたわけである。

下院歳入委員會増税案削減

政府提出の増税案を審議中であつた下院歳入委員會は、十一月十一日夜、増税總額を二十一億四千二百九十

萬弗に削減して、本會議に廻付した。委員會に提出された當初の増税案は總額百五億弗に上る大増税案であつたが、委員會は約六十億弗の個人所得税増徴案をはじめ消費税、法人税、販賣税等重要税目に互る増徴案を殆んど全部否決乃至は大削減を加へたのであつて、僅かに委員會を通過した重要税目は、法人税中の會社超過利得税、消費税中の酒類消費税或ひは郵便等數税目に過ぎず、全く完膚なきまでに修正、削減された。その結果、委員會を通過した増税案は原案の五分の一にも過ぎないものとなつてしまつた。

尙、同委員會は、十一月二十一日、増税案削減の理由を説明した次の報告を發表した。

「國民一般の課税負擔力は既にその限度に達し、この際委員會が承認した額以上の課税を強行すれば必ず無理を生じ、恐るべき結果さへ招來される惧がある。政府はインフレーションを防止するために尨大な増税

が必要であると言つてゐるが、これは口實に過ぎず、政府が眞にインフレーションを防がうとするならば、その支出を削減すべきである。」

モーゲンソー増税原案の復活を要求

モーゲンソー財務長官は、十一月三十日、本年度増税案審議中の上院財政委員會に出席、あくまでも政府原案の復活を要求して、次の如く述べた。

「政府の原案である百五億弗の増税は戦費を支辨するために必要な最少限度のものである。又、國民負擔もそれ程過重とはならず、充分新増税に堪へ得るであらう。増税を差控へて戦費支辨に支障を與へるときは戦争を益々長期化せしめ、結局國民に一層大きな財政的犠牲を要求しなければならなくならう。」

國際協力案上院通過

上院は、去る十月外交委員會が採擇した國際協力に關するコナリー決議案を審議中であつたが、十一月一日、

モスクワ會談で四國宣言が決定された結果、ポール議員以下十四名は、同宣言が大西洋憲章の精神に則した平和建設の基礎であるのに鑑み、右趣旨を容れてコナリー案を強化することを要望した。コナリー委員長、グラス、ヴァンデンバーク等は、これに賛成し、四國宣言第四項を挿入したコナリー修正案を本會議に提出したが、十一月五日、表決の結果、八十五票對五票の壓倒的多數をもつて可決された。反對投票を行つたのは所謂孤立派の議員であつたといはれる。

決議案の内容は左の通りである。

一、一切の敵に對し戦勝完遂迄戦ふべし  
一、米國は公正且名譽ある平和獲得のため戦友諸國と協力すべし

一、米國は立憲的手續を経て、侵略防止、世界平和保持の實力を具有する國際權力の樹立及び維持のため自由且主權的な諸國と協力すべし

一、上院は、國際平和及安全維持のため總ての平和愛好諸國の主權的平等の原則に立脚し、大小を問はず右諸國全部の加入に開放せられたる全體的國際組織を可及的速に樹立するの必要あるを認む

一、本決議の目的を達成するため米國政府を代表し、他の國家乃至國家聯合との間に締結せらるる條約は、米國憲法に遵據し、出席議員三分の二以上の賛成による上院の助言及び同意によつてのみ成立すべし。

支那移民禁止法撤廢案兩院通過

支那移民入國禁止法撤廢案は上院移民委員會で審議されてゐたが、十一月十五日に至り滿場一致をもつて、同委員會を通過、上院本會議に廻附され、そして同二十六日に至り、漸く上下兩院の審議を完了したので、大統領署名のため上院から白票館に廻附された。下院に上程されてから殆んど一年間、賛否兩派の間に喧しい論戰を展開したこの法案も、結局實質的には割當制によつて一年

百五名の支那移民の入國を認めてゐるに過ぎず、正に米國得意の空手形政策の標本といへよう。

州知事選挙に共和黨大勝

一九四四年大統領選挙の試金石として注目される地方選挙は、十一月二日全米にわたり一齊に行はれた。米國地方選挙の非公式な綜合戦果は豫想通り共和黨の大勝となつたが、この主なもの次の通り。

- ニューヨーク州副知事選挙  
共和黨ジョー・ハンレー當選、民主黨ウィリアム・ハスケル落選
- ニュージャージー州知事選挙  
共和黨ウォルター・エツチ當選、民主黨ヴィンセント・マーフィー落選
- ケンタッキー州知事選挙  
民主黨ライター・ドナルドソン當選、共和黨シメオン・ウイリス落選

フィラデルフィア市長選挙

共和黨バーナート・サミュエル當選、民主黨ウィリアム・プリフト落選

更にデトロイト、サンフランシスコ兩市の府長選挙では無黨派選挙が行はれたが、デトロイトでは前市長エドワード・ジェファーズが、サンフランシスコではロージヤー・ラブハムが當選した。

ブリツカー立候補聲明

オハイオ州知事ジョン・ブリツカーは、来るべき大統領選挙戦に對する共和黨の有力候補と目されてゐたが、十一月十一日、新聞記者團に對して一九四四年五月に行はれるオハイオ州の共和黨大會選挙戦に候補として立つ旨正式に聲明した。共和黨からは既にウィルキーが立候補聲明を行つてをり、共和黨は既に二名の候補が正式に名乗りをあげたわけである。

生計費調査委員会任命

ルーズヴェルト大統領は、十一月五日、新聞記者團との會見で、戦時労働局委員のうちから選出した五名の委員をもつて生計費調査のための特別委員会を設置した旨發表した。右委員會の構成次の通り。

- 委員長兼一般代表  
ウィリアム・デーヴィス(戦時労働局長官)
- 労働代表  
ジョージ・ミーニー(労働總同盟)、R・J・トーマス(産業別労働組合)
- 資本家代表  
H・B・ホートン(シカゴ橋梁、鐵合社重役)、ジョージ・バット(デューガン兄弟商店副社長)
- 右委員會は、今後六十日以内にその報告を大統領の下に提出する筈であるが、生計費問題をめぐつて最近極めて困難な問題が続出してをり、諸労働争議或ひは議會における食糧助成金問題等いづれも究極は生計費問題にし

てゐるので、今回特に右委員会の設置により、生計費の趨勢を明らかにし、紛争解決の基礎資料を得ようとしてゐるものとみられる。

九ヶ月間の國民所得一千三十億弗

財務省は、十一月十一日、本年の國民所得が一月以降九月末までに總額一千三十億八千八百萬弗に達し、未曾有の記録を示したと発表した。

通貨流通高總額百九十二億弗

財務省は、十一月中旬、去る十月三十一日現在の米國通貨流通高は過去のあらゆる記録を破つて總額百九十二億弗に達し、これを國民一人當りにすると百四十弗になると発表した。前大戦における米國參戰二年目の同日の通貨流通高四十億弗であつた。

炭坑罷業解決

不登を傳へられた東部炭田労働者は十月三十日夜半の罷業休戦期満了と共に續々罷業を開始したので、ルーズ

ヴェルト大統領は遂に強権を發動し、期限附復業指令を發したが、同期限満了の十一月三日午後に至り、急轉直下

解決、燃料長官ハロルド・イツキーズと炭坑労働組合委員長ジョン・ルイスとの間に暫定的新賃銀契約が成立した。

一方、ルーズヴェルト大統領は、炭坑労働組合と經營者との直接賃銀交渉を看視するため、同十二日、委員會を任命した。

ルイス炭坑労働組合委員長は炭坑經營者代表と會見、恒久的賃金契約の締結交渉を進めたが、同交渉は月末に至り急速に進んだ模様である。

イツキーズ石炭増産を自讃

燃料長官ハロルド・イツキーズは、十一月二十八日、米國瀝青炭生産が最近増加した旨左の如く述べた。

「十一月三日に政府と炭坑組合との間に成立した新賃金契約に基づき完全復業をみた最初の一週間、すなはち十一月二十日に終る一週間の瀝青炭生産高は、千二

百七十萬トンと見積られ、實に過去十六年間の週別生産最高記録を示した。右生産高は十六年前の一九二七年三月の週別生産高千三百三十二萬トンよりは低いが、當時の生産増加は炭坑罷業の兆があつたので、これに先んじて遮二無二増産が強行された結果に外ならない。なほ現在迄の週別生産高中の最高は一九二六年十二月四日に終る一週間の一千四百五十五萬一千トンであるが、本年十一月二十日に終る一週間生産高が突

如として過去の最高記録に比肩し得るまで増加したことは、新賃金契約が炭坑の完全操業を阻害する最大の障害物を除去したといふ余の屢次の確言を裏書するものであり、また右契約が労働者の採炭能率を増大させる充分な要因となつてゐるものと認められなければならない。」

鐵道従業員の總罷業氣配濃厚

漸次不登の氣配を濃化してゐた全米鐵道従業員組合は、

大統領の任命した鐵道従業員賃金要求調査特別委員會が十一月八日に發表した賃金調停案を拒否し、十一月二十六日夜、罷業投票を行つたが、その結果は絶對多數で十二月末日を以て罷業を敢行することに決定したものとみられる。

「小鐵鋼様式は斷乎堅持」

—— 労働局長官強硬聲明 ——

以上の如く炭坑總罷業が一應解決したのと入れかはりに、鐵道従業員の總罷業が勃發する形勢になつたが、産業別労働組合系諸團體は相次いで現賃銀契約の基準たる小鐵鋼様式の廢棄を要求、國內労働界は物情騒然としてゐる。しかも、戦時労働局長官ウィリアム・デーヴィスは、十一月十一日、新聞記者會見において、恰も労働者組合側要求に挑戦するかの如く、政府は飽くまで小鐵鋼様式を堅持する方針である旨を聲明、一大波紋をまき起した。聲明要旨左の通り。





「戦時労働局はあらゆる賃金契約の基準として現在の小鐵鋼様式を断乎堅持する方針であり、現在の事情の下では廢棄し得ないことは勿論、労働局においてもこれを廢棄する如き意志は毛頭有してゐない。余は決して労働者側の要求に屈服しはじめたのではなく、又、賃銀安定政策の如何なる部分においても屈服する意圖はない。余は労働局長官として、又米國市民として、現在の賃銀政策こそ米國の労働者に必要不可欠のものであると信じ、それを維持するためには最後まで戦ふであらう。」

産業別労働組合議長再選

フィラデルフィアで年次大會開催中の産業別労働組合は、十一月五日、現議長フィリップ・マレーを議長に再選した。マレーの議長選出は今度で四回目である。

十月中の飛行機生産高八千三百餘

ネルソン戦時生産局長官は、十一月二日、十月中の米

國飛行機生産高につき、例によつて尠大な數字を羅列し、次の通り發表した。

十月中の飛行機生産高は八千三百六十二臺に達し、最高記録を樹立した。

・十月中の重爆撃機の生産高は月産高としての最高記録に達した。

右月産高は大統領が開戦直後發表した米國の飛行機生産目標年産十萬臺の一月當りの比率を若干超過してゐる。

十月の月産高は八月の月産高七千六百十二臺より七百五十臺増加し、九月の月産高七千五百九十八臺より七百六十四臺増加してゐる。

十月中の進水船舶高百六十萬噸餘

戦時生産局長官ドナルド・ネルソンは、十一月二十一日、造船の進捗を左の如く揚言した。

「米國において十月中に進水した船舶は百六十六萬重量噸にも上り、本年中の累計では千五百二十九萬二

千噸に達した。」

尙、海軍委員會は、十一月三十日、米國の造船状況につき次の如く發表してゐる。

「一九三八年一月一日以來現在までに米國が建造した商船隻數は二千四百七十三隻である。

このうち本年一月以降十月末までに建造した隻數は一千五百二十四隻であり、その噸數は一千五百五十萬一千六百二十四噸である。」

戦時動員局内に新機關設置

戦時動員局長官ジェームス・バーンズは、十一月六日、同局内に各種戦時活動の調整、統合をはかる一部局を新設し、同局長に米國軍需工業の權威とされるバーナード・バルーチを任命した。新局設置に關するバーンズ戦時動員局長官の發表要旨左の通り。

「新局は戦争政策及び將來の問題を調整し、これ等に關係のある政府各機關の計畫、政策の統一をはかる

ことを目的とする。そして新局が最初に手をつける問題は、最近作戦計畫の變更によつて生じた軍需計畫その他の調整であらう。この調整は米國戦争遂行の能率を益々高めるとの見地から行はれるべく、關係各機關の協力が必要である。バルーチ新局長は十一月九日これ等關係機關の代表と特別會議を開いて、即時實施すべき統一調整計畫を協議する筈である。」

米洲各地からの天然ゴム輸入高

政府は、十一月十六日、本年一月以降九月末までに米洲各地から輸入した天然生ゴムの噸數を發表したが、昨年同期に比し百四十五%の増加となつてゐるにも拘らず、政府が豫定した天然ゴム生産計畫には遙かに遅れてゐる。即ち米國政府は米洲における天然ゴム生産高として、一九四三年三萬噸、一九四四年五萬噸を豫定したが、本年九ヶ月の實績は僅々その三分の二程度を達成したに過ぎない。輸入先別の内譯次の通り。(單位噸)



	本年	前年
ブラジル	九、七四一	三、三五五
ベリウイ		
メキシコ	五、五九三	三、六八八
中米	一、九〇三	一五九
其他	二、三三二	七六二

尙、米國政府は米洲各國との間にゴム生産に關する協定を結んでゐるが、最近判明した所によると、ブラジルとの間には同國の消費分として一萬噸を、ベリウイアとの間には同じく二百五十噸を残り、残り全部は米國が買上げる協定を結んでゐる。

九ヶ月間の對米洲貿易狀況

商務省は、十一月二十三日、本年一月以降九月末までの對中南米貿易狀況に關する報告を發表したが、米洲諸國からの物資買入れの増加に伴ひ、大部分の國々に對し輸入超過となつてゐる。主要各國との貿易情勢次の通り。

輸入超過の増加した國	一九四三年	一九四二年
キューバ	一九四三	一〇三
アルゼンチン	七三	六六
チリ	七八	六二
コロンビア	四三	三七

輸入超過の減少した國

ブラジル	五一	五二
------	----	----

輸入超過より輸出超過に轉じた國

メキシコ	一四	一九
------	----	----

輸出超過の國

パナマ	一一	一六
ヴェネズエラ	二一	二〇

海保料率改定

ジャーナル・オブ・コマース紙報道によれば、米國海上保険料率は十一月二十六日以降左の如く改定されることになつた。(單位%)

- 一、米國より左の地區に至る
  - エチオト、紅海、アデン 六
  - アフリカ西岸(オレンヂ河以北) 四・五
  - 南阿聯邦、アフリカ東岸 五
- 一、カナダ及び米國大西洋沿岸(但しジャクソン・ヴィル以北)より左の地區に至る
  - 西インド諸島 三・二五
  - 南米北岸(但し佛領ギアナ、ケイエンス以南) 三・二五
  - メキシコ、其他中米東部沿岸 三・二五
  - 南米東部沿岸(ケイエンス以南) 三・五
  - 南米西岸 一
  - メキシコ及び中米西岸 一
- 一、カナダ大西洋岸より左の地區に至る
  - 米國大西洋岸 三・二五
  - メキシコ灣岸 三・二五

英國

【軍事】

國王樞軸軍に對する攻勢揚言  
議會は、十一月二十四日、新會期に入つたが、國王ジョージ六世は開院式に當り、世界戦争の現狀を檢討した後、「ドイツ軍に對してのみならず、日本軍に對しても一層熾烈な攻撃を開始しなければならぬ」旨述べた。

英軍代表を重慶に派遣  
首相チャーチルは、十一月五日、英軍代表を重慶に派遣してゐる旨言明したが、この英軍代表カルトン・ド・ワイトは本年六十三歳、英國陸軍の古參中將で、チャーチルと蔣介石との連絡掛として、重慶駐劄特派軍事代表に任命されたものといはれる。

尙、十一月二十六日重慶發ロイター電によれば、グリム

ス、デール少將以下若干名の英國將兵が重慶市内に常駐してゐる模様である。

米英共同作戦に二十五億弗支出

十一月二十九日の空軍省発表によれば、政府は、米英協同作戦強化の見地から二十五億弗を新に支出したが、このうち五億五千二百萬弗は米第八空軍の飛行場及び格納庫の建設に充當される豫定といはれる。

海軍新元帥任命

海軍省は、十一月十三日、海軍元帥グッドレー・パウソンの死去に伴ひ、海軍大將ジョン・トウヴェイがそのあとを襲つて海軍元帥に任命された旨發表した。同人は歐洲戰爭開戦當時から一九四三年三月まで英本國艦隊司令長官の職にあり、その後英國沿岸哨戒基地司令長官に任命された。

尙、海軍元帥に昇進するためには主要艦隊司令長官乃至海軍大臣の經歷を有するか、特別の功勞のあるかが必要

とされるが、現在この資格を備へるものは同人のみであつたといはれる。

海軍人事異動

十一月中に判明した主な異動は左の通りである。  
海軍大將 ジョン・トウヴェイ  
任海軍元帥

オークネー及びシエツトランド司令官

任海軍中將 サー・ライオネル・デー・ウエルズ

任海軍大將

海外陸上勤務海軍少將 エー・エム・ピーターズ

任海軍中將

(以上十一月十二日附)

任巡洋艦隊司令官 海軍少將 エー・デー・リード

任海軍省信號局長 海軍少將 エル・ヴィ・モーガン

(以上十一月十八日附)

【外 交】

ルースヴェルト、スターリン等とチャーチル首相會談

チャーチル首相は、十一月二十一日カイロに到着、翌二十二日より二十六日に至る五日間に亘り、ルースヴェルト並に蔣介石と會談、對日反攻作戦その他に關し協議した後、更にテヘランに向ひ、二十八日から同地ソ聯大使館において米英ソ三國會談を開催、東西及び南の三方からする歐洲反攻作戦その他諸問題を協議した。

尙、チャーチルは、二十七日には、ソ聯代表スターリン首相に對し、英國王よりのスターリングラード市民英雄的防衛記念贈品として一振の劍を傳達したが、同傳達式には、ルースヴェルト、モロトフ、イーデンその他の英ソ兩國隨員が參加、儀仗兵堵列、兩國歌吹奏の中にチャー

チルとスターリンとは簡単な挨拶を交換した。又、三十日には、在テヘラン英國公使館に於て、チャーチルの第六十九回誕辰記念晩餐會が開催され、ルースヴェルト、スターリンの外隨員、チャーチル令嬢及びルースヴェルト令息等も出席したといはれる。

次に、兩會談に出席した英國代表の顔觸は左の通りである。(尙、東南アジア反輻軸軍總司令官ルイス・マウントバッテンは、カイロ會談のみに出席し、テヘラン會談には出席しなかつた。)

外 相

アンソニー・イーデン  
海軍軍令部總長 アンドリユー・カニングガム

戰時運輸相 フレデリック・レザース

陸軍參謀總長 アラン・ブルツク

空軍總司令官 チャールス・ボータル

在華府合同參謀本部英側代表元帥 ジョン・デイル

東南アジア反輻軸軍總司令官

ルイス・マウントバットン

地中海方面反樞軸空軍總司令官

ウイリアム・テツグー

奇襲部隊司令官

ジョーセフ・レイコツク

國防會議幕僚長

ヘイスティングズ・ライオネル・イズメイ

陸軍主計總監

リッデル・ウエブスター

外務次官

アレクサンダー・カドガン

駐ソ大使

クラーク・カー

重慶特派軍事使節

カールトン・ワイアート

駐イラン公使

リーダー・ウイリアム・ブラード

在ソ軍事使節團代表

ジフアード・ル・ムスネ・マートル

イデーデン外相歸國

——三國外相會談經過を議會に報告——

外相イデーデンは、モスクワにおける米英ソ三國外相會談

終了後、カイロにおいてメネシヨグル土外相と十一月五日、六日の兩日に互り會見を行ひ、十一月十日午前空路ロンドンに到着した。そして、十一月十二日、下院に出席、モスクワ會談の結果について報告した。その要旨左の通り。

「歐洲諸國委員會は歐洲に關聯する一切の問題を検討するための外交上の新機構である。同委員會は間もなく設置されるが、米英ソ三國政府に對する共同の勸告案を検討且提出し、更に三國政府の付託するあらゆる問題について検討を加へるのがその任務である。委員會は要するに諮問機關であり、執行機關ではない。そして、戰爭遂行の主要任務は米英ソ三國が擔當してゐる以上、今回まづ三國代表を以て委員會が組織されたのは當然である。

イタリヤ國內における反樞軸軍の軍政については、米英兩國代表からソ聯代表に事情を報告し、率直な討議の結果、イタリヤ國民に關する政策につき米英ソ三國政府

の共同聲明が發表されたが、更に經濟上の諸問題についても、三國代表間に率直な意見の交換が遂げられた。

今回の會談ですべての問題が片付いたとは言へないが、相互に相手方の見解を熟知することは出来た。そして、率直且善意をもつて意見の交換が行はれたので、今後最も困難な問題についても、交渉の進捗を期待することが出来るであらう。」

イデーデンが最も困難な問題と稱してゐるのは、要するにソ聯の西方國境線に關する懸案と解されるが、イデーデンは更に重慶政權を交へた四國共同宣言に言及し、

「右宣言は米國代表ハルの提案にかかるが、宣言が纏つたのは同代表の政治的手腕による。」

と御世辭を列べ、最後に英土會談に關して、極めて控へ目に次の通り述べた。

「トルコ外相とは、モスクワ會談の結果に照して、全般的情勢につき意見を交換した。トルコ外相は會談

の結果を報告するためアンカラに歸任したが、差當つて自分としてはこれ以上言明出来ない。」

武器貸與白書發表

政府は、十一月十一日、白書をもつて米英兩國間の武器貸與協定運營狀況並びにその他反樞軸諸國に對する武器貸與狀況を發表した。しかも、これと殆ど同時に米國側も大統領の議會に對する教書の形式をもつて、武器貸與報告を行つてをり、米英兩國政府は豫め打合せの上今次發表をなしたものとみられる。白書要旨左の通り。

一、英國は、一九四三年五月末までに武器貸與協定に基づきソ聯に對して飛行機四千六百九十機（輸送の途中破損せるものも含む）を供給した。英國は危険な北海を通じてソ聯に莫大な物資を送つたばかりでなく、イランを通ずる對ソ補給路をも開いた。一九四三年六月末までに英國がソ聯に補給した軍需品の額を金額に直すと大體一億八千七百萬磅となる。



一、英國が反樞軸諸國に貸與した海軍艦艇は、巡洋艦一隻、コルヴェット艦十七隻、驅逐艦十四隻、潜水艦六隻その他多数である。

一、重慶政權に對しても武器の補給が行はれたが、輸送困難のためその順調な補給は大いに阻害された。更にインドで訓練を受けた重慶軍將兵の必要物資は總べて武器貸與によつて賄はれた。

一、歐洲反樞軸諸國への武器貸與の一部は無料で、その他はクレヂットの形式でなされた。

一、米國が參戰すると共に武器貸與は從來の一方的なものから双務的なものとなつた。即ち米國から英國に對する武器貸與は軍需契約の履行、軍需品の對英補給といふ形で行はれたが、これに對する英國の對米逆貸與は、日々の戦闘において米國軍が必要とする極めて多額の軍需品供給の形をもつてなされ、特に英本國及びその屬領にある米國軍に對しては多量の補給がなされた。

れた。又戰時發明、情報等の交換も行はれた。

一、從つて、武器貸與取極めにより米英兩國が相互に援助し合つたものを具體的に數字をもつて現はすことは極めて困難であり、これを單に金額をもつて表示すれば、一般に物價高の米國が多額の援助をなした如くみられて不公平である。一九四二年七月から一九四三年六月末までの一年間に英國が米國に對してなした援助額は約三億六千六百萬磅に上る。

レバノン紛擾に介入

——ケーシー西亞常駐相急派——

西亞常駐相リチャード・ケーシーは、ベイルートに赴き、レバノン地方の騷擾につき、實地調査を遂げた後、十一月十四日夜、カイロに歸還、十五日午前フランス代表カトルーと會見し、レバノン地方の情勢につき重要協議を遂げたが、戦局上の必要を理由にフランス國民解放委員會の讓歩を強要したものと觀測される。

反樞軸イタリヤ諮問委員會代表任命

政府は、十一月二十二日、北阿常駐相ハロルド・マツックミランを反樞軸イタリヤ諮問委員會の代表に任命した旨發表した。尙マツックミランの後任にはランカスター公領相を辭任したアルフレッド・ダフクーパーが任命された。

【一 般】

チャーチルのマンシヨン・ハウス演説

十一月九日、マンシヨン・ハウスにおけるロンドン市長の恒例午餐會に出席したチャーチル首相は、ロンドン「自由市民」となつて以來最初のシチーにおける演説を行つたが、その際、

「一九四二年、余は『英帝國を清算することは、余の義務の一部分であるとは思考しない』旨を言明することを至當と信じた。そして、余は今日もなほこの信念

を堅持してゐることを諸君から隠蔽しない」

と言明したのち、この年の最大事件は赤軍の占領地域奪回であつたと述べ、ソ聯並にスターリン元帥に對して敬意を表した。次いで赤軍の戦果にお世辭を述べた後、

「今度の戦争で得た自分の經驗によれば、責任ある指導者の間の友好的且信頼的な個人的接觸が、和戦双方の一切の企圖に對して、最良の基礎を提供するといふことが分つた。故に余は米英ソ三國首腦が何とかして會見出来るやうになるであらうとの希望を依然棄ててゐない」

と言明、更に戦局の前途に關する無根據な樂觀を戒しめ、次の通り警告した。

「ドイツ國民が間もなく崩壊するであらうといふ見込に基いて計畫を立てたり報道したりすることは全く見當違である。反樞軸各國の最高の任務は先づ敵軍を打破ることである。ヒトラー總統は依然として四百箇



師團の精銳を用意してゐるから、反樞軸軍としては、一刻も油断は出来ない。歐洲においては、反樞軸軍が戦略上の過失を犯さない限り、一九四四年が戦局の山とならうが、反樞軸軍としては、開戦以來曾て見なかつたやうな激戦と死傷とを覚悟しなければならぬ。更に英本國に對するドイツ軍の新たな攻撃も決して無視してはならず、消防隊や護國團が再びその威力を發揮しなければならぬ時期が到來するであらう。

内閣改造

政府は、十一月十一日、復興省の新設と同時に次の内閣改造を發表した。

- 復興相 ウールトン (前食糧相)
- 無任所相 ウイリアム・ジョー (前食糧省政務次官)
- ランカスター公領尙書 アーネスト・ブラウ

- 保健相 ヘンリー・アームストロング
- 食糧相 大佐ジョン・レウリン

更に労働黨のベン・スマスは常駐相の肩書を以て米國へ赴き、補給問題に關する駐米英代表となり、保守黨のレノックス・ロイドは航空機製作省政務次官に任命されることと決定した。今回の内閣改造における焦點は食糧相として好評であつたウールトンの復興相就任で、またランカスター公領尙書ダークローパーは海外に轉出した。(前頁参照)

下院臨時納稅案會議

納稅制度改革は米國同様當面の問題となつてゐるが、十一月二日、下院は臨時納稅計畫案を上程討論に附した。右案によれば、新納稅制度は取敢へず年收六百磅以下の俸給に對して行はれるが、アングーソン蔵相の言明によると、將來はすべての納稅者即ち賃金俸給所得者全部に

對して適用される由である。

ファシスト首領モズレー釋放

—民衆及び労働代表の反對熾烈—

ファシスト首領オスワルド・モズレー夫妻の釋放問題は各方面の猛烈な非難を招いたが、内務省は、十一月二十日同夫妻を三年半に亙り監禁中であつたホロウエー刑務所から釋放した旨正式に發表した。

モリソン内相の下院における説明によれば、同人は過般來健康勝れず、醫師五人の診断の結果靜脈結塞惡化のため、この儘拘禁しておけば、生命に危険があるとの結論に達し、已むなく嚴重な條件の下に釋放するものであつて、同人は (イ)指定された田舎の家屋に居住し、十軒以上隣れず、(ロ)月一回警察に出頭し、(ハ)家族以外英國ファシスト聯盟員と絶對聯絡せず、(ニ)政治的活動、論說發表、公開演說等をなさざる義務を負ふものとされてゐる。各紙は、十一月十八日以來同夫妻の釋放に關する政府

の決定を大々的に報道したが、右決定に對しては、労働團體の中から猛烈な反對運動が起り、同日、労働代表が内務省に赴き、モリソン内相に會見を求め、又釋放反對の大會が各地に開催されたと傳へられる。運輸労働組合執行委員會も、同日、緊急會議を開催し、「ファシスト黨領袖を釋放することは、民主主義の理想のために戰つてゐる前線將兵に對する侮辱に外ならない。労働組合はオスワルド・モズレー夫妻の釋放に絶對に反對し、當局の再考を要請する。」との決議案を採擇した。

又、同人釋放後も民衆及び労働代表の反對運動が行はれたが、労働黨及び労働組合幹部は引續き本件に對する反對の意を表明しつゞけてゐる。

共産黨員は、二十日、ロンドンにおいて會合を行ひ、モズレーの釋放取消を要求し、容れられなければ罷業を行ふと政府を威嚇したが、歐洲中立國筋では、右釋放に

對しソ聯も不満であるとの風説が行はれてゐる。

ロンドン市民米兵の亂行に備む

英國駐屯米軍將兵の亂行には英國官憲も手を焼いてゐる様子で、十一月初旬のニュース・クロニクル紙は、

「最近米國兵の不品行振りがウエスト・エンド方面で特に顯著となつたが、これらの連中の泥酔亂暴その他の醜態は言語道斷である」と述べて居る。

結核患者増加

グラスゴー市當局は、十一月一日、最近同市の肺結核患者が激増してゐる旨左の通り發表した。

「戦前十年間におけるグラスゴー市の結核患者数は、年平均千六百名であつたが、今年度は現在までに既に二千六百名を算し、今後も激増の傾向にある。原因は過勞と栄養不良である。」

リットルトン生産相軍需生産状況報告

リットルトン生産相は、十一月十九日、ベルファーストにおいて、軍需生産状況につき要旨次の如き演説を行つた。  
「英國の軍需生産は現在未曾有の記録的産額に達し、一九四二年第一四半期に比べると五〇%方の増加である。また本年十月中の飛行機生産高も最高記録を示してをり、十月中における重爆撃機の生産は一九四二年十二月の二倍に及んだ。海軍艦艇の建造も引續き擴充され、一九四三年中における戦艦以下コルヴェット艦に及ぶ大型艦艇の完成隻数は百七十隻以上と推定される。そして、全部で二千隻以上の各種海軍艦艇が本年中に完成するものとみられる。又、英國は日本攻撃のための特別な兵器裝備、輸送手段等を極力研究してゐる。」

爆撃による死傷者數

内務省は、十一月十二日、ドイツ空軍の英本土爆撃による十月中の死傷者を次の通り發表した。

死者 一一八名

負傷、入院 二八三名

(行衛不明を含む)

尚、歐洲戦争開始以來ドイツ空軍の英本國爆撃による死傷累計は、次の通り。

死者 四八、四〇〇名

負傷者 六一、四七五名

ドイツ

「敵は國境線外一千軒に在り」

——ヒトラー總統必勝の信念吐露——

ヒトラー總統は、ナチス黨慶祝二十周年に當り、ミュンヘンのレーウエン・ブラウ酒場に臨み、ゲーリング將軍、ゲッベルス博士、ヒムラー内相、勞働戦線司令ライ博士、シエプマン突撃隊長その他ナチス黨の領袖を前に

して、約一時間に亘り戦局に對處するドイツ國民の決意を表明した。總統の演説要旨は次の通りである。

「余は同志黨起の記念日に當り、諸君と相見えて當時を憶ひ將來の方針を説くために、數時間の豫定でミュンヘンに參つた次第である。第一次世界大戦においてはドイツ軍は背後における裏切りのために崩壊したが、當時のワイマル共和国は民主主義政權であつたにも拘らず、民主主義各國のために瀕死の苦しみを経めさせられた。勿論ワイマル共和国は、ボルシェヴィーキの勝利を阻止することは出来なかつた。ボルシェヴィーキの勝利を打倒出来るのは、ひとり國家社會主義ドイツ國民だけであらう。ボルシェヴィズムと親善關係に立つことによつてボルシェヴィズムの脅威を解消させるのが一番得策であるといふ意見も聞くが、これは恰もひよこと家鴨とが狐に對し嚴肅に決して貴下を攻撃しないからと宣明し、かくして狐を肉食主義

者に轉向させやうとするのと同様であらう。ボルシェヴィズムの怪物は最後に自ら仆れるまで決して攻撃を止めないであらう。エストニア人やリトアニア人は果してウラル地方の征服を企圖したであらうか。ルーマニア人はロシアの石油を狙つたであらうか。そしてフィンランドはソ聯を攻撃したであらうか。それにも拘らず、ソ聯はフィンランドを攻撃し、エストニア人、ラトビア人、リトアニア人をウラル地方に移し、更にバルカン全土を占領しようとしてゐる。かうしたボルシェヴィーキの攻撃に對抗出来るのは、ひとりドイツ國民あるのみである。行儀をよくすることによつて、ボルシェヴィーキから何物かを得ようとするのは全然兒戯に類するナンセンスである。或はまた歐洲以外の國家が最もよく歐洲を防衛出来るであらうといふが如きは全く無批判且意思薄弱の現れに外ならない。また資本主義各國は、スターリン議長が彼等のために栗を

火中に拾ふと期待してゐるかも知れないが、スターリン議長とその一黨とは、他日必ずや資本主義各國を窒息させるであらう。そして資本主義各國が失望することは疑ひない。

今回の世界大戦が始つた當初においては、東方の敵はベルリンを去る數百軒の國境線上に在り、西方の敵は野砲の射程距離内においてドイツ本國を脅威してゐたのであるが、今やドイツ軍は殆ど至る所において敵軍を國境線外一千軒以上に驅逐するに至つた。勿論ドイツ國民は今後更に幾多の犠牲を覚悟しなければならぬが、萬一敗北する場合の犠牲に較べれば、今日の犠牲の如きは全く言ふに足りないであらう。従つて余はドイツ國民の總てに對し一切を擧げて抗戦を繼續するやう要望せざるを得ない。イタリア國王、王儲その他の裏切りは戦局の推移に影響をおよぼしたること勿論であるが、敵軍の期待は裏切られ、彼等の豫想してゐ

たことは些も實現せず、今後においてもまた實現しないであらう。

敵軍は當初疾風枯葉を卷くが如き勢ひをもつて、イタリア本土を席卷するつもりであつたらうが、右作戦は今やローマ南部における蝸牛のやうな遅々たる足取りに變つた。敵軍がイタリア本土に新たな上陸を企圖すれば、徒らに船腹を釘付けにし兵力を分散させる結果となり、しかも上陸部隊は苛烈なドイツ軍の反撃に當面するであらう。嘗てチャーチルはイタリア軍を相手にシチリア島に上陸することとドーヴァ海峡を経て歐洲大陸に乃至は北海からノルウェー又はデンマークに上陸することとは別問題であると述べたが、ドイツ軍が或る戦線において、依然として戰略豫備を手持ちにしてゐることは、ドイツ軍が弱い結果かそれとも冷靜な打算の結果か、蓋し、戦局今後の推移によつて自ら明瞭とならう。東部戦線における戦ひは、ドイツ國民が未だかつ

て經驗したことの無いやうな苛烈な抗争であるが、要するに勝敗を決定するのは最後の戦ひであり、ドイツ國民は必ず最後の戦ひにおいて勝利を占めるであらう。」

**ヒトラー總統青年將校約二萬を激勵**

總統大本營十一月二十九日の發表によれば、ヒトラー總統は、同二十日ドイツ陸海軍及び親衛隊の青年將校約二萬名を前にして、今次大戦の意義を強調すると共に必勝の信念を披瀝したが、右演説において總統は先づドイツがいかなる事情に基き自衛のための闘争を餘儀なくされたかを闡明し、次いで永遠の祖國に對する共通の信念が微動だもしない限り、ドイツ軍は常に勝利をかちえたことを指摘、ドイツ軍の全將校はいかなる場所において戦つてゐようともドイツ國民及びドイツ國の運命が双肩に懸つてゐることを銘記しなければならぬと強調した。終つてカイテル元帥が閉會の辭を述べたが、青年將校團は熱狂してカイテル元帥の答辭に呼應、舉國一丸とな





つて完勝へ邁進する決意を示した。

「盲爆に對しては復利を報復」

——ゲッベルス宣傳相國民の敢闘賞讃——

宣傳相ゲッベルス博士は、十一月二十八日、ヒトラー青年團に對する「冬期映畫時間」開始に當り、反樞軸軍の盲爆をとりあげ次の通り述べた。

「現在最も緊急な問題は反樞軸空軍の盲爆である。反樞軸軍は卑劣且つ非人道的な戰闘方法によつてドイツ國民を屈服させようといふ希望を抱いてゐるらしいが、かゝる希望は絶対に空頼みに終るであらう。反樞軸軍は正々堂々の戦ひにおいて確保出来ない勝利を安易且つ非常的な方法によつて獲得しようといふ考へからドイツ國民の士氣を挫折させようとしてゐる。第一次大戦當時における飢餓封鎖作戦と同様英軍は何ら武装せず、従つて武装した將兵よりも攻撃し易いドイツ婦女子に對し爆弾とを使用するに至つ

た。

今迄はドイツ國內の各大都市が反樞軸軍の盲爆をうけたが、今や首都ベルリンが盲爆を受ける番となつた。反樞軸軍は文化的建築物や病院、教會、勞働階級のアパート等に對し爆弾や焼夷彈に焼を投下して結局ドイツ國民が長くかゝる盲爆に耐へ切れず、士氣沮喪して無條件に降伏することを期待してゐる。反樞軸軍は無條件降伏によつてドイツ國民を奴隸と化し、ドイツ國民將來の希望を全く無くして仕舞ふ方針であらうが、ドイツ國民の全體を代表し且ベルリン市を代表して、余は、『ドイツ國民が、かうした自棄的な措置を採るやうな事態を考へることは絶対に不可能である。反樞軸軍がドイツ國民を全滅させようとするのに對し、ドイツ國民はあくまで抗戰の決意を以て對抗する。そして右決意は絶対に破砕されないであらう』と答へるばかりである。英國各紙はベルリン市民が戰争の歸趨を決定する

権限を掌中に握つてゐると述べてゐるが、果して反樞軸宣傳機關のいふが如くドイツ國民の士氣が戰争の歸趨を決定するのであるならば、その決定はすでに下されたといはなければならない。英人は自國の空軍を住宅の破壊者と呼んでゐるが、これは英空軍がドイツ軍需工業の破壊を目的とせず、最も野蠻な方法によつて婦女子を殺戮する指令をうけてゐることを自認したに外ならない。ドイツ國民は充分この事實に注意するであらう。かゝる戰闘方法に對する全世界の批判はすでに下された。ドイツ國民の回答は反樞軸軍に對する燃えるやうな憎惡である。

ロンドンにおける偽善者共が婦女子を殺戮しながら、神を證人と呼び、ドイツ國內に同志が潜在することを當てにするならば、ドイツ人に對する彼等の知識は誠に淺薄であるといふ外はない。ドイツ國民は何よりもまづテムス河畔の犯罪者に對し、復利法を以て報復する

ことを要求してやまない。ドイツ國民よ、乞ふ意を安んぜよ。報復の準備は夜に日をつけて着々進捗してゐるのである。愈々報復の鐵槌が英國國民の頭上に加へられる場合には、英國國民は、いまや晝夜を分たず平和的なドイツ市民に對し爆撃を加へてゐる彼等の空軍に對して感謝すべきであらう。しかも、ドイツ國民は今や一致團結、盲爆をうけた都市に對する救濟事業を着々進めてをり、ベルリン市民の規律と勝利に對する確信とには余もいたく感謝した。

かうした國民こそ勝利を獲得するに値する國民であり、また必ずや勝利を収めるであらう。ドイツ國民は老若男女を問はず今回の戦ひにおいて何れも祖國のたゞの英雄であることを實證し、勇氣と敢闘振りに對して前線の將兵に劣らないことを示した。現在の時局はドイツ國民にとつても最も苦しい時であるが、同時にドイツ國民史上最も偉大な時期といはなければならない。

新たなドイツ國はこゝに誕生し、着々地歩を固めてゐるのである。」

反樞軸空軍の威嚇攻撃に對し

軍當局報復決意を表明

ドイツ軍當局は、十一月二十四日正午、記者團との會見において、次の通り言明した。

「反樞軸空軍のドイツ各都市に對する威嚇攻撃は、出でて愈々甚しく、ドイツ軍においても洵に遺憾乍ら報復的武器を使用するの止むなきに至つた。各國特派員諸君もドイツ軍が威嚇攻撃と認定する反樞軸空軍の猛撃を身を以て體驗されたわけであり、ベルリン市内の住宅地區が所謂「爆彈の絨氈」によつていかに猛撃を受けたかを實驗されたであらう。既にヒットラー總統もくり返し述べてゐる通り、ドイツ軍としては決してかゝる戦争行爲を欲せず。ドイツ軍の方から非人道的戦争行爲に訴へない方針であつたが、反樞軸軍の暴狀

あくなき奮闘においては報復手段に訴へる外はない。」  
但しドイツ軍代表は、何時如何なる方法によつて報復手段に訴へるかについては、一切言明を差し控へた。

米英商船撃沈噸數三十萬六千九百噸

國防軍司令部は、十二月一日、十一月中に於けるドイツ海空軍に依る米英商船撃沈噸數を三十萬六千九百噸と發表したが、右に關し各紙は特に空軍の活躍を強調すると共に、最近南太平洋方面における日本海軍の戦果を挙げ、東西戦場の緊密な關聯性を力説した。

シエツプマン參謀長突撃隊司令に就任

ナチス黨は、十一月八日、從來司令代理の職にあつた突撃隊參謀長シエツプマンが、一九四三年十一月一日附を以て正式に突撃隊司令に任命された旨發表した。

軍需省機構強化

政府は、十一月十三日、軍需生産の飛躍的増進を図る

ため、軍需省の機構を全面的に改組した旨發表した。新機構の概要は次の通りである。

一、ニュールンベルグ市長リーベルを局長とする中央局を設置し、同局をして一切の他局の業務を調整せしめる。

一、生産は六部に依つて統制される。即ちカール部長を首班とする原料部、シェパー博士を首班とする供給部（以上兩名は紡織工業界から起用）ザウル部長を首班とする軍需技術部、シーパウエル部長を首班とする生産部（同人は動力工業界から起用）ストッペ・デスシフゼン部長を首班とする建築部、シュルツ・ワイリツツ部長を首班とする動力部の六部は、ドイツ軍需生産の中樞である。

一、省内に特別機關を設置して原料の最も有效な利用方法、經驗の交換等に關する問題を處理せしめるが、その決定に對しては、四ヶ年計畫局が最大の發言權を持つてゐる。

つてゐる。

一、前ベルリン市財務部長ヘットラウ博士並にコンメルツ・バンクの理事會員は、或る種の問題については軍需相の權能を代行し、且つ軍需省と經濟省との連絡に當る。一方經濟省が設置した通商貿易調整局をして負擔過重に陥らしめなため適切な措置を講ずる。

一、シュペヤー軍需相は、經濟省の或る種部門に對しても、命令を與へる權限を有するに至つた。即ち同軍需相は地方農事局、地方經濟局に對して命令權を行使することが出来る。

ヒトラー總統ブルガリア首相等引見

總統大本營は、十一月九日、次の通りに發表した。

「ヒトラー總統は、十一月五日、ブルガリア首相ドブリ・ボジロフ氏並に外相デイミトリ・シシユマノフ氏を引見、外相フォン・リツベントロツプ出席のもとに獨逸兩國に關係ある一切の諸問題について包括的な討議が



行はれた。ドイツ軍總司令官カイテル元帥、ドイツ軍參謀總長ヨダル將軍も右會談に参加したが、會見は獨逸兩國間の緊密な諒解並に傳統的友好關係の精神に基き行はれた。次いでブルガリア首相並に外相は外相ツオン・リツベントロツプの接待を受け、友好的な計畫が續行され、同夜終了した。

ホイニンゲン駐葡公使歸國

リスボン駐葡公使フオン・ホイニンゲン男は、十一月三日、リスボンを出發重要報告のため空路ベルリンへ向つた。

パーベン駐土大使土首相と會見

アンカラ駐葡大使フオン・パーベンは、十一月七日、サラジヨグル首相と會見、カイロ會談に關し協議したが、十五日、アンカラを出發、即日ベルリンに到着した。

アベツツ駐佛大使歸任

アベツツ駐佛大使は十一月二十八日、ベタン元帥宛リツベントロツプ外相よりの書翰を携帶、歸任した。

協定違反により瑞船抑留

外務省は、十一月六日、過般獨英兩國間に行はれた捕虜交換に際し、交換船として使用されたスウェーデン船ドロツトニングホルム號抑留事件の真相を公表、スウェーデン側の抗議非難を一蹴した。右發表によれば、獨逸兩國政府間で取決められた協定では、同船は交換船としての使命を果して後、歸航に際しては百噸までの消耗品を積載しても良いことになつてゐたのであるが、ドロツトニングホルム號は同協定を無視し、多數の敵側宣傳材料を積載したのである。以上の事實が檢索の結果判明したためドイツ當局は同船を抑留するに至つたものである。

情報部長、ノツクスの敗戦糊塗を衝く

ブーゲンビル島沖の敗戦に關し米國海軍長官フラン度困難な後方補給に當面してゐることを指摘してゐるが、兵站線が長くなると共に反艦軸軍は日本軍必殺の戦法の好餌となり、今後も損害を繰り返すばかりであらう。

ブーゲンビル島沖航空戦に關する論調

ブーゲンビル島沖數次の航空戦における大戦果がドイツに傳へられるや、ベルリン放送局では毎回特別發表を以てこれを放送してをり、相續く皇軍の大戦果にドイツ朝野は沸くが如き有様で、太平洋戦局はブーゲンビル島方面の戦闘を以て新段階に突入するであらうと一般に見られてゐる。右に關する各紙論調は左の如くである。

「嘗てノツクスは九十日以内で日本艦隊を殲滅すると『公約』したが、大東亞戦争開始以來日本軍の相次ぐ戦果に對し、何と答辯する積りであらうか。ブーゲンビル島沖の戦に關し、米國政府が敢て敗戦の事實を發表出来ない心事は察するに難くないが、太平洋戦線に

ク・ノツクスがあくまで頰冠りを通さうとしてゐるのに對し、外務省情報部長シュミット博士は、十一月十日午後、國際記者團會見で次の通り言明した。

「ノツクスは、一九四一年十二月十六日、眞珠灣の損害は單に舊式戦艦、標的艦各一隻ほか若干に過ぎないと言明したが、滿一年後の一九四二年十二月六日に米國政府は眞珠灣において戦艦八隻が撃破されたと發表した。かういふ例から見ても、ノツクスの言明は全くナンセンスで故意の偽造宣傳に過ぎないとみななければならぬ。

さらに興味があるのは、ノツクスの言明がお膝下の米國內ですら信用されてゐない事實で、十一月九日ジュネーヴを經由してベルリンに入つたニューヨーク情報によれば、ウォール街では米海軍敗戦の悲報に戦争短期終了説がけし飛んで了ひ、八日から市場が混亂状態を呈してゐる由である。ロンドン・タイムス紙も八日兩國太平洋戦線従軍記者の報道として太平洋戦線が極

おける所謂水陸兩様作戦の新たな犠牲について、米國海軍省は眞珠灣慘敗當時と同様眞相發表迄に一ヶ年を必要とするのであらうか。」(十一月十八日附ペルリナーチハトアウスガーベ紙)

「米國艦隊が日本軍の占領地帯を突破しようとする場合には、先づ日本軍航空隊を叩き潰さなければならぬ。しかし太平洋諸島における日本軍の航空基地を取り除く爲には、米軍は逐次これらの島嶼に上陸作戦を行ふことを要し、しかも上陸作戦を實行するには、老大な海軍力が必要とされるわけである。しかしながら、日本海軍航空部隊が雷撃の妙技を發揮する以上、上陸作戦に最大の戦艦を持ち出して忽ち海底の薬屑と化してしまふのである。米軍の島傳ひ飛石作戦は要するに米國海軍の自殺行爲に外ならない。」

米軍はガダルカナル島に取りついてから現在迄に既に一ヶ年半を費してゐるが、現在の島傳ひ作戦によつ

てソロモン群島からビスマルク群島を経て比島に達するには、假に彼等の皮算用通りに進んでも一年半の七倍はかかる勘定となる。」(十一月十八日附ケルニツシエツアトング紙)

防共協定締結七周年に関する論調

十一月二十七日附ドイツエ・アルゲマイネ・ツァイトング紙は、防共協定締結七周年を記念して要旨左の如き論説を掲げた。

「ドイツは、舊ロシア帝國主義的傾向を引ついでるソ聯の世界革命欲に拮抗する爲、一九三六年、日本と防共協定を締結したが、右協定が如何に政治的先見に富んだものであつたかは現在に至つて益々明瞭と成つた。スターリンは世界革命實現の爲、諸國家の共產活動を使喚する一方強大な軍備を整へて歐洲赤化に乗出したが、ドイツ及び與國の健闘によつて歐洲は赤化を免れた。」

ソ聯の歐洲赤化企圖は夙に明瞭であつたにも拘らず、歐洲始め西歐諸國はユダヤ禍の下に一九三九年以來對ソ同盟に全力を盡した。同年の獨蘇協定はスターリンが單に準備時間を得る爲に結んだものであることは今日既に諸證據に照し、疑ふ餘地のないところである。ドイツは一九四一年のユーゴ叛亂を経て益々露骨化するソ聯の陰謀封殺の爲、同年六月武力防共に乗出すこととなつた。

米國の參戰後、スターリンは金權國米國と共產國との提携を圓滑にする爲コミンテルンを解消せしめた。右は金權國を侮ます爲の偽裝手段であることは敢て説明を要しない。しかし、米英言論機關、宗教家共はスターリンのお先棒擔ぎに大童なのでコミンテルン存続の必要性はすでに消滅してゐた。この様な英米側容共政策の影響は次期米大統領選挙にも現はれるであらう。スターリンは差當つて各國に人民戦線を樹立し、そ

の野望實現に努めるであらうし、今後萬一反樞軸國側が戦勝を得たならば、歐洲の赤化することはモスコイ會議等に照してみても明かである。歐亞の諸國民は益々結束を固くして防共を努めなければならない。そしてドイツ軍は必ずボルシェビズムの歐洲席巻を防止するであらう。」

イタリヤ

ファシスト黨大會開催

共和ファシスト黨大會は、各地方支部長出席の下に、十一月十四日、ヴェロナ市において開催されたが、バツオリニ書記長司會の下に共和國新憲法の基礎となるべきファシスト黨の綱領につき審議を加へた結果、次の宣言を可決した。

「ファシスト黨は盟邦日獨兩國と相携へて、最後の

勝利を確保するまで断乎戦争を繼續する決意であるが、以上の目的を達成する爲にはイタリア軍の即時改編、裏切り分子の處断が絶対に必要である。祖國の再建は次の三段階による。

一、憲法上並に内政上の諸懸案

(イ) 憲法會議を召集し、同會議においては「ギリ・レパブリカ・ソチアリスモ」(戰時社會主義共和國)を宣言し、王政を廢し、イタリア國の首班を任命する。

(ロ) 新共和憲法においては、市民、兵士、労働者並に納税者に對して公共行政の統制並に批判の權限を與へる。

(ハ) 新な混合選舉制度によつて議員を選出する。行政官吏は一部選舉一部指命による。

(ニ) フアシスト共和國における公認の宗教は、ローマカトリック教にするが、他の宗派にも敬意

を表明する。

(ホ) ユダヤ人は外人として取扱ひ、戰時においては敵國人と見做す。

二、外交政策

(イ) イタリア國內における非占領地區の解放。

(ロ) 四千五百萬のイタリア人の生存を保證するに足る生存權の確保。

(ハ) 歐洲諸民族集團の實現。

三、社會的政治的諸懸案

(イ) 私有財産制は國家において保證するが、右制度を搾取の具に供してはならない。

(ロ) 公共企業並に軍需工業は、半ば國家の管理に屬し、あらゆる工業部門において、労働者は正當な賃金率の設定並に利潤の公正な分配に協力する。

(ハ) 農業部門においては土地の開墾乃至管理が不充分と認められる場合には地主の私的發意を制限

する。

(ニ) 高級職業は國家の統制を受けるが、同時に自由發展の機會が與へられる。

(ホ) 特別の國家機關として人民の家を設置し、各個人の家並に私有財産に對する權利を保障する。

(ハ) フアシスト體制の偉大な社會政策諸施設を保存する。

(ト) 闇取引者並に戰時において暴利を貪る者は、極刑に處する。」

尙、同大會において國軍の即時改編を決定したが、特別歩兵部隊のうちに黒シャツ部隊を設けることになり、その司令官にフリッツ・ポ・デアマンチ將軍が任命された。同將軍は第一次大戰に参加し、更にエチオピア戰爭に際しては黒シャツ部隊の司令官として殊勳を樹て、現大戰においてはギリシヤ、並に獨ソ戰線に歴戦し、鐵十字章を授與されてゐる。

ムツソリーニ統帥告諭

ムツソリーニ統帥は、フアシスト黨大會に對し、告諭を送り、バヴォリーニ黨書記長が大會席上これを朗讀した。同告諭の要旨は次の通りである。

「刻下の状態においては、軍事上、政治上の問題が他の一切の問題よりも重要である。卑怯者と犯罪人と一味が九月八日祖國に對し屈辱と混亂とを齎した。イタリア國民はあらゆる部面において、悉く新規再出發しなければならぬ。しかしながらフアシスト黨員は飽くまでも黨の綱領を堅持するであらう。

武器を持たない祖國が出来るだけ早く交戦國とならねばならず、フアシスト黨は黨員を擧げて、イタリア國民の模範となり、祖國の復興を推進しなければならぬ。イタリア國民は武器を採つてフアシスト革命本來の理念に基づき、フアシスト共和國を建設するであらう。」

閣議決定諸事項

フアシスト共和政府は、十一月二十四日、ムツソリー

ニ統帥司會の下に閣議を開催、左の諸事項を決定した。

一、共和フアシスト國家は「イタリア社會共和國」Repubblica Sociale Italiana と正式に命名する。新共和國の國旗は三色旗であるが、従來の三色旗にある「王冠と楯」は抹殺する。

一、共和フアシスト軍の宣誓文句の形式を次の如く決定する。

「余は生命の崇高な犠牲にかけてイタリア社會共和國の制度、法律名譽並に領土防衛のために奉仕することを誓約する。余は此の誓約を、神の前に於てきた祖國の獨立と統一と將來の祖國のために生命を落した人々に對して行ふものである。」

右宣誓は集團的に行はれるものではなく、最も嚴肅な形において個別的に行はれるものである。

一、所屬各省と共に北イタリアに移動しない文官は全部罷免する。

一、七月二十四日及び二十五日のフアシスト大評議會においてフアシズムとイタリアとを裏切つた同評議會議員を裁判するための特別裁判所構成員を任命する。又、パドリオが政權を掌握した四十五日間に、フアシスト黨を裏切つた黨員を裁判するための特別裁判所構成員を決定する。

一、イタリア王國防衛を名とした従來の裁判所を暫定的に再建し、テロ行為の再發を防止する一方、食糧の買溜め、敗戦思想等の取締りに當らしめる。

一、過去三箇月間に賃金の増加を受けなかつた全労働者に對し、十二月一日以降三十パーセントの賃金増加を許すと同時に、内閣において官吏の増俸を考慮する。一、主要な農業、工業生産品の價格を訂正する。一方政府倉庫に食糧その他の物資を供給する規則は一層嚴重

に強行する。

一、ユダヤ人が所有する美術工藝品は國家が沒收し、外國蒐集家の手に渡ることを防止する。

一、税率を改正し、勤勞所得者の負擔を軽減すると共に、擔稅能力が大きなもの特に戰爭利得者に對しては増稅する建前をとる。

一、戰爭の被害を受けたものの民事上の債務履行を停止し、犯人(死刑及び無期懲役者を除く)の一時的釋放を行ふ。

一、勞働、技術、藝術各層聯合 Confederazione Generale の機構に關する法案を採擇する。(右法案は、在來の二本建による組合制が、資本家の提起する種々な障礙によつて組合制本來の機能を發揮し得なかつたのに鑑みて、之を單一の機關に統合しようとするもので、新法令は如何なる形式においても資本を代表するものは之を排除し、勞働者技術者及び企業家を一個の機關に

包含するものである。そして右聯合は完全な自治機關で、政治的には黨書記長の、技術的には組合經濟大臣の監督に服することになつてゐる。

國家保安隊組織

フアシスト共和政府は、十一月九日、従來の黒シヤツ義勇隊、騎馬警察隊及びアフリカ植民地警察隊をもつて國家保安隊を組織した旨發表した。同保安隊は、内務大臣の監督下に治安維持に任ずるものとみられる。

フアシスト戰闘部隊編成

フアシスト共和政府國防相グラチアーニ元帥は、十一月二十日、共和フアシスト戰闘部隊編成に關する布告を發したが、この布告は六箇條から成り、部隊の編成、軍政の再建、軍事教練の強化等を規定してゐる。

法相逝去

法相アントニオ・カサノヴァは、十一月二日、逝去し

た。故カサノヴァ法相は、元大審院長で、フアシスト大評議會に列し、フアシスト共和政府樹立と共に法相に任命された。

バドリオ傀儡政権改造

バドリオ傀儡政権の内訌はその後深刻を極め、反ファツショ運動の主魁スフォルツァ伯及びクロチエ教授がエマヌエーレ三世の退位と攝政府の設置とを強調、これに對しバドリオは國王を擁護せんとして十月中旬左の如き暫定的官僚内閣を組織するに至つた。

- 一、首相兼外相 バドリオ
- 一、内務次官 ヴイトオ・レアリ
- 一、司法次官 ギゼツベ・デサンチア
- 一、陸軍次官 タブタデオ・オルランド將軍
- 一、文部次官 ジオヴァンニ・キユオモ
- 一、大藏次官 ギド・ユング(前藏相)
- 一、工業次官 エビカルモ・ゴオルビ教授

- 一、農業次官 トマソ・シチリアニ
- 一、鐵道次官 ジオヴァンニ・デイライモンド將軍
- 一、海軍次官 デイエトロ・パロネ提督
- 一、逓信次官 マリオ・フアノ

バドリオ政権改造の経緯發表

バドリオは、前記内閣改造に先立つて、十一月十四日、左の如くそれに關する経緯を發表した。

「各政黨が要求するが如き政府は、反樞軸軍のローマ占領後においてのみ結成され得るものであり、かくの如き民主主義政府の結成を準備するために、余は既に各黨指導者特にスフォルツァ伯並にクロチエ教授と折衝した。然しこれら兩人は、現政府に参加するには國王エマヌエーレ三世の廢位と王儲の廢位とを前提條件とするとして、これを要求した。その他の政界指導者も同様現政府への参加を拒否した。かくの如き事情下に於て、反樞軸側イタリア管理委員會はイタリアの施

政を軌道に乗せるために、一刻も早く政府各省と連絡して機能を開始したい旨を申入れてきた。

こゝにおいて余は、政府機構を再編する以外、目下のところ他に方策がないことを知つた。各黨指導者は、ローマ解放後直ちに結成されるべき政府においては、軍事的問題は余の支配下に置く旨を通告し來つた。そこで余は、國王に對しイタリア監理委員會と協力するために、一時的に政府の間隙を埋めることを要請した。國王は右計畫を承認された。かくして、今次政府改造が行はれたのであつて、當分の間次官に大臣の権限を賦與することになるであらう。しかし、これによつて解放地域における政府の施政は順調に遂行されるであらう。ローマが解放された際には、余は悦んで首相の地位を去るであらう。余は休戦の責任と對獨宣言布告の責任とを果たし、イタリア解放のために米英に全力を盡して協力することが出來た。余はこれで満足である。

最後に余は一言するがイタリアはソ聯との國交を再開しなければならぬ。何となればイタリアもソ聯も戦ふべき敵は同一だからである。」

叛軍首腦部更迭

バドリオ政権は、十一月十一日夜、イタリア叛軍參謀總長マリオ・ロアツク大將を罷免、次いで十一月二十一日、叛軍總司令官ヴィットリオ・アンブロジーオを罷免した模様であるが、右はバドリオが米英側の強壓に媚びるため自己の股肱を犠牲に供するの止むなきに至つたものとみられる。

尙、新參謀總長にはジョヴァンニ・メツセが任命されたと傳へられてゐる。

ソ 聯 邦

スターリン首相米英首腦部と會談



スターリン首相は、十一月二十六日空路テヘランに赴き、同地のソ聯大使館に入り、二十八日より同大使館に於て米英ソ三國會談を開催、「東、西及び南方」よりする歐洲反攻作戦その他の諸問題を協議した。尙、同二十七日には、外務人民委員モロトフは、イラン外務省を往訪、同處に於てマクシモフ列席の上でイラン首相及び外相と會談した。ソ聯側代表の主要顔觸れは左の通りである。

外務人民委員 モロトフ

元 帥 ウオロシロフ

元 帥 チモンエンコ

元 帥 ジューコフ

その他アルカディエフ中將以下専門家多数

スターリン議長前線後援に感謝

——第二十六回革命記念演説——

スターリン議長は十一月六日夜(第二十六回革命記念日の前夜)演説を行つたが、その要旨次の通り。

「ソ聯は前二回の革命記念日を非常な危機のうち

に迎へたが、今回の記念日は全く違つた情勢のうちこれを迎へることが出来た。即ち本年こそ獨ソ戦の過程における根本的變化の年と稱すべく、形勢はソ聯に有利となつた。戦局がソ聯にかく有利に展開したのは赤軍の奮闘によること勿論であるが、銃後國民の赤軍に對する援助も看過出来ない。ソ聯がドイツ軍の脅威にさらされた地區から大規模な工場設備の移轉をなし得たのも國民の協力によつてであつた。然し本年に入るともにかうした工場移轉の必要はなくなつた。

本年は獨ソ戦局轉換の年であるばかりでなく世界戦局轉換の年でもあつた。米英軍の地中海作戦及び對獨爆撃が赤軍の作戦を援助したことは事實であるが、然しソ聯はなほこれをもつて第二戦線とは見做し得ない。これは本格的な第二戦線ではないが、第二戦線の種

類に属するものといふべきであらう。」

スターリン元帥敍勳

最高會議幹部會は、十一月六日、革命二十六周年記念に當り、對獨戰爭指導上の偉勳を賞し、スターリン元帥にスヴォロフ一級勳章を授與した旨發表した。

キエフ回復發表

赤軍最高司令官スターリン元帥は、十一月六日、特別布告を發し、ヴァツチン軍大將麾下の第一ウクライナ戦線軍が電撃的且つ大膽な側面作戦によつて同日拂曉、ウクライナの首都キエフを占領したのに対し感謝の意を表明した。

ジトミール撤収發表

情報局は、十一月十九日、公報を以て赤軍がキエフ西方のジトミールを撤収した旨發表した。

ゴメリー回復發表

情報局は、十一月二十六日、赤軍がゴメリー市を占領

した旨公表し、同時にスターリン元帥は、ゴメリー占領部隊に對し感謝布告を發した。

コロステン撤収發表

情報局は、十一月三十日夜の戦況公報を以て、赤軍がキエフ西北方のコロステンを喪失した旨發表した。

ソ波國境問題に關し駐墨大使言明

ウーマンスキー駐墨大使は、十一月十五日、U.P.通信社メキシコ市特派員に對し次の通り言明したと傳へられる。

「米國各紙は赤軍が既にキエフ市の西方に進撃し、西部の國境を越えること九十哩の地點に到達したと述べてゐるが、遺憾ながら赤軍は依然として自國の國境線内にあり、ポーランド國との國境線に到達するためには更に二百四十哩進撃しなければならない。」

以上ウーマンスキー大使の言明によれば、ソヴェト政府は歐洲戰爭開始以前の國境線ではなくモロトフ外務人民委員とドイツ外相フォン・リッペントロップが取極め



た國境線をソ聯邦の西部國境と解してゐる模様であるが、同大使の言明がソヴェト政府の公式見解とすれば、大西洋憲章と真正面から衝突することになるので米英政界並に外交界筋では早くも非常な物議を醸した。

ウイシンスキー代表着任

反樞軸イタリヤ諮問委員会(舊地中海委員会)代表ウイシンスキー外務人民委員部長は、アルジェーへ赴任の途上、十一月二十二日、中東方面視察のホルネチューク外務人民委員部長と共にテヘランに立寄り、翌二十三日、イラン外相モハメド・サエドと長時間に互り會談したが、同二十六日アルジェーに着任した。

歐洲諮問委員会代表にグーセフ大使任命

政府は、十一月中旬、歐洲諮問委員会ソ聯代表としてグーセフ駐英大使を任命した。

外交官更迭

十一月中發表された外交官更迭は左の通り、

セルゲイ・アレクセーヴィッチ・オルロフ  
任ウルグアイ駐劄公使

イワン・ニコラエヴィッチ・バクーリン  
任アフガニスタン駐劄大使

共産黨員著増

情報局長論説發表

ヤロスラフスキー情報局長は、十一月十五日附アラウグ紙に「戦争三年目の十月革命記念日」と題する論説を發表、多数の共産黨員が戦死したにも拘らず、黨員数が逐次増加してゐると次の通り述べてゐる。

「現在黨員数は候補者を含めて四百六十萬に上つてゐる。戦前の一九四〇年には黨員数は三百四十萬であつた。従つて戦争中數十萬の黨員が戦死したにも拘らず、黨員数は却つて増加してゐる。たとへば一九四一年五月には一萬六千六百七十七名が候補者となり、三萬五千七百七十九名が黨員に選ばれたが、一九四三年八月

には候補者二十萬一千百三十五名、正黨員十一萬三千八百八名に上つた状態である」。

パン配給量切下げ

政府は、十一月二十一日、全国的にパン配給量の切下げを行つたといはれる。

フランス

ベタン元帥放送取止め

國家主席ベタン元帥は、十一月十三日、全國放送を行ふ豫定になつてゐたが、右放送は取止めと決定した。尙約一年前歸國したまゝになつてゐたアベツツ駐佛ド

イツ大使は、十一月二十八日、リッペントロップ外相の書翰を携行してパリに歸任した。

アンリー駐日大使逝去

アンリー駐日フランス大使は、十一月十四日午後七時、東

京都麻布區富士見町の大使官邸で逝去した。享年六十三。

ラガデル労働長官辭職

情報省は、十一月二十二日、労働長官ユベール・ドラガデルが同日辭職し、生産長官兼運輸通信長官ジャン・ピシエロンが労働長官を臨時兼任することになつた旨發表した。

フランス國民解放委員會諮問會開催

十一月三日、アルジェーに於て諮問會議 *Assemblée Consultative* が開會されたが、右機關の設置は佛領北阿の政治組織に民主的體裁を與へるとの趣旨に出でゐるものの如く、フランス國民解放委員會の公布した九月十七日の法律によれば單なる諮問機關に過ぎないものであるが、實際上は解放委員會の行政監督にも任じ、事實上、同委員會の行政的性格に對應して、議會的性格を有するものと觀察される。尙、同會議は八十四名の議員から成つてをり、その内譯は左の通りである。

(イ) 舊フランス議會代表 二〇名

内 譯	急 進 黨	五 名
	社 會 黨	五 名
	共 産 黨	三 名
	右翼穩健派	七 名

右は各党内において夫々互選したもので、各黨に對する員數割當は、その舊議會に於て有してゐた議席數に比例してゐる。

(ロ) 地方議會代表 十二名

北阿に於ける地方議會は夫々二名、その他の植民地におけるものは夫々一名宛の代表を派遣した。

(ハ) フランス本國における反獨運動代表 四〇名

(ニ) 植民地における反獨運動代表 一四名

右の内三名は北阿において米英上陸を助けた者で、四名は他の植民地における反獨運動者であり、その他の五名は獨佛休戦後フランス諸植民地を米英陣營に投ぜしめたことに力あつた者の内から反獨委員會におい

て之を任命したものである。

右(イ)の内、社會黨の五名は、プロツホ外四名、他の一名はフランス本國脱出に際し逮捕された爲め出席不能で、共產黨の三名はグルニエ、ブールタン及びメルシエである。又ド・ゴールは同會議開頭の演説において、右會議は今日のフランスの特殊な事態に基いて召集されたもので、本會議は法的根據を過去の先例に求めることが不可能なこと、モスコー三國外相會議の公表によりフランスがロンドンに設けられる歐洲委員會から除外されてゐるのを知つたこと及びフランス國民解放委員會はフランスを除外し、歐洲委員會の決定に束縛されな

(イ) フランス國民解放委員會の兩頭制度を廢してその一元制を確立すること  
 (ロ) 軍政府制を解放委員會の權威の下に置くこと  
 (ハ) ヴイシー派の徹底的清掃をなすこと

(ニ) 北阿政權の外交的地位を向上させること等を議題としたものとみられる。

フランス國民解放委員會改選

——ジロー及びジロー派一齊に退陣——

フランス國民解放委員會委員長(二人)の一人であるジローは、十一月九日、遂に委員長を辭任し、同委員會は、ド・ゴールの獨壇場に歸したが、十一月十日のブラザビル放送によれば、同じく九日、全面的に改選された委員會の顔觸れは左の通りと傳へられる。

- 委員長 ド・ゴール
- 國務委員 カトルー
- アンドレ・フィリップ
- クイユ(急進黨代議士)
- 外務委員 マツシグリ
- 内務委員 ラ・ヴィジュリ
- 司法委員 フランソワ・ド・マントン

陸軍委員 ル・エロゲ(社會黨代議士)

海軍委員 ジャキノ

植民委員 ブルヴァン

大藏委員 ムークル・フロエ(舊代議士)

情報委員 ポネ

社會委員 アドリアン・テエクシエ

教育委員 ルネ・カプスタン

尙ジャン・モネは米國において物資供給の商議を行つてをり、アルジェーにはゐない。

又、右改選によつてジローが委員長を辭した外ジョルジュ及びルジャン・テイオナムの兩將軍(陸軍)、クーヴ・ド・メルヴィル(大藏)、アバデー(健康及教育)等ジロー派と目される委員は一齊に退陣した。

ド・ゴール容共政策採用

フランス國民解放委員會は、共產黨員の加入について協議を重ねてゐたが、愈々容共政策を決定し、十一月十

六日夜次の通り發表した。

「前フランス下院議員ルツアン・ミドルは工業生産委員に、エティアンヌ・パジヨンは保健委員に任命された。」

然し共産黨側は依然不滿の様子で、ド・ゴールに對し書翰を送り、

「共産黨が情報委員の地位を要求したのに對し、委員會が同意を與へなかつたのは遺憾であるが、共産黨員は機會が到來次第右責任を擔當するであらう。」

と述べ、又二十六日、共産黨代表アンドレ・マルテイーは、「ド・ゴールは解放委員會に共産黨代表を加入せると約束しながら勝手に自分で選擇した共産黨員二名を委員に任命した。」

と指摘して、記者團に對しド・ゴールを公然非難した。

レバノン問題で英國の強壓に屈從

——エール辨務官の召還發表——

レバノン地方の情勢重大化に鑑み、フランス國民解放委員會國務委員兼アルジェリア總督カトルーは、十一月十二日、アルジェーを出發十六日、ベイルートに到着、レバノン側及び英國側代表と折衝したが、その結果、フランス國民解放委員會は遂に英國側の強壓に屈したものの如く、二十一日、同委員會はレバノン大統領ベシヤラ・エル・クーリーの復職に逮捕した首相及び閣僚等の釋放を認め、併せて駐レバノン辨務官ジャン・エールの召還を發表した。

滿洲國

皇帝陛下増産諸計畫御題取

皇帝陛下には、國家喫緊の問題である鐵、アルミニウム、増産並びに農地造成計畫遂行につき夙に御留意あらせられ、十一月二十四日午前張國務總理、武部總務長官に親見仰せつけられ、右各計畫案の内容につき、

種々御聽取あらせられるとともに、右計畫遂行に萬遺憾なきやう特に優渥なる御言葉を賜つた。

大東亞建設達成に挺身せん

——張國務總理歸國談——

大東亞會議に代表として出席した張國務總理は、李外交部大臣以下を従へて、十一月八日午後新京に歸着し、その旨弘報處より發表された。尙、張國務總理は次の如き談話を發表した。

「畏くも、天皇陛下におかせられましたは、今回の大東亞會議參加各國代表に拜謁御陪食の榮を賜はり、一同皇恩に恐懼感激した次第である。親邦日本國民はこの決戦下に意氣益々軒昂、上下一體鐵石の團結をもつて聖戰の完遂に邁進してをり、親しくこの有様に接した私は、限らない頼もしさを感じた。今回の會議は各國代表が隔意のない意見を交換し、協議の結果、大東亞建設の大憲章ともいふべき共同宣言を中外に闡明し

たものであり、同時に東亞空前の歴史的會合であつたのみならず、正に世界の歴史に新紀元を劃したものであると信ずる。私は今次會議において東亞各國の指導者諸氏と親しく相見え、夫々の胸襟を開いて語り合ひ、その眞摯な努力と熱烈な氣魄に接し、衷心より心強く感じ、大東亞戰爭の必勝、大東亞建設必成の信念を更に強めたのであるが、同時に我が滿洲國の責務の愈々重大なるを覺えたのである。私は國民諸君に右を傳へるとともに、全國民打つて一丸となり、更に一層の決意をもつて大東亞戰爭完遂、大東亞建設達成に挺身せんことを切望するものである。」

國軍に待命役制度實施

滿洲國軍は、本年度を以て國兵法施行三周年を迎へ、益々緊迫した世界情勢に對應し、徵兵制度の眞義を發揚するとともに、經濟的軍備の確立を目指し、現行制度の所要の改正により一段と軍容の整備擴充を期するため、

新に日本の豫備役制度に準ずる劃期的な待命役制度の設置を始め、服役制度の延長、國兵志願年齢の變更、召集者に對する恩給制度などを實施することになり、この旨十一月一日附を以て滿洲國軍事部より發表された。

軍隊内務令制定

滿洲國軍は、國軍將兵の軍隊生活の規範であり軍人精神の教典とも云ふべき軍隊内務令を制定、來る十二月八日の意義深き大東亞戰爭二周年記念日を期して施行することとなつた。

農産物の集荷好調

滿洲國における農産物の集荷は、依然好調を持續し、愈、最盛期に入つて吉林省の如きは割當量を突破するに至つたが、十一月二十五日現在調査の農産公社收買率は七四・七%に達し、昨年度の二二・一%に比し三倍強となつてゐる。品種別に見れば、糧穀三品は九九・九%となり殆ど全計畫量に達し、大麥、燕麥も亦九六・七%の好成

績を収めてゐるが、雜穀、小麥は二〇%程度である。

品種別收買率(割當量に對する%)

大豆六六・三、糧穀三品九九・九、大麥燕麥九六・七、油

料子實四三・七、雜穀二二・八、小麥二二・四、平均七

四・四

省別收買率(割當量に對する%)

吉林一〇〇・五、龍江四七・三

北安八五・一、賓江九〇・五、四平七九・一、錦州六九

一、通化四八・五、興南二五・一、興西四六・一、興東一

四・九、新京六五・六、三江六三・九、東安四七・六、牡

丹江二四・七、間東五四・六、安東三七・五、奉天七二

七、熱河二六・三、黑河〇・七、興北一一、平均七四

四七

中華民國

「大東亞會議は劃期的國際會議」

——汪行政院院長歸國談——

國民政府宣傳部は、大東亞會議に中國代表として出席した汪行政院長の歸國に關し、十一月九日午後六時左の如く發表した。

國民政府宣傳部公表

「汪行政院長は、本月一日行政院副院長周佛海、外交部長蔣民誼、軍事委員會委員陳昌祖、行政院秘書長周隆蔭、同副秘書長薛逢元を帶同して、日本を訪問大東亞會議に中華民國代表として出席、今回滞りなく任務を終了し、本日午後五時三十分南京に歸着せり。

なほ周行政院副院長は經濟、財政問題に關し日本當局と折衝のため、目下引續き東京滞在中なり。」

尙、汪主席は九日夜左の如き談話を發表した。

「今回の大東亞會議が歴史上における諸國際會議と異なる點は三つある。

第一、ナポレオン戰爭後のウィーン會議、第一次歐洲大戰のバリー會議の如きは強者の弱者に對する處分であつて、目的は強者が如何に弱者を分割し、弱者は自己の國を如何に強者に提供するかといふことであつた。大東亞會議はこれに反して強者の弱者に對する援助である。前者は功利的な見解に基づき、後者は道義精神に基づくもので、完全に相反するものである。

第二、米國のモンロー主義は所謂米洲人の米洲を唱へ、人種的偏見に基づき、他の人種を排斥し、米洲内に存在せしめないことを狙つたものである。大東亞會議はこれに反し、所謂アジア人のアジアを唱へ、アジアのアジア人が米英の壓迫より解放を求め、解放した後、資源の開発、文化の興隆を世界と共に共有せんとする公明正大なものである。

第三、最近米英等は屢々會議を開催してゐるが、その

目的は次の二つに他ならない。

一は英國が如何にしてその既得植民地を保持し、植民地の人民を壓迫し、その獨立自由を防止せんかといふこと、他の一は米國が世界的に豊富なる資源を擁してゐるにも拘らず、尙これに満足せず如何にすれば全世界をその植民地となし得るかを企圖してゐることである。この米英兩國は利害關係それぞれ相反するものであるが、他の人種を妨碍し他民族を壓迫するといふ目的の上から同じ惡事をせざるを得ないのである。大東亞會議はこれに反し、各民族はその生存獨立のために奮闘し掠奪された利益を恢復するにあり、他人の利益を掠奪せんとするものではない。これは革命精神であつて侵略ではない。

以上三つの特點を綜合すれば、大東亞會議は正に劃期的國際會議である。吾人は茲において盟邦日本の唱道する功徳に對し敬服せざるを得ない。またタイ、滿

洲國、フィリピン、ビルマ、諸友邦及び自由インド假

政府の協力に對し、深甚な敬意を表するものである。吾人は「吾れ平等をもつて對する世界の民族を聯合し共に奮闘せん」なる國父の遺囑を遵守し、同時に重慶が驕然反省し、我に歸り來らんことを深く望むものである。重慶が東亞の同志となるか、或は再びその誤りを繰返し、米英に使喚され獨立の芽を出したビルマに刃を向けてなほ足れりとせず、更にまた自由インドを毒せんとし、かくして東亞の反逆者となり、中國歴史上に未曾有の汚辱を印せんとするか、その何れを選ぶかは今や重慶自身の撰擇をまつのみである。」

孫文遺志實現報告

十一月十二日、國父孫文の第七十八回誕生記念日を迎へ、國父生誕の地廣東では、午前九時半より中山記念堂において國父遺志實現報告を盛大に執行、陳省長以下政府要人及び軍官民多數參列、靈前に同盟條約の締結を奉

告すると共に、今後更に全面改革の早急實現に努力すべき旨を力強く宣誓した。なほこの日午前十時百萬市民は十分間の敬虔なる黙禱を捧げ、各官廳、學校においてはそれぞれ記念大會を開催、孫文の偉大なる精神を偲ぶと共に、米英擊滅の覺悟を新にした。又この日首都南京では、汪主席以下國府要人並に谷大使以下樞輔列國使臣等多數參列のうちに、午前十時中山陵において嚴肅なる祭典を執行した。

右祭典における汪主席の報告全文は左の通りである。

國父遺志實現報告

「中華民國三十一年十一月十二日我が國父第七十八回の誕生日を迎へるに當り、弟子汪兆銘謹んで至誠を以て我が國父在天の靈に告ぐ。

我が國父在世の折、日本國神戶において大アジア主義を口述し中國の不平等條約排除につき日本の援助を希望せり。我が國父臨終の際には、革命未だ成功せざ

ることを遺憾とし、我が同志に對し努力繼續すべきことを囑せり。余爾來命を奉じ夙夜恐懼今日に及べり。今や幸ひにして日本の援助を得、本年一月九日租界返還、治外法權撤廢の協定を結び、八月一日逸早くこれが實施をみたり。十月三十日には更に中日同盟條約を締結し、

二十九年十一月三十日締結せる中日基本關係條約及び附屬文書は茲において效を失ふることなれり。十一月五日日本は東京において大東亞會議を招集し、東亞各國代表いづれもこれに参加、自由インド假政府代表また列席し、六日大東亞宣言發表を決議せり。國父が熱望せる日本の援助による不平等條約廢止は今こゝに實現され、大アジア主義また實現の緒につきたり。我が國父在天の靈よ、願くは弟子等の愚妄を懲みて鞭撻を賜り、重慶方面の弟子の妄を聞き、率然自覺一日も速かに歸來し、全國の心力、物力を集めて諸盟邦と共同奮闘して、大東亞共榮圈の建設を期せしめられんことを

祈る。弟子等誓つて全力を傾け遺志を貫徹せんがために粉骨碎身せん。わが國父在天の靈これを照覽あれ。」  
尙、上海では靜安寺競馬場において陳公博市長以下が、北京では王蔭泰總務長官以下が嚴肅盛大な記念式典を舉行した。

「中國を米英の犠牲に供するなかれ」

——鮑文越上將重慶に放送——

十一月九日夜、軍事委員會總參謀長鮑文越上將は、重慶側に對し、ラジオを以て「日支同盟締結に當り重ねて重慶將士に告ぐ」と題し、大要左の如き放送を行つた。

「今次の日支同盟により、兩國は平等互惠の立場において永久友好關係を尊重し、東亞解放建設の爲努力することとなつたのである。過去百年間支那の對外條約は總て不平等であつたが、今日初めて日本の友好自發的措施により支那は列國不平等の恥辱から解放され、國父の遺志理想が茲に達成されたのである。尙、本盟

約は曩の重慶側の和平條件である「七七事變前の状態回復」を遙かに超える理想的のものであり、又租界の回收領事裁判權の撤廢も友邦政府國民の公明正大な道義により實現した。かくして重慶側の抗戦はその意義消滅し、今後の抗戦は中國の土地人民資源を英米侵略者の犠牲に供する爲のものとなつた。切に重慶將士の反省奮起を望む次第である。」

陳孝強中將重慶の崩壞を説述

十一月九日夜、國民大會堂の國民運動主催の大東亞宣言擁護及び參戰記念講演會に於て、先に和平陣に歸順した陳孝強中將は「大行作戦の經過より抗戦前途に想到す」と題し、大行戦の收因は重慶の腐敗による民心の離反にあつて、現在の國共摩擦は抗戦前途を暗黒にさせ、重慶の崩壞は遠くなく、我等は汪主席領導下に一意東亞建設中國復興に努むべきであると述べた。

人事異動

十一月中に於ける主なる人事異動は左の通りである。

任上海警察局長

陳市長

(十一月一日附)

任華北農務總署々長

侯統汝

任同經濟總署々長

吳錫永

任同工務總署々長

羅錦

(以上十一月十五日附)

任新司法行政部駐滬辦事處長

司法行政部次長

胡澤吾

任駐釜山總領事

周濟人

林文秀

任駐橫濱總領事

全國度量衡局長 郭洪

任內政部總務司長

(以上十一月十六日附)

華北政務委員會常務委員兼工部總署督辦 蘇體仁

任籌備黃河中牟決口委員會主任委員

華北政務委員會常務委員兼治安總署督辦 杜錫鈞

任華北綏靖總司令

(以上十一月十八日附)

前山東省沂州道尹 曹若山

任剿共重點地域第一直轄行政區行政長

(以上十一月二十三日附)

于景陶

任華北稅務委員會委員兼第一處長

同兼第二處長 李 鵬 圖

同兼第三處長 郭 立 志

同兼第四處長 沈 九 昌

(以上十一月二十四日附)

蘇淮特別行政區行政長官 郝鵬舉中將

任徐州綏靖主任

(以上十一月二十五日附)

### 重慶政權

蔣介石カイロ會談に参加

十一月二十一日、蔣介石は宋美齡及び王寵惠元外交部長、陳紹寬海軍部長、鄭章成陸軍報道部長等文武官の隨

員を帯同、空路カイロに到着、翌二十二日より二十六日迄前後五日間に亘り、ルーズヴェルト、チャーチル等の米英首脳部と會談を行つたが、テヘランには赴かず、そのまゝ歸國した。

#### 遺英使節團員決定

重慶放送によれば、重慶政權は昨秋重慶を訪問した英國議會使節に對する答禮のため、遺英使節團を派遣することに決定、過般來人選中であつたが、その顔ぶれは十一月十日、外交部より左の如く發表された。一行は近く重慶を出發、ロンドンに向ふ豫定である。

王世杰(前參政會秘書長)、王雲五(國民參政會駐會委員)、抗立武(同)胡霖(參政會委員、大公報總編輯)、溫源寧(立法委員)、使節團秘書李惟果(外交部總務司長)

中古のゴム製湯タンポ一千元

——物價戰前の百七十五倍に暴騰——

ロイター及びA.P通信社の重慶電報は、重慶政府當局が十一月九日、官吏俸給の倍額増給を發表した旨報じてゐるが、兩社の電報は更に重慶の給料生活者の窮狀と物價昂騰の實狀を次の通り傳へてゐる。

「重慶の物價水準は、戰前の百七十五倍に達してゐると推定され、官吏等給料生活者の境遇は悲惨を極めてゐる。給料が倍加された位では到底物價騰貴に追付かず、家族を飢饉から救ふことすら困難であらう、官吏の大部分は土と藁の掘立小屋に住み、嚴寒中でも炭火の暖すらとれない生活を送つてゐる。暴騰した物價水準を示す若干の例を挙げれば、次の通りである。

- コーヒー一ポンド六百五十元、
- 米國製口紅一千元ウイスキー一本五千元、
- 支那製煉齒磨六十元、
- 支那製下級石鹼六十元、
- ゴム製湯タンポ(中古)一千元

#### 重慶駐在外人記者生活狀況

十一月十九日重慶發ロイター電によれば、重慶駐在の外國通信員の數は日々増加し、重慶宣傳部の國際課に働いてゐる米人専門家を含む約三十名の外人記者は寺院式の調度を有する小さな部屋に住んで仕事をしてゐるが、物價が極度に暴騰してゐる爲、各人とも異様な服裝をしてゐる。そして記者團合宿と同じ構内に新聞記者活動の中心である董顯光指揮下の宣傳部國際課があり、政府發表はこの事務室で翻譯されることになつてゐる。その隣室は檢閱官室で、階下にはサンフランシスコと直接連絡する無電室がある。

### タ イ

「大東亞宣言は各民族希望の涓滴」  
——ワンワイタヤコーン殿下歸國談——



ビョン首相代理として大東亞會議に出席したワラワ  
ン・ワンワイ・クヤコーン殿下は、十一月二十二日午後日  
本人記者團に對し、大東亞共同宣言の意義を強調大要次  
の如き聲明を發表した。

「余は今回大東亞會議に出席し日本政府並びに國民  
より熱誠あふるる歡迎に接した。こゝに改めて謝意を  
表明する次第である。特に東條總理大臣閣下には自ら  
陣頭に立つて種々御配慮下さつたのである。我々はこ  
れ等の親切に對し衷心より感謝するものである。

我々は先づ大東亞戰爭完遂並に共榮圈確立に必要な  
一般的事項に關し隔意のない意見の交換を行つたの  
ち、大東亞共同宣言草案を會議に提出したが、全會一  
致を以て採擇された。右共同宣言案に盛り込まれた五大原  
則、就中相互主權尊重の原則こそは共榮圈内各民族間  
の連帯の確固たる規範であると共に希望の淵源をなす  
ものである。尙、會議開催中並びにその後於て勝報

が續々齎らされた。余はここに日本陸海軍が今後も  
辦々たる劃期的勝利を收め、日本帝國が益々繁榮の一  
途を辿らんことを衷心より希望するものである。」

明年度歳出總額三億四千九百萬

明年度豫算を審議するため、召集された特別議會は、  
十一月一日午後二時開會式を行つたが、同日午後二時  
から本會議を開催、まづ政府提出の來年度豫算案に關し  
ソングラム蔵相代理から概要説明あり、十八名の豫算委  
員に附託して散會した。

同豫算案の概要は、歳出總額三億三千九百七十四萬  
バーツで、國防費としては一億一千三百萬バーツが計上  
されてゐる。これを本年の歳出總額二億七千七百七十四  
萬五千六百萬バーツに比すれば未曾有の膨脹で、タイ  
國議會初まつて以來の大豫算である。

國防相にクリアンサク中將起用

政府は、ビョン首相の兼任であつた國防大臣に現國防

軍副司令官ピチット・クリアンサク中將を起用するこ  
ととなり、十一月十五日附で發令した。新國防大臣ピチ  
ット中將は、本年四十五歳、一九二二年タイ國陸軍士官  
學校砲兵科を卒業、曩のタイ・佛印國境紛争當時には東  
北軍司令官としてルアン普拉バン進駐に功を樹て、昨年  
國防副大臣に任ぜられ、今年七月中將に昇進、タイ國軍副  
司令官兼任となり、去る八月訪日軍事視察團團長として  
戦時下の日本を視察して歸國した。同中將はタイ國軍幹  
部の中では珍らしく外國留學の経験をもたないが、首相  
の片腕といはれる武將である。國防大臣の椅子を同中將  
に譲つたことによつてビョン首相の意向は依然強力に軍  
政系統に反映されるものとみられる一方、陸海空軍最高  
指揮官の権限は依然ビョン首相の掌握するところとなつ  
てゐる。

人事異動

十一月中の主な人事異動は左の通りである。

駐日大使館附陸軍武官

リラキット・ヒツサン中將

依願免本官

陸軍參謀本部員 ノム・サクグボラック大佐

任駐日大使館附陸軍武官

(以上十一月三日附)

陸軍大將 ホット・パホンヨテン(ピヤパホン)

任海空軍大將

海軍部長農務大臣海軍中將

シン・カモラヴィン

任陸空軍中將

國防大臣陸軍中將

ピチット・クリアンサク・ピチット

國防副大臣陸軍中將

サワット・サワットロナン

任海空軍中將



副首相警視總監警務隊長

アドウン・アドウンデーチャット

任陸海空軍大將

任海空軍中將

内務大臣陸軍中將 ブロムヨテイ

參謀總長陸軍中將 パークケサリ

任空軍中將

(以上十一月二十三日附)

フィリピン

「全アジア互恵の旗幟下に緊密協力」

——ラウル大統領歸國談——

大東亞會議にフィリピン共和國代表として出席、滞りなく使命を果して、十一月十三日夕刻マニラに歸着したラウル大統領は、同日夜今次大東亞會議の意義並に成

果に關して長文の聲明書を發表、國民一般の一層の奮起を促した。聲明要旨は次の通りである。

「東亞の獨立國代表者が一堂に會して、その共通諸問題について討議するなどといふことは歴史始まつて以來嘗てなかつたことで、全く今回の大東亞會議を以て嚆矢とするものである。會議は二日間にわたつて友好と親睦との雰圍氣のうちに進められたが、特に各國代表は目的と利害とを共にする東洋の盟友となつたことを互に喜び、會議の成功に貢獻しようとする熱意に燃えてゐた。

東條首相の歡迎の辭について、各國代表からそれぞれ一般的意見の開陳があつたが、どの演説の中にもあくまで共同の目的を貫徹しようとする誠意と強固な決意とが窺はれた。各國代表は全東亞民族の運命が一體不可分のものであり、東亞十億民衆の幸福と安寧とは大東亞共榮圈の建設と維持とにかゝつてをり、そしてこれは今次

戰爭の最終的結果の如何にかゝつてゐるといふことについて完全な意見の一致をみた。第二日目の會議において、日本側より五箇條より成る共同宣言案が提出され、各國代表から意見の開陳があつたのち、大東亞會議は滿場一致これを採擇した。西歐帝國主義の貪慾によつて、過去數世紀の間に互に分離されてゐた東亞は茲に始めて結集され、偉大なそして強力鞏固な個體として團結したのである。共同宣言はこれを全體としてみても、個々の箇條を検討しても、實に立派なものであり、眞に偉大な人類の憲章である。眞の東洋人たるものは、否神を信ずるものは、誰でもこの宣言が明示する高遠な理想に雙手を擧げて賛成するであらう。人種的、文化的並に地理的紐帶によつて結合され、同胞的精神と道義の原則とによつて支配されてゐる獨立國の聯盟乃至は共榮圈が設立されて惡い理由があるであらうか。東亞の諸國が相互の主權と獨立を尊重しあふといふ原則の下に、仲よ

く暮らして惡い理由があるであらうか。人類文化の播種であるアジアがその文化を高め、再び全世界を光被出來ない理由があるであらうか。共同宣言の中で余が最も感銘を受けたのは、共榮圈の各構成分子に對し、國土の大小或は力の強弱に關係なく、平等の取扱ひを保證した部分である。東條首相は共同宣言を説明するに當つて、特に「大東亞共榮圈内の各國は互に自主と獨立とを承認するとともに、全體として相互の間に同胞的友好關係を確立しなければならぬ。一國がその目的のため的手段として他國を利用するならば、かかる關係は決して確立することは出來ない。」旨を強調されたが、以上の言葉は、大東亞共榮圈の各構成分子相互の行爲を律する根本的原則を反映してゐるものである。

このことは余が會議において述べた如く、共榮圈は特定國の利益のために建設されようとしてゐるものではないといふ意味を示すものである。今や日本人は甚

大なる物的犠牲を拂つて東亞民族解放のために戦ひ續けてゐる。日本は日本國民の利益のために戦つてゐるのではなく、大東亞全民衆の幸福と安寧のために戦つてゐるのである。日本は東洋人のすべてが太陽の下において、各々その所を得るやうにするために、そしてアジア及びアジア人の福祉のみならず、全世界の福祉に貢献しようとする目的のために戦つてゐるのである。日本は日本と結合してゐる東洋の兄弟達と共に生き、共に繁榮することを欲してゐるのである。」

更に、ラウレル大統領は、十一月二十五日マラカニヤン官邸において、記者團會見を行ひ、大東亞會議の成果につき左の如く所感を述べた。

「大東亞會議は大東亞の歴史における最大事件である。我々大東亞民族が今日の機會に至る迄かくの如き會議を持つことが出来なかつたのは、一つには米英勢力の桎梏によるものであつた。米英勢力が大東亞諸國

に欲したところは、その強化發展にあらずしてその勢力の弱化、萎微であつた。

然るに日本により解放された大東亞諸民族は、自ら大東亞の宿命に對し強い決意と責務とを負ふこととなり、ここに自己の宿命を完成すべき逞しい意識の下に大東亞會議が出現したのである。會議における最も注目すべき成果は大東亞共同宣言である。この共同宣言こそは大東亞民族繁榮の確乎不動の聖典であり、更にその理想は全人類の聖典たるべきものである。われわれがこの共同宣言において決意したところは、われわれの戦力を傾けて實現し、更にこれを子々孫々に傳へて實現すべきものである。

今次會議の收めた大きな成果に鑑み、今後においてもしばしば大東亞會議を開催して大東亞の力を強化したい。次に日本が現在戦力を注いで遂行してゐる戦争が勝利に終ることは疑ひない。正義の闘ひ、解放の戦

ひが敗北に終ることは斷じてあり得ない。余の最大の任務は、社會的には質素と道義的精神と誠實とを有する新しい形の國民を創り、比島のみならず大東亞のために自己を犠牲にすべき國民の出現を期待することであり、政治的には大いに國家主義を昂揚しなければならぬが、特に留意すべき點は、比島のみが大東亞における國家ではなく、大東亞諸國が鞏固な團結を結んで初めて比島は存在し繁榮し得ることである。最後に我々はボース首班の偉大な任務が一刻も早く實現されることを衷心から祈念する。」

第一回通常國會開催

——ラウレル大統領施政演説要旨——

十一月二十五日のフィリピン共和國第一回通常國會劈頭におけるラウレル大統領の施政演説要旨は左の通りである。

「過般の大東亞會議において参加諸國が決議した大

東亞共同宣言は、過去並に現世紀を通じてその比をまない人類の大憲章である。この宣言に示された五大原則についてみるに、第一原則は大東亞各國民並にフィリピン國民が大東亞戦争完遂、東亞民族共榮の共同目的に向つて協力一致、各々その獨立主權を確保維持するのに必要な共存共榮の協力原則を確立したものである。第二原則は、共存共榮協力の基礎に立つて各主權國家が確乎たる團結を保つべきことを誓つたもので、フィリピン並に東亞諸國にとり極めて重要な原則である。第三原則は、相互にその傳統を尊重して各民族の精神文化を昂揚すべきことを示したもので、これは東亞各國民の獨立を保證したのみならず、更に各國民がその信念慣習に従つて進歩と繁榮とを達成すべき傳統並に特異性の保證を意味するものである。第四原則の經濟繁榮の原則については、東亞諸國の團結のみならず、如何なる團結についても、相互に有無相通すること

がなければ、持続しうるものではなく、これによつてのみ一切の繁榮は達成されるのである。大東亞諸國は世界各國と親善關係を強化し、人種的差別の撤廢實現を期すべきことを宣言した。これが第五原則である。吾人は人類の普遍性を無視することは出来ない。世界は如何なる一國にも所屬するものではない。一人種の他人種に對する態度は決して人種的差別觀に立つものであつてはならないのである。轉じて國內問題について述べれば、第一の緊急問題は食糧の確保といふことである。現在の食糧問題は生産と配給統制との二つであるが、第一の生産増強の緊急性は一段と強く、農民に奮起を要求する次第で、各州知事は一段と農村指導に善處されたい。そのためには農村に對する金融問題も考慮されるべきであらう。何れにしても現在の食糧價格の値上りを是正するには、増産が最も必要であり、食糧の自給なくしては國家の獨立はあり得ない。

第二は藥品の増産問題である。比島は數十種の藥草があり、また化學者や藥學者も多く、製藥工場も少くない。これを動員して藥品を増産し、國民の保健衛生を全ふしたい。そのためには化學者達の委員會を組織し、國產藥品の増産を計畫させるべきである。第三は治安の確保であり、現在治安は殆んど完全に確保されてゐるが、國土防衛のため、警察隊を強化し、治安責任者として、政府は内務省に新に次官一名を増員して、治安行政を専門に管掌させる方針である。第四は輸送力の増強改善であり、今後さらに海陸運とも大いに改善されなければならぬ。そしてまた輸送機關の不足が食糧や物資の値上り或は地域的偏在の原因をなしてゐるのに鑑み、この點からも輸送は更に改善されなければならぬ。第五には財政及び金融の改善についても一段と研究を要請したい。新政府の行政力強化には、多くの政府支出を必要とするが、そのためには税制改革、増税

等が必要である。現在國家計畫局では、そのために中央銀行の設立、新通貨制度、輸出入貿易爲替等について研究を進めてゐる。その報告が出来た際には國會に提出し、新たに教書を送つてその立法を要請したいと思ふ。第六は行政機構の簡素強化化である。強力且迅速な行政の推進としては現在の政府機構を改廢統合し、例へばそれにより經濟省の如きものをつくるのもよいと考へる。しかしこの行政機構の改組は豫算と關聯がある。豫算に關しては現在の政府機構で必要な歳出入の收支を近く國會に提出することになつてゐる。第七は救濟事業の繼續であつて、特別國會で支出を決定した二百萬ペソは現在適當に分配されてゐることを報告した。

主要議案内容

通常議會第二日は、十一月二十六日午前十時、本會議を開會し、四十二議案を一括上程、委員附託とし、新に九委員會を任命の後、同十一時半散會、全議員は大統領の午

餐會に出席した。尙、主な議案は左の如くである。

- 一、大風饑饉その他公共災害罹災者救恤の爲四〇〇萬ペソ支出の件
- 一、前米國極東軍所屬フィリピン將兵の未拂給料精算の爲五〇〇萬ペソ支出の件
- 一、現在の國立米穀及び玉蜀黍會社に代る國立米穀會社設立の件
- 一、前フィリピン軍將兵にして不具となれるもの並に之等の寡婦及び孤兒に對し恩給支出の爲恩給局設置の件
- 一、各州及び市に於て慈善常設實施の件
- 一、イロイロ州の橋梁並に校舎の再建及び修繕の爲二〇〇萬ペソ支出の件
- 一、大東亞戰爭勃發前國立銀行及び農工銀行の爲せる貸與に對しモラトリアム實施の件
- 一、戰爭中官吏其他政府雇傭人に對する強制貯金を開始し貯蓄額を返却する件



一、ピサヤ地方次官並にミンダナオ及びスールー地方次官の地位を新設の件

一、官吏其他政府雇傭人に對し家族手当支給の件  
又新設された九委員会は左の通りである。

地方政府、法律改正、文官制度、恩給、國營事業、  
保險、都市、勞働及び山林各委員會

中央銀行創設

フィリピン共和國では、獨立に伴ふ新通貨制度の確立と金融機構の整備擴充ならびに政府財政強化の見地より「比島中央銀行」を創設すべく、かねて準備を進め來つたが、ラウレル大統領は、十一月二十五日の第一回通常國會に送つた一般教書で、

「政府の活動強化に伴ひ政府支出は膨脹するので政府は税制を改革し、政府歳入の増加を計る必要があり、これと共に中央銀行の設立も必要となつてくる。これ等に關しては、現在國家計畫局において報告が作られ

てゐるので、その報告の議會提出に伴つて新たに教書を送り、これに必要な立法を要請することにならう。」と述べ、政府の収入増加手段としての税制を要求すると同時に中央銀行設立の準備が行はれてゐる事實を明らかにした。

人事異動

政府が十一月中に発表した主な人事異動は左の通りである。

警保局長 ギレルモ・フランシスコ將軍  
任内務次官

カリバビ書記長兼會計部長 アルセニオ・ルス  
任カリバビ事務副總長

(十一月二十五日附)

ビルマ

東亞諸民族の協心戮力實現

—— パー・モウ國家代表歸國談 ——

大東亞會議に出席したパー・モウ國家代表は十一月二十四日歸國、同二十五日午後日緬兩國新聞記者團と私邸において會見、大東亞會議の歴史的意義、印象などにつき大要左の如き談話を發表した。

「大東亞會議の重大意義については今更贅言を要しないであらう。從來言葉で語られ又夢みられた所謂新世界の創造と東亞諸民族の協心戮力とが今開始して實現したのである。汪精衛氏、ラウレル氏らの各國家代表及び陪席のスパス・ボース氏は何れも半生を鬭争に捧げた百戦練磨の古武者ではあるが、この人達が涙し、或は咽喉をつまらせて感激した光景を余は目撃した。これらの指導者は宿望が遂に實現したので喜ばずにはゐられなかつたのである。會議の空氣は東條首相を中心に各國家代表が集つて會談するといふ家族會議その

まゝの和氣に溢れてゐたが、殊に遠路遙々やつて來たわれわれを遇する日本側のやり方は到れり盡せりであつた。この家族的感情を我々は日本の津々浦々でもみることが出來て非常に感激させられた。

就中この感情は、十一月七日、十萬の市民が集つて日比谷公園で開催された大東亞結集國民大會において最高潮に達したのである。このやうにうち融けた空氣で行した大東亞會議が、大東亞共榮圈建設に一大標識を打樹てるほどの大成果を生まないわけではない。事實この會議は數々の偉大な成果を得た。その第一は大東亞共同宣言の發表である。この共同宣言は要約してみると、正義に基いて各國の共存共榮を實現し、各國の融合を永久に維持し、自由獨立を尊重しつゝ相互に援助し合ふ旨を約束してゐるものといへようが、これは總ての代表が宣言決議以前に各自の演説において自發的に述べてゐたところである。實際今回の宣言こそ紙上の宣言

ではなく東亞各民族の感情を表明したものであり、即ち理窟よりも人間の心で擱んだものである。

會議の第二の成果は東亞史上始めて民族の指導者間に個人的接觸ができたことである。これは強調することを要しないが、余個人にしても汪主席に始めてお會ひした結果支那問題の深さが判り、その解決が如何に微妙複雑を極めてゐるかが諒解できた。また滿洲國民とビルマ國民との親近性やフィリピンとビルマとの關係の豫想外に密接なこともわかつた。これに對し、ビルマが接敵地域としての困難を冒して健闘してゐる事實を傳へれば、各國代表はわがことのやうにビルマの第一線政策を諒解してくれた。この際特に強調したいのは、ボース氏がインド問題の解決こそアジア問題の解決を意味し、インドの自由なくしてアジアは自由たり得ないことを各代表に完全に納得せしめ得たことである。最後に會議の第三の成果は東亞新秩序建設實現

の第一歩が踏出されたことである。この第一歩は眞に大きなものであるが、われわれは各方向ともに既に定められた道に従つてたゞ前進すればよいのである。そのために各民族の協力一致を更に友好的に強めるのがわれわれの任務である。余の要望としては大東亞會議を定期的に開催して貰ひたいと思ふ。東亞には食糧問題、運輸問題、戦争協力問題等全體にわたつて総合的に計画的に處理しなければ効果的には解決出来ない問題が多々ある。

他方ビルマの政策も亦共同宣言の趣旨に基いて改變される必要があらう。現在余の頭に浮んだことをいへば、第一に何よりも先づ國民全體に共同宣言の趣旨を徹底せしめ、ビルマ民族主義の上に大東亞意識を補強しなければならぬ。第二に外交使臣とまで行かないでも、各民族間に使臣を交換し合ひ、各民族間の紐帯を強化しなければならぬ。そして第三には各民族の文化並に生活状

態の情報を交換し、相互にそれらの長所を取り、もつてそれらの短所を補ふ必要があると思はれる。」

農業國策要綱發表

政府は、去る八月三十一日、バーモウ國家代表が發表した基本國策要綱を全面的に具體化するため、兩來同要綱の指示に副ひ、一箇年を目標として各省毎に所管行政の施策と計畫とを整備立案中であつたが、十一月一日、農業關係における政府施策とその方途とを闡明した農業國策要綱を農務大臣の名をもつて發表した。

本要綱は、先づ政府の採つてゐる農業政策の眼目が、國內自活體制の創建と軍需の充足とを圍りつゝ、農民の福祉と農業の發展とを増進することにある旨を明かにした上、本年初頭以來政府の努力してきた棉花増産計畫、黃麻新栽培計畫、新穀米買上計畫、役牛の保護などの成績を検討し、遠海漁業を始めとする諸産業の振興がビルマ工業化の端緒として持つ重要性を説き、更に土地問題の解決と

協同組合組織の廣汎な再建とを政府が眞剣に考慮してゐることを述べ、最後にビルマが現在採つてゐる自給自足體制創建の政策こそ、大東亞戦争を勝抜く唯一の經濟的進路であることを強調し、國民の理解と協力を求めたものであるが、ビルマが農業國であり、産業行政の中心が農業部門におかれてゐるので、今回發表の農業國策要綱はビルマ國民の間に多大の反響を呼んでゐる。

交通灌溉國策要綱發表

政府は、十一月四日、豫て立案中であつた交通灌溉に關する施策即ち「交通灌溉國策要綱」を正式發表した。

本要綱は、毀損交通路の整備復舊の他に牛車の組織的活用、造船及び船員養成所の擴充、運輸料金の統制等により、國內交通の圓滑な運営を目指すと同時に、郵政および灌溉の復舊事情を報告、さらに新規計畫の方向を説明したものである。

金融國策要綱發表



政府は、十一月二十二日、國家財政の圓滑な運営を圖るため劃期的な金融國策要綱を發表した。

本要綱は、政府本年度豫算が赤字を現出した所以は、ビルマ國獨立達成のための國防費、米穀買上げ資金等已むを得ない経費が多額に上つたことと時局下租税その他の収入減少に基くものであることを明かにした上、この非常財政に對し、國民は勤儉貯蓄の風を振作し、公債應募等により財政運営の圓滑化に協力するやう要請し、ついで近く資本金一千萬ルビーをもつて開設をみる中央銀行の創立により、獨立國ビルマの金融體制が飛躍的に整備されることを説き、最後に全官吏の生活保證のため政府が戦時保險の創設を計畫してゐることを述べてゐる。

醫師並に技師を軍務に徵用

政府は、今回更にビルマ國軍の増強を期するため、醫師並に技師を軍務に徵用することに決し、十一月十六日、「醫師並に技師軍務徵用令」を公布、即日實施した。

即ち獨立以來三箇月、ビルマ政府は、各種の總動員機構の完成に努めた結果、その準備段階を終へ、愈々具體的に戦争協力に乘出し得る實力を備へるに至つたのであり、戦争完遂に邁進すべき烈々たる決意がこゝにも力強く表明されてゐるのである。

インド

自由印度假政府ボース首班訪華

ボース首班は大東亞會議に陪席した後、十一月十七日、東京を出發、同日南京に到着、飛行場において親しく汪主席の歓迎を受けた。ボース首班の隨員は、ボンズレー參謀長、サハイ書記官長、ラヂレユー中佐、ハツサン祕書の四名で、南京、上海を歴訪後、マニラ、サイゴン、を経て、十一月二十五日、昭南に到着した。その間のボース首班の動靜は左の通りである。

十一月十八日 汪主席の招宴に出席、日本、ドイツ、滿洲國各大使館を訪問

十一月十九日 汪主席、ボース首班歓迎首都民衆大會を開催

十一月二十日 南京から「重慶に懇ふ」と題し放送

十一月二十一日 南京を辭去、上海に到着

十一月二十二日 上海出發、マニラ着

十一月二十三日 マニラ出發、サイゴン着

十一月二十五日 サイゴン出發、昭南着

我等の背後には東亞全國家あり

——ボース首班歸國談——

十一月二十五日昭南に歸還したボース首班は、同二十六日正午から興南クラブにおいて記者團と會見し、聲明を發表すると共に、記者團の質問に答へたが、聲明要旨次の通り。

「今回の日本訪問に關し、第一に述べたいことは、日

本國民が全く渾然一體となり、大東亞戦争絶對的完勝の確信を堅持してゐることである。長期且困難な戦争下にも拘らず、その物心兩面の結合戦力は益々擴充強化され、國民の總ては感激を以て最後の勝利に向つて最大の努力を傾注してゐる。今回の大東亞會議の目的は、一言をもつていへば、大東亞戦争の完遂と東亞新秩序の確立といふ二つのことに歸する。しかも、かうした會議が東亞で開かれたことは今回の大東亞會議を以て嚆矢とするものであり、ひとり東亞にとつてのみならず、更に全世界にとつても、今回の會議の意義は極めて重大であつたと思ふ。特に會議の席上、ビルマ國代表バー・モウ總理が記念すべき發言を行ひ、インドの自由獲得に對し全幅的支援をなすべき旨の動議を提出されたことは、ビルマがインドの友邦であることから特に意義深いことといふべく、また東條首相が日本政府においてアングマン、ニコバル兩諸島を自由インド

假政府に歸屬せしめる用意ある旨を闡明されたことは、今回の會議に對し又全世界に對して劃期的な効果を與へたものである。更に余の滯京中自由インド假政府首班として、畏くも、天皇陛下に拜謁仰付られたことは、光榮誠にこれに過ぐるものはない。我々はかくして新しい感銘と十二分の感激とを以て目前に迫る闘争に向ふため東京を發つた。今や我々の背後には日本を盟主として強固に團結した東亞の全國家が控へてゐる。歸途余は中華民國及びフイリピン共和國を訪れることが出来たが、その何れにおいても我々相互の間にそれぞれ共同一致と不斷の協力との信念を深めたことはいふまでもない。アングマン、ニコバル兩諸島を假政府に歸屬せしむべき旨の日本政府の公約はインド國民にとつて非常な意義を有する。即ち我々は今や我々自身の領土をもち、名實共に政府としての實體を齎したのである。自由獲得闘争の第一段階においてアングマン島

が我等に歸屬せしめられることは、フランス革命の初頭におけるバステイユ監獄の陥落を思ひ起させる。アングマン諸島は長年にわたつて我等の愛國者が流刑された島であり、同島において多くの我が愛國者達は英國の虐待によつて死し、あるひはハンガーストライキによる抗爭の結果不幸病魔に倒れたのである。かかる意義を有する島であるが故に、自由インド假政府はアングマン諸島を「殉國者の島」と名付け、ニコバル諸島を「自治の島」と名付けようとしてゐる。かくして今やインド國民闘争の遂行に關するあらゆる前提條件は完備した。今後我等のなすべきことは、敢然として最後の闘争を開始し、英國の桎梏よりインドを完全に解放することであり、このために不斷の勇氣を持つことである。我等の第一に着手すべきことは、現在の國民軍の訓練を一層強化し擴充することであるが、これは既に實行に移されてゐる。我が軍の一部は既にインド國境

地區に進駐を開始した。政府においては第一線勇士の忠勇に報ゆるために恩賞制度を公布し、戦没戦傷勇士の慰藉法を考慮中である。次に政府本部のビルマ進出に關する諸準備も既に完了し、その實現も間近に迫つた。政府のビルマ移駐後と雖も、余は當然各地の各機關及び同志と密接なる連絡を保ち、その動員計畫の推進に更に努力するつもりである。余はインド内部に進駐する日の既に近いことを確信する。勿論ニューデリーの總督官邸の屋上高く國民軍旗を翻へすまでには、なほ長期にわたる苛烈な闘争を繼續しなければならぬであらう。しかしあらゆる事態に對處する萬全の準備は既に完了してゐるのである。」

**ウエーヴェル總督、各州首相と會見**

ウエーヴェル總督は、回教徒會議出席のためにニューデリーへ參集してゐたベンゴール、パンジャブ、シンド並に西北州の各首相と十一月十七日會見、協議を遂げた。

**ジンナー回教徒總裁に再選さる**

回教徒聯盟は十一月十四日ニューデリーで年次大會を開催、ジンナーを總裁に再選した。大會の席上ジンナーは「全インドの解放なくしてパキスタンなし」と喝破して、全インドの大團結を提唱し、またベンゴール州の飢饉に關しては、

「飢饉は人為的であり、英國のインド支配の最大汚點である。」

とインド政廳の施策を非難した。

**石炭割當制實施**

政廳では、石炭事情が、英本國と同様極めて窮迫してゐるので、今後石炭割當制を實施する旨、十一月四日發表した。

**食糧危機依然深刻**

ウエーヴェル新總督は、十月下旬、カルカッタ市飢饉の状況を現場について視察したが、ベンゴール州その他の



食糧危機は依然として去らず、英國政界においてもインドの食糧対策は、重大政治問題化してゐる。しかも、英國としては、對日作戦遂行上ベンガル州その他東部諸州の占める戦略的重要性は無視できないので、年末の收穫期まで何とかして食糧を維持すべく焦慮し、グレゴリー全印食糧対策委員会の如きは、當面の應急用として五十萬噸の食糧輸入を建議してゐる模様であるが、船腹難のため實現は困難視されてゐる。

その上、インド政廳及び各州政府の対策は極めて姑息的で、最悪の状態にあるカルカッタにおいてすら米だ食糧配給は實施されず、却つて對日戦備の擴充強化により食糧の軍調達に激増して行く有様なので、ステーツマン紙の如き英字紙すら今次飢饉は「人為的飢饉」であるととして政廳を批難してゐる。

十六日の收容人員は百八名、餓死者は五十九名に達した。そして十一月十三日迄の二週間に千百十三名の行路病者が收容されたが、内千十四名が死亡した。なほ同期間内死者總数は三千八百三十五名であつた。

疫病襲來の危機迫る

——政廳當局拱手傍觀——

デーリー・テレグラフ紙ニューデリー特派員は、十一月二十日食糧飢饉に悩むベンゴール州に疫病が大流行する危険があるが、インド政廳はこれに對し手の下しやうがないことを指摘して、次の通り報じてゐる。

「ベンゴール州の飢饉はその後大疫病發生の事態を伴ふ可能性を示してゐる。即ち現在すくなくとも百萬の人間が食糧不足のために病氣に對する抵抗力を失つてゐる状態である。コレラ、赤痢、肺炎、流行性感冒等はベンゴール州の印度人に通例の病氣であるが、コレラは既にカルカッタその他の地區において發生してを

り、赤痢及び悪性マラリアは浸透的に流行してゐる。」

濠洲

新總督にグロスター公任命さる

皇弟グロスター公はガウリーの後任として、十一月十六日、濠洲總督に任命された。

開戦以來の兵力損害發表

十月十一日附AP電によれば、政府は、同日、開戦以來八月三十一日までにおける濠洲軍の死傷者数を次の如く發表したといはれる。

死傷者總數	六萬一千五百六十四名
内 譯	
戰死(戰病死を含む)	一萬三千九百八名
戰 傷	一萬四千七百二名
俘 虜	二萬八百二十三名

十一月初旬のロンドン・タイムス紙キャンベラ特電は、政府が、戦車、装甲車の製作を中止することに決定した旨次の通り報道してゐる。

戦車製作中止

「内閣は、陸軍省首脳部と協議の末、国内で生産されてゐた中型戦車その他の装甲車輛の製作を中止することに決定した。マツクアーサーもこの處置に同意してゐるが、軍需相ノーマン・メーキンの言明によれば、米國の軍需生産力が躍進的な増大を示し、特に戦車の

行方不明 一萬二千百三十一名

爆撃機四百臺完成

飛行機製作相ドナルド・キヤメロンは、十一月五日、次の通り言明した。

「濠洲で製作された第四百臺目の爆撃機が四日完成した。飛行機製作省では引續き新型軍用機を設計中である。」





生産量が反極軸側の全需要を満して餘りあるに至つた結果、濠洲工業界がその製造を續けることは人的にも資源的にも不經濟と認められるに至つた。濠洲の人力はこれよりも要求の大きい商船、小型舟艇、農耕機械、機關車、鐵道貨車、航空機部分品等の生産に振向けた方が合理的になつたのである。

炭坑罷業彈壓

政府は、十月中旬以來全國に互る炭坑罷業に悩んでゐるが、検事總長エヴァツトは、十一月三日、炭坑罷業に對する政廳の強硬措置を發表、罷業の責任者は自動的に炭坑夫としての地位を喪失、多額の罰金に處される旨を言明した。

石炭節約令

首相カーチンは、十一月十四日、國內における石炭の消費規正を發表、鐵道用二五パーセント、工業燃料用一二、五パーセントを削減する旨言明した。

食糧窮乏化

戰時生産相デッドマンは、十一月十八日夜、民需食糧配給は、軍隊及び英國への需要を充す爲今後嚴重な制限を受ける旨言明した。尙、價格統制局は、二千六百種の食糧雜貨に對して標準小賣價格を制定する旨、十一月十九日に發表した。

尙、十一月三日附デイリー・テレグラフ紙は、濠洲の物資不足が逐次深刻を加へてゐることにつき次の通り報道してゐる。

「先づ濠洲に行つて一驚を喫するのは、消費材殊に日用品全般の甚しい不足で、酒、煙草は殆んど手に入らない。ホテルやレストランも人手不足に悩んでゐる。野菜類の不足は殊にひどく、主婦達は野菜に對して「飢饉値段」とも稱すべき高價な値段を拂はなければならぬ。燃料問題も亦極めて深刻で、殆んど連日のやうに各地で炭坑罷業が起つてをり、従つて今冬の石炭供

給は極めて困難とみられ、各家庭では極力ガス、電氣を節約するやうに申渡されてゐる。過去九ヶ月間に罷業は約二百萬噸の石炭を喪失させたが、それにより濠洲全土の鐵道の受けた影響は甚大で、列車特に貨物列車の遅延よりは一般生活に大きな不便を與へてゐる。

駐ソ公使にマロン任命さる

ハーバート・エヴァツト外相は十一月五日、最近辭職したモスクワ駐劄公使スレーターの後任にマロンが任命された旨發表した。

南阿聯邦

スマッツ首相「新世界の構想」を語る

首相スマッツは、十一月二十五日、ロンドンの議事堂に開催された英帝國議員協會英本國支部會員の非公開會議席上、「新世界の構想」と題して演説を行つたが、その

全文は十二月二日小冊子として一般に公表され異常な物議を醸した。その所論は、今次大戰が反極軸側の勝利に終るとの架空の前提の下に描き出された戦後世界の構想であるが、眞實スマッツの意圖したところは寧ろ戦後英帝國の國際的地位の轉落と、本國屬領を結ぶ内部的紐帯の分裂とを懸念し、國內識者の注意を喚起するとともに、南阿聯邦自體の補強策を提示するにあつたものとみられる。

然し乍ら、彼の演説に對する反響は、主として、反極軸側の表看板である自由主義と民主主義との破産を認め指導者原則と武力的背景との必要を強調した點、米英ソ三大國による安全保障體制を提唱して主權平等を夢みた諸小國を驚かしたのみならず、ソ聯の歐洲に於ける勢力擴大を容認し、重慶政權を無視し、佛伊の轉落を示唆した點及びソ聯に對抗する爲に西歐諸小國に對し英帝國への参加を招請した點等に集中されてをり、且又、かうし



た言辭を國際聯盟主義者中の第一人者であり、又、反樞軸陣營中第一流の政治家として現在尙責任の重い地位にあるスマッツが述べたといふことも加はつて、樞軸國、中立國は勿論反樞軸國並に英帝國内に於ても猛烈な論議の對象となつてゐる。演説要旨左の通り。

「我々の世界は今や數世代にわたり嘗て當面したことの無い複雑な事態に達着してゐる。従つて我々が來るべき戦後の世界を考へるに當つて陥つてならないことは、先づ第一に事態を極端に單純化してその上に解決策を組立てることである。

一九一九年の一月より五月迄に行はれた講和會議においては、この期間内に本當の争點を回避し他の諸問題を過度に單純化する手法によつて講和條約をまとめ上げた。今度再び若し右と同一の手段によるときは更に大きな混亂に陥るであらう。過度の單純化の手法によらないかぎり、講和會議を開き、問題を片付けるこ

とは出来ない。今度の戦争が済んだ場合に世界の當面する諸問題は、あまりに尨大であり、非常に複雑且困難で、どうにも扱ひかねるであらうから、結局戦争を終らせる爲に無條件降伏の基礎の上に全般的且廣汎な休戰協定を締結するだけで満足し、その後は時に講和會議を開かず、全般の複雑な諸問題を故意に單純化することなく、あるがまゝに長い調査と研究とを経て解決にあたらなければならぬ。次に今一つ我々が陥つてはならない誤謬は、標語とか主義とか方式とかといふものを先づ立てて、然る後に之に當てはめるやうに新組織を組立てることである。我々は「民主主義の爲に」とか「自由の爲に」とか云つて戦つてゐるが、これらの主義は段々と極り文句となり、漠然たるお題目となつてしまつて、結局問題の解決には役立たないものになつてしまふ。我々はかうした自由とか、民主主義とか、主權平等とかいつたお題目に拘束されることなく、複

雑なる事態に對し眞の解決を齎らさなければならぬ。歐洲は完全に變容しようとしてゐる。舊歐洲は最早存せず、古い地圖は巻かれ、新しい地圖が繰展げられる。戦後歐洲五大國の内三大國は消えて無くなるであらう。フランスは消えて無くなり、假に立直るにしても、我々の時代においては、否その後の期間においても、立直ることは出来ないであらう。イタリアも亦完全に抹殺されて了ひ、再び大國となることはあるまい。ドイツも亦消えてなくなり、再び古い形で立直ることは恐らくあるまい。ドイツ人は偉大な素質を持つた偉大な國民である。ドイツは本質的に偉大な國である。しかし今度の戦争が済んで粉砕されて了へば、ドイツは長い間歐洲から懐消しにされてしまふであらう。かくして歐洲に残る大國は英國とロシアとだけとなる。ロシアは歐洲における新しい怪物であり、大陸を股にかけた新しい怪物である。

國際聯盟は諸國家の主權平等を認め、多數の國家を参加させ、世界的な一大安全保障體制を確立したかにみえたが、しかもこの組織においては指導者と實力との問題が曖昧にされてゐた。皆が責任を負はなければならぬといふことは、結局誰も責任を負はない結果となつて、ごたごたを繰返してゐる間に侵略國が思ふままに振舞つてしまつた。今次大戦の原因もこの點に存するのであり、武力の背景をもたない平和は結局夢に過ぎない。重大な非常時に際し、指導者原則が如何に役立つかは諸君も充分承知してをられることと思ふが、指導者原則を伴はない限り自由だけではどうにもならない。従つて次の世界の新秩序の構成に當つては、我々は自由とか民主主義とかいつた單一の理想で劃一すべきではなく、之に指導者主義をも加味すべきであり、且それは武力の裏付けをもつた安全保障體制でなければならぬと思ふ。自分の考へでは、新しい世



界秩序は國際聯盟規約によるよりも現在反樞軸國の首班に位する三大國即ち米英ソに指導權を與へることによつて保たれるであらう。なんとすれば、この三大國は現在と同じく戦後においても亦聯合國の主班であるにちがひないからである。

そしてこの指導權はあくまで對等な米英ソ三國の三位一體の掌中に止まるやうに取計らはれなければならぬ。この三國は實力においても勢力においてもその他のあらゆる點においても平等でなければならぬ。

米英合體論の如きは、この勢力均衡を再び偏らしめるものであり、米英が合體乃至聯合を作り、残りの世界と對峙することは極めて一方に傾いた世界を現出させ、結局は反對派を作り出すことによつて、諸君の行先に幾多の獅子を呼び起す結果とならう。

かうしたことからみて我々は、戦後世界の新秩序は夫々實力を背景とし、しかも相互に對等な英米ソ三

大國の三位一體の中に維持された指導權により保障される如き秩序でなければならぬと考へる。この三位一體構構こそ世界の自由と民主主義再建上の實力の防壁となるのである。

しかし乍ら、この三大國は、實力において果して平等を保持し得るであらうか。先づロシアをみよう。

歐洲においては獨佛伊三國は没落してしまひ、ひとりロシアだけが女主人公として大陸に君臨する。ロシアは史上類例を見ない大陸を股にかけた新しい怪物である。又、北米合衆國は測り知れない富源と潛勢力との老大な資産を持つてゐる。

しかるに英國は、今度の戦争に一切を傾け盡し、何物をも手控へず、従つて何物も残されてはゐない。英國は人類の戦ひに勝ち抜く爲に身も魂もその他のすべてをも捧げ盡した。戦争には勝つとしても、その結果英國は物質的經濟的見地からすれば貧乏な國とならう。

英帝國と英聯邦とは主として歐洲以外の存在であり、總ての大陸に足を踏み込んでゐるが、歐洲では甚しく不具となり果てるのである。

しかも歐洲外には、米國その他の世界の諸國が控へてゐる。結局三位一體と云つても、非常な實力と資源とを兼ね備へたロシアと米國とに對し、この英本國は、英帝國並に英聯邦の心臓部ではあるが、他の兩國の老大な資源に較べれば歐洲に於ける力の點で非常に弱いものになつて了ふ。自分は比較のとれない組合せが出来たのではないかと懸念に堪へない。この考へは何遍も何遍も自分の頭を去來したのであるが、この際充分に考へねばならない問題として諸君の前に持出した次第である。

私はこの比較のとれない組合せに對處するために西歐の民主主義諸小國と緊密に協力して、歐洲における英本國の立場を強化することが必要ではないかと思ふ。これら諸小國としても、今次大戦において亡國の

悲運を體驗し、中立といふことが如何に空しいものであるかを悟つた筈である。彼等諸小國は我々と生活様式を等しくし、世界觀や理想や政治的精神的本質を等しくしてゐる。恐らく彼等は、三大國中英國と共に立つて行く以外に道の無いことを悟つてゐることであらう。他方、英聯邦内の諸國はすべて主權國家であり、主權のあらゆる屬性と機能と象徴とを維持してゐる。従つて同じ様な人生觀を、持ち同じやうな生活様式を持つて暮してゐる他の隣邦諸國が「これがおれ達の仲間なのだ。一緒になつて悪い理由が何處にある。主權國家としての地位を充分に保持しながら、この危険な世界において、我々の將來のために、この偉大な組合せを選ぶのだ。」といつても一向さしつかへないのである。英聯邦はこの種の發展に門戸を開いてゐる體制なのである。勿論この問題は諸小國自身の處理すべき問題であるが、既に實證された空しい孤立と中立を選ぶ

か、はた又英國並びに英帝國との緊密な聯合を形成して、全世界に互つて偉大であるのみならず、歐洲大陸においても亦強大であり、戦後世界の指導者たるべき一大歐洲國家を建設して、歐洲における他の怪物(ロシア)の平等な相手國たる地位を選ぶか、その何れが彼等の爲に安全な道であるかは彼等自らが決定しなければならぬ問題であらう。思ふに我々の知つてゐた古い世界は既に過ぎ去つてしまひ再び立ちかへつては來ない。我々は古い觀念を修正して大いに根本的な考へ方をしなければならぬ。

西歐洲における幾多の思慮深い人達は、恐らく今私が表現したのと同じやうな線に沿つて思考してゐるのではないかと思はれる。

第二には英帝國と英聯邦の現在の二元體制が果して將來も持続されるべきか否かの問題である。聯邦においては飽くまでも分權主義であり、各構成單位は主權

國家として分散し、各國は破ることの出來ない精神的紐帯を維持し乍らも、統治に關する一切の問題、内治外交上の諸問題につき、いづれも完全な主權を保全してゐる。しかるに一方、植民帝國としては極端な中央集權主義に立ち、一切はロンドンに集中されて居る。

従つて、英聯邦の構成者である各自治領は、實質的には英帝國と全然關係が無く、始ど何等の關心をも抱いてゐない。かうした状態が果して永續し得るものであらうか。私はこの二つの體制の間の接近を圖り、この二元制度を清算して双方を一層接近せしめ、英帝國と英聯邦とを一緒にすべきであらうと考へてゐる。思ふに英國の植民制度は餘りに數多くの單位から成つて居り、歴史的な偶然により偶々出來た小さな單位が種々雜多の民度において存在してゐる。

私はかうした小さな植民地の單位を撤廢し、局地的にもつと大きな單位の植民地集團を結成して總督を置

き、これにロンドンの植民省から行政權を移讓して分權主義に移行することが極端な中央集權主義に伴ふ諸困難乃至は外國より加へられる植民地帝國主義の非難を避け得る賢明な道であると信ずる。

植民帝國を右のやうな分權主義に改めるならば、次に各自治領との接近も可能となる。共同の發展につき、自治領がその有する資源と體験とを生かし、その權益内にある植民地に對して關心と誇りと利益とを抱くやうな組織とすれば、これらの自治領は、英帝國の分擔者乃至は組員となり、英帝國は新しい一貫した一個の組織體となることが出來よう。

今や我々は、嘗て何人も當面しなかつた様な變革を各國民が必要とするに到る歴史上の時機に着々近づいてゐる。自分は今こそ我々が多少なりとも自己の家のことについて思ひを致すべきときであり、そして自身身の家を整へ不備を除き、内面的な軋轢と誤解の原因と

になるものを取除くべきときであると思ふ。私は諸君が今日全世界に互り非常な困難の裡に苦闘してゐる他の國園について考へるばかりではなく、我々自身の國に對しても多少の考慮を拂つてもらひたいと思ふのである。

### カナダ

#### ロールストン國防相訪英

國防相ロールストン大佐は、英軍當局と會談のため、十一月五日、ロンドンに到着した。

#### 炭坑罷業

アルバート、ブリチッシュ・コロンビア兩州の炭坑夫約八千五百名は、十一月一日から一齊に罷業を開始したが、かうした多數の勞働者が参加した炭鑛罷業はカナダ有史以來最大のものといはれる。

#### 尙、勞働者側は、

一、一日の賃金水準を五弗七十八仙に引上げること

一、一年二週間の有給休暇及び土曜日の半休を認めること  
の二項を要求してゐる。

### アルゼンチン

#### ヒルベルト外相対外政策闡明

十一月一日、チリー新聞ラ・オーラ紙通信員に對し、アルゼンチンの中立維持を闡明したヒルベルト外務大臣の聲明を續り、軍首脳部並に將校連は、十一月五日、外務省に集合し、同聲明を全幅的に支持する旨を表明したが、十一月七日附諸新聞は、ヒルベルト外相の同聲明に關する同日附サンチャゴ發A.P電報又はU.P電報を掲載した。ヒルベルト外相は、右聲明において、

「戦争終了の暁にはアルゼンチンを一隅に放擲せよと云つてゐる者があるが、余はアルゼンチンの經濟的地位が右の如き言葉を覆すことが出来るといふことを

信じる。アルゼンチンはデモクラシー陣營の殺倉であるといはれた國で、アルゼンチンの産物が主に食糧であることを忘れてはならない。従つてアルゼンチンを閑却することはできない。」

と斷じ、更に最近濃化したアルゼンチンの對智接近政策に言及し、同外相は、兩國が經濟的共通利害關係及び精神的熱意をもつて結合されてゐるものであると聲明し、又石油事業にも言及して、次の如く述べてゐる。

「アルゼンチンは本問題につき困難な立場にあり、北米が石油採取用機械類の對亞供給を拒否した事實は、今日總ての南米諸國における死活問題である經濟提携の阻害を意味するものである。アルゼンチンは、チリーのガソリン問題及びブラジル、パラグアイ、ウルグアイ等の同問題をも緩和出来る筈であるが、事實はこれに反し、日々の國內消費に對し、嚴重な統制をしなければならぬ實情である。」

次いで共産主義に關しては次の如く述べた。

「共産主義は絶対に御免である。共産主義は明かにアルゼンチン國民の感情に相容れないものがあり、又、全南米人の感情とも相容れないものであると信ずる。」

#### 第一回對米金塊輸入八億五千萬ペソ

大藏省は、十一月初旬、米國よりの金塊輸入に關し要旨次の如く發表した。

「米國側よりの通知によれば、ニューヨークリズより第一回のアルゼンチン向金塊積出が行はれた。右はアルゼンチンの對米輸出超過により生じた受取勘定としてニューヨーク聯邦準備銀行に預金されてゐたもの一部であり、アルゼンチン中央銀行の通貨準備に採入れられる筈である。今回の金塊積出は八億五千萬ペソで、政府は今後とも金塊の輸入を漸次行ふべく必要な措置をとつてゐる。」

即ちニューヨーク聯邦準備銀行に預け入れられてゐた

金塊の一部は、すでにニューヨークから積出され、ニューヨークリズに向け輸送中であるが、同所到着の上はアルゼンチンの船に積替へられ、アルゼンチンに向ふ筈である。なほ現在までに積出された金は總計八億五千萬ペソに上つてゐる。かうしたアルゼンチンの金引揚げに続き、他の中南米諸國も續々これに倣つてゐる模様で、米國財務省の發表によれば、金の現送を行ひ、あるひはこれにつき折衝中の中南米諸國はすでに八箇國に上るといはれる。この現送の目的は大體各國の通貨準備を強化するためとみられてゐる。

#### 對パラグアイ通商協定締結

外相アルフレド・ヒルベルト將軍は、十一月十七日、ブエノスアイレスにおいて、パラグアイ藏相ロエリオ・エスピノサとの間に兩國間の新通商協定に調印した。

#### 政府共産黨を彈壓

——極左學生團體を解散——

政府は、十一月七日、學生團體の最高組織たる「アルゼンチン學生聯盟」に對し極左傾向があるとの理由で解散を命じた。更に警察當局は共產黨機關紙ウニダ・ナチオナルその他左翼文書の秘密印刷所を探知し、首魁二名を逮捕した。

米週刊誌タイム販賣禁止

米國のアルゼンチンに對する壓迫工作は日を追うて愈熾烈となり、最近米國の新聞、雜誌などまでが露骨な反亞宣傳を開始してゐるが、政府は、十一月十九日、突然米國週刊誌タイムの國內における販賣を禁止した。

チリ

フエルナンデス外相歸國

フエルナンデス外相は、米國及び米洲諸國訪問を終

へて歸國の途次、十一月九日、リマ市においてペルー代表ソルフ・イ・ムロ外相との間に、兩國間の自由交易案を研究する委員會を夫々設置する旨の協定に調印したのち、サンチャゴに歸着、十一月十一日、リオス大統領に對し今次旅行の結果につき報告を行ひ、ルーズヴェルト大統領より托された訪米招請狀を手交した。

憲法修正案可決

議會は、十一月十四日午前、上下兩院合同會議において、百八票對四十票をもつて懸案の憲法修正案を可決した。この憲法修正により政府公共機關の新設廢止にともなふ豫算の決定權は、議會から大統領の手に移されるが、この修正問題は一九三五年以來チリ政界の重大問題となつてゐたものである。

港灣労働者罷業

ヴァルパライソ港の沖仲仕は、當局による勤務時間改訂に反對し、十一月九日罷業に入つたが、政府は、同罷

業に鑑み、同日ヴァルパライソ港並に市街地區に戒嚴令を布いた。しかし、同市を中心とする罷業は、十一月十三日に至つて遂にチリ全國に擴大、北はアрикаから南はマガラネスにいたるチリーの諸港灣は悉くその機能を停止する形となつた。殊にヴァルパライソでは、交通労働者その他が同情罷業を開始した爲電車も乗合自動車も全く停止し、更に肉屋、パン屋なども罷業に参加してゐるので、軍隊が出勤して最小限度の食糧の補給に努めてゐる。政府は緊急事態に對處するため、取敢へず、ヴァルパライソ市から海水浴場ウイニヤ・デル・マールに至る全地域を緊急地帯として軍隊を出勤し、警戒にあたらせる一方、數多の緊急令を發して治安維持につとめたが、罷業は、同十四日、政府と労働組合代表との間に假協定が成立した結果、一應終了したといはれる。爭議團は時間的勤務手當の關係から政府の十時間勤務制に反對して罷業に出たのであるが、協議の結果當局において時間的

勤務手當については特別に考慮する旨を公約して漸く安結に達した模様である。

ブラジル

ヴァルガス大統領革命記念日演説

ヴァルガス大統領は、十一月十日、ブラジル革命記念日において、要旨左の如き演説を行つた。

「政府は國內の治安を紊亂せんとする如き如何なる企圖に對しても斷乎たる措置をもつて臨む用意がある。目下ポリヴィア、ウルグアイ、パラグアイ等の隣邦とブラジルとを結ぶ國際的通路を構築中であり、これが竣工すれば、ブラジルは遂からず太平洋への出口をも持つに至るであらう。」

肉類輸出禁止令公布

國內の肉類飢饉は益々甚しく、政府は十一月八日に至

りあらゆる肉類の輸出禁止令を發した。この肉類飢饉は本年の旱魃が主要原因とみられてゐるが、燃料不足による輸送困難も直接の原因となつてゐる。肉飢饉の特に著しいのはリオデジャネイロ、サンパウロ地方である。

對米雲母水晶供給協定延長

米伯兩國間のブラジル産雲母、水晶等買上げに關する協定は本年五月をもつて満期となつてゐたが、政府は今回更に同協定を一九四四年五月まで延長するに決し、十一月八日、新協定に調印した旨發表した。

米伯衛生保險計畫延長協定締結

政府は、十一月二十五日米國との間にブラジルのアマゾン及びリオドセ盆地における衛生保險計畫延長に關する協定に調印したが、新協定に基きブラジルは右計畫のため五百萬弗を支出、米國は三百萬弗を支出することになつた。なほ現在までに米國が右計畫に支出した額は五百萬弗で、これに對しブラジルの支出した額は五十萬弗

に過ぎなかつたといはれる。

有色人種排斥法案提出

政府は、十一月九日、議會に戦後黒人竝に黄色人種の入國を禁止する法案を提出した。

ウルグアイ

新首相にアルヴァレス・シナ就任

政府は、十一月三日、過般死去したベドロ・コシオに代り、アルヴァレス・シナを蔵相に任命した旨發表した。

ボリヴイア

對パラグアイ通商協定成立

ボリヴイアおよびパラグワイ兩國大統領は、十一月十

五日からボリヴイア國境の一村落チヤコで會見、數種の通商協定に署名したが、右協定中には、

- 一、パラグワイ産椰子油とボリビア産石油とを交換する件
  - 一、チヤコよりパラグワイのプエルト・カサドまでの間に油送管を敷設する件
- 等が含まれてゐるといはれる。

コロンビア

大統領代理にエチヤンディア就任

——ローベス大統領事實上政權拋棄——  
大統領アルフォンソ・ローベスは、十一月十九日、三ヶ月間の豫定で、訪米の途にいたので、十一月二十一日、大統領代理にドリオ・エチヤンディアが就任した。尙、ローベス大統領は最近共産黨及び労働者諸團體との密接な協力の下に左翼的獨裁の傾向を多分に示すに至

つたが、この傾向に對し、軍首腦者間において反政府的氣運が顯著となつた。しかもこれ等軍首腦者は明にアルゼンチン現政府の革命運動の影響を受けてゐるので、軍部を主眼とする國粹革命運動勃發の可能性が絶えず傳へられる一方、上下兩院自由黨議員約七十名は、親米派であるサントス前大統領の指導により、反ローベス團體を結成し、そして健全な國粹的傾向を有する軍部政府の出現に先手を打つて、親米政權を樹立するべく、ローベス大統領の追放を畫策した。かくして進退谷まつたローベス大統領は、十一月十九日、夫人の病氣療養を表面の口實として、サントス派の首腦者であるドリオ・エチヤンディアに政權を渡し、北米に向つたものと一般にみられてゐる。

對獨宣戰布告

政府は、十一月二十六日夜、ドイツに宣戰を布告した模様であるが、外相カルロス・ロサノは上院に對して宣戰布告後の政府の政策を説明したといはれる。

りあらゆる肉類の輸出禁止令を發した。この肉類飢饉は本年の旱魃が主要原因とみられてゐるが、燃料不足による輸送困難も直接の原因となつてゐる。肉飢饉の特に著しいのはリオデジャネイロ、サンパウロ地方である。

對米雲母水晶供給協定延長

米伯兩國間のブラジル産雲母、水晶等買上げに關する協定は本年五月をもつて満期となつてゐたが、政府は今回更に同協定を一九四四年五月まで延長するに決し、十一月八日、新協定に調印した旨發表した。

米伯衛生保險計畫延長協定締結

政府は、十一月二十五日米國との間にブラジルのアマゾン及びリオドセ盆地における衛生保險計畫延長に關する協定に調印したが、新協定に基きブラジルは右計畫のため五百萬弗を支出、米國は三百萬弗を支出することになつた。なほ現在までに米國が右計畫に支出した額は五百萬弗で、これに對しブラジルの支出した額は五十萬弗

に過ぎなかつたといはれる。

有色人種排斥法案提出

政府は、十一月九日、議會に戦後黒人竝に黄色人種の入國を禁止する法案を提出した。

ウルグアイ

新首相にアルヴァレス・シナ就任

政府は、十一月三日、過般死去したベドロ・コシオに代り、アルヴァレス・シナを蔵相に任命した旨發表した。

ボリヴイア

對パラグアイ通商協定成立

ボリヴイアおよびパラグワイ兩國大統領は、十一月十

### ヴェネズエラ

#### 新内閣成立

内閣は、十一月十七日、總辭職したが、翌十八日夜、新内閣が成立した。主要新聞僚左の通り

内相	ホセ・ニフメデス・イ・ヴァス
外相	バラ・ベレス博士(留任)
陸相兼海相	マスエル・モラン

### メキシコ

#### 米國から驅潜艇三隻購入

政府は、米國より驅潜艇三隻を購入することになり、十一月二十一日、米國大西洋岸の某造船所で引渡式が行はれた。

### スペイン

#### 對比儀禮電報事件公報發表

外相ホルダナ伯は、去る十月十八日フィリピン共和國の誕生に際し、ラウレル大統領に對し、儀禮電報を發したが、各國言論機關中にはこれを以てスペインがフィリピン共和國を承認したものであると報道するものがあり、米國政府からもその眞偽につき問合せて來たのに鑑み、スペイン政府は、十一月十九日夜、右に關し次の公報を發表した。  
「ラウレルフィリピン共和國大統領から十月十三日送られた電報に對する答電として、スペイン外相が同月十八日同氏に發した儀禮電報は、外國ラジオ解説者及び通信機關よりスペインがフィリピンの獨立を祝福し、これを承認したものであるとの報道に使用されるに至つた。

これらの報道は米國新聞において、非常に騒がれた

ために、米國政府は、スペイン政府に對し、その眞偽を確かめ來つたので、政府はワシントン駐米大使に對し、次の覺書を米國務省に提出すべきことを命令した。

スペイン政府は米國政府に對し次の通告を提出することを欣快とする。

一、ラウレル大統領に對する電報は血液、宗教、言語によつて、スペインと結ばれ、五十年前まではスペインとともに生活して來たフィリピン國民に對する儀禮的行爲である。政治的、國際的情勢とは離れて、フィリピンとスペインの傳統には密接なつながりがある。これこそスペインが偏頗と解釋されるが如き政治的行動を回避してゐる理由である。

一、スペイン外相は、今回の電報が凡ての政治的問題の埒外に置かれるものであり、フィリピン政府の間接的な承認を意味するものではないことを理解せられ

んことを希望する。

一、この覺書は、スペインと米國政府との友好關係を曇らせるが如き歪曲せる解釋を防止せんとするものである。

政府の右對米通告に對し、マドリッド駐米の米國大使は、米國政府に代つてスペイン外相に對し「米國政府はスペイン政府の通告を諒としこの問題は解決されたと認め」旨を通告し來つたといはれる。

#### 對英貿易協定締結

政府は、十一月中に英國政府とオランダ三千万噸および玉葱十五萬噸の輸出協定を結んだが、十一月二十六日、更にオランダ小噸四十萬噸の輸出協定を締結した。戦前スペイン、英國間の柑橘類貿易は極めて好調を示したが、漸次衰退し、最近は特に不況にあつた折柄、今回の協定を業者は歓迎してゐる。



### ポルトガル

#### サラザール首相對英關係聲明

サラザール首相は、十一月二十六日、議會において演説を行ひ、日本軍の澳門侵入説を否定したが、右演説中歐洲方面に關するもの要旨は左の通りである。

「アゾレス協定は極めて機微であり、又困難な性質を有してゐるので、交渉経過の詳述を差控へてゐるが、英國側から便宜供與の要請があれば、政府は政治的軍事的並に經濟的影響を慎重検討の上、英國の要求に應じることとしてゐる。本件讓與に際し、政府はポルトガル國外交政策の基調に従ひ調和を計り併せてポルトガル國の平和保持に支障を來さないことを期したのである。英國は開戦以來大西洋における航行の防衛上アゾレス基地使用の必要を痛感してゐたが、それ

から生じる影響の重大性を考慮し、多年申出を控へてゐたばかりでなく、今次の要求に際しても必要な最少限度に止めたことはポルトガル國として英國の態度を多とするものである。戦争勃發以來、英葡同盟に忠實なポルトガル國は、戦争の推移に伴ふ國際關係上の新事態等の關係において極めて複雑且困難な場面に直面して來たが、しかもポルトガル國外交政策の基調を爲す英葡同盟、葡伯親善並に西葡協調を保持しつゝ、中立を堅持出來たことは欣幸である。アゾレス協定と同時に兩國間に數種の約束が結ばれたが、その一は對葡武器供給の約束で、右の事實により既に相當數の武器を入手出來ることとなり、茲にドイツ、イタリア、デンマーク、スエーデンから購入したものと併せ軍備の充實を見た。その上本年八月一日以降、英國から輸入した武器の代價は對英便宜並に勞務供與を以て補填され、現金支拂の必要はない。その二は國民の經濟的困難緩和に關する約束で、

從來經濟上の封鎖及び船舶不足に起因し、國民生活並に經濟上に多大の困難があつたが、右約束により事態の改善が期待される。アゾレス協定によつて、英葡同盟は、ポルトガル國の中立政策と矛盾しない範圍において部分的又小範圍乍ら活用されるに至つたのである。從來有名無實の評があつた右同盟の政治的並に軍事的協力を再生させ、同時に又右の機會に英國並にその自治領及び米國がポルトガル領土全般に對する主權尊重の保障を與へたことは、英葡關係並にポルトガル國の國際關係上特筆すべき事象で、英葡協定を以てポルトガル國の自演行爲とする批評は敢へて留意する必要はない。ポルトガル國の地位は、國際問題に關する批判の自由において益々制限されてゐるので、一般國際政局並に政局の推移については論及を避けたいが、吾人の最大關心が平和にあることは特に力説する次第である。」

#### パチエコ交通相死亡

政府は、十一月十六日、交通相ホセ・アルテ・パチエコが十五日、自動車事故に逢ひ、十六日死亡した旨發表した。新任英國駐葡大使バルメラ公は、十一月四日、ロンドンに着任した。

#### 駐英大使バルメラ公着任

### スエーデン

#### 佛國解放委員會に外交代表派遣

政府は、十一月二十七日、アルジェーのフランス國民解放委員會に對する外交代表としてベルフラークを任命した旨發表した。尙、ヴァイシー政府との國交は依然繼續するものとみられる。

### フィンランド

#### 總選舉延期

議会の組織委員会は、十一月十一日、総選挙を一九四五年まで延期する政府の提案を可決した。

### アイルレ

#### 緑色戦線ダリー追悼記念會開催

——自由インド假政府維持を決議——

緑色戦線(英領北アイルランドをエール國に合併し、全アイルランドを英國から解放することを目的として去る九月一日結成された團體)は、十一月五日、ダブリンにおいて北アイルランド獨立運動に殉じたジェームス・ダリーの追悼記念會を開催し、その席上、同じく英國の輻絆を脱することを目的として發起した自由インド假政府スバス・チャンドラ・ボース首班のインド獨立運動に對して同情決議を行つたと傳へられる。

### ヴァチカン

#### 法王聖母祝日を期し新講要請

ローマ法王ピオ十二世は、十一月二十五日、マリオーネ國務卿宛書翰の形式を以て、昨年通り十二月八日、聖母祝日を期し、世界各地のカトリック信徒は正しい平和

#### 國籍不明の飛行機爆彈投下

十一月五日午後八時過ぎ國籍不明の一飛行機がヴァチカン市内に四個の爆彈を投下し、モザイク工場を全壊し、停車場その他に輕微な損害を與へたが、人的被害はなかつた。八日附オツセルバトール・ローマーノ紙は右事件の詳細を發表すると共に、その中立性が何人からも疑はれない法王の世界的使命達成のため存在するヴァチカン市が侵害されたことを遺憾とする旨を述べた。

尙、ローマ法王ピオ十二世は、同日、交戦各國に通牒を以てヴァチカンの上空の中立を尊重するやう更めて要請し、右通牒寫しを中立各國にも傳達したと傳へられる。

の到来の爲祈禱するやう命じたが、右書翰は二十八日、オツセルバトール・ローマーノ紙上に公表せられた。

### ルーマニア

#### パンタツチ國防相クリミア戦線視察

國防相パンタツチ將軍は、十一月四日から十一日に互る一週間、クリミア半島のルーマニア軍を視察したが、同將軍はアントネスコ元帥への報告書において、同半島のルーマニア軍並に獨軍の士氣は極めて旺盛である旨を述べたといはれる。

### ブルガリア

#### 故王の遺業踏襲を一齊に強調

——議會攝政宣言奉答文案討議——

議會においては、十一月二十三日から二十六日に互り、攝政宣言に對する奉答文案討議が行はれたが、右に際し、各議員は擧つて故ボリス三世陛下の遺業を國民一致して踏襲すべきことを強調し、ブルガリア國はマケドニア、トラキアに對し歴史上正當な權利を有するもので、これら地方の領有により、ブルガリアは自己のものを恢復した迄であり、今日英米がブルガリアに同地方撤退を要求してゐることは、あたかもブルガリア國に自殺を強制するに等しく、同地方擁護の爲にはもとより一戦をも辭しないとの見解を示した。更にまた、ニューイイ條約(十一月二十七日はソ聯の調印記念日に當る)の例に鑑み、國民は米英の欺瞞宣傳に耳を藉さず、あくまでドイツと緊密な盟邦關係を保つ必要があるとともに、一方ブルガリアは又バルカンの平和を希望してゐるが故に、その爲には、トルコとの友好關係が重要であると指摘する向もあつた。

ブーゲンビル島沖戦果に関する各紙論調

帝國海軍航空部隊のブーゲンビル島沖における赫々たる戦果に關し、ブルガリア各紙は左の如き論調を示してゐる。

「日本海軍今回の大勝利は歴史的な意義を持つてゐる。米國海軍省が損害について未だに沈黙してゐるのは、日本大本營の發表が全く正確であり、反對に米國の宣傳が如何に出鱈目かを證明してゐる。」(十一月十一日附ドニー紙)

「ブーゲンビル島沖航空戦の赫々たる勝利は、大東亞反攻を策する米軍に戰略的一大痛棒を與へた。米軍がブーゲンビル島の占領を企圖し、老大な兵力を同方面に集中したことは明瞭で、日本海軍航空部隊は突如米軍船團を急襲し赫々たる戦果を収めた。但し戦果の蔭には偵察部隊の不斷の勞苦が潜んでゐることを忘れてはならない。」

今回の戦闘で米軍は日本海軍の實力について、苦い教訓を嘗めたわけであるが、同時に日本軍は大東亞全球における日本軍の鐵壁の守りを端的に實證し、日本軍總反撃の一端を示した。更に日本軍の損害の極めて僅少なことは特に注意すべきで、反對に米軍の損害は眞珠灣の敗戦より一層大きい。(十一月十二日附ウトロ紙)

キリル攝政等トラキア地方視察

攝政キリル殿下及び陸相ニコラ・ミシヨフ大將はブルガリア領トラキア地方の視察を終へ、十一月二十七日ソフィヤへ歸還した。

ハンガリー

カライ首相外交政策聲明

首相フオン・カライ博士は、十一月十二日、下院において來年度豫算の説明に關聯し、外交政策を簡明、次の通りと信ずる。バルカン諸隣國に對する關係において

り述べた。

「政府が、その國策を完遂出来るかどうかは、主として國民自身の力によつて決定されるものであることを全國民は十分覺悟しなければならない。反標軸陣營は専らハンガリー國民に對し神經戦を企圖してゐるが、政府は從來の政策を堅持して變らず、殊に國境線を防衛するためには周到な軍事上の準備を整へなければならぬ。今回の戦ひは祖國存亡の戦ひであり、國境防衛の用意がない國民は裏切者といはなければならない。」

ギツチ外相ドイツとの共同運命強調

十一月二十六日の議會演説に於て、ギツチ外相は左の如く述べた。

「獨逸兩國は同じ運命の下に緊密な關係にあり、ドイツは現在その運命を賭しての大戦争に拂つた人的、物的の犠牲に對しても必らずやその成果を收めるであ

らうと信ずる。バルカン諸隣國に對する關係において、これらの諸小國間には相互に何らかの理解に達する必要を認めるものである。」

アルバニア

新内閣成立

攝政府は獨立運動の領袖レツエツプ・ミトラヴィツイオを首相に任命したが、新首相は十一月六日、新内閣組織を完了した。

- 外相 メーメツト・コニツザ
- 内相 エクザーヴェル・デヴァ
- 蔵相 ソクラット・トッドビバ博士
- 公共事業相 プザ・ジイルベガジ

經濟相 アゲ・アガージ  
文 相 エクレム・カペー博士

新内閣は、バルカン各國を巡歴して居るドイツ側ノイ  
バツハ特使と協力、アルバニア國の獨立維持を條件とし  
て、バルカン新秩序の建設に努力する方針と云はれる。  
又、當面の國內問題としては、先づ、

- 一、匪團の剿滅
  - 一、國內工業の促進
- に乗出す方針と傳へられる。

エジプト

ファルーク一世シリア訪問

政府は、十一月二十五日、次の通り發表した。  
「國王ファルーク一世は、シリア大統領シヌク・エル・  
クワトリの招請に應じ、十二月ダマスカスを訪問、シ

リア首相ジャブリが過般カイロを訪問した際豫備的に  
交渉した懸案に付き、シリア大統領と交渉を重ねるで  
あらう。」

ワフド黨大會

ワフド黨は、十一月十五日黨大會を開催、レバノンに  
對するド・ゴールの措置を抗議する決議案を採擇、これ  
を米英兩國政府に傳達したが、同席上、エジプト首相ナ  
ハス・パシヤはアラブ諸國の團結を強調した後、アラブ  
聯盟結成問題に言及、次の如く演説したといはれる。

「アラブ聯盟結成に關するシリア、イラク、サウジ・  
アラビア及びトランスヨルダンとの討議は概して満  
足すべきものであつた。これら各國は近くカイロにお  
いて開催されるアラブ聯盟大會に夫々代表を参加せし  
める筈である。」

五ヶ年計畫發表

政府は、十一月十七日、國內開發五ヶ年計畫を發表し

た。右計畫は特にナイル河のダム建設に重點を置き、更  
に自國を西亞空路の中心とすることを狙つてゐる。

イラン

アーメデイ陸相急死

陸相アーメデイ大將は十一月十六日急死したと傳へら  
れる。

トルコ

メネメンジヨグル外相英外相と會見

メネメンジヨグル外相は、十一月三日、ヒューゲツセ  
ン駐土英國大使と同道、カイロに到着、直ちにカイロの  
英國大使館へ赴いたが、同五、六兩日にわたりイーデン  
英外相と會見した。

尙、同外相は、十日アンカラに歸還したが、右に關

し、政府は、十一日、前後三時間に互る閣議において同  
外相から英土會談の経緯を聴取した。外相は閣議後記者  
團に對し「カイロからは別段懸念すべきニュースを持つ  
て來なかつた」と言明した。

メネメンジヨグル外相獨大使と會談

メネメンジヨグル外相は、十一月十二日、フォン・パー  
ベン獨大使の訪問を受け長時間に互つて會談を遂げた。  
右會談でドイツ大使は英土會談の経緯につきトルコ外相  
から事情を聴取したと傳へられる。

人民共和黨重要秘密會議開催

——政府の不參戰政策を承認——

人民共和黨は、十一月十六日午後三時秘密會を開催、  
米英ソ三國外相會談並に英土會談に關するメネメンジヨ  
グル外相の報告を聴取したが、會議終了後次の公報が發  
表された。

「十六日午後三時人民共和黨の委員團は會議を開催し、米英ソ三國外相會議の結果に關する報告並に公報に基きメネメンジョグル外相の報告を聴取し、國際政局について検討を加へた。外相の報告の内最も重要なものは英土會談に關する報告であつた。そして英土會談においては既に公報に述べられた通り、英土兩國間の條約に照し政治上の諸問題並に國際情勢が検討された。メネメンジョグル外相はトルコ政府の態度が右同盟條約に基づくトルコ政府の義務と何等背馳しない旨確言したが、次で委員團から諸種の質問があり、結局委員團は全會一致外相の報告を承認した。」

尙、歐洲中立國筋では、右會議において政府の不參戰政策が大多數を以て承認され、その結果、政府は依然中立を堅持する旨英國に對し正式回答したものと觀測してゐる。

バイドウル駐ソ大使信任状捧呈

新任モスクワ駐箱大使フツセイラヒド・バイドウルは、十一月二十日、カリーニン聯邦最高會議幹部會議長に信任状を捧呈した。

アリカン駐獨大使大統領に報告

ベルリン駐箱大使サフエツト・アリカンは、十一月二十一日、アンカラに歸着、直ちにサラジヨグル首相立會の下に、イスマット・イノニュー大統領に對し長時間に亙り報告を遂げたが、更に二十三日再び大統領と要談を遂げた。

シリア

憲法改正討議

憲法改正に起因するレバノンの紛擾(後掲)が一應解決した直後、シリア議會は、十一月二十七日、憲法改正の討議を行つた。

レバノン

議會完全獨立を決議

佛官憲大統領首相等を逮捕

議會は、十一月十日、全會一致をもつて、憲法改正法案を可決したが、右改正法案の要旨は次の如くである。

第一條 レバノン國は完全な獨立國であり、分割され得ず、その主權は絶對であり、且現在の國境線を確保する。

第二條 アラビア語を公用語とする。特別法に明示される場合以外フランス語の使用を禁止する。

第五十二條 大統領はレバノン國に直接關係ある國際協定に調印する。

この決議の結果、ヴェルサイユ體制に基く委任統治を主張するフランス國民解放委員會との關係は遂に正面衝突

突となり、佛官憲は不法にも武力を以てレバノン民族の獨立運動を彈壓するに至つた。即ち新聞、ラジオによる新憲法案の報道を一切禁止し、アラビア語新聞紙中禁を犯して詳細報道したものは發行禁止の嚴罰に處した。かくして國內の情勢は一層險惡となつたので、解放委員會から派遣されてゐるエル・高等辨務官は、十一日午前四時セネガル人部隊を大統領官邸に派遣、大統領ビシヤラ・エル・クローリーを逮捕、次いで首相リアド・エル・ソル竝に他の二閣僚も同様拉致した。

しかも、かくの如く、フランス國民解放委員會がレバノン獨立運動を武力を以て彈壓する暴舉に出たことは西亞各國一帯に異常な反響を與へた。即ちイラク議會は、十三日、緊急會議を開催し、解放委員會の今回の措置に絶對反對である旨の決議を採擇し、同日、政府も次の公報を發した。

「政府は、十三日、ベイルート駐在のイラク代理公

使に對し直ちにレバノン首相その他政府要人と會見して、イラクはレバノンの立憲政治再建のために最善を盡すべき旨を通告すべしと命令した。政府はまた英國公使および米國代理公使に對しレバノンの自由再建のために米英兩國が必要なる措置を講ずるやう要請した。

一方シリア首相サーダラー・ジャブリーはレバノンを援助する旨の演説を行つたと傳へられ、又、サウジ・アラビア及びトランスヨルダン國王も、十五日、レバノン地方におけるフランス國民解放委員會の措置に對し嚴重抗議した。尙パレスチナ地方でもアラビヤ人商工會議所聯合會員は十三日以後一切の職業的行動を停止し、フランス官憲の措置を抗議する決議を採擇した。又、先にエジプト首相は解放委員會に對し反省を促したが、またまた委員長ド・ゴール宛電報を以て

「レバノン地方に即時平和が確立されなければ、エジ

プト政府としてはフランス國民解放委員會に對する態度につき再考を加へるの止むなきに至るであらう。」と通告した。

クイリー大統領等復職

——佛國側の屈服で事件一應解決——

フランス國民解放委員會代表カトルーは十一月十七日深更までスピアース英國公使と交渉を重ねたが、右交渉の結果レバノン地方の情勢打開につき兩代表間に具體案が成り、同二十日、解放委員會代表ジョルジュ・カトルーは記者團との會見においてレバノン問題は一體解決した旨言明、翌二十一日夜、ド・ゴール派軍隊は撤收し、街は全く平靜に歸し、二十二日には事件の發生以來逮捕監禁されてゐた大統領ビシヤラ・エル・クイリーも歸還復職し、他の關係も續々釋放されたと傳へられる。大統領の復職に引続き、二十四日朝、二週間ぶりでレバノン議會は再開され、首相リアド・エル・ソルは議會に對し國內の

秩序は既に回復したと述べ、國民に對しても政府を信頼するやう懇へたといはれる。又フランス國民解放委員會代表ジョルジュ・カトルーは今次事件に際し高等辨務官ジャン・エルーと行動を共にしたフランス人官吏全部に罰金を課すことに決定、更にベイルート警察署長その他三名を罷免した。かくして、事件はフランス國民解放委員

會の屈服により一應解決したが、エジプト國王ファールク一世は、二十日、復職したクイリー大統領に次の如き祝電を發した。

「余は非常な悦びを以て貴下釋放の報を聞いた。余は貴下の復職とレバノンが國家の威信を保持し得たことに對し祝意を表するものである。」



昭和十八年十二月二十五日刊 (非賣品)

發行所 情報局

印刷者 印刷局

